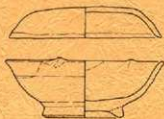


近畿自動車道(勢和～伊勢)

埋蔵文化財発掘調査報告

—— 第 6 分 冊 ——

蚊 山 遺 跡 左 郡 地 区



1993・3

三重県教育委員会
三重県埋蔵文化財センター

近畿自動車道(勢和～伊勢)

埋蔵文化財発掘調査報告

————— 第 6 分 冊 —————



遺跡全景（西方上空から）



中世土器

序

近畿自動車道関・伊勢線第9次区間（勢和～伊勢）建設にかかる遺跡の現地発掘調査は昭和63年度後半期に開始され、平成3年度内に終了いたしました。

第9次区間の道路建設は、平成5年に予定されている伊勢神宮の式年遷宮、翌年の世界祝祭博覧会などを契機とした伊勢・志摩地方の経済と観光の基幹として実施されたもので、発掘調査の対象となったのは、伊勢市・多気郡多気町・度会郡玉城町の1市2町に所在する30遺跡であります。

調査後やむなく破壊された多くの遺跡について、わたくしどもに課せられた重要な責務の一つは、その膨大な記録を整理し、報告書という目に見える形で一日も早く世に公開することであると考えます。

近畿自動車道関・伊勢線第9次区間（勢和～伊勢）建設にかかる遺跡の発掘調査報告書は、第1分冊から第8分冊までの計8冊に分けて刊行する計画をたて、平成3年度に現地調査と並行して本格的な整理・報告書作成業務を開始いたしました。そして、既に第1分冊から第5分冊・第7分冊の計6冊の報告書を刊行しております。

今回は第6分冊ということで、平成元年度に発掘調査を実施しました蚊山遺跡左郡地区の報告をいたします。この報告書が地域の歴史と文化に対する理解の深まりの一助になることを期待しております。

なお、調査に際しましては、日本道路公団、県土木部近畿道対策室、伊勢市・多気町・玉城町の各関係機関はもとより、三重県土地開発公社及び地元の多くの方々にご多大なるご理解とご協力を得ることができました。文末となりましたが、ここに心からのお礼を申し上げます。

平成5年（1993）3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 久保富子

例 言

1. 本書は、平成4年度に三重県教育委員会が日本道路公団名古屋建設局から委託を受けて実施した、近畿自動車道関・伊勢線第9次区間（勢和～伊勢）建設予定地内に所在する埋蔵文化財発掘調査（整理・報告書作成業務）にかかる報告書（第6～8分冊）のうち、蚊山（かやま）遺跡左郡（さこり）地区の報告書（第6分冊）である。

2. 当遺跡は度会郡玉城町岩出字左郡・塚名（つかな）に所在し、平成元年1月から2月に第1次調査（試掘調査）を、同年5月から翌年3月に第2次調査（本調査）を実施した。調査にかかる費用は、日本道路公団の全額負担による。

3. 調査は次の体制で行った。

調査主体 三重県教育委員会

調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査第2課第1係

[平成元年度]

主幹兼調査第2課長 山 澤 義 貴 主査 新 田 洋

第1係

主事 田 村 陽 一 主事 河 北 秀 実

主事 小 坂 宜 広 主事 山 崎 恒 哉

主事 江 尻 健 主事 伊 藤 裕 偉

主事 角 谷 泰 弘（伊勢市教育委員会より派遣）

主事 稲 本 賢 治（多気町教育委員会より派遣）

主事 前 川 嘉 宏（玉城町教育委員会より派遣）

（室内整理員）

反 町 瑩 子 谷 久 保 美 知 代 采 野 妙 子 吉 村 道 子

白 石 み よ こ 山 分 孝 子 竹 内 由 美 田 中 智 子

反 町 有 子 山 中 学

[平成4年度]

調査第2課長 新 田 洋

第1係

主事 齋 藤 直 樹

主事 小 谷 定 男（伊勢市教育委員会より派遣）

主事 前 川 嘉 宏（玉城町教育委員会より派遣）

4. 現地調査については、試掘調査を小坂宜広・野田修久が、本調査を小坂宜広・稲本賢治・角谷泰弘・前川嘉宏が担当した。

5. 本書作成にあたっては、三辻利一（奈良教育大学）、水野正好（奈良大学）、亀井明徳（専修大学）、菅原正明（助和歌山県文化財センター）、中野晴久（常滑市民俗資料館）、藤澤良祐（財団法人埋蔵文化財センター）、橋本久和（高槻市埋蔵文化財センター）、岩中淳之（伊勢市教育委員会）、磯部 克（三重県立津西高等学校）、

奥 義次（三重県立松阪高等学校）の各氏をはじめ、多くの方々の助言を頂いた。記して感謝の意を表したい。
（順不同・敬称略）

6. 本書の執筆者は目次に示した。三辻利一氏からは中世陶器の胎土分析についての報文をいただいた。本書に掲載した遺構写真は小坂・稲本・角谷・前川が、遺物写真は田村・前川がそれぞれ撮影した。挿図の作成および全体の編集は前川が担当した。

7. 当発掘調査については、既に刊行の「近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査概報」VI（三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1990.3）にその調査概要を公表しているが、本書をもって最終的な報告とする。なお、概報では単に「蚊山遺跡」と呼称していたが、発掘調査を実施した範囲が広大な面積をもつ蚊山遺跡の一部にすぎないことから、本書では調査区が所在する主な小字名をとり、「蚊山遺跡左部地区」とした。

8. 蚊山遺跡左部地区の調査の記録類および出土遺物は三重県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

9. 当調査区の位置は国土地院第VI系を基準とし、図面上の方位は座標北を用いた。真北は座標北のN0°21'W、磁北は座標北のN6°41'Wである。

10. 当遺跡で使用した遺構表示略記号は下記のとおりである。

SB 掘立柱建物	SA 槽	SE 井戸	SX 墓（古墳・中世墓）
SK 土坑	SD 溝	SR 遺路	SZ 性格不明

11. 本書では、用語の漢字表記を次のように統一した。

どこう……………「土城」「土城」「土坑」があるが、墓と認識できるものについては「土城」や「墓城」を用い、それ以外のものないしは墓と確定・推定できないものについては「土坑」とした。

つき……………「坏」「杯」があるが、「杯」を用いている。

わん……………「埴」「碗」「碗」があるが、「碗」を用いている。

なべ……………「甗」「鍋」があるが、「鍋」を用いている。

12. 本書に掲載した遺物実測図の縮尺は、原則として土器が1/4、その他の遺物は1/2あるいは1/3とした。また、遺物写真は概ね1/3である。

13. スキャニングによるデータ取り込みのため、若干のひずみが生じています。
各図の縮尺率はスケールバーを参照ください。

目 次

I. 前 言	1
1. 近畿自動車道第9次区間の調査経過	新 田 ... 1
2. 蚊山遺跡の範囲と地区名	前 川 ... 5
3. 蚊山遺跡左郡地区の調査経過と調査方法	前 川 ... 5
II. 位置と歴史的環境	前 川 ... 15
1. 位置・地形・地質	15
2. 歴史的環境	15
III. 調査の成果	前 川 ... 20
1. 層 序	20
2. 弥生時代以前の遺物	20
1. 縄文時代の遺物	20
2. 弥生時代の遺物	20
3. 古墳時代の遺構と遺物	27
1. 古墳と古墳出土の遺物	27
2. その他の遺構と出土遺物	36
3. 中世遺構出土の遺物	41
4. 包含層出土の遺物	41
4. 中世の遺構と遺物	41
1. 掘立柱建物	42
2. 橋	72
3. 井 戸	72
4. 中世墓	78
5. 土 坑	92
6. 溝・道路	105
7. その他の遺構	110
8. 包含層・ピット出土の遺物	110
IV. 出土遺物の観察	前 川 ... 111
V. 中世陶器の産地推定	191
1. 蚊山遺跡左郡地区出土中世陶器の蛍光X線分析	三 辻 利 一 ... 191
2. 肉眼観察と胎土分析	前 川 ... 201
VI. 調査のまとめ	前 川 ... 209

図 版 目 次

- | | | | |
|------|--|------|--------------|
| 図版 1 | 調査区遠景
調査区全景 | 図版21 | 掘立柱建物出土遺物 |
| 図版 2 | S X53 (9号墳) 周辺
S X61 (11号墳), S X72 (12号墳) 周辺 | 図版22 | 掘立柱建物出土遺物 |
| 図版 3 | S B76・85・93・98周辺
S X215 (21号墳), S B158周辺 | 図版23 | 掘立柱建物出土遺物 |
| 図版 4 | S X196 (20号墳), S B128周辺
調査区西部 | 図版24 | 掘立柱建物出土遺物 |
| 図版 5 | S D43付近
S B 2 | 図版25 | 掘立柱建物・井戸出土遺物 |
| 図版 6 | S X53 (9号墳)
S X61 (11号墳) 付近 | 図版26 | 掘立柱建物・井戸出土遺物 |
| 図版 7 | S B68
S X37 (7号墳), S B51・54 | 図版27 | 井戸出土遺物 |
| 図版 8 | S B74, S X82 (14号墳)
S X82 (14号墳) | 図版28 | 井戸出土遺物 |
| 図版 9 | S B76・85・93・98
S X215 (21号墳) | 図版29 | 井戸出土遺物 |
| 図版10 | S B24
S K153付近 | 図版30 | 井戸出土遺物 |
| 図版11 | S R87, S D118付近
S D 8 付近 | 図版31 | 井戸出土遺物 |
| 図版12 | S B131・133・136・137
S B100・125・126・127・128 | 図版32 | 井戸出土遺物 |
| 図版13 | S X196 (20号墳)
S E 3, S E56, S E134, S E172 | 図版33 | 井戸出土遺物 |
| 図版14 | S X 5, S X38, S X46, S X70 | 図版34 | 井戸出土遺物 |
| 図版15 | S X94, S X96, S X140, S X152
S X167, S X189 | 図版35 | 井戸出土遺物 |
| 図版16 | S X88, S X223, S X224, S X225
S K26, S K81, S K89, S K129 | 図版36 | 井戸出土遺物 |
| 図版17 | 弥生時代以前・古墳時代の遺物 | 図版37 | 井戸出土遺物 |
| 図版18 | 古墳時代の遺物 | 図版38 | 井戸出土遺物 |
| 図版19 | 古墳時代の遺物 | 図版39 | 井戸・中世墓出土遺物 |
| 図版20 | 古墳時代の遺物・掘立柱建物出土遺物 | 図版40 | 中世墓出土遺物 |
| | | 図版41 | 中世墓出土遺物 |
| | | 図版42 | 中世墓出土遺物 |
| | | 図版43 | 中世墓出土遺物 |
| | | 図版44 | 中世墓出土遺物 |
| | | 図版45 | 中世墓出土遺物 |
| | | 図版46 | 中世墓・土坑出土遺物 |
| | | 図版47 | 中世墓・土坑出土遺物 |
| | | 図版48 | 土坑出土遺物 |
| | | 図版49 | 土坑出土遺物 |
| | | 図版50 | 土坑出土遺物 |
| | | 図版51 | 土坑出土遺物 |
| | | 図版52 | 土坑出土遺物 |
| | | 図版53 | 土坑出土遺物 |
| | | 図版54 | 土坑出土遺物 |
| | | 図版55 | 土坑出土遺物 |

図版56	土坑出土遺物
図版57	土坑・溝出土遺物
図版58	土坑・溝出土遺物
図版59	溝出土遺物
図版60	溝出土遺物
図版61	溝出土遺物
図版62	溝出土遺物
図版63	溝出土遺物

図版64	溝出土遺物
図版65	溝出土遺物
図版66	溝出土遺物
図版67	溝出土遺物
図版68	溝・集石遺構出土遺物
図版69	溝・包含層・ピット出土遺物
図版70	包含層・ピット出土遺物

挿 図 目 次

第1図	近畿自動車道第9次区間(勢和～伊勢)内 遺跡位置図	2
第2図	遺跡地形図および遺跡周辺字切り図	9
第3図	小地区設定図	10
第4図	位置図	15
第5図	蚊山遺跡と周囲の遺跡位置図	16
第6図	遺構配置図	21～22
第7図	調査区平面図(1)	23～24
第8図	調査区平面図(2)	25～26
第9図	調査区北壁土層断面図(1)	28
第10図	調査区北壁土層断面図(2)	29
第11図	S X 49・53・60・75・95実測図	31
第12図	S X 75実測図	32
第13図	S X 37・61・72・82実測図	33
第14図	S X 82実測図	34
第15図	S X 32・33実測図	35
第16図	S X 14・15実測図	37
第17図	S X 215実測図	37
第18図	S X 113・180・196実測図	38
第19図	S X 4・7・182・186実測図	39
第20図	S B 2実測図	43
第21図	S B 9・16・19実測図	44
第22図	S B 20・21・23実測図	45
第23図	S B 24・25実測図	46
第24図	S B 27・34実測図	48
第25図	S B 51・54実測図	49
第26図	S B 68・74実測図	50
第27図	S B 76・85実測図	52
第28図	S B 93・97実測図	53
第29図	S B 98実測図	54
第30図	S B 100・112・125実測図	55
第31図	S B 126・127・128実測図	56
第32図	S K 129実測図	57
第33図	S B 131実測図	59
第34図	S B 133実測図	60
第35図	S B 136・137実測図	61
第36図	S B 141・142・143実測図	62
第37図	S B 145, S A 213実測図	63
第38図	S B 158実測図	65
第39図	S B 159実測図	66
第40図	S B 160・164・179実測図	67
第41図	S B 184・191・199実測図	68
第42図	S B 201・205・206実測図	69
第43図	S E 3・56・57・79・90実測図	74
第44図	S E 134・172・192実測図	75
第45図	S E 157・193・194・707実測図	76
第46図	S X 5・28・38・40・41・44実測図	80
第47図	S X 46・58・59・63・64・67・70実測図	81
第48図	S X 77・78・88・92・94・224実測図	84
第49図	S X 96・106・120・138・139・170実測図	

.....	85	第75図	中世墓出土遺物実測図	173
第50図	S X 140・149・151・152・162・165・168 実測図	第76図	中世墓出土遺物実測図	174
第51図	S X 166・167・171・175・188・189・223・ 225実測図	第77図	中世墓出土遺物実測図	175
第52図	S X 168周囲中世墓配置図	第78図	中世墓・土坑出土遺物実測図	176
第53図	S K 45・81・83・84・86・89実測図	第79図	土坑出土遺物実測図	177
第54図	S K 104・123・130・148・173・174・181 実測図	第80図	土坑出土遺物実測図	178
第55図	S K 144・153・155A・155B・156・161・ 208実測図	第81図	土坑出土遺物実測図	179
第56図	S K 204・209・214・221・222, S Z 132実 測図	第82図	土坑出土遺物実測図	180
第57図	S K 153周囲土坑配置図	第83図	土坑出土遺物実測図	181
第58図	S K 108・111実測図	第84図	土坑出土遺物実測図	182
第59図	S D 8・17・35A・39土層断面実測図	第85図	土坑・溝出土遺物実測図	183
第60図	土師器小皿・皿分類図	第86図	溝出土遺物実測図	184
第61図	土器細部の名称と計測位置図	第87図	溝出土遺物実測図	185
第62図	弥生時代以前・古墳時代の遺物実測図	第88図	溝出土遺物実測図	186
第63図	古墳時代の遺物・掘立柱建物出土遺物実測 図	第89図	溝出土遺物実測図	187
第64図	掘立柱建物出土遺物実測図	第90図	溝出土遺物実測図	188
第65図	掘立柱建物出土遺物実測図	第91図	溝出土遺物実測図	189
第66図	掘立柱建物・井戸出土遺物実測図	第92図	溝・包含層等出土遺物実測図	190
第67図	井戸出土遺物実測図	第93図	瀬戸群と猿投群の相互識別	192
第68図	井戸出土遺物実測図	第94図	猿投群と知多群の相互識別	193
第69図	井戸出土遺物実測図	第95図	渥美群と知多群の相互識別	193
第70図	井戸出土遺物実測図	第96図	瀬戸産と推定された中世陶器のRb-Sr分 布図	194
第71図	井戸出土遺物実測図	第97図	猿投・知多産と推定された中世陶器のRb- Sr分布図	194
第72図	井戸出土遺物実測図	第98図	渥美・湖西産と推定された中世陶器のRb- Sr分布図	194
第73図	井戸・中世墓出土遺物実測図	第99図	猿投・知多、渥美・湖西産と推定された中 世陶器のRb-Sr分布図	194
第74図	中世墓出土遺物実測図	第100図	産地不明となった中世陶器のRb-Sr分布 図	195
		第101図	主な遺構出土の土師器小皿・皿・鉢	212
		第102図	I期・II期の遺構配置図	216
		第103図	III期・IV期の遺構配置図	217

表 目 次

第1表	近畿自動車道第9次区間(勢和～伊勢)内 発掘調査遺跡一覧	3～4	第10表	試料の分析データ	196～200
第2表	遺構番号一覧	11～14	第11表	肉眼観察と胎土分析の整合率	202
第3表	古墳一覧	40	第12表	中世陶器の推定産地一覧	203～208
第4表	掘立柱建物一覧	70～71	第13表	時期別古墳一覧	209
第5表	井戸一覧	77	第14表	主な遺構出土の土師器皿・小皿平均計測値 一覧	211
第6表	中世墓一覧	90～71	第15表	時期別掘立柱建物規模一覧	214
第7表	土坑一覧	102～103	第16表	B型中世墓の底部規模一覧	214
第8表	溝一覧	109	第17表	時期別中世遺構一覧	215
第9表	出土遺物観察表	113～159			

I. 前 言

1. 近畿自動車道第9次区間の調査経過

近畿自動車道関・伊勢線（伊勢自動車道）は三重県鈴鹿郡関町を起点とし伊勢市に至る全長68.7kmの高速自動車道である。この路線は、三重県中南勢地域と近畿・中京圏経済圏を結ぶ重要幹線道路として、一般国道23号線・42号線の交通混雑の緩和を図るとともに伊勢湾沿岸および内陸部の産業開発、伊勢志摩、紀州方面への膨大な観光交通に対するサービス等重要な使命をもつといわれている。

全ルートのうち、関ジャンクションから久居インターチェンジ間は昭和50年10月に、久居インターチェンジから勢和多気インターチェンジ間（第8次区間）は平成2年12月に供用が開始されている。

第9次区間（勢和～伊勢）は、第8次区間（久居～勢和）の延長路線で、勢和多気インターチェンジから勢和村、多気町、玉城町、伊勢市をほぼ東西に横断して伊勢インターチェンジに至る延長21.5kmの区間である。この建設区間については、昭和47年に基本計画、同57年に整備計画が、そして同60年2月に建設大臣から日本道路公団に施行命令が出されている。また、翌3月には実施計画認可と路線発表がなされている。

さて、第9次区間建設にかかる埋蔵文化財の保護、調査協議については、昭和50年段階に建設省名阪国道工事事務所、県土木部道路建設課と県教育委員会文化課との協議と現地立会い調査というかたちで開始された。また、事業地内にかかる埋蔵文化財の分布調査については、県教育委員会文化課が県文化財調査員等の協力のもと昭和53・55・56年度に3次にわたって実施し、昭和56年3月14日付の教文第429号文書で県道路建設課長あてに「近畿自動車道伊勢線関係遺跡分布調査結果報告について」として公文書通知を行っている。

その後については、第8次区間の埋蔵文化財発掘調査の体制作りと諸準備に追われたかたちとなり、昭和59年度末には第8次区間の現地発掘調査を実施するに至った。この第8次区間の現地発掘調査は昭和59年度を皮切りに開始され、昭和63年度前半までの足かけ5年余りの期間が費やされた。

第9次区間の遺跡取り扱いについては、昭和61年度になって具体的に浮上し、試掘計画等について日本道路公団と調整・協議するに至った。また、昭和62年度初めには、再度第9次区間建設予定地についての遺跡確認と分布調査を実施した。この段階で公団あてに提示した遺跡は合計26件、面積にして114、200㎡である。

なお、この第9次区間については、その後の新発見遺跡等についての協議を経て、多気町で1件（佐奈水銀鉱山跡）、玉城町で1件（泉貫窯跡）、伊勢市で2件（大谷古墳、古市・中之地蔵町遺跡）の合計4件の遺跡が追加された。

以上のような経過を経て、第9次区間の現地における埋蔵文化財発掘調査は、昭和63年度の後半に開始され、3年余りの期間を費やして平成3年度末に終了した（第1図、第1表）。

なお、調査の円滑推進にあたっては、日本道路公団松阪工事事務所、県土木部近畿道対策室、伊勢市建設部近畿自動車道対策室他、伊勢市・多気町・玉城町の各教育委員会に、現地にあたっては各地元自治会をはじめ、多くの方々のご援助・ご協力を得ました。加えて、発掘調査業務については三重県土地開発公社のご協力をいただきました。文末となりましたが、ここに記して厚くお礼申し上げます。

（新田 洋）

第1圖 近畿自動車道第9次区間(勢和～伊勢)内道路位置圖(1:100,000)



番号	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)		調査期間	担当者	概要	分類
1	王子谷遺跡	多気町前村	48	計192	1989. 2. 6～ 2. 7	小坂宜広・山崎恒哉	(試掘) 遺構なし、遺物断片	
			144					
2	横谷(古墳)	多気町前村・五桂	27	27	1990. 1.18～ 1.22	伊藤裕偉	(試掘) 遺構・遺物なし	
3	フツジ(古墳)	多気町五桂	20	20	1990. 1.22～ 1.23	伊藤裕偉	(試掘) 遺構・遺物なし	
4	牛バヤマA遺跡	多気町野中	304	3,304	1989. 1. 9～ 2. 7	山崎恒哉	(試掘)	1
			3,000					
5	牛バヤマB遺跡	多気町野中	336	5,836	1988.12.12～1989. 1.19	山崎恒哉	(試掘)	
			5,500					
6	ヒジヤ口遺跡	玉城町草	288	288	1988.11.28～12. 1	小坂宜広・野田修久	(試掘) 遺構なし、遺物少量	
7	のせんじ遺跡	玉城町積良	96	96	1988.12. 2～12. 7	小坂宜広・野田修久	(試掘) 遺構なし、遺物少量	
8	浦ノ内遺跡	玉城町積良	192	2,692	1989. 2.22～ 3. 3	小坂宜広・野田修久	(試掘)	
			2,500					
9	上ノ垣内遺跡	玉城町山神	208	208	1988.12.20～12.26	小坂宜広・野田修久	(試掘) 遺構なし、遺物少量	
10	山神城跡西老谷地区 (笛ヶ城跡)	玉城町山神	286	2,466	1990. 5.15～ 6. 1	稲本賢治	(試掘)	2
			2,180					
11	山神城跡ベト谷地区 (山神車城跡)	玉城町山神	441	4,363	1990. 5.15～ 6. 1	稲本賢治	(試掘)	
			3,922					
12	里山(古墳)	玉城町山神	30	30	1990. 2.13～ 2.14	江尻 健	(試掘) 遺構・遺物なし	
13	榎ノ木遺跡	玉城町藤田	2,032	8,922	1990. 5.16～ 6. 5	田村陽一	(試掘)	3
			6,890					
14	矢倉戸前(古墳)	玉城町宮古	20	20	1989. 9. 1～ 9. 6	伊藤裕偉	(試掘) 遺構・遺物なし	1
15	鞍山遺跡古郡地区 (鞍山遺跡)	玉城町若出	587	12,087	1989. 1. 6～ 2. 7	小坂宜広・野田修久	(試掘)	6
			11,500					
16	鞍山遺跡所り垣地区 (宮地遺跡)	玉城町若出	144	3,344	1989. 1.26～ 2. 2	小坂宜広・野田修久	(試掘)	4
			3,200					
17	中ノ垣外遺跡	伊勢市佐八町	400	2,500	1989. 9.18～10. 3	田村陽一	(試掘)	5
			2,100					

第1表 近畿自動車道第9次区間(勢和～伊勢)内発掘調査遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)		調査期間	担当者	概要	分類
18	寺原B遺跡	伊勢市佐八町	224	724	1989. 9.18～10. 3	田村陽一	(試掘)	5
			500		1989.11.14～1990. 1.14	角谷泰弘	鎌倉時代前半の掘立柱建物などを検出	
19	ハノカ遺跡	伊勢市津村町	208	3,739	1990. 2.14～ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘)	5
			147		1990. 5.31～ 6.11	角谷泰弘	(試掘)	
	2,100	1990. 5.31～ 8. 1	角谷泰弘		縄文時代・鎌倉時代の遺物出土			
	口山田遺跡	伊勢市津村町 佐八町	584		1990. 2.14～ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘)	7
			700		1990. 5.31～ 8. 1	角谷泰弘	集石遺構を検出	
20	落合古墳群	伊勢市津村町	151	3,316	1990. 2.14～ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘)	7
			3,165		1990. 5.11～ 9.21	伊藤裕偉	4世紀末頃～6世紀前半の群集墳	
21	井戸谷遺跡	伊勢市前山町	336	336	1990. 3.14～ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘) 明確な遺構なし	
22	河原谷遺跡	伊勢市前山町	100	100	1990.10.11～10.17	角谷泰弘・川崎正幸	遺物少量出土	
23	亀谷部C遺跡 (世表寺跡)	伊勢市前山町	312	2,507	1990. 2.14～ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘)	8
			2,195		1990. 5. 7～ 7. 9	齋藤直樹・前川嘉宏	経文が記された陶器片出土	
24	中起遺跡	伊勢市勢田町	257	257	1990.10.16～10.23	伊藤裕偉	(試掘) 遺構なし	
25	龍尾遺跡	伊勢市久世戸町	32	32	1991. 8.19	河崎信幸	(試掘) 遺構・遺物なし	
26	奥遺跡	伊勢市桶郎町	494	494	1990.10.23～11. 1 1991. 1. 4～ 1.16	齋藤直樹	(試掘) 遺構なし、遺物少量	2
27	泉寅跡	玉城町積良	330	2,886	1989. 5.22～ 5.29	伊藤裕偉	(試掘)	
			2,556		1990. 8.28～11.20	前川嘉宏・川崎正幸	10世紀前半頃の須恵器窯1基検出	
28	佐奈水銀鉱山跡	多気町前村	400	400	1990. 1.16～ 3.30	田村陽一	2基の採掘坑口周辺を調査	1
29	大谷(古墳)	伊勢市佐八町	120	120	1990. 7. 2～ 7. 7	前川嘉宏	(試掘) 遺物・遺物なし	8
30	古市・中之地蔵町遺跡	伊勢市中之町 桜木町	127	2,287	1990.10.22～11. 5	角谷泰弘	(試掘)	
			850		1991. 6.22～ 8.31	角谷泰弘・河北秀実	近畿以降の町並の遺構を検出	
			420		1991. 8.20～ 9.16	前川嘉宏・角谷泰弘		
			220		1991.11.18～12. 8	角谷泰弘		
			670		1992. 1.10～ 3.31	河北秀実		

2. 蚊山遺跡の範囲と地区名

昭和55年(1980)8月、近畿自動車道建設予定地内の遺跡分布調査が度会郡玉城町岩出で実施された。その時、字蚊山(かやま)から字宮地(みやじ)にわたる約10,000㎡の範囲で中世の土器片が表面採取されたことから、県道伊勢・大宮線を境として西側を「蚊山遺跡」、東側を「宮地遺跡」と呼称するようになった。(小字の位置は第2図を参照)

昭和62年(1987)、近畿自動車道第9次区間(勢和～伊勢)建設予定地についての遺跡確認と分布調査が再度実施された。この時点で、中世の遺物が岩出字塚名(つかな)・左郡(さごり)・所り垣(しよりがき)でも採取されたことから、「蚊山遺跡」と「宮地遺跡」の範囲はそれぞれ北方へ大きく広げて考えられるようになった。

平成元年(1989)度に近畿自動車道建設予定地内の発掘調査を実施した際には、従来の遺跡名を踏襲して、県道の西側の調査区(字左郡・塚名)を「蚊山遺跡」、東側の調査区(字所り垣・塚名)を「宮地遺跡」と呼称していた。しかし、その後の検討により、この2つの調査区を一連の遺跡としてとらえ、

それぞれの調査区名を「蚊山遺跡左郡地区」、「蚊山遺跡所り垣地区」と改称した。この時点で「宮地遺跡」という遺跡名は使用しなくなり、県道を挟んだ遺跡範囲約50,000㎡全てを「蚊山遺跡」と呼ぶことになった。

平成2年(1990)9月から12月にかけて、左郡地区の北側に隣接する地域で県道改良事業に伴う発掘調査(約3,500㎡)が三重県埋蔵文化財センターによって実施された。この調査でも左郡地区や所り垣地区と一連のものと考えられる多数の遺構が検出されたことから、この調査区を「蚊山遺跡ケノ辻・角垣内(すみがいと)地区」と呼称することにした。現在のところ、岩出集落の南側に広がる段丘面のほぼ全域にわたる約150,000㎡を蚊山遺跡と呼ぶようになっている。

なお、平成4年(1992)10月から11月に、蚊山遺跡蚊山地区でも県道改良事業に伴う発掘調査(約1,050㎡)が実施され、鎌倉時代の掘立柱建物2棟、18世紀から19世紀頃のものと思われる瓦窯などの遺構が検出されている。

3. 蚊山遺跡左郡地区の調査経過と調査方法

1. 調査経過

近畿自動車道第9次区間の埋蔵文化財発掘調査が開始された昭和63年(1988)度の冬、主事小坂宣広と野田修久を担当として蚊山遺跡左郡地区の第1次調査(試掘調査)が実施された。調査期間は平成元年(1989)1月6日から同年2月7日までで、調査面積は587㎡であった。その結果、第1次調査の対象となった範囲のほぼ全域を本調査(第2次調査)することとなった。

第2次調査(本調査)は、平成元年(1989)5月16日に開始した。発掘作業は、自動車道建設工事の都合で全面を一気に行うことができず、まず、調査区の北縁に建設される側道部分幅8m(以下、北縁部と呼ぶ)の調査、次に調査区の南縁に建設される側道部分幅10m(以下、南縁部と呼ぶ)の調査、最

後に本線部分の調査という作業能率のきわめて悪い工程をとらざるを得なくなった。現地での調査は平成2年(1990)3月20日に終了し、最終調査面積は11,500㎡となった。

なお、第2次調査の現地調査担当者は小坂が全期間を通じて、角谷と前川が5月から10月まで、稲本が9月から翌年3月までである。

2. 現地調査の方法

蚊山遺跡左郡地区の発掘調査における調査及び整理の方法は、原則として近畿自動車道関・伊勢線第8次区間(久居～勢和)の調査方法に則って行った。地区割(第3図)

調査に際しては、調査区全域に4×4mの小地区を設定した。小地区割りの基本軸は、道路センター

測点STA603+20を原点とし、STA601+80を視準したラインである。各小地区には基本軸に直交してアルファベット、基本軸に沿って数字を与え、各小地区の東西隅の杭を小地区の名称とした。

遺構カード

遺構カードは小地区毎に作成し、遺構の位置、形態、重複関係等の略図を遺構検出後、掘り下げまでに記入することにした。遺構番号は全遺構を連した通し番号を与えた。ただし、多数あるピットについては小地区別に通し番号を与えた。

写真撮影

遺構等の写真撮影は原則として6×7cm版（モノクロネガ、カラーリバーサル）及び35mm版（モノクロネガ、カラーリバーサル）による。また、35mmデータカメラ（カラーネガ）でも同一カットの撮影をするほか、作業進捗状況を記録する撮影も行った。使用したカメラはアサヒペンタックス67（6×7cm版）・ニコンF-501AF（35mm版）である。

遺構実測

遺構実測は国土座標（第Ⅵ座標系）に基づいて行った。なお、測量方法は空中写真測量を導入したが、北縁部と南縁部では遺り方実測を実施した。

3. 資料整理の方法

遺構実測図・遺物実測図

本遺跡の遺構実測図の整理番号は「遺跡番号-図面通し番号」とし、15-0001から15-0214まで存在する。遺物実測図の整理番号は「遺構番号-遺構別遺物実測図通し番号」とした。たとえば、SE172から出土した遺物の整理番号は172-001から172-179までである。また、包含層やピットから出土したものは000-001からとした（第2表）。これらの図面はファイルに収納し、整理番号、図面の内容、縮尺等を記入した一覧表を2部作成し、1部を各図面ファイルに貼付、他の1部を図面台帳とし、なお、各図面ともマイクロ撮影した。

遺構写真・遺物写真

モノクロ写真はベタ焼きとともにネガアルバムに貼付整理し、各コマ毎に地区名、遺構名、撮影方向等のデータを記入した。35mm版のカラーズライドは各コマの枠毎に15-0001-15-0989の整理番号を付

し、地区名、遺構名、撮影方向等のデータを記入した一覧表を2部作成した。一覧表は、1部をスライドファイルへ貼付し、1部を台帳として保管した。

拓本

拓本は、報告書挿図等に使用する時はコピーを使い、原本は台紙に貼り付けてファイルに保管した。

4. 調査日誌抄

第1次調査（小坂・野田）

－1月－

6日(金)・7日(土) 試掘グリッド設定。

10日(火)～13日(金) S25とR29から掘削開始。試掘坑合計9箇所掘削。S25から中世の土師器片多数出土。R44・S44でピット検出。

17日(火)～19日(木) 試掘坑7箇所掘削。P40・T47でピット検出。

26日(木)・27日(金) 試掘坑20箇所掘削。多数の試掘坑で溝・ピット等の遺構検出。

－2月－

1日(木) Q78掘削。

7日(火) Q21・N24・N28・M44掘削。遺物少量出土。第1次調査終了。

第2次調査

－5月－（小坂・前川・角谷）

16日(火) 現地にて三重県土地開発公社と土木業者（御宮本組）との打合せ。北縁部から発掘調査を開始することを説明。

17日(木) 北縁部の調査範囲確定の杭打ち。

18日(木) 北縁部東端よりバックフォーによる表土除去作業開始。

19日(金) 表土除去作業と並行して小地区杭設定。

20日(土) 発掘用具搬入。

22日(月) 人力による包含層掘削と遺構検出開始。

23日(火) ベルトコンベアー10台搬入。

24日(水) ベルトコンベアーの設置。

26日(金) 北縁部の包含層掘削

29日(月) SD6・SX7を検出。SE3の掘削中にSX5を検出。

30日(火) 北縁部にかかるSD8の掘削開始。完形に近い土師器皿・鍋等の土器が多数に出土。

31日(水) SD8がかなり深いことが判明。

— 6月 — (小坂・前川・角谷)

1日(木) SD 8 付近の遺構掘削。SX15から須恵器杯身・杯蓋出土。SX15は古墳の周溝である可能性が大きいことから、SX4・SX7も古墳であろうと判断。

2日(金) SD 8 の続きを確認するため、作業計画に大きな影響を及ぼさない程度で本線部分へ向かって調査範囲を広げる。

5日(月) SD 8 の掘削。79～76ラインの遺構輪郭が不明瞭なため、検出作業を繰り返す。SE3の掘削完了。調査区北壁土層断面図の一部作成。

6日(火)～8日(木) 北緑部91～81ラインの写真撮影。SD 8 の掘削。

12日(月) SD 8・10・17、SK12、SX14・15等の遺構検出と掘削。これらの遺構が複雑に絡み合っているため作業遅れる。

14日(火) 北緑部68～59ラインの遺構検出。

19日(月)～21日(水) 北緑部58～40ラインの遺構検出。SX32の掘削完了。SD 8 の掘削完了。

26日(月) 北緑部79～58ラインの写真撮影と91～81ラインの遺構実測実施。

27日(火) SX49・SD39付近の遺構検出。包含層が薄く、遺構も複雑なものが少ないため、作業はハイペースで進み始める。

29日(木)・30日(金) 29～19ラインの遺構検出。SD39・SD43・SK45の掘削。

— 7月 — (小坂・前川・角谷)

1日(土) 北緑部80～59ラインの遺構実測準備。

3日(火)～6日(木) 北緑部39～19ラインの遺構検出。SD43の掘削は、湧水のためにペースダウン。SX37・SX38の掘削はほぼ完了。SX38からはほぼ完形の鍋が出土したことから中世墓と判断。

7日(金) 北緑部80～59ラインの遺構実測(1/20)開始(15日に完了)。SD43の掘削はほぼ完了。

10日(月) 北緑部の遺構掘削はほぼ完了。これまでは北緑部の東端から西端へ作業を進めてきたが、これからは、本線部分の西端から東方向へと進める。

12日(月)～14日(水) 28～39ラインの遺構検出。西側ほど遺構が薄く、調査はハイペースで進む。

17日(月)～20日(木) 35～40ラインの遺構検出。SX53の掘削。SE56・57検出。北緑部56～23ラインの

写真撮影。

21日(金)・21日(土) 北緑部58～40ラインの遺構実測

24日(月)～27日(木) 雨天続きで、現場での作業は全く進まず。北緑部の道路公団への引き渡し期限は7月中であったが、引き渡し要求面積がやや増えたかわりに期限が8月末に延びる。

28日(金) 北緑部39～19ラインの遺構実測開始(8月4日に完了)。

31日(月) 40～53ラインの遺構検出。

— 8月 — (小坂・前川・角谷)

1日(火) 40～59ラインの遺構検出。玉城町立下外城田小学校5・6年生約60名の体験発掘。

4日(金) 51～52ラインの遺構検出。SD36・SX72付近の遺構掘削。

5日(土) 32～41ラインの遺構実測(1/20)開始(25日に完了)。

7日(月)・8日(火) 調査区北壁土層断面図作成完了。SB68付近の遺構検出と掘削。

9日(水)～17日(木) 9日～11日は悪天候のため、12日～17日は盆休みのため作業なし。

18日(金) 46～55ラインの遺構検出と掘削。玉城町立下外城田小学校5・6年生約20名の体験発掘。

19日(土) 作業が遅れてきたため土曜日にも現場実施。

21日(月)～24日(木) SD35B付近の遺構掘削。SX82は横穴式石室であると判明。

28日(月) 北緑部の調査を全て完了し、日本道路公団へ引き渡す。北緑部埋戻し開始。

29日(火) SD35A付近の遺構検出。南緑部の南縁に沿った幅10mを11月中に日本道路公団に引き渡すことになったため、本線部分の調査と並行して、南緑部の包含層掘削を急遽開始する。

30日(水)～31日(木) 54～57ラインの遺構掘削。SE56・57の掘削。

— 9月 — (小坂・前川・角谷・稲本)

1日(金) SD35A付近の遺構掘削。

4日(月)～7日(木) 悪天候のため作業遅れる。

11日(月)～14日(木) 南緑部66～68ラインの遺構検出と掘削。SD35A付近の遺構掘削。

18日(月) 南緑部70ライン付近の遺構検出。SD35A付近の遺構掘削。

20日(火)～22日(金) 南緑部71～73ラインの遺構検出と

掘削。SD35Aの掘り下げがようやく完了したため、点在する掘り残しの遺構掘削と図面作成を急ピッチで進める。

25日(月)～29日(金) 南緑部の遺構掘削をほぼ完了。本線部分南半(L～Nライン)の包含層掘削と遺構検出を東端から開始。

－10月－ (小坂・前川・角谷・稲本)

2日(月)～5日(木) 本線部分南半78～66ラインの遺構検出と掘削。好天が続いたことと作業員の出が良いことから、作業は順調に進む。

6日(金) リフト車による写真撮影(40～58ライン全域と南緑部)。

9日(月)・12日(木) 本線部分南半74～62ラインの遺構検出と掘削。SK153から土師器多量に出土。

13日(金) 南緑部の遺構実測(1/20)開始(19日に完了)。ヘリコプターによる調査区斜め写真撮影。

16日(月) 本線部分南半の遺構掘削はほぼ完了。

20日(金)・21日(土) 本線部分北半(O～S)80～70ライン遺構検出と掘削。このところ雨天が多い。

23日(月)～26(木) 90～88ライン全体の遺構検出と掘削。礫が多いため作業はかどらず。

30日(月) 南緑部と本線部分南半の個別遺構写真撮影。

－11月－ (小坂・稲本)

1日(火) 本線部分87～85ラインの遺構検出と掘削。南緑部を日本道路公園に引き渡す。

6日(月)・9日(木) 本線部分85～83ラインの遺構検出と掘削。SE193の掘削開始。

14日(火)～17日(金) 本線部分82～73ラインの遺構検出と掘削。SE193から土器多量に出土。包含層掘削が終わりに近づいたため、以後、作業員の人数を20人程度に削減。

20日(月)～22日(水) 本線部分72～68ラインの遺構検出。SD8の残りの部分の検出と掘削。

24日(金) 調査区全体の包含層掘削はほぼ完了。

27日(月)～30日(木) 調査区全体の遺構検出がほぼ完了したため、以後は掘り残してある遺構の掘削と図面作成が主な作業となる。

－12月－ (小坂・稲本)

1日(金) SE172から土師器皿多数出土。

4日(月)～7(木) 主に井戸の掘削。

11日(月)～14日(木) 主に井戸の掘削。

15日(金) 現地説明会の準備。

16日(土) 午前中現地説明会の準備。午後2時から現地説明会実施。約120人が参加。

18日(月) 現地説明会の後片付け。

19日(火)～22日(金) 主にSE172・SE193・SE207の掘り下げ。22日にベルトコンベアーを全て撤去。

25日(月) SE172の掘削。年末年始休みに入るため、調査区全面にシートをかける。

－1月－ (小坂・稲本)

8日(月)～12日(金) 空中写真測量(18日に予定)に向けての遺構の掘削と清掃を進める。

18日(木) 例年にない大雪が降り、作業が遅れ、遺構面も荒れたため空中写真測量を20日に延期。調査区の清掃を再度実施。

20日(土) 天候が悪く空中写真測量を再び延期。26日を実施予定日とする。

22日(月)～25日(木) 空中写真測量に向けての清掃をする。雪や霜柱のために遺構面がかなり荒れる。SE172の掘削を続ける。

26日(金) ようやく空中写真測量を実施。

30日(火)・31日(水) 掘立柱建物の柱穴断ち割り。遺構の個別写真撮影。

－2月－ (小坂・稲本)

2日(金) このところ天候悪く、作業あまり進まず。

5日(月)～8日(木) 遺構の個別写真撮影。作業員の仕事は8日で終わり。

26日(月)～28日(水) バックフォアを使い、人力で完掘できなかった井戸の断ち割りりとSX82の南端部の検出を実施。

－3月－ (小坂・稲本)

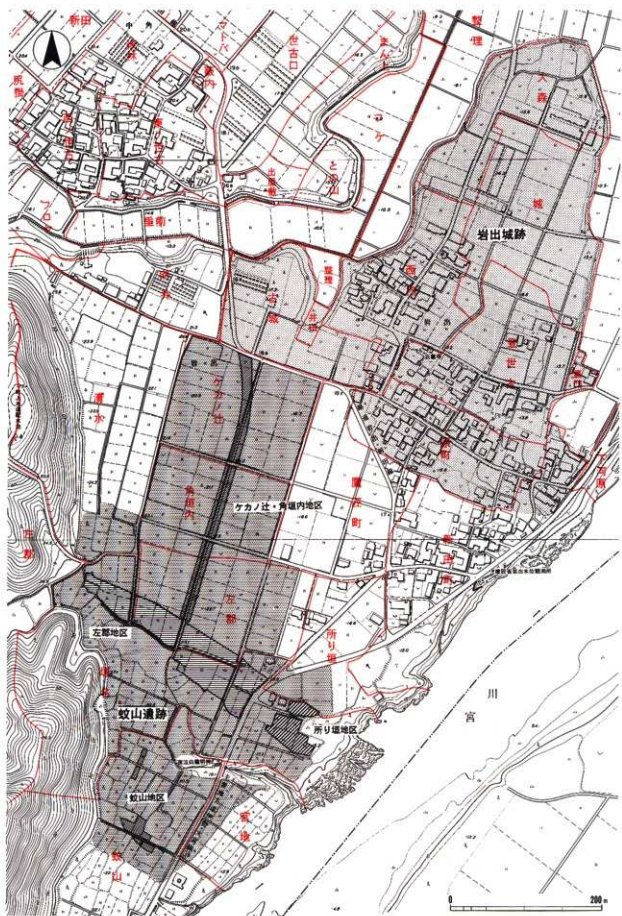
1日(火)～7日(火) 51ライン以西の個別遺構実測図の作成。掘立柱建物の柱穴断ち割りりと実測。

8日(木) 51ライン以西を日本道路公園へ引き渡す。

9日(金)～19日(月) 51ライン以东の個別遺構実測図の作成。掘立柱建物の柱穴断ち割りりと実測。

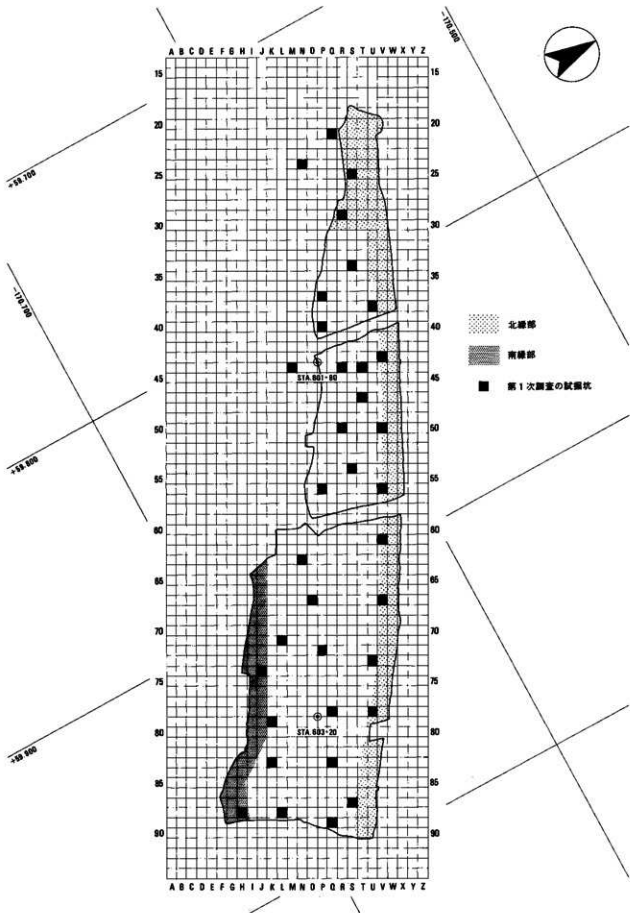
20日(火) 調査区全てを日本道路公園へ引き渡し、現地での調査を終了する。

(前川)



第2図 遺跡地形図および遺跡周辺字切り図 (1 : 5,000)

※字界線は、昭和20年頃のものであり、現行と異なる部分もある。



第3図 小地区設定図 (1 : 1,500)

遺構番号	遺物整理番号	実測図周長数	遺物総量(箱)	遺構番号	遺物整理番号	実測図周長数	遺物総量(箱)
包含層 他	000-001~049	43	54.0	土坑 SK 2 9	029-001~002	2	0.5
溝 SD 1	001-001	1	0.2	土坑 SK 3 0	030-001	1	0.1
建物 SB 2	002-001~002	2	0.1	土坑 SK 3 1	031-001~002	2	0.2
井戸 SE 3	003-001~007	7	0.5	5号墳 SX 3 2	032-001~007	7	1.0
1号墳 SX 4	004-001	1	0.5	6号墳 SX 3 3	—	—	0.1
中世墓 SX 5	005-001~005	5	1.0	建物 SB 3 4	—	—	0.1
溝 SD 6	006-001	1	0.2	溝 SD 3 5	035-001~038	36	10.0
2号墳 SX 7	—	—	—	溝 SD 3 6	036-001~003	3	0.5
溝 SD 8	008-001~191	85	41.0	7号墳 SX 3 7	037-001~005	5	1.5
建物 SB 9	009-001~002	2	0.1	中世墓 SX 3 8	038-001~005	4	1.0
溝 SD 1 0	011-001~018	18	5.0	溝 SD 3 9	039-001~030	30	6.0
溝 SD 1 1	011-001~006	5	2.5	中世墓 SX 4 0	040-001~007	7	0.5
土坑 SK 1 2	012-001~018	16	3.0	中世墓 SX 4 1	041-001~009	8	1.0
溝 SD 1 3	013-001~002	2	0.2	溝 SD 4 2	042-001~003	3	0.2
3号墳 SX 1 4	—	—	—	溝 SD 4 3	043-001~054	29	9.0
4号墳 SX 1 5	015-001~005	6	1.0	中世墓 SX 4 4	044-001~002	2	0.5
建物 SB 1 6	—	—	—	土坑 SK 4 5	045-001~013	10	4.0
溝 SD 1 7	017-001~005	5	0.5	中世墓 SX 4 6	046-001~013	13	2.5
溝 SD 1 8	018-001~005	5	1.0	溝 SD 4 7	047-001	1	0.1
建物 SB 1 9	—	—	0.1	土坑 SK 4 8	048-001~008	8	2.0
建物 SB 2 0	—	—	—	8号墳 SX 4 9	—	—	0.1
建物 SB 2 1	—	—	0.1	溝 SD 5 0	050-001~002	2	0.1
土坑 SK 2 2	022-001~009	5	0.5	建物 SB 5 1	051-001~002	2	0.1
建物 SB 2 3	023-001	1	0.1	9号墳 SX 5 3	053-001~004	4	1.5
建物 SB 2 4	024-001~004	4	0.2	建物 SB 5 4	054-001	1	0.1
建物 SB 2 5	—	—	—	溝 SD 5 5	—	—	—
土坑 SK 2 6	026-001~006	4	0.5	井戸 SE 5 6	056-001~031	25	5.0
建物 SB 2 7	027-001~005	5	0.1	井戸 SE 5 7	057-001~016	14	1.0
中世墓 SX 2 8	028-001	1	1.0	中世墓 SX 5 8	—	—	—

第2表 遺構番号一覧

遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)	遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)
中世墓SX59	069-001~002	2	0.2	中世墓SX88	—	—	—
10号墳SX60	—	—	—	土坑SK89	089-001	1	0.2
11号墳SX61	061-001	1	0.2	井戸SE90	090-001~031	24	5.0
溝SD62	062-001~002	2	0.1	道路SR91	—	—	—
中世墓SX63	063-001~002	2	0.2	中世墓SX92	092-001	1	0.2
中世墓SX64	064-001~002	2	1.5	建物SB93	093-001~005	3	0.2
土坑SK65	065-001~003	3	0.1	中世墓SX94	—	—	—
土坑SK66	066-001~002	2	0.1	15号墳SX95	—	—	0.1
中世墓SX67	067-001~003	3	1.5	中世墓SX96	096-001	1	1.5
建物SB68	—	—	—	建物SB97	097-001~003	3	0.1
土坑SK69	069-001	1	0.1	建物SB98	098-001~007	7	0.2
中世墓SX70	070-001~004	4	0.5	土坑SK99	—	—	—
溝SD71	—	—	—	建物SB100	—	—	0.1
12号墳SX72	072-001~002	2	0.2	土坑SK101	101-002	2	0.1
溝SD73	073-001	1	0.1	土坑SK102	—	—	0.1
建物SB74	—	—	—	土坑SK103	103-001~045	36	12.0
13号墳SX75	—	—	0.2	土坑SK104	104-001~027	16	4.0
建物SB76	076-001~009	9	0.5	土坑SK105	105-001~003	3	0.2
中世墓SX77	077-001	1	0.2	中世墓SX106	106-001~005	5	1.0
中世墓SX78	078-001~002	2	0.5	土坑SK107	—	—	0.1
井戸SE79	079-001~002	2	0.5	土坑SK108	—	—	0.1
土坑SK80	—	—	0.1	土坑SK111	111-001~002	2	0.2
土坑SK81	081-001~009	7	0.5	建物SB112	112-001~001	1	0.1
14号墳SX82	082-001	1	0.2	16号墳SX113	—	—	0.1
土坑SK83	083-001~003	3	0.2	土坑SK114	114-001~005	4	0.5
土坑SK84	084-001	1	0.1	土坑SK115	115-001~003	3	0.5
建物SB85	085-001~002	2	0.1	溝SD116	116-001	1	0.5
土坑SK86	086-001~003	2	0.2	溝SD117	117-001~002	2	0.2
道路SR87	—	—	—	溝SD118	118-001~015	14	5.0

遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)	遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)
溝 S D119	—	—	—	土坑 S K148	—	—	—
中世墓 S X120	120-001-008	7	1.0	中世墓 S X149	149-001~012	12	2.0
溝 S D121	—	—	0.1	土坑 S K150	150-001~004	4	0.5
土坑 S K122	122-001~011	8	2.5	中世墓 S X151	151-001~008	7	1.0
土坑 S K123	123-001~004	4	0.2	中世墓 S X152	152-001	1	0.1
土坑 S K124	—	—	0.1	土坑 S K153	153-001~084	57	13.0
建物 S B125	125-001	1	0.1	土坑 S K154	154-001~005	4	0.5
建物 S B126	126-001~003	3	0.1	土坑 S K155	155-001~027	15	3.0
建物 S B127	127-001	1	0.1	土坑 S K156	156-001~003	3	0.2
建物 S B128	128-001	1	0.1	井戸 S E157	157-001~034	24	5.0
土坑 S K129	129-001~026	26	3.0	建物 S B158	158-001~005	5	0.2
土坑 S K130	130-001~011	8	2.0	建物 S B159	159-001~007	7	0.2
建物 S B131	131-001~003	3	0.1	建物 S B160	—	—	—
不明 S Z132	132-001	1	0.1	土坑 S K161	161-001~043	10	4.0
建物 S B133	133-001~003	3	0.1	中世墓 S X162	162-001~007	7	0.1
井戸 S E134	134-001~029	20	5.0	土坑 S K163	—	—	0.1
土坑 S K135	135-001	1	0.1	建物 S B164	164-001	1	0.1
建物 S B136	136-001	1	0.1	中世墓 S X165	165-001~008	8	1.0
建物 S B137	—	—	0.1	中世墓 S X166	166-001~013	14	1.0
中世墓 S X138	138-001~002	2	0.2	中世墓 S X167	167-001~004	4	0.5
中世墓 S X139	—	—	—	中世墓 S X168	168-001~020	19	2.0
中世墓 S X140	140-001~006	4	2.0	土坑 S K169	—	—	0.1
建物 S B141	141-001	1	0.1	中世墓 S X170	170-001~004	4	1.0
建物 S B142	142-001~004	4	0.1	中世墓 S X171	—	—	0.1
建物 S B143	143-001	1	0.1	井戸 S E172	172-001~179	54	15.0
土坑 S K144	144-001~024	22	3.0	土坑 S K173	173-001~004	4	1.5
建物 S B145	145-001	1	0.1	土坑 S K174	174-001	1	0.5
土坑 S K146	146-001~004	4	0.5	中世墓 S X175	175-001~004	4	1.0
土坑 S K147	147-001~002	2	0.1	土坑 S K176	—	—	0.2

遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)	遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)
土坑 S K 177	177-001~002	2	0.1	土坑 S K 203	203-001	1	0.2
土坑 S K 178	178-001~012	10	2.0	土坑 S K 204	204-001~016	15	5.0
建物 S B 179	—	—	—	建物 S B 205	205-001	1	0.1
17号墳 S X 180	180-001~002	2	0.1	建物 S B 206	—	—	—
土坑 S K 181	181-001~004	4	0.5	井戸 S E 207	207-001~014	11	1.5
18号墳 S X 182	—	—	0.2	土坑 S K 208	208-001	1	0.1
土坑 S K 183	183-001~004	4	0.2	土坑 S K 209	209-001~003	3	0.5
建物 S B 184	184-001	1	0.1	溝 S D 210	210-001	1	0.1
土坑 S K 185	—	—	0.1	溝 S D 211	—	—	—
19号墳 S X 186	—	—	0.1	土坑 S K 212	212-001~007	5	1.0
土坑 S K 187	187-001	1	0.2	槽 S A 213	—	—	0.1
中世墓 S X 188	188-001~004	4	0.5	土坑 S K 214	214-001~009	8	1.5
中世墓 S X 189	189-001~003	3	0.1	21号墳 S X 215	—	—	0.1
土坑 S K 190	190-001~009	5	0.2	溝 S D 217	—	—	—
建物 S B 191	—	—	—	溝 S D 218	218-001~005	5	1.0
井戸 S E 192	192-001	1	0.1	土坑 S K 219	219-001~005	5	0.5
井戸 S E 193	193-001~108	85	31.0	土坑 S K 220	220-001~004	4	0.1
井戸 S E 194	194-001~011	10	3.0	土坑 S K 221	221-001~007	7	1.5
土坑 S K 195	195-001~003	2	0.2	土坑 S K 222	222-001~004	4	2.5
20号墳 S X 196	196-001	1	0.2	中世墓 S X 223	223-001~003	3	0.1
土坑 S K 197	197-001~005	4	1.0	中世墓 S X 224	224-001~008	7	0.5
土坑 S K 198	198-001~004	4	1.0	中世墓 S X 225	225-001~007	6	0.5
建物 S B 199	199-001	1	0.1	土坑 S K 228	—	—	0.2
溝 S D 200	200-001~005	5	0.4	土坑 S K 229	—	—	0.1
建物 S B 201	—	—	—	溝 S D 230	230-001~003	3	0.2
溝 S D 202	202-001	1	0.2	合 計	1 7 7 3	1 2 6 5	3 3 5 5

※ 遺構番号・遺物整理番号には、欠番もある。

※ 遺物総量は、三重県歴史文化財センターが使用している標準タイプの整理用コンテナ（内径が33.5cm×14.0cm×53.5cm）に収納したと想定した場合の箱数であり、あくまで概数である。

II. 位置と歴史的環境

1. 位置・地形・地質

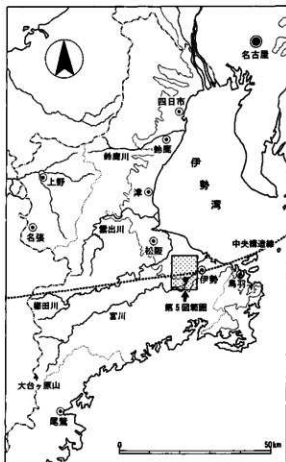
三重県には、旧国の伊勢国、志摩国、伊賀国、そして紀伊国の東部が含まれている。第4図の上野市・名張市は伊賀国、鳥羽市は志摩国、尾鷲市は紀伊国に入り、伊勢湾西岸一帯の広い地域は伊勢国である。伊勢国内は、現在、一般的に鈴鹿市以北を北勢、津市周辺を中勢、松阪市以南を南勢というように呼び分けることが多い。

南勢地方には紀伊半島南部を東西に横断する紀伊山地が延びてきており、その前面には谷底平野が発達した丘陵が接続している。主要河川の榑田川と宮川は紀伊山地の間を縫うようにほぼ並行して流れ、河岸段丘や氾濫平野を形成しながら伊勢湾へと注いでいる。

三重県と奈良県との県境にある大台ヶ原山(1,696 m)に源を発する宮川は、多気・度会両郡の山間部を南西から北東方向へとゆるく蛇行しながら流れ、度会郡玉城町岩出(いわで)付近で伊勢野の南端部に出る。岩出は宮川左岸の河岸段丘上に形成された戸数80戸程の農村集落である。集落の南側には、宮川と丘陵とに挟まれた標高15~24mの南北に細長い段丘面が続いており、そのほぼ全域が蚊山遺跡となっている。

蚊山遺跡付近は西南日本を東西に走る大断層である中央構造線の南側に近接している。基盤は外帯に属する三波川結晶片岩類の緑色片岩や黒色片岩で、開析された谷や河岸段丘には基盤の上に礫を含む粘

性土・黒色の砂質シルト(黒ボク)等が堆積している。近畿自動車道第9次区間(勢和~伊勢)の路線は中央構造線に沿って東西に走り、蚊山遺跡のほぼ中央部を横切っている。



第4図 位置図

2. 歴史的環境

蚊山遺跡(1)の南方は平坦地が狭く、確認されている遺跡の数は多くないが、蚊山遺跡付近を境として北方へ一歩足を踏み出すと、県内でも有数の遺跡密集地域が広がっている。ここでは、第5図の範囲内に入る遺跡を中心にとりあげ、この地域の歴史

的環境を時代別に概観してみる。

旧石器時代

県内の旧石器時代の遺跡は約100か所知られており、その半数近くが榑田川と宮川とに挟まれた地域に集中している。蚊山遺跡でも字角垣内で16点のナ



第5図 蚊山遺跡と周囲の遺跡位置図 (1 : 50,000)

イフ形石器が、左郡地区の西端付近で細石刃核1点が採集されている。ナイフ形石器を出土している遺跡に限っても蚊山遺跡周囲には、東海地方屈指の大規模な遺跡とされる玉城町カリコ遺跡(2)、国府型ナイフをはじめ70点以上のナイフ形石器が採集されている小俣町ママト田遺跡(3)の他、度会町上ノ垣外遺跡(4)、伊勢市元新田遺跡(5)、玉城町アレキリ遺跡(6)・上地山遺跡(7)・鉄砲塚遺跡(8)・東のび遺跡(9)・仲野遺跡(10)・西世古遺跡(11)・ミドロ遺跡(12)・波瀬B遺跡(13)、小俣町六軒屋遺跡(14)・との敷遺跡(15)・石川遺跡(16)・一ノ岡遺跡(17)・新池西遺跡(18)、明和町新池東遺跡(19)・シンゲ池遺跡(20)・鞍追間池遺跡(21)・須磨ヶ丘遺跡(22)・明星牛場A遺跡(23)・明星牛場B遺跡(24)、明星牛場C遺跡(25)・明星1号墳周溝(26)・水池B遺跡(27)・北野遺跡(28)・堀田遺跡(29)など多くの遺跡が分布している。これらの遺跡については、低地に面する段丘上や台地縁辺に偏在しており山間地域よりも平地に対する進出傾向が目立つ、という立地上の特徴が指摘されている。

縄文時代

県下では600か所を越える遺跡で縄文土器の出土が確認されている。蚊山遺跡北方の平野部には大規模な遺跡はみられないが、南方の宮川沿いには県内を代表する遺跡が分布している。

草創期の遺跡には、有舌尖頭器を出土した度会町森添遺跡(30)・上ノ垣外遺跡(4)、玉城町茶臼山遺跡(31)、小俣町石川遺跡(16)、明和町斎宮跡(32)があるが、この時期の土器は確認されていない。早期の遺跡には調理施設の集石炉が検出された度会町上ノ垣外遺跡の他、玉城町明豆遺跡(33)・楠ノ木遺跡(34)、小俣町石川遺跡・百町遺跡(35)、明和町打越遺跡(36)・発シB遺跡(37)がある。

前期あるいは中期の遺跡数は少なく、度会町上ノ垣外遺跡・森添遺跡、伊勢市佐八藤波遺跡(38)・ハノカ遺跡(39)、明和町金剛坂遺跡(40)などがあげられるのみで、まとまった量の遺物が出土している遺跡はみられない。蚊山遺跡からも中期末葉と思われる土器の小片が出土している。

後期・晩期になると遺跡数が増加する。多量の土

器や石鏝をはじめ石棒・岩銅などが採集されている伊勢市佐八藤波遺跡は後期の代表的な遺跡であり、発掘調査により水銀朱の全国的な供給センターであったことが明らかになった度会町森添遺跡は後期後葉から晩期にかけて隆盛した大規模な遺跡である。その他、後期あるいは晩期の土器を出土した遺跡には度会町上ノ垣外遺跡、伊勢市中ノ垣外遺跡(41)・元新田遺跡(5)、玉城町明豆遺跡・蚊山遺跡・東村遺跡(42)・上の山遺跡(43)・山神城跡(44)・酒部屋遺跡(45)、明和町斎宮池遺跡(46)・戸跡1号墳(47)・斎宮跡・金剛坂遺跡がある。

弥生時代

伊勢湾西岸における弥生文化の受容は前期中段階にみられるが、南勢地域では新段階以降の遺跡しか確認されていない。蚊山遺跡周囲の前期の遺跡には玉城町狼谷遺跡(48)・上の山遺跡(43)・仲垣内遺跡(49)・山殿西遺跡(50)・西世古遺跡(11)、明和町大道A遺跡(51)・金剛坂遺跡(40)がある。まとまった資料が少ない中、上の山遺跡では前期のものとしては県下で6例目の堅穴住居が検出されている。

中期の遺跡も少ないが、発掘調査例はやや増加し、伊勢市中ノ垣外遺跡(41)、玉城町上地山遺跡(7)で堅穴住居が、玉城町上の山遺跡・波瀬B遺跡(13)、明和町金剛坂遺跡・寺垣内遺跡(52)で方形周溝墓が検出されている。蚊山遺跡では中期の壺の小片が1点出土している。

後期になると遺跡数は急激に増加し、堅穴住居あるいは方形周溝墓が検出された遺跡のみに限っても、伊勢市野垣内遺跡(53)・中楽山遺跡(54)、玉城町小杜遺跡(55)・仲垣内遺跡(49)・月よべ遺跡(56)・赤垣外遺跡(57)、小俣町掛橋遺跡(58)・六軒屋遺跡(14)、明和町金剛坂遺跡・寺垣内遺跡といった遺跡をあげることができる。特に、宮川左岸の段丘中位面には、弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての集落遺跡が帯状に並んでおり、当時、かなりの規模の集落が形成されていたと考えられている。

古墳時代

弥生時代後期の集落の中には古墳時代初頭まで引き続き営まれていたものもあるが、その後の足どりはわからなくなり、蚊山遺跡の周囲では前期の古墳

も確認されていない。しかし、玉城町小杜遺跡 (55) からは4世紀代のS字状口縁台付甕や4世紀後半のものと思われる石銅片が採集されていることから、この地域に集落が存在し、前期古墳も築かれていたということが十分想定できる。

5世紀前半になると藤田川以南でも明確な墳丘をもった古墳が確認されるようになり、5世紀後半には全長約75mの帆立貝式古墳である高塚1号墳 (56) が築かれる。この古墳は藤田川以南一帯を治めていた首長の墓と考えられている。6世紀前半にはユヅミ2号墳 (60)、斎宮池12号墳 (61)、野田古墳 (62)、大仏山10号墳 (63) といった全長30~45mの前方後円墳がみられる。これらの古墳の分布をみると、あたかも、5世紀後半に1つにまとめられていた地域が6世紀前半に藤田川右岸と宮川左岸の2つの地域に分かれたかのように思える。

小規模な古墳は、丘陵部を中心に数百基確認されている。現在古墳分布の薄い段丘中位面でも、蚊山古墳群 (蚊山遺跡) のように発掘調査により発見されるものが増加していくと思われる。小規模古墳の多くは10数基があつまって1つの古墳群を形成している。宮川右岸にある落合古墳群 (64) は4世紀末ないし5世紀初頭という早い時期に群の形成が始まっており、13基の方墳のまわり28基の円墳が築かれている朝久田古墳群 (65) も5世紀代に盛行した古墳群と考えられる。蚊山古墳群の形成も5世紀末葉に始まっている。その他、5世紀末葉あるいは6世紀前半から始まると思われる古墳群もいくつかあるが、ほとんどの古墳群は6世紀後半から7世紀前半にかけて形成されたものと考えられている。

歴史時代

飛鳥時代から鎌倉時代にかけて、伊勢国内の藤田川以南のほとんどの地域は神宮領となっており、神宮の強い影響下におかれていた。蚊山遺跡周囲のこの時期の遺跡にも神宮に関係すると思われるものが多くみられる。その中でも特筆すべきものに明和町の国史跡斎宮跡 (32) がある。

斎宮は伊勢神宮の祭祀を司るために天皇の即位ごとに遣わされた斎王の御所とその事務運営にあたる斎宮寮とよばれていた官衙および官人の住居などで構成されていた。皇室の祖先神を祭るといった特別の

地位を確保した伊勢神宮の起源や斎宮の成立については今なお不明な点が多いが、昭和40年代から続けられている発掘調査によって飛鳥時代以降の斎宮の姿が徐々にあきらかになってきている。

伊勢神宮の神事に使用する土器は、多気郡有爾郷で製作されていたことが知られている。斎宮跡の南に位置する明和町有爾中是有爾郷の遺跡地である。有爾中の近辺には明和町水池土器製作遺跡 (66)・黒土遺跡 (67)・北野遺跡 (28)・堀田遺跡 (29)・発シA遺跡 (68)・発シB遺跡 (37)・垣場遺跡 (69)・戸峰A遺跡 (70)・大道A遺跡 (51)・川原口遺跡 (71)・金剛坂遺跡 (40)・斎宮跡、玉城町世古遺跡 (72) など、飛鳥・奈良時代の土器器類である土器焼成坑が検出された遺跡が集中して分布しており、その検出総数は300基近くにのぼる。有爾郷の範囲や起源については不明な点が多いが、これらの遺跡の分布範囲が有爾郷の中心部分であり、斎宮が設置された飛鳥時代末には神宮の土器を作りはじめていたと考えられる。有爾郷には須恵器を製作する集団もいたことが知られている。多気町の東部から玉城町南西部にかけての丘陵部には奈良時代を中心とする須恵器窯が30基ほど確認されている。外城田窯跡群と総称されるこれらの須恵器窯についても神宮との強い関係を想定することが可能である。

伊勢神宮とは皇大神宮 (内宮)・豊受大神宮 (外宮) および別宮と摂社・末社などの総称である。内宮の權宜・権權宜を世襲していた荒木田氏は、平安時代には城田郷・田辺郷・湯田郷を本拠地としていた。これらの3郷は有爾郷と宮川とに挟まれた一帯にあつたと考えられており、玉城町内には荒木田氏の氏神である荒木田二門氏神社跡 (73) や氏寺である田宮寺 (74) がみられる。

玉城町岩出には平安時代後半から中世にかけて神宮祭主の大中臣氏の祭主館があつたとされている。また、宮川の対岸にある伊勢市佐八にも大中臣氏 (後に藤波氏) の居館があつたとされ、国指定重要文化財『伊勢新名所絵歌合』(鎌倉後期作) にも共に“岩波の郷”“藤波の郷”として登場している。

伊勢市佐八町とその南に隣接する津村町には、中世の建物跡が検出された佐八藤波遺跡 (38)・中ノ垣外遺跡 (41)・寺原B遺跡 (75)・中新田遺跡 (76)、

鎌倉時代以降の土器が多数採集されている土畑遺跡(77)・西垣内遺跡(78)・北垣内遺跡(79)など中世の集落跡と考えられる遺跡が多数分布している。蚊山遺跡がこれらの遺跡と密接な関係にあったであろうことは容易に想像できる。

室町時代になると、伊勢国司として入ってきた北畠氏により神宮領は次第に没食され、伊勢神宮の力は急速に衰えていった。一方、南勢地方に本拠地を置いた北畠氏は領国支配を進めて戦国大名として成長し、織田信長に滅ぼされるまで南勢地方の支配者としての地位を保ち続けた。

蚊山遺跡の周囲には、玉城町岩出城跡(80)・山岡城跡(81)・山神城跡(44)・田丸城跡(82)・伊勢市寺山城跡(83)・明和町有爾中城跡(84)・池田城跡(85)などの中世城館がみられる。これらの城館については不詳な点が多いが、北畠氏に対抗する

山神岡辺諸郷の軍事的拠り所であったとされる山神城跡を除き、ほとんどが北畠氏関係のもと考えられる。田丸城は延元元年(1336)に北畠氏が築城して以来、北畠氏の拠点の一つとなっていた。天正3年(1575)に織田信長の次男である信雄が城主となり田丸城を拡張、整備し、その城下は紀州和歌山藩領になってからも南勢地方の要所として栄えた。岩出城も規模の大きなもので城下町も形成されていたらしいが、慶長5年(1600)に廃城となっている。昭和20年代まで、本丸やそれを囲む内堀・外堀の跡が残っていた。

室町時代以降の遺跡の発掘調査では、玉城町楠ノ木遺跡(34)・波瀬B遺跡(31)で集落跡が、岡町城廻場遺跡(岡村遺跡)(86)で中近世墓群が検出されており、この時代に関する考古学からのアプローチが始まったところである。

【参考文献】

- 『三重の中世城館』三重県書局出版会 1972
- 奥義次「三重県の遺跡」『日本の旧石器文化3』藤山園出版 1976
- 奥義次「旧石器・縄文時代」『図説伊勢・志摩の歴史(上巻)』郷土出版社 1992
- 『三重県伊勢市遺跡分布地図』伊勢市教育委員会1981
- 岩中淳之「佐八藤波遺跡発掘調査報告」伊勢市教育委員会 1990
- 奥義次・御村精治「大西素行『上地山遺跡発掘調査報告書』玉城町教育委員会 1985
- 奥義次・御村精治「森添遺跡発掘調査報告書」度会町遺跡調査会 1988
- 御村精治「上ノ垣外遺跡発掘調査報告書」度会町遺跡調査会 1991
- 『三重県多気郡明和町遺跡地図』明和町 1988
- 山澤典貴・谷本淑次「金剛沢遺跡発掘調査報告」明和町郷土文化を守る会 1971
- 奥義次「旧石器時代」『縄文時代』『多気町史 通史』多気町 1992
- 『玉城町南部の遺跡』皇學館大學考古学研究会 1982
- 『小俣町の遺跡』皇學館大學考古学研究会 1985
- 『明和町の遺跡』皇學館大學考古学研究会 1987
- 藤吉古久雄「岩出の遺跡」『歩跡 第3号』皇學館大學考古学研究会1976
- 上村安生「土器焼成坑について その① 藁炭層のある粘土について予察」三重歴史文化研究会 勉強会発表資料1993
- 『三重県遺跡台帳』三重県教育委員会
- 下村登良男「中東山遺跡」『昭和47年度県営園地整備事業地

- 地理文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1973
- 小玉道明「仲垣内遺跡」『赤垣内遺跡』小玉道明・長谷川博「月よべ遺跡」・下村登良男「野垣内遺跡」『昭和48年度県営園地整備事業地地理文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1979
- 新田洋「中新田遺跡」『昭和56年度県営園地整備事業地地理文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1982
- 高見宜雄・岩中淳之「中ノ垣外遺跡」『昭和58年度農業基盤整備事業地地理文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1984
- 小林秀「中世後期における土師器工人集団の一形態—伊勢国有尔郷を素材として—」・森田幸伸「大仏山丘跡とその周辺のナイフ形石器について」『研究紀要 第1号』三重県埋蔵文化財センター 1992
- 『三重の縄文時代』三重県埋蔵文化財センター 1992
- 大川勝宏・細本賢治他「山神城跡」・前川嘉宏「泉貫窟跡」『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告第2分冊』三重県埋蔵文化財センター 1992
- 伊藤裕徳「楠ノ木遺跡」『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告第3分冊』三重県埋蔵文化財センター1991
- 角谷幸弘「寺原B遺跡」『ハノカ遺跡』・前川嘉宏「中ノ垣外遺跡」『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告第5分冊』三重県埋蔵文化財センター 1992
- 伊藤裕徳「高合墳群」『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告第7分冊』三重県埋蔵文化財センター 1992
- 上村安生「一般県道会玉城線道路改良事業に伴う上の山遺跡発掘調査報告」三重県埋蔵文化財センター 1993
- 上村安生「一般県道田丸9号停車場線道路改良事業に伴う波瀬B遺跡発掘調査報告」三重県埋蔵文化財センター 1992

Ⅲ. 調査の成果

1. 層 序

調査区北壁の土層断面(第9・10図)を詳しく観察すると層序は単純で、上から順に、耕作土である粗砂が若干混じる褐灰色土層、次に粗砂がほとんど混じらない黒色あるいは黒褐色の黒ボク層、その下が細礫混じりの明黄褐色からぶい黄褐色をした粘性土層となる。

耕作土の厚さは平均20cm程度で、細片となった土器片が混入している。耕作土下の黒ボク層の厚さも平均20cm程度であるが、田畑一枚の中でみると、東側(宮川側)は比較的厚く、西側(山側)はかなり薄いか全くみられなくなる。これは、大正から昭和初期にかけて行われたという耕地整理による削平が深くまで及んだためと思われる。黒ボク層には中世の土器を中心とした遺物がかなり含まれている。その下の粘性土層中には遺物が認められなかったためこの層の上面を遺構検出面とした。ただし、調査区

の西端近くでは粘性土層中にチャートのフレイクらしき石片が若干みられたことから、旧石器時代の遺構遺物の存在を想定して精査を試みたが、はっきりとした成果は得られなかった。黒ボク層と地山との間には、部分によっては黒ボクと地山崩壊土とが混じり合った灰黄褐色の土層が薄くみられる。遺構の埋土は時代を問わずほとんどが同一にみえる黒ボクで、地山の色調と明瞭に異なるため遺構検出は比較的容易であったが、その反面、遺構間の切り合い関係の判断は非常に困難であった。

標高は、調査区西端付近では耕作土上面が約26.8m、遺構検出面が約26.6m、調査区東端では耕作土上面が約20.0m、遺構検出面が19.5mである。地形は、数か所で比高50cm前後の段をつくりながら西から東へと緩やかに傾斜しており、調査区西端から東端までの距離約290mに対して比高は約7mとなる。

2. 弥生時代以前の遺物

調査区内からは整理用コンテナで300箱以上の遺物が出土した(第2表)が、弥生時代以前のもは縄文土器片3点、弥生土器片1点、磨製石斧1点が確認できたのみである。弥生時代以前の遺構は検出できなかった。

なお、本書に実測図を掲載した遺物の出土位置や観察結果については第9表出土遺物観察表にまとめられている。

1. 縄文時代の遺物(第62図)

縄文土器(1~3) いずれも深鉢片で、器壁はかなり荒れており調整等は不明瞭である。1は調査区東端の包含層から出土した口縁部片で、口縁端部に沿って一条の沈線がはしる。中期か後期のものと思われる。2は中世の遺構であるS E 157の埋土か

ら出土した口縁部片で、縦方向に太い沈線が2条認められる。中期末葉から後期初頭のものであろう。3は調査区西よりの包含層から出土した体部片で、2条の沈線の間にかろうじて縄文が認められる。後期前半のものである。

2. 弥生時代の遺物(第62図)

磨製石斧(4) 調査区中央付近の包含層から出土した緑泥片岩製のもので、基部近くがくびれている。弥生時代のものであろう。

弥生土器(5) 調査区の東端付近で出土した中期の壺の口頸部片である。頸部に櫛指横線文が1段認められる。

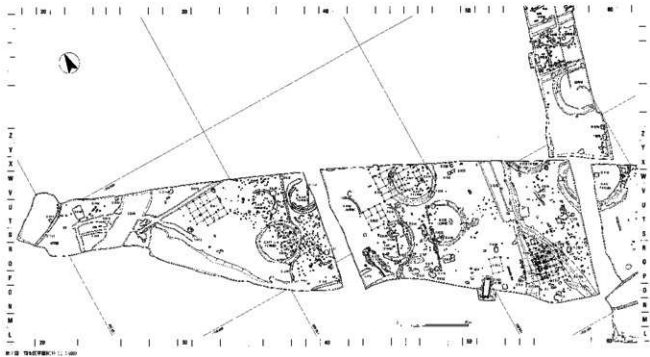


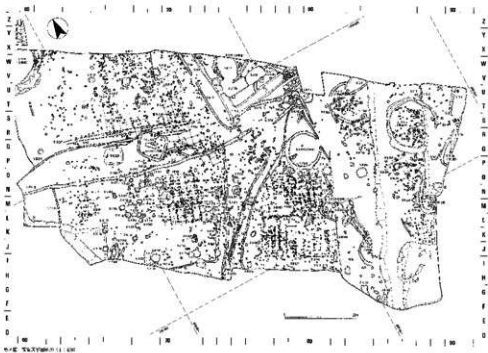
中島ノ池・角野池地区

- 公園
- 住宅地
- 公園
- 公園
- 公園
- 公園
- 公園
- 公園

高野池地区

高野池地区





Scale 1:100

3. 古墳時代の遺構と遺物

1. 古墳と古墳出土の遺物

古墳時代の遺構としたものには古墳の残骸と思われるもの21基、土坑2基、ピット1か所がある。古墳時代の遺物は須恵器を中心に整理用コンテナに10箱程度である。古墳の周溝埋土から出土したものもあるが、ほとんどが包含層出土で、中世の遺構埋土にも混入していた。

古墳は発掘調査によって始めてその存在が確認されたものである。各古墳には遺構表示略記号をSXとして遺構通し番号を付したが、それとは別に「蚊山古墳群」というとらえかたで、1号墳から21号墳までの名称も与えた。なお、蚊山遺跡ケカノ辻・角垣内地区の調査でも新たに2基の古墳(22号墳・23号墳)が検出されている。

古墳の周溝からは古墳時代の遺物の他に中世の遺物も出土している。これは開墾等の擾乱によるものと思われるが、周溝内に検出できなかった中世の遺構が重複していた場合も考えられる。

各古墳の築造時期は主に、出土した須恵器から推定した。須恵器の編年は中村浩氏の陶器編年^④を用いている。

SX4(1号墳)(第19・62図) 調査区の西端近くにある円墳で、検出されたのは周溝のみである。周溝は北側が幅約1.5m、深さ約0.6m、南西側が幅約1.8m、深さ約0.5mである。周溝内側の下端を基底線とすると、墳丘規模は約13mとなる。周溝内から整理用コンテナに約半分の土器が出土しているが、そのほとんどは中世のものである。古墳時代の土器は同一個体のもと思われる土師器碗片が数点と、土師器の台付甕底部(6)がみられる。台付甕は周溝が比較的深く残っている北側部分の底近くから出土しており、この古墳に伴うものと断定できる。台甕は大きく、古い様相をとどめているが、底部外面のハケ目は細かく、6世紀代の甕にみられるものに類似している。ここでは、この台付甕の時期を6世紀初頭とし、1号墳の築造時期もほぼそのころとしておく。

SX7(2号墳)(第19図) 1号墳の北西約5

mに位置する円墳で、周溝の西側半分がかりうじて検出された。周溝は最も残りの良い部分でも幅約0.8m、深さ約0.1mである。墳丘規模は10.5m程度と推測できる。出土遺物は全くない。

SX14(3号墳)(第16図) 2号墳の北西約12mに位置している。一辺が7.5m程度の方墳と考えられるが、SD8やSD10によってかなり破壊されているため断定はできない。周溝は北東側で幅約0.8m、深さ約0.2mある。出土遺物は全くなく築造時期は特定できないが、墳形・規模などから4号墳とはほぼ同じ7世紀前半のものと考えられる。

SX15(4号墳)(第16・62図) 3号墳の北西約4mに位置している。周溝は南東側で幅約1m、深さ約0.4m、北西側で幅約0.7m、深さ約0.3mで、調査区外にものびている。3号墳と同じく一辺が7.5m程度の方墳であろう。遺物は、周溝内から古墳時代の須恵器(7・8・10・11)と中世の土師器皿・小皿・鍋、山茶碗の破片が出土した。また、包含層出土の須恵器杯蓋(9)と土師器ミニチュア鉢(12)も出土位置から15号墳に伴うものと判断した。7と8は口径が小さいこと、ヘラケズリ調整が施されていないことなどからⅡ型式6段階(7世紀前半)のものと思われる。10の高杯も脚部の透かしが2段みられるものの完全に形骸化しており、同じくⅡ型式6段階のものである。他の古墳時代の遺物も同時期と考えて全く問題がない。これらのことから4号墳の築造時期を7世紀前半とすることができる。

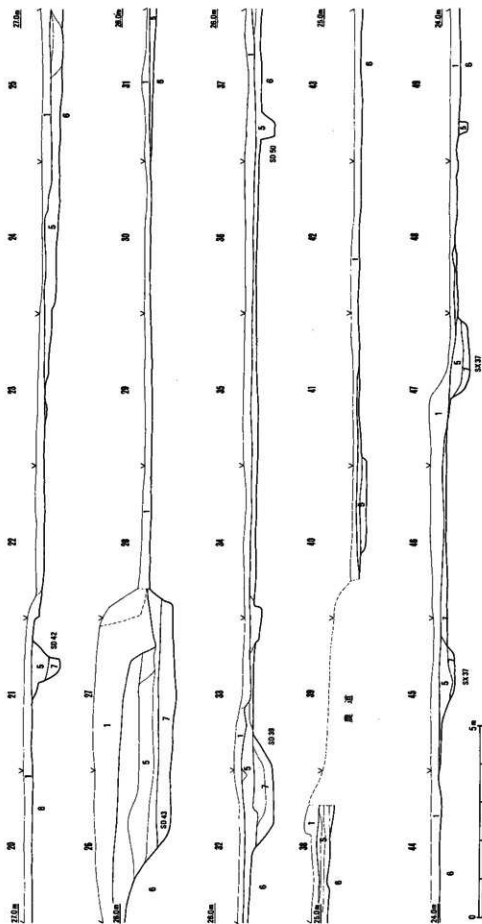
SX32(5号墳)(第15・62図) 調査区の中央付近で検出された円墳で、一部ケカノ辻・角垣内地区にかかっている。周溝は西側が幅約2.5m、深さ約0.4m、南東側が幅約3m、深さ約0.3mである。東から南にかけての周溝が乱れているのは後世の擾乱によるものと思われるが、周溝内埋葬が行われていた可能性も残る。墳丘規模は東西約15.5m、南北約14mで、蚊山古墳群中では最大の規模をもつ。周溝内からは、須恵器提瓶(15)・甕(16)、土師器ミニチュア高杯(17)の他、古墳時代の土師器碗・甕の小片や中世の土器片が出土した。また、墳域のほ

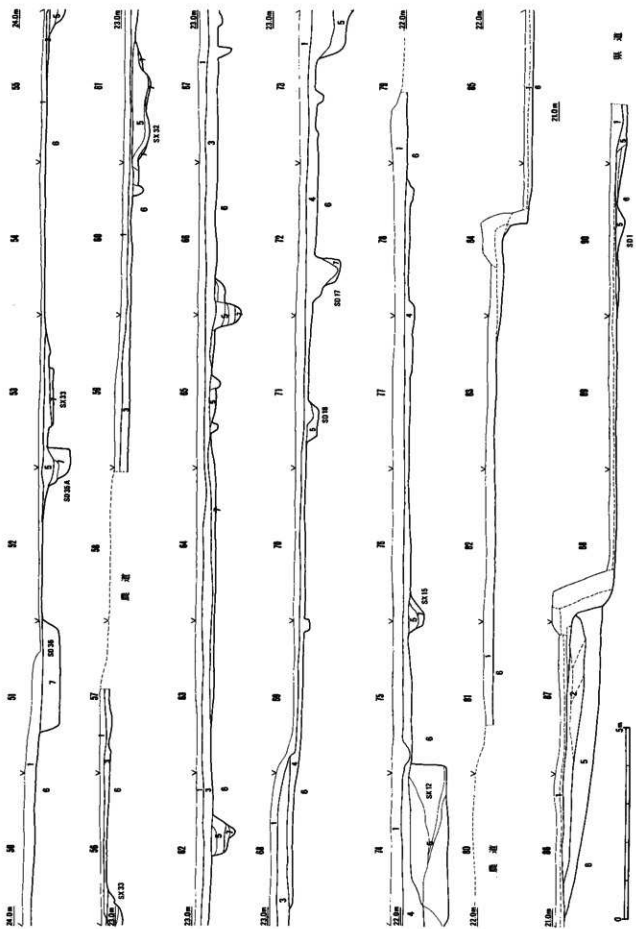
7. 地山前境土 (地山前境土と黒ボクの混成土) 層

4. 10層 3/2黒褐色土 (黒ボク) 層 (遺物を多く含む)
 5. 10層 1.7層~10層 2/3黒褐色土 (黒ボク) 層 (遺物を多く含む)
 6. 10層 6/6 明黄緑~10層 7/4 におい黄褐色土層 (地山)

1. 耕作土・擾乱土層
 2. 内障 (帯大の河原石) 層
 3. 10層 3/2黒褐色粗砂混土 (黒ボク) 層

第9図 調査区北端土層断面図(1) (1:100)





第10图 調查区北壁土层断面图(2) (1 : 100)

は中央にある中世墓SX38からは、本来5号墳に伴っていたと考えられる須恵器杯蓋(13)・杯身(14)、土師器ミニチュア高杯(19)が出土している。13と接合できる破片は包含層からも出土している。17のミニチュア高杯は試掘調査時に黒ボク層から出土したもので、試掘坑の位置から考えると5号墳の周溝埋土出土として間違いないと思われる。須恵器をみると、蓋杯(13・14)の口径が大きいこと、13にはロクロヘラケズリが施されているが口縁部と天井部との境の稜がみられないこと、提瓶(15)が大型でしっかりしていることなどからⅡ型式4段階(6世紀後半)のものと考えられる。他の古墳時代の土器についても概ねその時期のものと考えて問題ない。これらのことから5号墳の築造時期を6世紀後半とすることができる。

SX33(6号墳)(第15図) 5号墳の北西約3mに位置する円墳である。今回の調査区内では周溝の南西側が検出され、ケノ江・角垣内地区の調査では東側の一部が確認されている。周溝は南西側が幅約1.5m、深さ約0.4mである。墳丘規模は11m程度であろう。遺物は周溝内から中世の土師器皿の小片が数点出土したのみである。

SX37(7号墳)(第13・62図) 5号墳の北西約34mに位置する径約11.5mの円墳で、北東側が調査区外にのびる。周溝は西側が幅約2m、深さ約0.7m、東側が幅約1.2m、深さ約0.3mである。遺物は周溝内から古墳時代の須恵器杯蓋(20・21)・甕(22)・甕(23)、土師器碗(24)、中世の土師器皿・小皿、山茶碗が出土した。須恵器杯蓋(20・21)は共にヘラケズリが比較的丁寧に施されており、天井部と口縁部との境の稜も残っている。しかし、20は小振り、21は口径が大きいことから、20をⅠ型式5段階、21をⅡ型式1段階とすることができる。須恵器甕(22)もⅠ型式5段階あるいはⅡ型式1段階のもの、須恵器甕(23)はⅠ型式5段階のものと思われることから、7号墳の築造時期を6世紀前半とすることができる。

SX49(8号墳)(第11図) 7号墳の北西約20mに位置する径約8mの円墳である。周溝は南側が幅約0.8m、深さ約0.3m、北側が幅約1m、深さ約0.1mである。東側は農道のため確認できなかった。

遺物は周溝から中世の土師器皿・鍋の破片が少量出土したのみである。

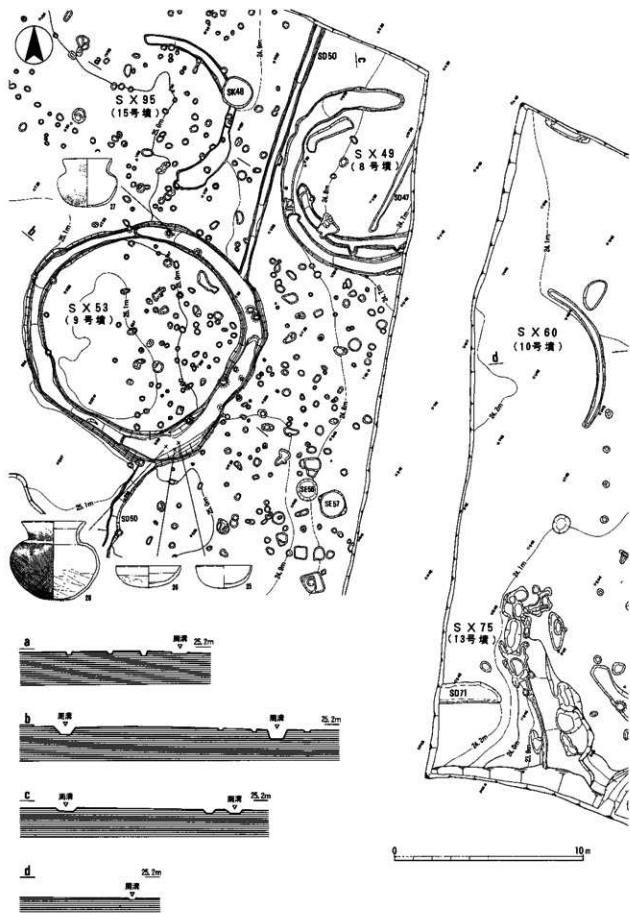
SX53(9号墳)(第11・63図) 8号墳の南西約3mに位置する円墳である。周溝は南側が幅約1.8m、深さ約0.5m、北側が幅約0.5m、深さ約0.3mで、墳丘規模は東西約10m、南北約11mである。遺物は周溝内から古墳時代の土師器碗(25・26)・壺(27・28)、中世の土師器皿・小皿・鍋の破片が出土している。土師器碗・壺から、9号墳の築造時期を6世紀代とすることができる。

SX60(10号墳)(第11図) 7号墳と9号墳とのほぼ中間に位置する円墳である。削平によって大部分が消滅しており、北東部分の周溝の痕跡がかなり検出できた。周溝は幅約0.5m、深さ約0.1mである。墳丘規模は9m程度と推定できる。出土遺物は全くない。

SX61(11号墳)(第13・63図) 7号墳の南西5mに位置する径約9.5mの円墳である。周溝は削平によって西側が消滅しているが、東側では幅約1m、深さ約0.4mある。周溝内から古墳時代の土師器碗(29)1点と、中世の土師器皿・小皿・鍋の破片が少量出土した。29は口縁部の形態から、5世紀末葉あるいは6世紀前半のものと思われる。11号墳の築造時期もそのころであろう。

SX72(12号墳)(第13・63図) 7号墳のすぐ南に築かれた径約11mの円墳である。周溝は東側が幅約1.5m、深さ0.5m、西側が幅約1m、深さ約0.2mあり、北西側は削平によるためか途切れている。周溝内から古墳時代の須恵器無蓋高杯(31)、土師器碗(30)・台付甕、中世の皿・小皿・鍋の小片が出土している。31は脚部が失われているが、3方透かしの痕跡が認められる。Ⅱ型式の2段階か3段階(6世紀中頃)のものであろう。12号墳の築造時期もそのころにおくことができる。

SX75(13号墳)(第11・12図) 11号墳の西側で検出された土坑群を石材が全て抜き取られた横穴式石室の痕跡と判断したが、古墳時代の遺物が全く出土していないこと、想定される墳丘の範囲が11号墳と大きく重複してしまうことなど問題も多い。ここに横穴式石室があったとすれば、主軸をN11°Wにとり、ほぼ南に開口するものを想定することがで



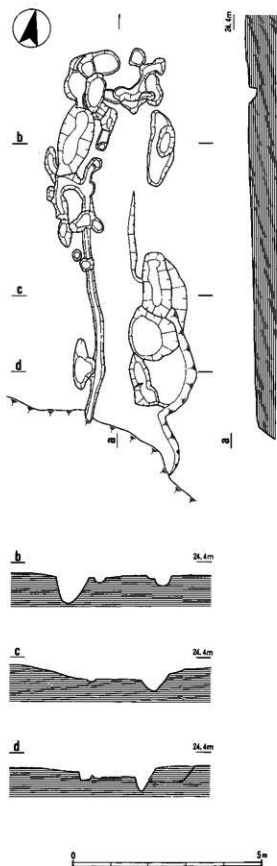
第11图 SX49·53·60·75·95实测图 (1:200)

きる。石室規模は南端部分が攪乱されているため不明瞭であるが、全長8m程度、玄室幅1.5m程度と推定される。

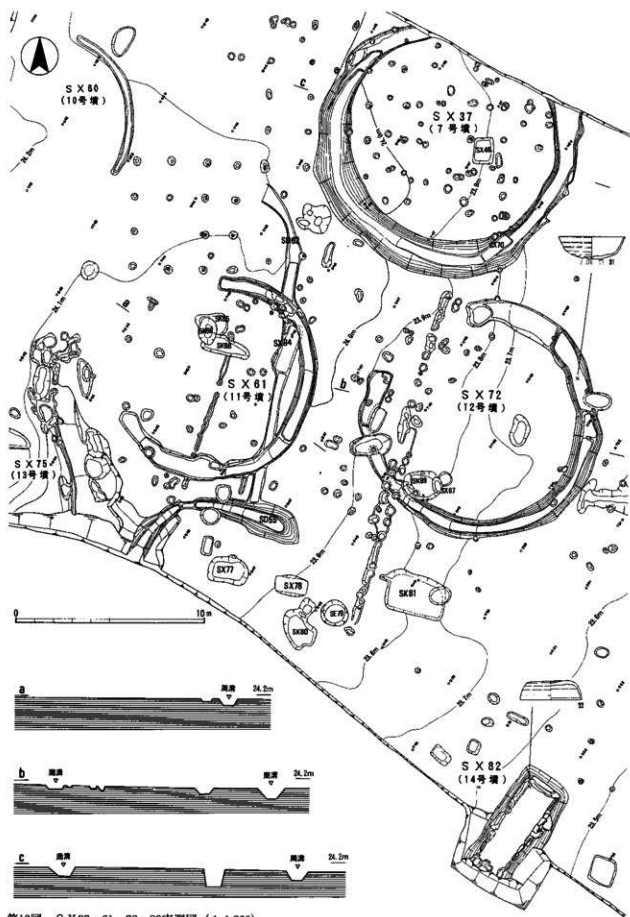
S X 82 (14号墳) (第13・14・63図) 12号墳の南約12mで検出された横穴式石室で、墳丘や周溝は確認できなかった。石室は段丘斜面に向かって築かれており、羨道部分は自然崩壊あるいは削平によって完全に破壊されていた。残存する玄室から、主軸をN35°Eにとり南南西に開口していたことがわかる。石室掘形は玄室部分の平面形が長方形で、検出長約6.3m、幅3.0m前後である。石室の石材は近くで容易に入手できる結晶片岩を使用している。基底石は左側壁が比較的良く残っているが、右側壁は南端の1つを除いて全て石室床面上に倒れていた。奥壁の基底石も石室内に向かって倒れかかっている。2段目以上の石材は両側の側壁にわずかに残っていたが、右側壁のものは基底石の倒壊にともなって内側にせり出していたため、石室内の埋土除去とともに全て取り外さざるを得なかった。玄室の平面形は長方形で、規模は南端にあるピット列が玄門部の石材抜き取り痕であるとすれば、長さ約5.0m、幅約1.5mとなる。奥壁と右側壁とが接する部分に、径1m程の範囲で地山崩壊土と黒ボク土が混じり合った攪乱土がみられた。この攪乱土は石室の検出面から床面まで続いており、その中から中世の土師器皿片やⅡ型式5段階の須恵器杯蓋(32)が出土した。おそらくこの部分は中世以降に掘られた盗掘坑で、玄室右側壁の倒壊は、この盗掘によって石材間のバランスが崩されたために引き起こされたものと思われる。石室床面には遺物が全くみられないことから、盗掘によって全て持ち去られ、32のみが盗掘坑内へ置き捨てられたと考えられる。14号墳の築造時期は32の時期、つまり6世紀末葉から7世紀初頭にかけてと思われる。石室の形態もその時期のものとして問題ない。

S X 95 (15号墳) (第11図) 9号墳のすぐ北に築かれた円墳である。周溝は東側部分しか残っておらず、幅約0.8m、深さ約0.2mである。墳丘規模は7m程度と推定できる。周溝内から中世の土師器皿・小皿・鍋の破片が少量出土した。

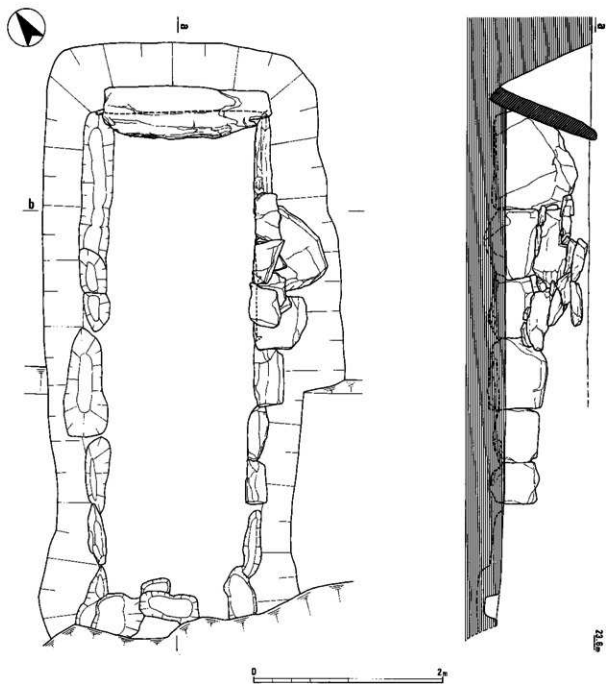
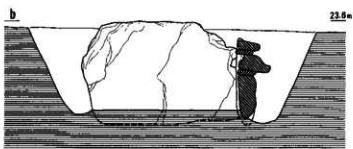
S X 113 (16号墳) (第18図) 調査区の東端近く



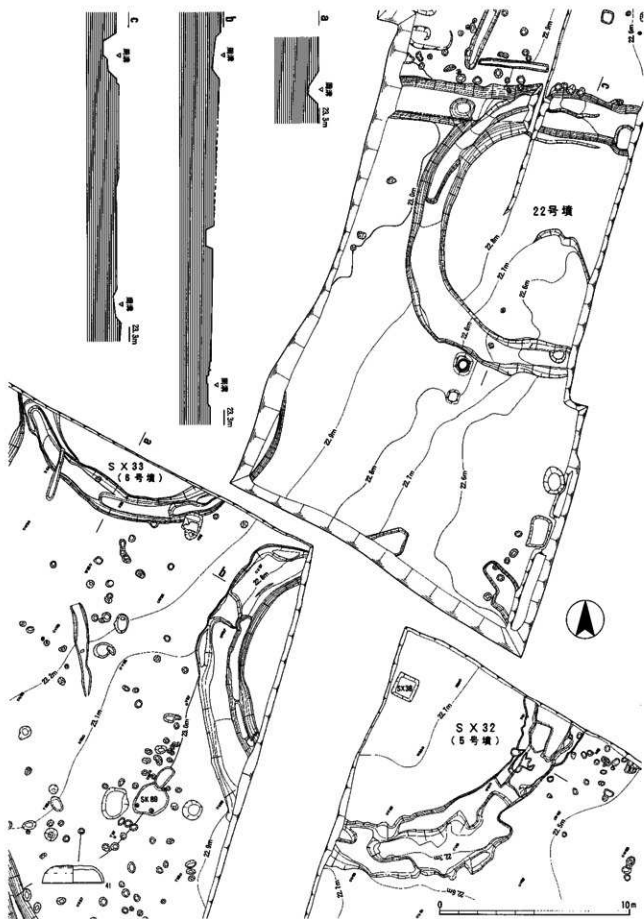
第12図 S X 75実測図 (1 : 100)



第13图 SX 37・61・72・82実測图 (1:200)



第14图 S X 82实测图 (1:40)



第15图 SX 32·33平面图 (1 : 200)

で検出された周溝である。東側が失われているため墳形はよくわからないが、一辺の長さが6m程度の方墳であろう。周溝は南西側で幅約0.9m、深さ約0.1mである。周溝内から同一個体のもと思われる土師器甕の体部片が8点出土している。この甕の時期は確定しがたく、体部片内外面に施されているハケ目調整から7世紀代あるいは8世紀代のもので推定できるのみである。16号墳の築造時期は、墳形や規模が類似している4号墳・17号墳とはほぼ同じ7世紀前半頃と考えられる。

S X 180 (17号墳) (第18・63図) 16号墳の北約8mで検出された方墳である。東側が失われているため規模は確定出来ないが、一辺の長さが6m程度であろうと思われる。周溝は南西側で幅約0.6m、深さ約0.1m、北西側が幅約0.8m、深さ約0.2mである。周溝内から中世の土師器皿の小片1点と古墳時代の須恵器高杯(33・34)が出土している。33・34は同一個体と思われる、Ⅱ型式6段階(7世紀前半)の特徴をもっている。17号墳の築造時期もそのころであろう。

S X 182 (18号墳) (第19図) 調査区の東端で検出された周溝で、一辺が約9.5mの方墳と思われる。周溝は西側が幅約0.8m、深さ約0.3m、南側が幅約1.2m、深さ約0.2mである。遺物は周溝内から中世の土師器皿・小皿・鍋、青磁碗の破片が少量出土したのみで、古墳時代のものは全くみられなかった。

S X 186 (19号墳) (第19図) 調査区の東端で検出された周溝で、大部分が調査区外になり、しかもS K 187によって大きく壊されている。周溝は幅約1m、深さ約0.3mで、一辺の長さが6.5m以上の方墳と思われる。遺物は周溝内から中世の土師器皿・小皿、山茶碗の破片が少量したが、古墳時代のものはみられなかった。ただし、S K 187出土の須恵器杯身(36)は本来19号墳のものであった可能性も考えられる。そうだとすれば、19号墳の築造時期を7世紀前半とすることができる。

S X 196 (20号墳) (第18・63図) 3号墳と17号墳の間に位置する径約9mの円墳である。周溝は北西側が幅約1.4m、深さ約0.2m、南側が幅約1m、深さ約0.1mで、東側が途切れている。周溝内から須恵器杯身(35)、中世の土師器小皿・鍋の破片が

少量出土した。35は小型で、立ち上がりが短く、底部にはロクロヘラケズリがみられないことなど、Ⅱ型式6段階(7世紀前半)の特徴をもつ。20号墳の築造時期もそのころであろう。

S X 215 (21号墳) (第17図) 15号墳の西約22mに位置する。長辺の長さ約7.5m、短辺の長さ約6.5mの方墳の周溝と思われるが、出土遺物は中世の土師器皿・小皿・鍋の破片のみである。周溝は北西側が幅約0.8m、深さ約0.3mで、南東側が幅約0.5m、深さ約0.2mである。墳域のほぼ中央に、あたかも古墳の主体部のような形状のS K 229があるが、この土坑からは中世の土師器片が少量出土したのみで、21号墳との関係は不明である。

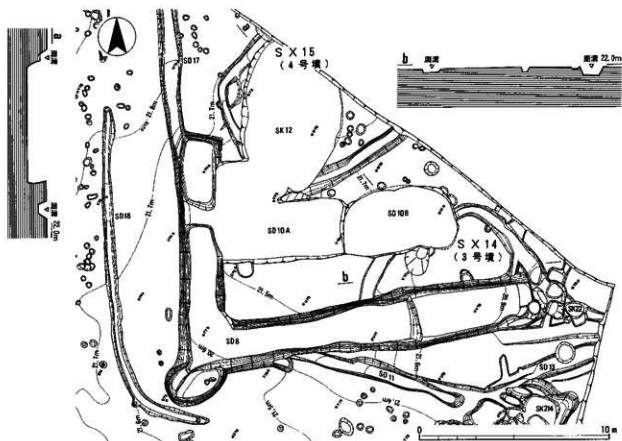
22号墳(第15図) ケノ辻・角垣内地区で検出された径約12mの円墳で、5号墳の北北東約10mに位置する。周溝は北側が幅約2.3m、深さ約0.6m、南側が幅約1.8m、深さ約0.2mである。周溝から6世紀初頭と思われる須恵器杯蓋が出土している。

23号墳 ケノ辻・角垣内地区で検出された円墳で、22号墳の北約5mに位置する。墳丘規模は径7.5m程度と推定される。周溝の幅は約1mで、深さは西側で約0.6m、南側で約0.2mである。周溝から遺物は出土していないが、墳域の北東側を断ち切っている中世の大溝から出土している6世紀前半頃の土師器碗は23号墳のものである可能性が高い。

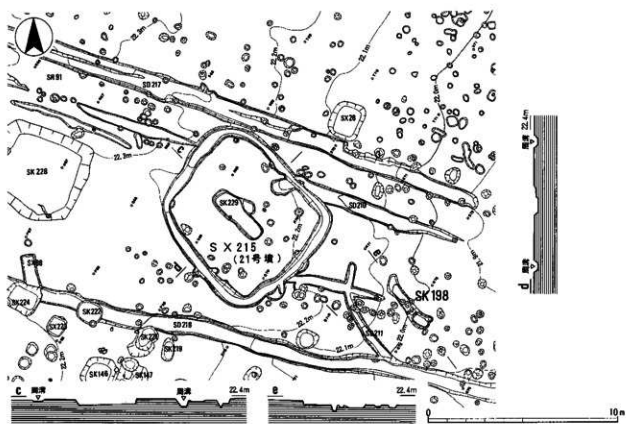
2. その他の遺構と出土遺物

S K 187 (第18・63図) 調査区の西端、19号墳と重複する位置にある土坑で、調査区外にも伸びており全体の形状は不明である。深さは最も深い所で約1mある。Ⅱ段階Ⅲ型式(7世紀前半)の須恵器杯身(36)が出土したため古墳時代の遺構としたが、中世の土師器皿・小皿、山茶碗、知多産と渥美産の甕、青磁碗などの破片も出土している。36は19号墳からの混入とも考えられ、S K 187は中世の遺構とすべきかもしれない。

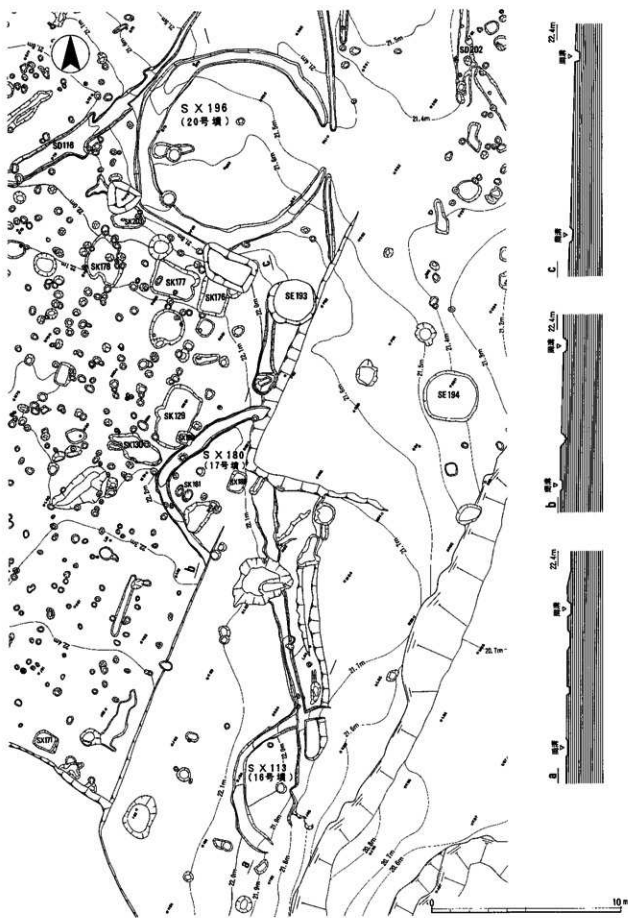
S K 198 (第16・63図) 21号墳の南東約4mにある土坑で、長さ約3.3m、幅約0.7mの短い溝状のものである。深さは約0.1mで、かなり浅い。土坑内からはⅢ型式3段階(7世紀後半)の須恵器杯蓋(37・38)・杯身(39・40)や中世の土師器皿・小皿・



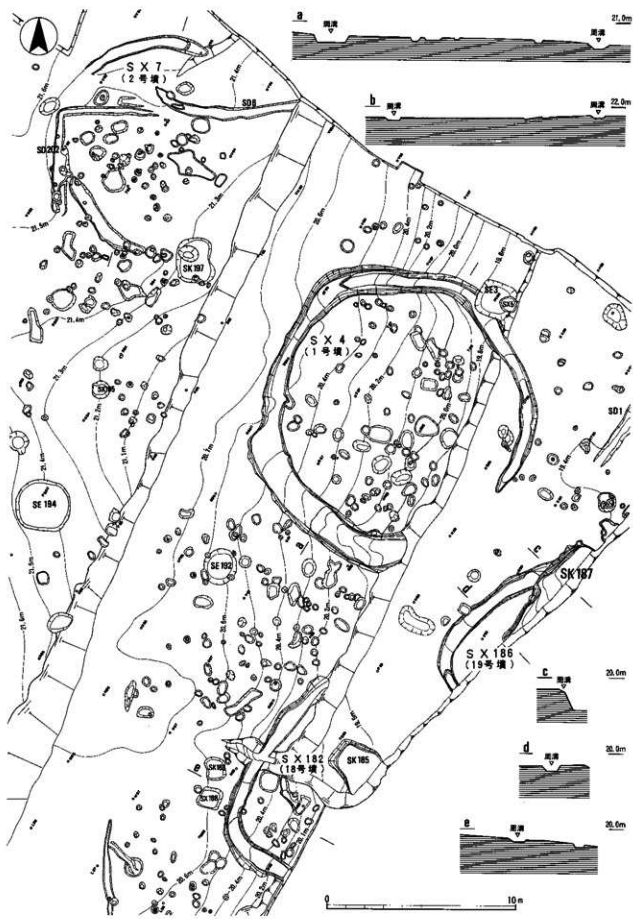
第16图 SX14・15実測图 (1 : 200)



第17图 SX215実測图 (1 : 200)



第18図 SX 113・180・196実測図 (1 : 200)



第19図 SX 4・7・182・186美瀬図 (1:200)

遺構名	位 置	外形	規 模	出土遺物(古墳時代の遺物)	時 期	備 考
SX 4 (1号墳)	Q~U 85~89	円墳	墳丘=径約13m 周溝=幅0~1.8m、深さ0~0.6m	土師器台付甕1・輪1	6世紀初葉	
SX 7 (2号墳)	S~V 81~83	円墳	墳丘=径約10.5m 周溝=幅0~0.8m、深さ0~0.1m	—	—	
SX 14 (3号墳)	U~W 76~79	方墳	墳丘=一辺約7.5m 周溝=幅0~0.8m、深さ0~0.2m	—	7世紀前半?	
SX 15 (4号墳)	V~W 73~76	方墳	墳丘=一辺約7.5m 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.4m	須恵器杯身1・杯蓋2・高杯1・埴1 土師器ミニチュア鉢1	7世紀前半	調査区外にのびる
SX 32 (5号墳)	U~Y 56~61	円墳	墳丘=東西約15.5m、南北約14m 周溝=幅0~3.0m、深さ0~0.4m	須恵器杯身1・杯蓋1・提敷1・甕1 土師器ミニチュア高杯3	6世紀後半	調査区外とテカノ辻・角組内地区にのびる
SX 33 (6号墳)	W~Z 53~56	円墳	墳丘=径約11m 周溝=幅0~1.5m、深さ0~0.4m	—	—	調査区外とテカノ辻・角組内地区にのびる
SX 37 (7号墳)	U~X 44~48	円墳	墳丘=径約11.5m 周溝=幅1.0~2.0m、深さ0.3~0.7m	須恵器杯蓋2・甕1・甕1 土師器輪1	6世紀前半	調査区外にのびる
SX 49 (8号墳)	U~W 37~39	円墳	墳丘=径約8m 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.3m	—	—	
SX 53 (9号墳)	Q~T 35~38	円墳	墳丘=東西約10m、南北約11m 周溝=幅0.5~1.8m、深さ0.3~0.5m	土師器輪2・壺2	6世紀	
SX 60 (10号墳)	T~V 41・42	円墳	墳丘=径約9m 周溝=幅0~0.5m、深さ0~0.1m	—	—	
SX 61 (11号墳)	Q~T 44~46	円墳	墳丘=径約9.5m 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.4m	土師器輪1	5世紀末葉 ~6世紀前半	
SX 72 (12号墳)	R~U 47~50	円墳	墳丘=径約11m 周溝=幅0~1.5m、深さ0~0.5m	須恵器高杯1 土師器輪1・台付甕1	6世紀中頃	
SX 75 (13号墳)	P~R 43・44	不明	—	—	—	横穴式石室の石材抜き取り痕と推定
SX 82 (14号墳)	O・P 51・52	不明	石室=玄室長約5.0m、玄室幅約1.5m	須恵器杯蓋1	6世紀末葉 ~7世紀初葉	
SX 95 (15号墳)	T~V 35~37	円墳	墳丘=径約7m 周溝=幅0~0.8m、深さ0~0.2m	—	—	
SX 113 (16号墳)	I~K 83・84	方墳?	墳丘=一辺約6m 周溝=幅0~0.9m、深さ0~0.1m	土師器輪1	7世紀前半?	
SX 180 (17号墳)	L~N 81・82	方墳	墳丘=一辺約6m 周溝=幅0~0.8m、深さ0~0.2m	須恵器高杯1	7世紀前半	
SX 182 (18号墳)	L~O 88・89	方墳	墳丘=一辺約9.5m 周溝=幅0~1.2m、深さ0~0.3m	—	—	調査区外にのびる
SX 186 (19号墳)	P~R 89・90	方墳?	墳丘=一辺6.5m以上 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.3m	須恵器杯身?	7世紀前半?	調査区外にのびる
SX 196 (20号墳)	O~R 78~81	円墳	墳丘=径約9m 周溝=幅0~1.4m、深さ0~0.2m	須恵器杯身1	7世紀前半	
SX 215 (21号墳)	P~R 68~70	方墳	墳丘=長辺7.5m、短辺6.5m 周溝=幅0.5~0.8m、深さ0.1~0.3m	—	—	
22号墳	テカノ辻・ 角組内地区	円墳	墳丘=径約12m 周溝=幅1.7~2.3m、深さ0.2~0.6m	須恵器杯蓋	6世紀初葉	調査区外にのびる
23号墳	テカノ辻・ 角組内地区	円墳	墳丘=径約7.5m 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.6m	土師器輪?	6世紀前半?	調査区外にのびる

第3表 古墳一覽

鍋の小片などが出土している。

S56ピット1 (第14・63図) 円形のピットで、径約0.3m、深さ約0.1mである。出土遺物はⅡ型式5段階(6世紀末葉～7世紀初頭)の須恵器杯蓋(41)のみである。近くに関連すると思われる遺構はなく、このピットの性格は不明である。

3. 中世遺構出土の遺物(第63図)

中世の遺構から、整理用コンテナに約1箱の古墳時代の土器が出土している。SX38出土のものは5号墳の記述中に触れたので、ここでは除く。

SD8 須恵器杯蓋天井部?片1点・変頸部?片1点・壺体部片11点(数個体)。

SD10A 須恵器瓶?体部片5点・壺体部片3点。

SD10B 須恵器壺?体部片1点・変頸部片1点・壺体部片4点(2個体)。

SK12 須恵器壺口頸部片1点。

SX28 須恵器提瓶?口縁部片1点。

SD36 Ⅱ型式2段階(6世紀中頃)の須恵器杯身2点(42・43)。

SX40 須恵器壺底部片1点。

SK45 薬臘石製紡錘車1点(44)。5世紀末葉以前のものであろう。

SX67 須恵器甕?片1点。

SX78 6世紀中頃の須恵器杯蓋片1点。

SK122 須恵器壺片2点(2個体)。

SX149 須恵器壺体部片25点(同一個体)。

SX151 須恵器壺体部片16点(同一個体)。

SE193 6世紀代の須恵器杯蓋天井部片1点・杯身口縁部片1点・高杯脚部片1点・壺体部片2点(同一個体)。

4. 包含層出土の遺物(第63図)

土師器と須恵器が出土している。量は少ない。

Q21 土師器壺1点(50)。

V53 須恵器杯身片2点。

V54 須恵器杯身片1点。

O76 Ⅲ型式3段階(7世紀後半)の須恵器長頸壺頸部1点(48)。

U77 Ⅱ型式6段階(7世紀前半)の須恵器杯身口縁部片1点。

Q78 Ⅱ型式5段階～Ⅱ型式6段階(6世紀末葉～7世紀前半)の須恵器高杯脚部1点(46)。

T78 Ⅱ型式4段階(6世紀後半)の須恵器高杯柱状部1点(47)。

T79 須恵器蓋1点(45)。6世紀代の有蓋高杯の蓋であらう。

Q84 土師器ミニチュア高杯1点(49)。中世のものとも考えられる。

T89 同一個体の須恵器壺体部片2点。

S89 須恵器壺体部片1点。

4. 中世の遺構と遺物

今回の調査区からは2,000を越えるピットや300近い土坑・溝等の遺構が検出されている。その中である程度性格あるいは時期が推測できる227の遺構に遺構番号を付した。そのうち古墳時代のものを除く204が中世のものと考えられる。中世の遺構には掘立柱建物45棟、槽1条、井戸12基、中世墓40基、土坑70基、溝33条、道路2条、集石遺構1基がある。

遺構の時期は蚊山遺跡左郡地区Ⅰ期(12世紀中葉～13世紀初頭)、Ⅱ期(13世紀前葉～中葉)、Ⅲ期(13世紀後葉～14世紀前葉)、Ⅳ期(14世紀中葉～15世紀中葉)に分けた。その基準についてはⅥ章で述べる。

中世の遺物は、整理用コンテナに約320箱出土している。ほとんどが在地産の土師器類と瀬美・知多・猿投・瀬戸産の陶器類で、13世紀代のものが最も多くみられる。中世陶器については、瀬戸産と思われるものは藤澤良祐氏の瀬戸編年⁹⁾、知多産と思われるものは中野晴久氏の知多編年¹⁰⁾、瀬美産と思われるものは富藤孝正氏の瀬美編年¹¹⁾を参考にし、在地産の土師器類については伊藤裕俣氏の型式分類に従った。また、貿易陶磁については亀井明徳氏の指導をうけた。なお、土師器皿・小皿の分類については、Ⅳ章を参照していただきたい。

1. 擬立柱建物

今回の調査では45様の擬立柱建物が確認された。そのほとんどは東柱をもつ建物で、柱穴が基礎目状に並んでいる。このような建物跡は、庇の有無や配置をどう想定するかによって身舎の規模や棟方向が数通り考えられる場合が往々にしてある⁹⁾。ここでは庇の有無について敢えてこだわらなかった。

なお、柱間の長さは、鎌倉時代に普及していたと考えられる曲尺（1尺＝約30.3cm）で測り、建物面積は便宜的に坪（1坪＝6尺平方）で表した。

S B 2（第20・63図） 調査区の西端近くに位置する。西から1列目柱列の柱掘形が小さく浅いことからここを庇と考える。桁行4間（南から6.5尺＋5.75尺×2＋8尺＝26尺）×梁行3間（東から8尺＋6.5尺×2＝21尺）の身舎の西面に3間（南から5.75尺×2＋8尺＝19.5尺）×1間（8尺）の庇が付く南北棟（棟方向N2°W、身舎面積約15.2坪、総面積19.5坪）である。確認された23か所の柱位置のうち9か所に根石が残っていた。遺物は庇の柱掘形から出土した土師器小皿C（51）と皿C（52）の2点のみである。52は口径が12cm前後でB₂に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

S B 9（第21・63図） S B 2の南東約20mに位置する。南西隅の柱位置が確認できなかったのは古墳の周溝上にあたるため見逃したか、既に削平されていたためと思われる。桁行3間（東から7尺＋6.5尺×2＝20尺）×梁行2間（6尺×2＝12尺）の東西棟（棟方向N84°E、面積約6.7坪）であろう。確認された11か所の柱位置のうち6か所に根石が残っていた。東面中央の柱掘形から土師器小皿B₂・皿B₂（53）、東から2列目柱列中央の柱掘形から土師器小皿C・皿B₂（54）が出土している。Ⅱ期の建物と思われる。

S B 16（第21図） S B 9と一部重複している。東面と西面の中央の柱位置が確認されなかったが、桁行2間（6尺×2＝12尺）×梁行2間（5.25尺×2＝10.5尺）の東西棟（棟方向N87°E、面積3.5坪）と思われる。確認された7か所の柱位置のうち4か所に根石が残っていた。出土遺物がないため時期は決め難いがⅢ期かⅣ期の建物と思われる。

S B 19（第21図） S B 16のすぐ北側に位置して

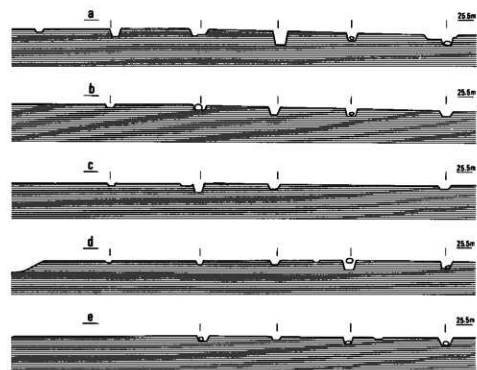
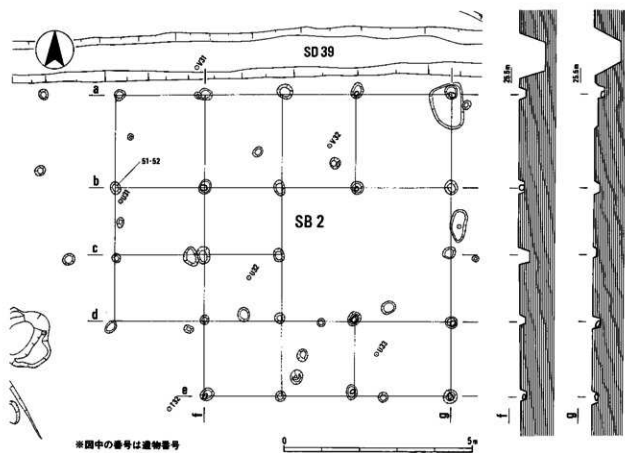
いる。柱位置が3か所確認されなかったため建物の設定にはやや無理があるが、このあたりには根石らしき石をもつピットがいくつかみられることから、何らかの建物が存在していたことは確かである。ここでは桁行2間（6.5尺×2＝13尺）×梁行2間（5.25尺×2＝10.5尺）の東西棟（棟方向N85°E、面積約3.8坪）としておく。確認された5か所の柱位置のうち3か所に根石が残っていた。建物中央の柱掘形から土師器小皿C・皿C・鍋の小片が出土している。Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B 20（第22図） 調査区の中央からやや東に寄った所に位置する。南面がS D 217により攪乱されており、東面の柱列も不確かである。ここでは桁行4間（6.5尺×4＝26尺）×梁行2間（6.25尺×2＝12.5尺）の南北棟（棟方向N19°E、面積約9坪）としておく。確認された10か所の柱位置のうち9か所に根石が残っていた。出土遺物はないが、北から2列目柱列中央の柱掘形が切り勝っているピットから土師器小皿B₂・皿B₂が出土していることから、Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

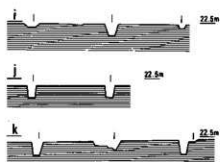
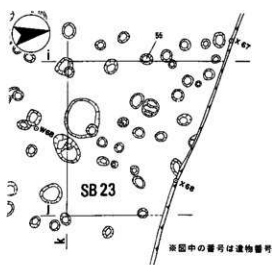
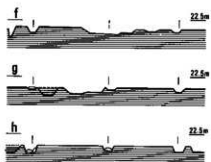
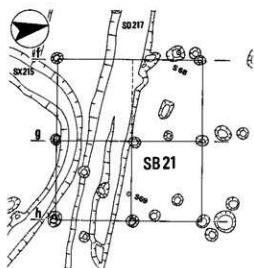
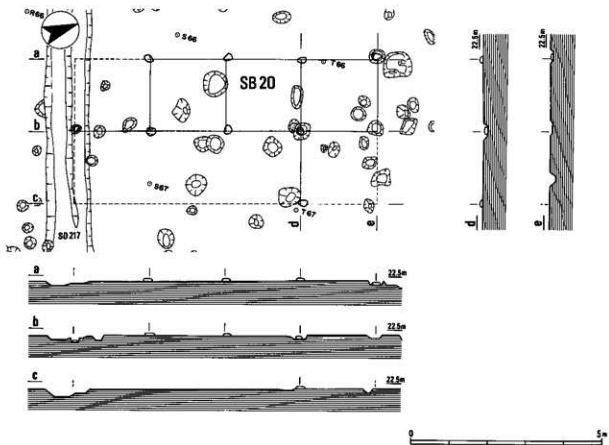
S B 21（第22図） S B 20の南東約3mに位置する。西面中央の柱穴はS D 217によって削り取られている。桁行2間（7尺×2＝14尺）×梁行2間（南から6.5尺＋6尺＝12.5尺）の東西棟（棟方向N81°W、面積約4.9坪）である。確認された8か所の柱位置のうち4か所に根石が残っていた。北面東端の柱掘形から土師器小皿C・皿C、北面中央の柱掘形から土師器皿B₂・鍋が出土している。Ⅲ期の建物と思われる。

S B 23（第22・63図） S B 20の北東約10mに位置する。調査区外へのびるため、西面2間（6.5尺×2）、東面1間（6.5尺）、南面2間（東から6尺＋7尺＝13尺）しかわからない。2間以上×2間の南北棟（棟方向N8°E）と思われる。東柱はなく根石もみられない。西面南から2番目の柱掘形から土師器皿B₂（55）・鍋、渥美産の山茶碗が出土している。Ⅰ期の建物であろう。

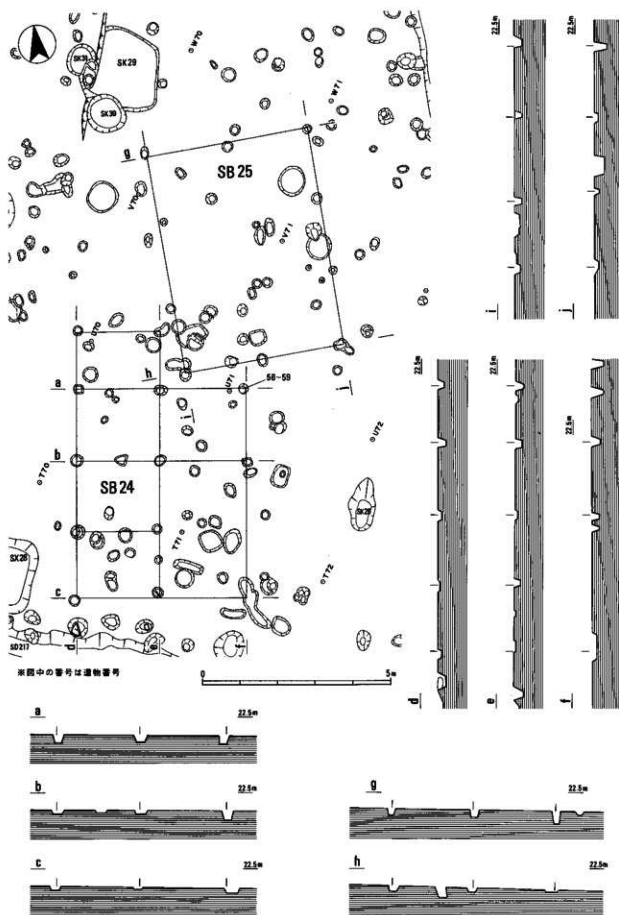
S B 24（第23・63図） S B 21の東約5mに位置する。東柱をもつ建物であるが根石はみられない。桁行3間（6尺×3＝18尺）×梁行2間（7.5尺×2＝15尺）の身舎の北面に1間（5尺）×1間（7.5



第20図 SB 2実測図 (1 : 100)



第22図 S B 20・21・23実測図 (1 : 100)



第23図 S B24・25実測図 (1 : 100)

尺)の底をもつ南北棟(棟方向N9°E、身舎面積7.5坪、総面積約8.5坪)である。東面北端の柱掘形から土師器小皿B₁(57~59)・皿B₁(56)・鍋、南面中央の柱掘形から土師器皿B₁、南から2列目柱列中央の柱掘形から土師器小皿B₁が出土している。

I期の建物と思われる。

S B 25 (第23図) S B 24と接するような位置にある。桁行3間(東面は南から6.5尺×2+6尺=19尺、西面は南から5.5尺+7.5尺+6尺=19尺)×梁行2間(7尺×2=14尺)の南北棟(棟方向N0°E、面積約7.4坪)である。出土遺物がないため時期は不確定であるが、束柱がなく根石のみみられないことから、I期の可能性が考えられる。

S B 27 (第24・63図) S B 24の南約2mに位置する。束柱をもつが根石はみられない。桁行4間(5.75尺×4=23尺)×梁行3間(6.5尺×3=19.5尺)の東西棟(棟方向N77°W、面積約12.5坪)である。南面東から2番目の柱掘形から渥美編年で12世紀後葉から末葉とされる山茶碗(63)、南から2列目柱列東端の柱掘形から土師器小皿B₁(60)・皿B₁(61)・器台(64)、南から2列目柱列の中央柱掘形から土師器皿B₁・鍋頸部、知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀初頭)の山茶碗(62)が出土している。I期の建物と思われる。

S B 34 (第24図) S B 27と一部重複する。北から3列目の柱列はS D 218により全て削り取られて消滅している。桁行3間(東から8尺+7尺×2=22尺)×梁行3間(6.5尺×3=19.5尺)の身舎の南面に2間(7尺×2=14尺)×1間(6.5尺)の庇が付く東西棟(棟方向N89°W、身舎面積約11.9坪、総面積約14.5坪)であろう。確認された15か所の柱位置のうち5か所に根石が残っていた。北面西から2番目の柱掘形から土師器皿B₁が出土している。II期の建物と思われる。

S B 51 (第25・63図) S B 2の南東約50mに位置する。北東隅が調査区外にのびると思われる。南北方向の柱列の内、中央のものが全く検出されなかったが、桁行4間(東から5.5尺+6尺×2+6.5尺=24尺)×梁行3間(6尺×3=18尺)の東西棟(棟方向N89°W、面積12坪)とする。確認された15か所の柱位置のうち6か所に根石が残っていた。南面

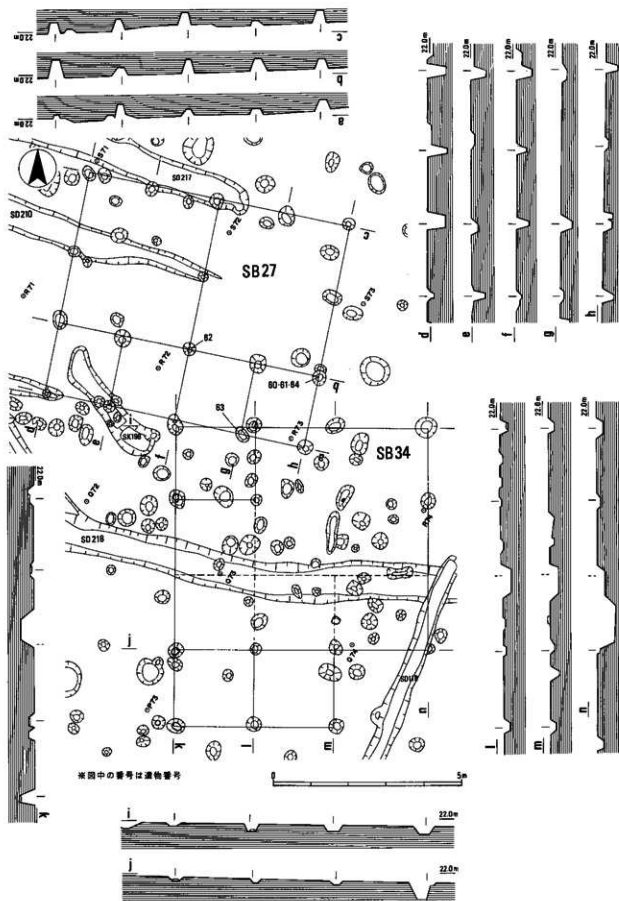
東から2番目の柱掘形としたピットからは土師器小皿B₁・皿B₁(66)が、このピットの東に隣接するピットからも土師器小皿B₁・皿B₁が出土している。どちらのピットがS B 51のものか決め難いが、いずれにしろほぼ同時期のピットである。また、西から2列目柱列北から2番目の柱掘形から土師器小皿B₁(65)・鍋体部片、他の2か所の柱掘形から土師器小皿B₁・皿B₁が出土している。II期の建物と思われる。

S B 54 (第25・63図) 南東側でS B 51と重複する。柱が3か所欠けているのは、古墳の周溝上にあたるため見逃してしまったと思われる。桁行4間(6尺×4=24尺)×梁行3間(7尺×3=21尺)の南北棟(棟方向N3°E、面積14坪)である。確認された17か所の柱位置のうち4か所に根石が残っていた。西面中央の柱掘形から土師器小皿C(67)、北面東から2番目と3番目の柱掘形からB₁またはCと思われる土師器小皿が出土している。III期の建物と思われる。

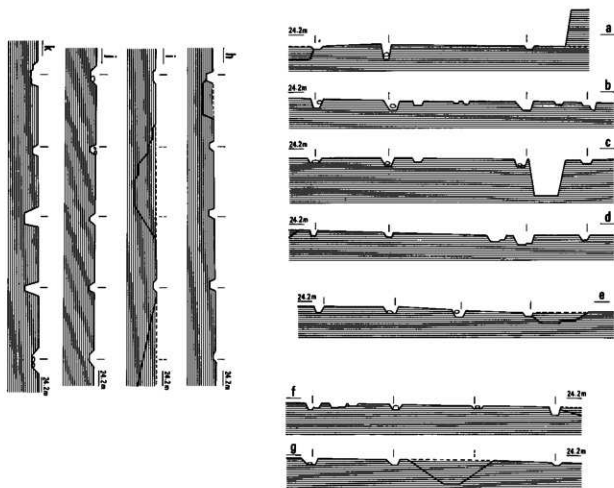
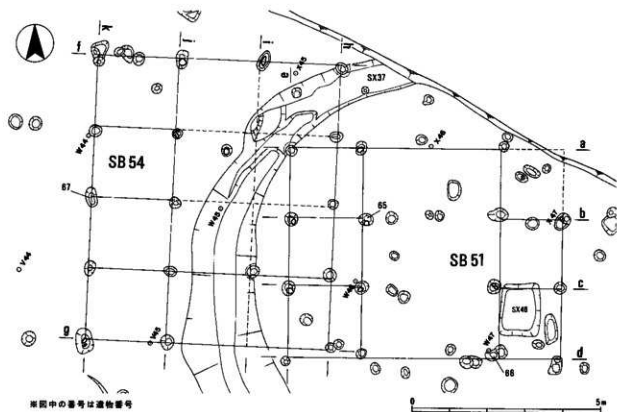
S B 68 (第26図) S B 54の南西に位置する。桁行3間(6尺×3=18尺)×梁行3間(東から5尺+6尺+6尺=17尺)の南北棟(棟方向N3°E、面積8.5坪)である。束柱はない。確認された15か所の柱位置のうち6か所に根石が残っていた。出土遺物は全くない。S B 68の北面柱列とS B 54の南面柱列とは5尺の間を置いて一直線上に並ぶことから、両者は強い結びつきをもって同時期に存在していた可能性が高い。III期の建物であろう。

S B 74 (第26図) S B 68の南東約30mに位置する。桁行2間(東面は南から7尺+6.5尺=13.5尺、西面は7尺×2=14尺)×梁行2間(北面は5尺×2=10尺、南面は東から4.5尺+5.5尺=10尺)の南北棟(棟方向N15°E、面積約3.8坪)である。確認された8か所の柱位置のうち7か所に根石が残っていた。出土遺物は全くない。S B 74の南面柱列とS B 76の北面柱列とがほぼ一直線上に並ぶことから、S B 76と同時に存在していた建物と思われる。

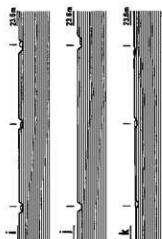
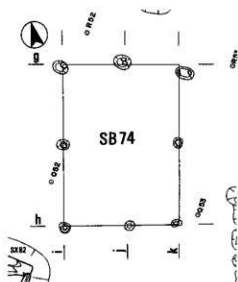
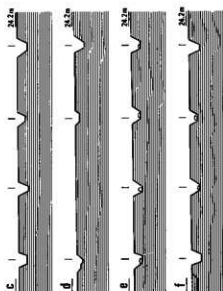
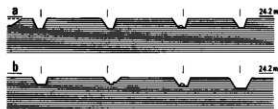
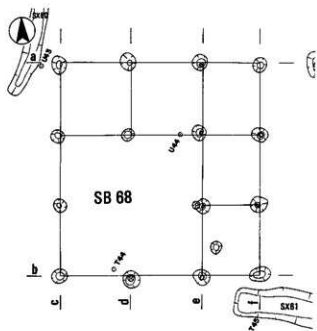
S B 76 (第27・63図) S B 74の南東約5mに位置する。西から2列目の柱列はS D 35Bに削り取られて消滅している。桁行3間(6.5尺×3=19.5尺)×梁行3間(5尺×3=15尺)の東西棟(棟方向N



第24図 SB27・34実測図 (1:100)



第25図 SB51・54実測図 (1:100)



第26图 SB 68·74实景图 (1:100)

75°W、面積約8.1坪)である。確認された12か所の柱位置のうち5か所に根石が残っていた。西面北から2番目の柱掘形から土師器小皿B₂・皿B₂・伊藤分類第1段階b型式の鍋(74)、渥美編年で13世紀前業とされる山茶碗、西面北から3番目の柱掘形から青磁碗、東面北端の柱掘形から土師器小皿B₂(70)・皿B₂・鍋、知多編年第5型式(13世紀前業)の山茶碗(76)、東面北から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿B₂(71)・皿C・伊藤分類第2段階a型式かb型式の鍋(73)、東から2列目柱列北から2番目の柱掘形から土師器小皿B₂(68・69)・小皿C・皿B₂(72)・皿C、知多編年第4型式か第5型式(12世紀末業~13世紀前業)の山茶碗(75)、東から2列目柱列北から3番目の柱掘形から土師器小皿C・皿Cが出土している。柱掘形の切り合い関係からS B93より古いことがわかる。Ⅱ期の建物と思われる。

S B85(第27・64図) S B76と一部重複する。桁行3間(5尺×3=15尺)×梁行2間(6.5尺×2=13尺)の南北棟(棟方向N14°E、面積約5.4坪)であるが、西側へさらに1間のびていた可能性も考えられる。もしそうだとすれば桁行3間(6.5尺×3=19.5尺)×梁行3間(5尺×3=15尺)の東西棟(棟方向N76°W、面積約8.1坪)となり、S B76と全く同じ規模、ほとんど同じ棟方向となる。確認された11か所の柱位置のうち3か所に根石が残っていた。東面北から2番目の柱掘形から土師器小皿C(77)・皿C・伊藤分類第1段階b型式と第2段階c型式の鍋、西面北から3番目の柱掘形から土師器皿C(78)、他の2か所の柱掘形から土師器小皿C・皿C・鍋が出土している。78は口径が12cm前後でB₂に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

S B93(第28・64図) S B76・S B85と一部重複する。桁行3間(5.5尺×3=16.5尺)×梁行3間(南から4尺+5尺×2=14尺)の東西棟(棟方向N76°W、面積約6.4坪)である。根石は1か所で確認された。東面北端の柱掘形から土師器小皿C・皿C(79)、西面北から2番目の柱掘形から土師器皿C(80)・鍋(81)、他の3か所の柱掘形から土師器小皿C・皿C・鍋が出土している。柱掘形の切り合い関係からS B76・S B98より新しいことがわか

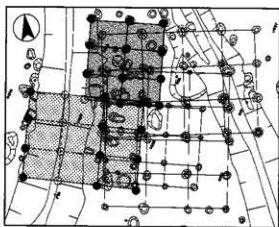
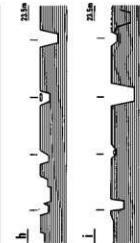
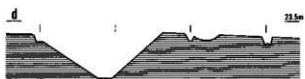
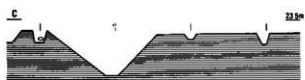
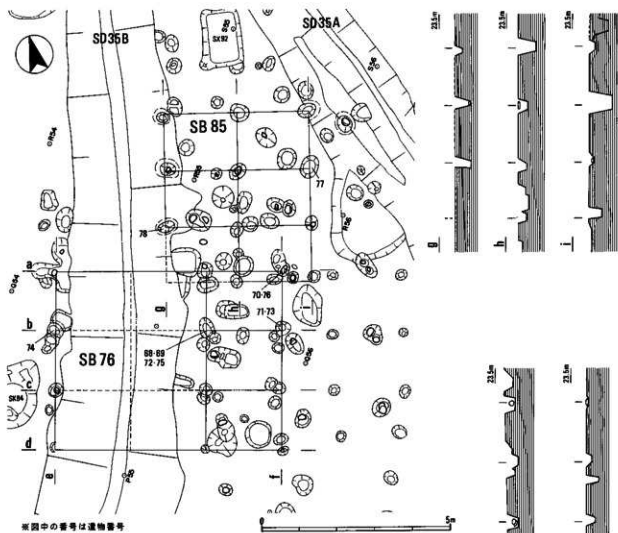
る。Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B97(第28・64図) S B76・S B85・S B93と重複する。桁行4間(6尺×4=24尺)×梁行3間(7尺×3=21尺)の南北棟(棟方向N10°E、面積14坪)である。確認された20か所の柱位置のうち17か所に根石が残っていた。東面北端の柱掘形から土師器皿C(82)、知多編年第5型式か第6型式(13世紀中業~後業)の山茶碗(84)、東から2列目柱列南から2番目の柱掘形から土師器皿C・伊藤分類第2段階b型式の鍋(83)、他の3か所の柱掘形から土師器小皿C・皿C・鍋が出土している。Ⅲ期の建物と思われる。

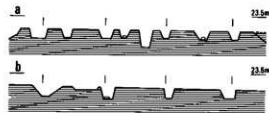
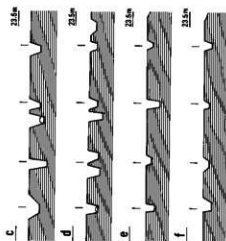
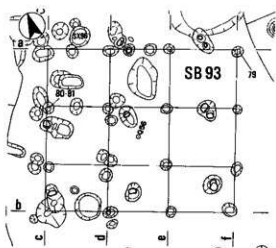
S B98(第29・64図) S B76・S B85・S B93・S B97と重複する。桁行4間(東から6尺+7尺×3尺=27尺)×梁行3間(6尺×3=18尺)の東西棟(棟方向N83°W、面積13.5坪)である。確認された20か所の柱位置のうち13か所に根石が残っていた。北面東から2番目の柱掘形から土師器小皿B₂(85~87)・皿B₂(88~91)・鍋、渥美産と思われる山茶碗体部片が出土しているが、S D35Aの遺物が混入している可能性が高い。柱掘形の切り合い関係からS B93・S B97より古く、S D35Aより新しいことがわかる。Ⅱ期の建物と思われる。

S B100(第30図) 調査区の東より部分に位置する。東柱をまたぎ根石もみられない。桁行3間(東から7尺+5.5尺+4.5尺=17尺)×梁行2間(5.75尺×2=11.5尺)の東西棟(棟方向N59°W、面積約5.4坪)である。出土遺物は全くない。柱掘形の切り合い関係からS B125より古いことがわかる。Ⅰ期の建物と思われる。

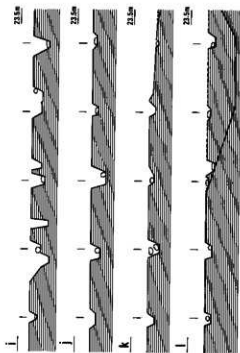
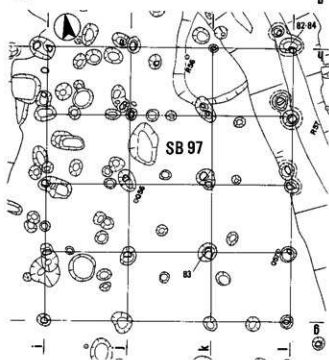
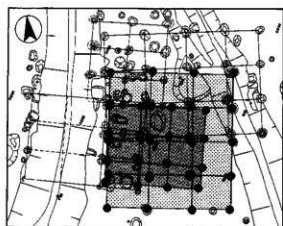
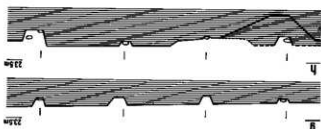
S B112(第30・64図) S B100と重複する。南東側の柱位置が2か所確認されていないが、桁行3間(東から7尺×2+6尺=20尺)×梁行2間(5尺×2=10尺)の東西棟(棟方向N69°W、面積約5.6坪)とする。根石は1か所で確認された。西面中央の柱掘形から土師器皿B₂(92)、西から2列目柱列中央の柱掘形から知多編年第4型式か第5型式(12世紀末業~13世紀前業)の片口鉢、北面西から2番目の柱掘形から土師器小皿B₂・皿B₂、知多編年第5型式(13世紀前業)の片口鉢が出土している。Ⅱ期の建物と思われる。



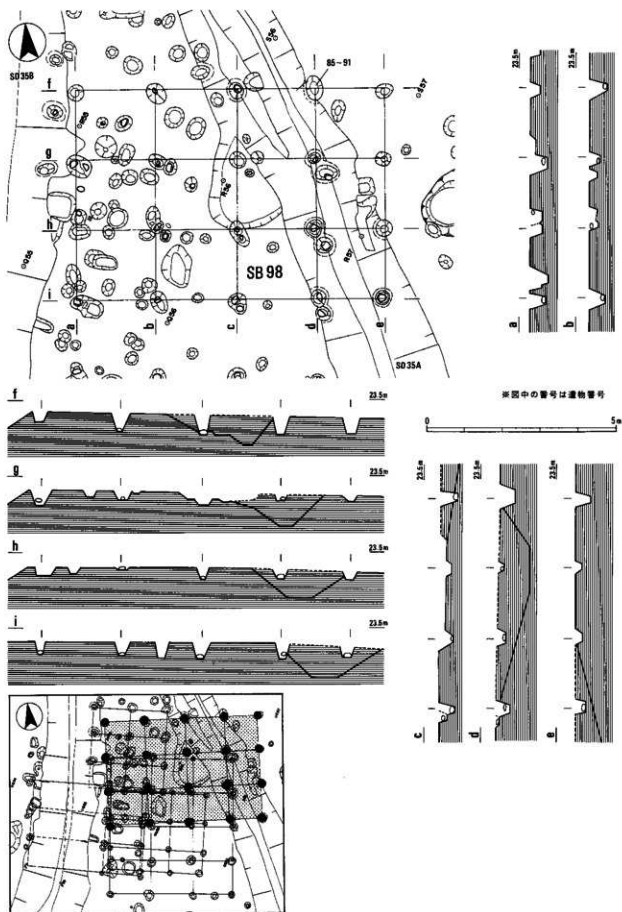
第27図 SB 76・85実測図 (1:100)



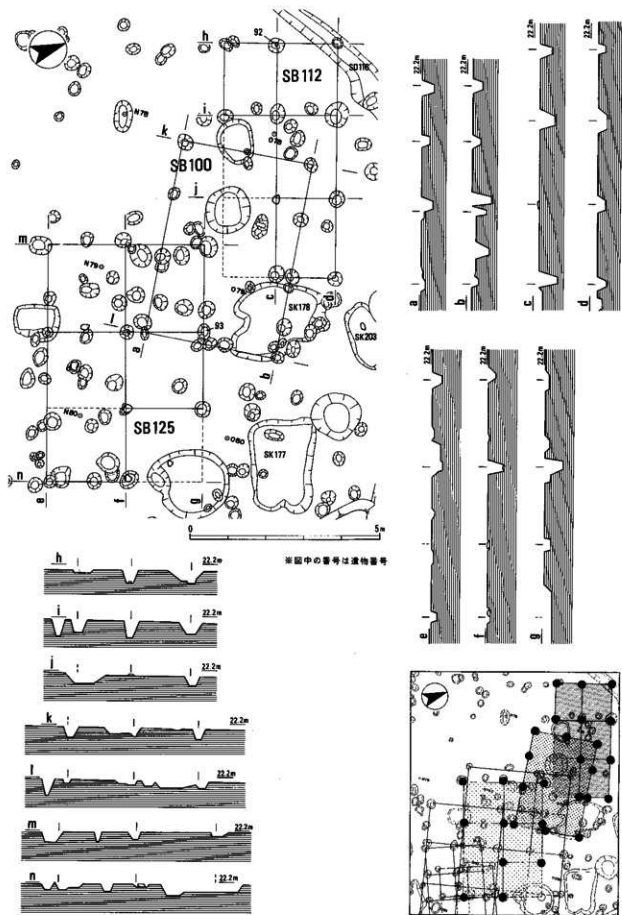
※図中の番号は遺物番号



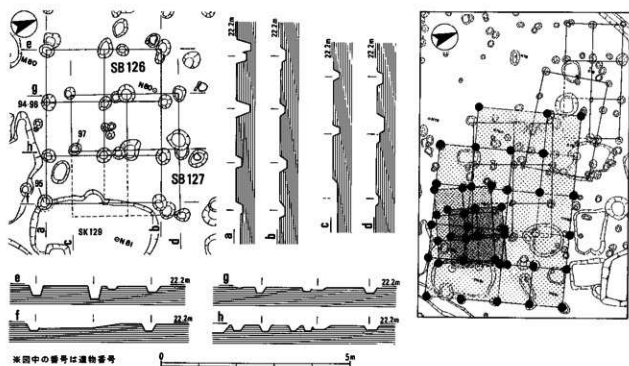
第28図 S B 93・97実即図 (1 : 100)



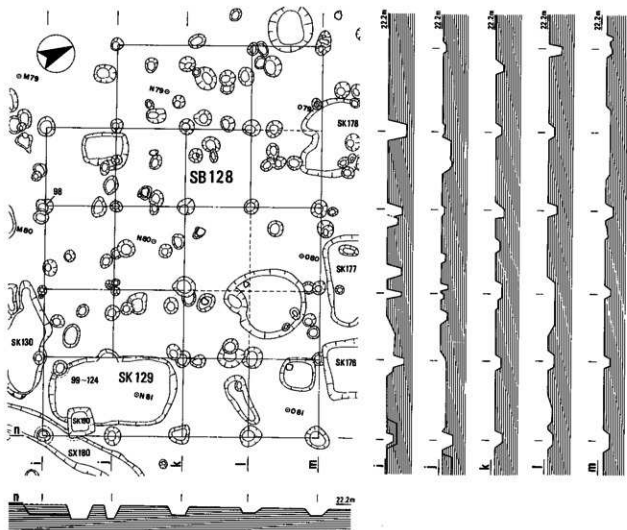
第29図 SB 98実測図 (1 : 100)



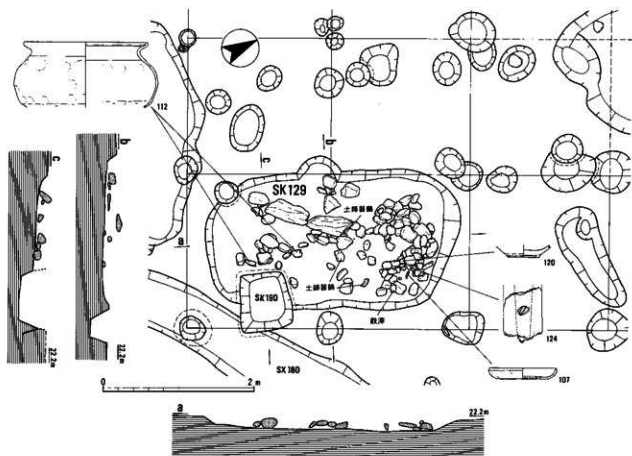
第30図 SB100・112・125実測図 (1:100)



※図中の番号は遺物番号



第31図 SB 126・127・128実測図 (1:100)



第32図 SK 129 (SB 128) 実測図 (1 : 50)

SB 125 (第30・64図) SB 100と重複する。東隣の柱位置が確認されていないが、桁行3間(東から6.5尺×2+7.5尺=20.5尺)×梁行2間(7尺×2=14尺)の東西棟(棟方向N69°W、面積約8坪)とする。確認された10か所の柱位置のうち3か所に根石が残っていた。北面西端の柱掘形から土師器小皿B₂・伊藤分類第1段階b型式の鍋、北面西から2番目の柱掘形から土師器小皿B₁、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗(93)、北面西から3番目の柱掘形から土師器・小皿B₂・皿B₂が出土している。Ⅱ期の建物と思われる。

SB 126 (第31・64図) SB 125と重複する。東面中央の柱は見逃したため検出されなかった。東柱をもつ建物であるが根石はみられない。桁行3間(4.5尺×3=13.5尺)×梁行2間(5尺×2=10尺)の東西棟(棟方向N72°W、面積約3.8坪)である。南面西から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿C(94)・鍋、土鍾(96)、南面東端の柱掘形から土師器小皿C・皿C、白磁碗(95)、その他3か所の柱

掘形からそれぞれ土師器小皿C・皿Cが出土している。94は口径が12cm近くでB₂に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

SB 127 (第31・64図) SB 125・SB 126と重複する。東面の2か所の柱位置が確認されなかったが、桁行2間(東から5.5尺+5尺=10.5尺)×梁行2間(5尺×2=10尺)の東西棟(棟方向N73°W、面積約2.9坪)とする。根石はみられない。南面中央の柱掘形から土師器小皿C(97)・皿Cが出土した。Ⅲ期あるいはⅣ期の建物と思われる。

SB 128 (第31・64図) SB 100・SB 112・SB 125・SB 126・SB 127と重複している。桁行4間(東から7尺+6尺+7尺×2=27尺)×梁行4間(6尺×4=24尺)の身舎の西面に1間(7尺)×3間(6尺×3=18尺)の庇が付く東西棟(棟方向N66°W、身舎面積18坪、総面積18.5坪)である。根石はみられなかった。南面西から2番目の柱掘形から土師器ミニチュア鍋(98)が出土した。SB 128の南東隅には、SB 128に伴うと考えられる土坑S

K129 (第32・64図)がある。この土坑は1間×2間の範囲に収まる隅丸方形のもので、上部では長辺約3.4m、短辺約1.8m、底部では長辺約3.0m、短辺約1.6m、検出面からの深さ0.1~0.2mである。土坑内には径10cm程度から長さ60cmほどの結晶片岩が多くみられたが、意図的に積んだり並べたりした形跡は認められなかった。遺物は土師器小皿A (103)・小皿B₁ (99~102)・皿B₁ (104~108)・台付小皿 (109)・伊藤分類第1段階a型式の鍋 (110~113)・羽釜 (114)、瀬美編年で12世紀末業あるいは13世紀前業とされる山茶碗 (115~123)、フイゴ羽口 (124)などが石とともに廃棄されたような状態で出土した。I期の建物である。

S B131 (第33・65図) S B128の南西約5mに位置する。桁行4間 (南から6.5尺×2+6尺×2=25尺)×梁行3間 (東から8尺+7尺×2=22尺)の身舎の東面に1間 (6.5尺)×1間 (7尺)の庇が付く南北棟 (棟方向N27°E、身舎面積約15.3坪、総面積約16.5坪)である。確認された21か所の柱位置のうち6か所に根石が残っていた。東面北端の柱掘形から土師器小皿B₁ (125)・皿B₂・鍋、東面北から2番目の柱掘形から土師器皿B₁・皿C (127)・鍋・瀬美産の甕、東面南から2番目の柱掘形から土師器小皿B₂ (126)・皿B₁、他の2か所の柱掘形からB₂あるいはCの土師器小皿・皿が出土している。127は口径が13cmを越えていることからB₂とも考えられる。II期の建物と思われる。

S B133 (第34・65図) S B131と重複する。桁行4間 (南から6.5尺+5.5尺×3=23尺)×梁行3間 (南から7尺+6.5尺×2=20尺)の身舎の東面に1間 (6.5尺)×1間 (8尺)の庇が付く南北棟 (棟方向N25°E、身舎面積約12.3坪、総面積約14.2坪)で、S B131をひとまわり小さくしたような平面形をしている。確認された21か所の柱位置のうち9か所に根石が残っていた。南面北端の柱掘形から土師器小皿C、南面西から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿C (128・129)・鍋・知多産の山茶碗、北面東端の柱掘形から土師器小皿C・鍋、北から2列目柱列東から2番目の柱掘形から土師器小皿C・鍋 (130)が出土している。III期の建物と思われる。

S B136 (第35・65図) S B131・S B133と重

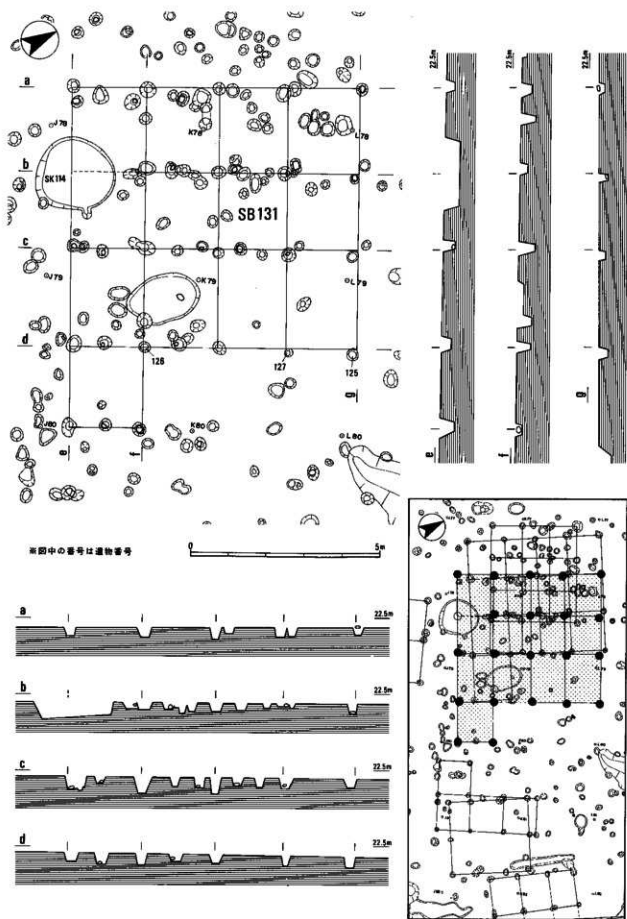
複する。桁行3間 (東から5.5尺×3=16.5尺)×梁行3間 (南から5尺×3=15尺)の身舎の東面に1間 (5.5尺)×1間 (5尺)の庇が付く東西棟 (棟方向N62°W、身舎面積約6.9坪、総面積約7.6坪)である。根石は1か所で確認された。東面南から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿C (131)、東面北から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿Cが出土している。131はB₂に近い。III期の建物と思われる。

S B137 (第35図) S B136の南約3mに位置する。調査区外へのびるため、北面2間 (7尺×2=14尺)、東西面それぞれ1間 (6尺)しかわからない。2間×2間の東西棟の建物とすると、棟方向はN58°Wとなる。根石はみられない。北面中央の柱掘形からB₂と思われる土師器皿底部と瀬美編年で13世紀前業とされる山茶碗の口縁部が出土している。II期の建物であろう。

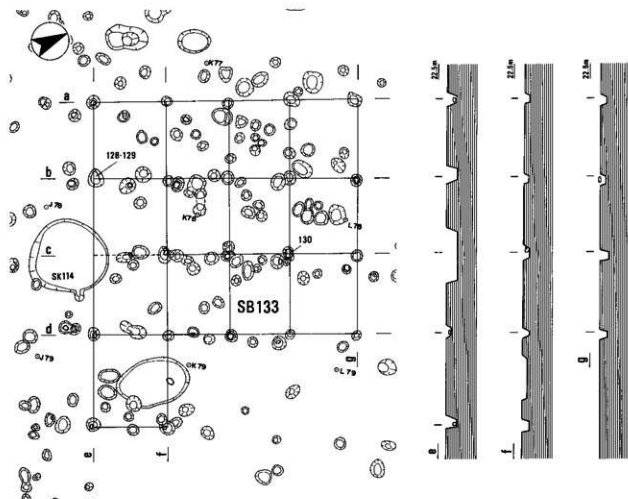
S B141 (第36・65図) S B131のすぐ東に位置する。3間×2間の南北棟となる可能性も考えられるが、ここでは桁行3間 (6尺×3=18尺)×梁行1間 (6尺)の身舎の西面に1間 (6尺)×1間 (5尺)の庇が付く南北棟 (棟方向N30°E、身舎面積3坪、総面積4坪)とする。根石はみられない。庇の南西端の柱掘形から土師器鍋、庇の北西端の柱掘形から土師器小皿B₁ (132)、他の3か所の柱掘形からそれぞれ土師器小皿Cが出土している。III期の建物と思われる。

S B142 (第36・65図) S B141と重複する。桁行3間 (南から4尺+5尺×2=14尺)×梁行2間 (6.5尺×2=13尺)の南北棟 (棟方向N24°E、面積約5.1坪)である。束柱はみられない。根石は1か所で確認された。東面南端の柱掘形から土師器小皿C (133)、東面北端の柱掘形から土師器小皿C・皿C (134)・伊藤分類第1段階b型式 (135)と第3段階b型式 (136)の鍋が出土した。IV期の建物と思われる。

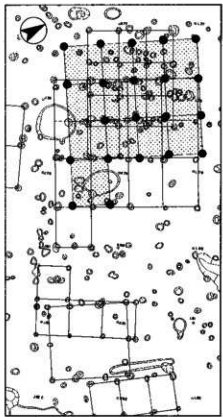
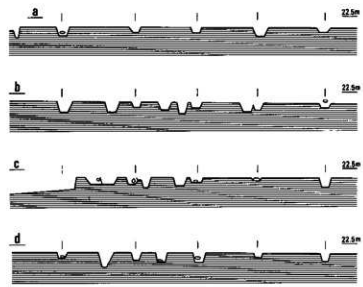
S B143 (第36・65図) S B142のすぐ東に位置する。西面3間 (南から5尺+5.5尺+4.5尺=15尺)、南北面それぞれ1間 (6.5尺)しかわからない。桁行3間の南北棟の建物とすると、棟方向はN20°Eとなる。根石はみられない。西面北端の柱掘形から



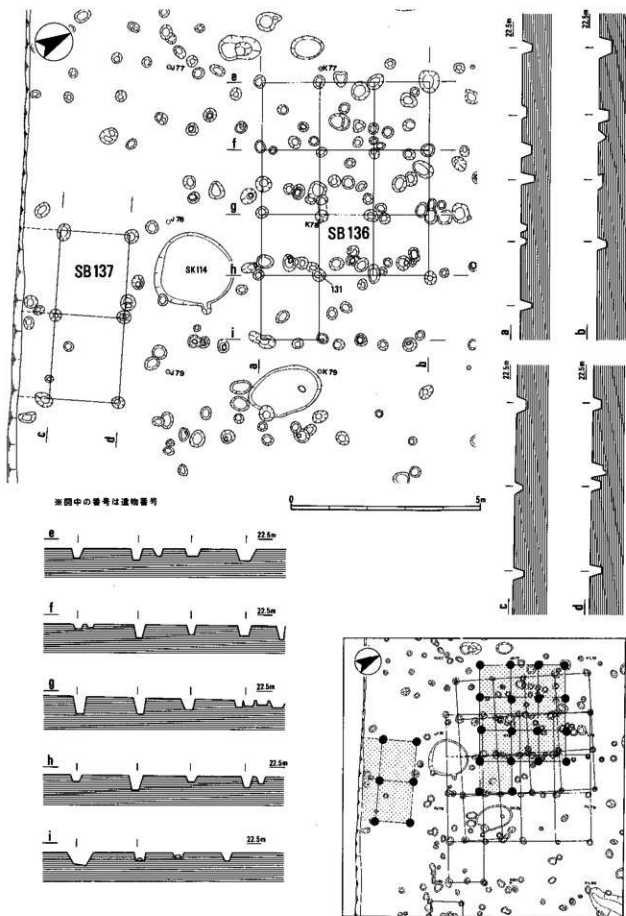
第33図 SB131実測図 (1:100)



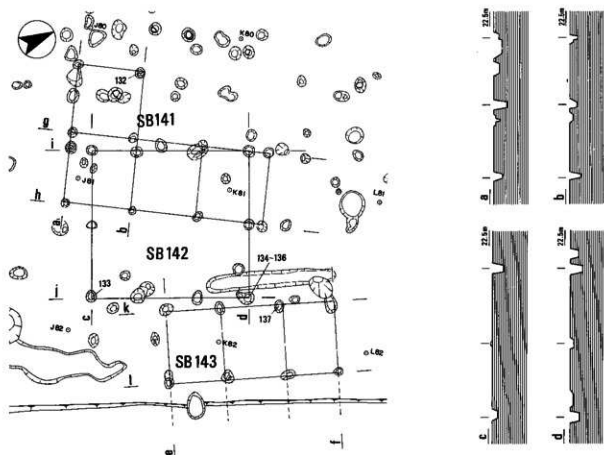
※図中の番号は遺物番号



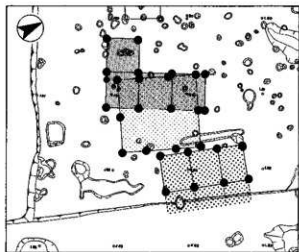
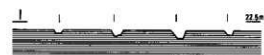
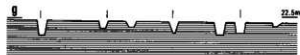
第34図 SB133実測図 (1:100)



第35図 SB 136・137実測図 (1:100)



※図中の番号は遺物番号



第36図 S B141・142・143実測図 (1:100)



第37図 SB145・SA213実測図 (1:100)

器壁がかなり薄い土師器鍋の体部片、西西北から2番目の柱掘形から土師器皿C(137)、他の2か所の柱掘形から土師器皿Cが出土している。Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B145(第37・65図) S B133の北約2mに位置する。北西隅の柱が確認されていないが、桁行2間(東から7尺+6.5尺=13.5尺)×梁行2間(南から6尺+7尺=13尺)の東西棟(棟方向N69°W、面積4.9坪)と思われる。根石は1か所で確認された。建物中央の柱掘形から瀬美産と思われる山茶碗、北面中央の柱掘形から土師器皿B₁(138)が出土している。Ⅰ期の建物と思われる。

S B158(第38・65図) S B131の北西約20mに位置する。桁行5間(東から8尺+7尺×4=36尺)×梁行4間(5.75尺×4=23尺)の身舎の南面に4間(東から8尺+7尺×3=29尺)×1間(5尺)、北面に5間(東から8尺+7尺×4=36尺)×1間(5尺)の庇が付く東西棟(棟方向N70°W、身舎面積23坪、総面積約32坪)である。確認された33か所の柱位置のうち15か所に根石が残っていた。東面北端の柱掘形から土師器皿C(142)、東面北から3番目の柱掘形から土師器小皿B₁(139)、南面東から2番目の柱掘形から土師器小皿B₁(140)・小皿C(141)、西から2列目柱列南から2番目の柱掘形から知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀初頭)と思われる山茶碗(143)が出土している。S B158の南東隅には、S B158に伴うと考えられる土坑SK153(第55・65図)がある。この土坑は1間×3間の範囲に収まる方形のもので、上部では長辺約4.5m、短辺約2.2、底部では長辺約4.25m、短辺約1.6m、検出面からの深さ0.1~0.3mである。土坑の床面は全面にわたって叩き締められたように硬くなっており、土坑内には土師器小皿B₁(159~163)・小皿C(144~158)・皿B₁(179~184)・皿C(164~178)・鍋(185~189)、山皿(190)、山茶碗(191~195)・同安窯系青磁皿(196)・竜泉窯系青磁碗(197)、土釜(198~200)などの遺物が一括廃棄された状態でびっしりと詰まっていた。土師器小皿・皿で口縁部が1/3以上残存しているものは、小皿では、小皿A=1点、小皿B₁=1点、小皿B₂=37点(平均口径7.9cm、器高1.2cm)、小皿C=166点(平均口径7.6

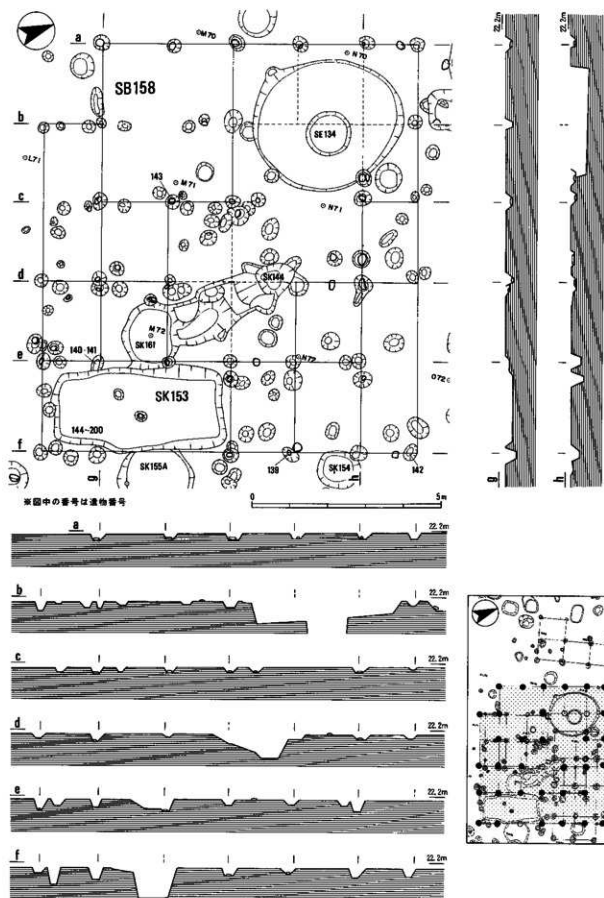
cm、器高1.1cm)の計205点、皿では、皿B₁=18点(平均口径12.7cm、器高2.6cm)、皿C=66点(平均口径11.4cm、器高2.6cm)の計84点である。小皿・皿ともB₁よりCの数が圧倒的に多い。鍋は完形のもののみはみられない。185は伊藤分類の第1段階a型式、186・188・189は第1段階b型式である。山皿・山茶碗(190~195)は知多編年第5型式か第6型式(13世紀前葉~13世紀後葉)のものと思われる。S B158はⅢ期の建物である。

S B159(第39・66図) S B158と重複している。桁行4間(5.75尺×4=23尺)×梁行3間(東から8尺+7尺×2=22尺)の身舎の東面に2間(5.75尺×2=11.5尺)×1間(6尺)の庇が付く南北棟(棟方向N21°E、身舎面積約14.1坪、総面積約16坪)である。身舎部分の規模はS B158の身舎の東から3間分と全く同じ規模である。いいかえれば、S B159の身舎の西側をもう1間延長し、南面と北面に幅5尺の庇を付ければS B158と同じ規模になる。確認された22か所の柱位置のうち4か所に根石が残っていた。西面中央の柱掘形から土師器小皿B₁(201・202)・皿B₁(203・204)、北から2列目柱列東から2番目の柱掘形から土師器小皿B₁・皿C(205)、庇の中央柱掘形から土師器皿B₁・伊藤分類第1段階a型式の鍋(206)、庇北端の柱掘形から瀬美編年で13世紀前葉とされる山茶碗(207)が出土している。Ⅱ期の建物と思われる。

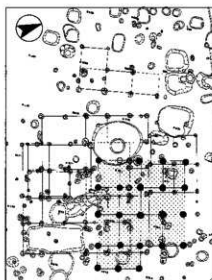
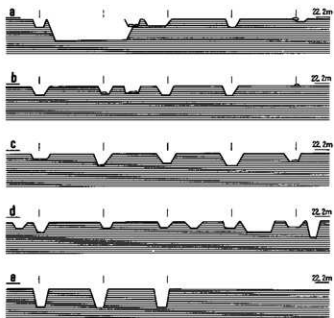
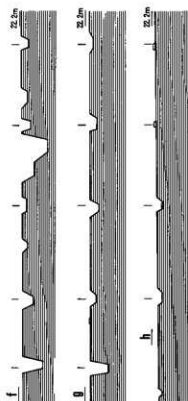
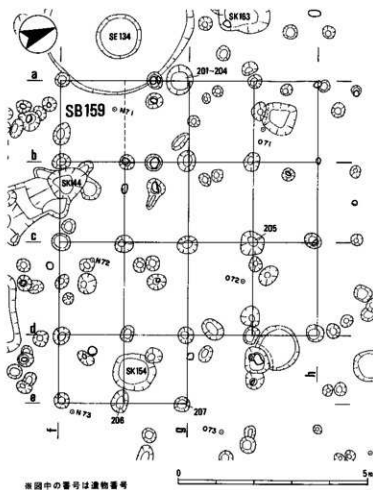
S B160(第40図) S B159と重複している。桁行2間(7.5尺×2=15尺)×梁行2間(6尺×2=12尺)の東西棟(棟方向N70°W、面積5坪)である。確認された8か所の柱位置のうち2か所に根石が残っていた。遺物がなため時期は確定できないが、Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B164(第40・66図) S B158と重複している。桁行3間(5.5尺×3=16.5尺)×梁行2間(7尺×2=14尺)の南北棟(棟方向N21°E、面積約6.4坪)である。根石はみられない。西面北端の柱掘形から瀬美編年で12世紀末葉か13世紀前葉とされる山茶碗(208)が出土している。Ⅰ期の建物と思われる。

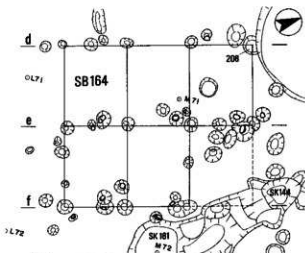
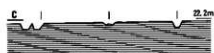
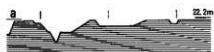
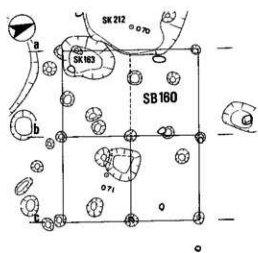
S B179(第40図) S B158の北西約2mに位置する。確認できなかった柱位置が多いため建物規模



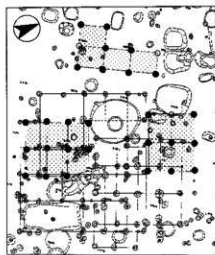
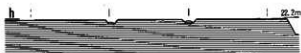
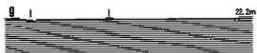
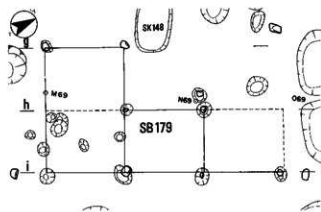
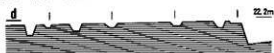
第38図 SB158実測図 (1 : 100)



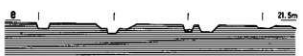
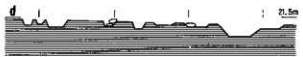
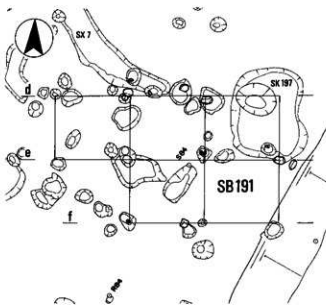
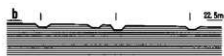
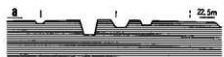
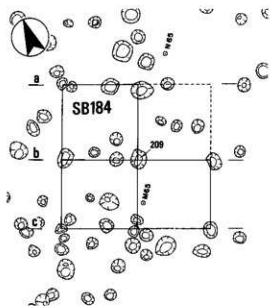
第39図 SB159実測図 (1:100)



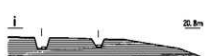
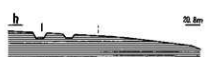
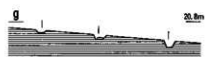
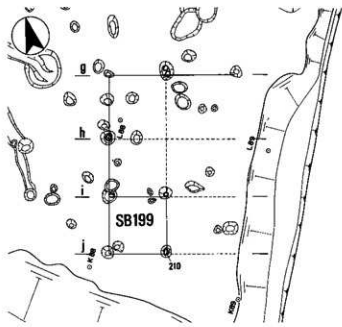
※図中の番号は遺物番号



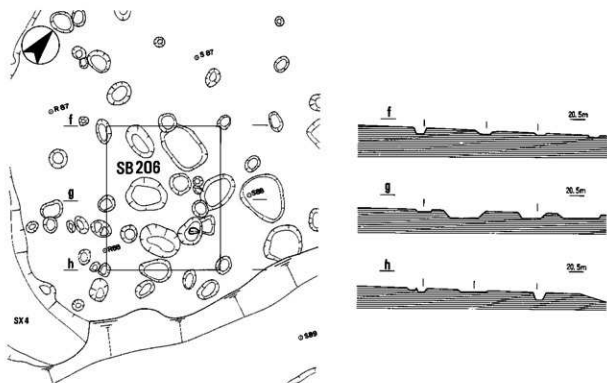
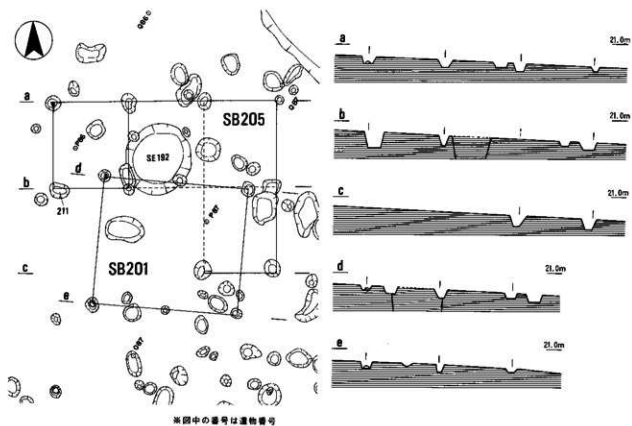
第40図 SB160・164・179実測図(1:100)



※図中の番号は遺物番号



第41図 S B 184・191・199実測図 (1:100)



第42図 SB201・205・206実測図 (1:100)

遺構名	位置	構方向	架 構		面 積		板行	束柱	時 期	備 考
			桁 行 × 梁 行	身舎面積	総面積					
SB 2	T-Y 30~33	南北棟 N 2° W	身舎 4間 (26尺) × 3間 (21尺)	西面庇 3間 (19.5尺) × 1間 (8尺)	約15.2坪	約19.5坪	有	有	Ⅱ期	
SB 9	Q-S 38・39	東西棟 N 84° E	身舎 3間 (20尺) × 2間 (12尺)		約6.7坪		有	有	Ⅱ期	
SB 16	R-S 37・38	東西棟 N 87° E	身舎 2間 (12尺) × 2間 (10.5尺)		3.5坪		有	有	Ⅱ期かⅢ期?	
SB 19	S-T 37・38	東西棟 N 85° E	身舎 2間 (13尺) × 2間 (10.5尺)		約3.8坪		有	有	Ⅱ期かⅢ期	
SB 20	R-T 65~67	南北棟 N 19° E	身舎 4間 (26尺) × 2間 (12.5尺)		約9坪		有	有	Ⅱ期かⅢ期	
SB 21	R-S 68・69	東西棟 N 81° W	身舎 2間 (14尺) × 2間 (12.5尺)		約4.9坪		有	有	Ⅱ期	
SB 23	W-X 67・68	南北棟? N 8° E	身舎 2間 (13尺) 以上 × 2間 (13尺)		約4.7坪以上		無	無	Ⅰ期	調査区外にのびる
SB 24	S-U 69-71	南北棟 N 9° E	身舎 3間 (18尺) × 2間 (15尺)	北面庇 1間 (5尺) × 1間 (7.5尺)	7.5坪	約8.5坪	無	有	Ⅰ期	
SB 25	U-V 69-71	南北棟 N 0° E	身舎 3間 (19尺) × 2間 (14尺)		約7.4坪		無	無	Ⅰ期?	
SB 27	Q-S 71-73	東西棟 N 77° W	身舎 4間 (23尺) × 3間 (19.5尺)		約12.5坪		無	有	Ⅰ期	
SB 34	P-R 72-74	東西棟 N 89° W	身舎 3間 (22尺) × 3間 (19.5尺)	南面庇 2間 (14尺) × 1間 (6.5尺)	約11.9坪	約14.5坪	有	有	Ⅱ期	
SB 51	V-X 45-47	東西棟 N 89° W	身舎 4間 (24尺) × 3間 (18尺)		12 坪		有	有	Ⅱ期	一部調査区外にのびる
SB 54	U-X 43-46	南北棟 N 3° E	身舎 4間 (24尺) × 3間 (21尺)		14 坪		有	有	Ⅱ期	
SB 68	S-U 43-44	南北棟 N 3° E	身舎 3間 (18尺) × 3間 (17尺)		8.5坪		有	無	Ⅱ期?	
SB 74	P-Q 51・52	南北棟 N 15° E	身舎 2間 (13.5か14尺) × 2間 (10尺)		約3.8坪		有	無	Ⅱ期?	
SB 76	P-Q 54・55	東西棟 N 75° W	身舎 3間 (19.5尺) × 3間 (15尺)		約8.1坪		有	有	Ⅱ期	
SB 85	Q-R 54・55	南北棟 N 14° E	身舎 3間 (15尺) × 2間 (13尺)		約5.4坪		有	有	Ⅱ期	3間×3間の建物か
SB 93	P-Q 55・56	東西棟 N 76° W	身舎 3間 (16.5尺) × 3間 (14尺)		約6.4坪		有	有	Ⅱ期かⅢ期	
SB 97	P-R 55-57	南北棟 N 10° E	身舎 4間 (24尺) × 3間 (21尺)		14 坪		有	有	Ⅱ期	
SB 98	P-R 54-57	東西棟 N 83° W	身舎 4間 (27尺) × 3間 (18尺)		約13.5坪		有	有	Ⅱ期	
SB 100	N-O 78-79	東西棟 N 59° W	身舎 3間 (17尺) × 2間 (11.5尺)		約5.4坪		無	無	Ⅰ期?	
SB 112	N-O 77-78	東西棟 N 69° W	身舎 3間 (20尺) × 2間 (10尺)		約5.6坪		有	有	Ⅱ期	
SB 125	M-N 78-80	東西棟 N 69° W	身舎 3間 (20.5尺) × 2間 (14尺)		約8坪		有	有	Ⅱ期	

第4表 掘立柱建物一覽

通称名	位置	権方向	規 模		面 積		傾石	京柱	時 期	備 考
			街行 × 梁行	身舎面積	総面積					
SB126	M・N 79・80	東西棟 N 72° W	身舎	3間 (13.5尺) × 2間 (10尺)	約3.8坪		無	有	Ⅱ期	
SB127	M・N 79・80	東西棟 N 73° W	身舎	2間 (10.5尺) × 2間 (10尺)	約2.9坪		無	有	Ⅱ期かⅣ期	
SB128	M・O 78・81	東西棟 N 66° W	身舎 西面庇	4間 (27尺) × 4間 (24尺) 1間 (7尺) × 3間 (18尺)	18坪	18.5坪	無	有	Ⅰ期	南東隅に土坑SK 129を伴う
SB131	J・L 77・80	南北棟 N 27° E	身舎 東面庇	4間 (25尺) × 3間 (22尺) 1間 (6.5尺) × 1間 (7尺)	約15.3坪	約16.5坪	有	有	Ⅱ期	
SB133	J・L 77・79	南北棟 N 25° E	身舎 東面庇	4間 (23尺) × 3間 (20尺) 1間 (6.5尺) × 1間 (8尺)	約12.3坪	約14.2坪	有	有	Ⅱ期	
SB136	J・K 77・78	東西棟 N 62° W	身舎 東面庇	3間 (16.5尺) × 3間 (15尺) 1間 (5.5尺) × 1間 (5尺)	約6.9坪	約7.6坪	有	有	Ⅱ期	
SB137	I 78・79	東西棟? N 58° E	身舎	2間 (17尺) × 2間?	2.7坪以上		無	有	Ⅱ期	調査区外へのびる
SB141	I・K 80・81	南北棟 N 30° E	身舎 西面庇	3間 (18尺) × 1間 (6尺) 1間 (6尺) × 1間 (5尺)	3坪	4坪	無?	有	Ⅱ期	3間×2間の建物 か
SB142	J・K 80・81	南北棟 N 24° E	身舎	3間 (14尺) × 2間 (13尺)	約5.1坪		有	無	Ⅳ期	
SB143	J・K 81・82	南北棟 N 20° E	身舎	3間 (15尺) × 1間 (6.5尺) 以上	2.7坪以上		無	有	Ⅱ期かⅣ期	
SB145	L・M 77・78	東西棟 N 69° E	身舎	2間 (13.5尺) × 2間 (13尺)	約4.9坪		有	有	Ⅰ期	
SB158	L・N 69・72	東西棟 N 70° W	身舎 南面庇 北面庇	5間 (36尺) × 4間 (23尺) 4間 (29尺) × 1間 (5尺) 5間 (36尺) × 1間 (5尺)	23坪	約32坪	有	有	Ⅱ期	南東隅に土坑SK 153を伴う
SB159	M・O 70・72	南北棟 N 21° E	身舎 東面庇	4間 (23尺) × 3間 (22尺) 2間 (11.5尺) × 1間 (6尺)	約14.1坪	約16坪	有	有	Ⅱ期	
SB160	N・O 70・71	東西棟 N 70° E	身舎	2間 (15尺) × 2間 (12尺)	5坪		有	有	Ⅱ期かⅣ期?	
SB164	L・M 70・71	南北棟 N 21° E	身舎	3間 (16.5尺) × 2間 (14尺)	約6.4坪		無	有	Ⅰ期	
SB179	L・N 68・69	南北棟 N 25° E	身舎	3間 (21尺) × 1間 (5.5尺)	約3.2坪	約4.3坪	有	有?	Ⅱ期かⅣ期?	3間×2間の建物 か
SB184	L・M 64・65	東西棟 N 69° W	身舎	2間 (13尺) × 2間 (12.5尺)	約4.5坪		無	有	Ⅱ期	
SB191	R・S 82・84	東西棟 N 87° E	身舎 西面庇	2間 (13尺) × 2間 (11尺) 1間 (6.5尺) × 1間 (5.5尺)	約4坪	約5坪	有	有	Ⅱ期かⅣ期?	3間×2間の建物 か
SB199	K・L 87・88	南北棟? N 16° E	身舎	3間 (15.5尺) × 2間 (11尺) 以上	4.7坪以上		有	有	Ⅱ期かⅣ期	
SB201	O・P 86・87	東西棟 N 86° W	身舎	2間 (12.5尺) × 1間 (11尺)	約3.8坪		有	無	不明	
SB205	O・P 85・87	東西棟 南面庇	身舎 南面庇	3間 (19.5尺) × 1間 (7.5尺) 1間 (6.5尺) × 1間 (7.5尺)	約4.1坪	約5.4坪	有	有?	Ⅱ期	3間×2間の建物 か
SB206	Q・S 87・88	南北棟 N 41° E	身舎	2間 (12.5尺) × 2間 (10尺)	約3.5坪		無	無	Ⅰ期?	

は不確定である。3間×2間の南北棟となる可能性も考えられるが、ここでは桁行3間(7尺×3=21尺)×梁行1間(5.5尺)の身舎の西面に1間(7尺)×1間(5.5尺)の庇が付く南北棟(棟方向N25°E、身舎面積約3.2坪、総面積約4.3坪)とする。確認された8か所の柱位置のうち7か所に根石が残っていた。出土遺物がなため時期は不確定であるが、Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B184(第41・66図) S B158の北西約18mに位置する。東隣の柱位置が確認できなかったが、桁行2間(6.5尺×2=13尺)×梁行2間(南から6尺+6.5尺=12.5尺)の東西棟(棟方向N69°W、面積約4.5坪)と思われる。根石はみられない。建物中央の柱掘形から土師器小皿C・皿C(209)・鍋が出土している。209は器壁がやや厚く、B₁に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

S B191(第41図) S B128の北東約15mに位置する。3間×2間の東西棟となる可能性も考えられるが、ここでは桁行2間(6.5尺×2=13尺)×梁行2間(5.5尺×2=11尺)の身舎の西面に1間(6.5尺)×1間(5.5尺)の庇が付く東西棟(棟方向N87°E、身舎面積約4坪、総面積約5坪)とする。確認された10か所の柱位置のうち5か所に根石が残っていた。出土遺物がなため時期は確定できないが、Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B199(第41・66図) S B128の南東約25mに位置する。西面3間(南から5尺×2+5.5尺=15.5尺)、南面1間(5尺)、北面2間(東から6尺+5尺=11尺)しかわからない。桁行3間の南北棟の建物とすると、棟方向はN16°Eとなる。確認された8か所の柱位置のうち5か所に根石が残っていた。南面西から2番目の柱掘形から土師器皿Cが出土している。Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B201(第42図) S B128の南東約27mに位置する。桁行2間(6.25尺×2=12.5尺)×1間(11尺)の東西棟(棟方向N86°W、面積約3.8坪)である。束柱は検出されなかった。根石は2か所で確認された。遺物が全く出土していないため建物の時期は不明である。

S B205(第42・66図) S B201と重複する。桁行3間(6.5尺×3=19.5尺)×梁行1間(7.5尺)

の身舎の南面に1間(6.5尺)×1間(7.5尺)の庇が付く東西棟(棟方向N89°W、身舎面積約4.1坪、総面積約5.4坪)である。根石は1か所で確認された。南面西端の柱掘形から土師器小皿C・皿C(211)、南面西から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿C、北面西から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿B₁・皿C・鍋、深美蓋と思われる山茶碗が出土している。211は口径が12cmを越えておりB₁に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

S B206(第42図) S B205の北東約5mに位置する。桁行2間(南から6尺+6.5尺=12.5尺)×梁行2間(南面は東から5.5尺+4.5尺=10尺、北面は東から4.5尺+5.5尺=10尺)の南北棟(棟方向N41°W、面積約3.5坪)である。出土遺物がなため時期は不確定であるが、束柱がなく根石のみみられないことから、Ⅰ期の可能性が考えられる。

2. 欄

3ないし4か所のピットが一列に並ぶかのように思える場所はいくつかあるが、欄と断定したのは1条のみである。

S A213(第37図) S B125・S B128などが重複してみられる範囲とS B131・S B133などが重複してみられる範囲とのほぼ中間に、西北西から東南東方向へ約15mにわたってピットが密集して並んでいる。特定のピットを結んで欄を示すのは困難であるが、2つの範囲(屋敷地)の境を明示するための欄が数度作り替えをされながら存在していたと思われる。遺物はいくつかのピットから土師器皿B₁の破片が少量出土しているのみで、欄の存続期間は不明である。Ⅰ期以降の欄と思われる。

3. 井戸

井戸としたものは12基ある。石組みや井戸枠が確認されたものではなく、いずれも素掘りのものである。また、底までの深さが浅いものについては、中世墓である可能性も考えられる。

S E3(第43・66図) 調査区の東端近くに位置する。長辺約1.9m×短辺約1.8mの方形の平面形をもつ素掘りの井戸で、検出面から約2.3mの深さで湧水し、完掘はできなかった。埋土は黒ボクと地山

崩壊土とが混じり合った土で、その比率の違いで層を細かく分けることができる。また、底近くでは礫層も確認できた。出土遺物には土師器小皿B₁・皿B₁ (212・213)・皿B₂ (214)・皿C (215)・伊藤分類第1段階の鍋、渥美編年で12世紀中葉とされる小椀 (216) と12世紀末葉とされる山茶碗 (217・218) がある。215はあまりにも細片であるため混入と思われる。切り合い関係から中世墓S X 5 (Ⅲ期) より古いことがわかる。Ⅰ期の井戸であろう。

S E 56 (第43・66図) S B 9の南東約2mに位置する。素掘りの井戸としたが、検出面からの深さが約1.5mと浅く、湧水もみられなかったことから中世墓と考えた方がよいかもしれない。平面形は円形で、上部では径約1.1m、底部では径約0.9mである。出土遺物には土師器小皿B₁ (219~224)・皿B₁ (225~232)・伊藤分類第1段階b型式の鍋 (236~243)、渥美編年で12世紀末葉~13世紀前葉とされる山皿と山茶碗 (235)、知多編年第4型式あるいは第5型式 (12世紀末葉~13世紀前葉) の山茶碗 (233・234) がある。Ⅰ期の遺構と思われる。

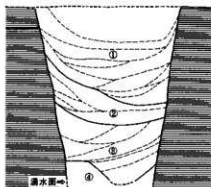
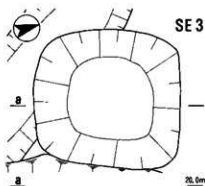
S E 57 (第43・67図) S E 56のすぐ南東に位置する。素掘りの井戸としたが、検出面からの深さが約1.5mと浅く、湧水もみられなかったことからS E 56と同じく中世墓と考えた方がよいかもしれない。平面形は円形で、上部では径約1.4m、底部では径約1.3mである。出土遺物には土師器小皿B₁ (244・245)・皿B₁ (246~248)・皿C (249~251)・伊藤分類第1段階 (252~254) と第2段階a型式かb型式 (255) の鍋、渥美編年で13世紀前葉とされる山皿・山茶碗 (256・257) がある。Ⅱ期の遺構と思われる。

S E 79 (第43・67図) S B 68の南南東約20mに位置する平面形が円形の素掘りの井戸である。上部の径は約1.2mであるが、深さ1.8m付近から径約0.9mに狭まる。検出面からの深さ約3.1mで湧水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿C・皿C・伊藤分類第4段階a型式かb型式の鍋 (259)、知多編年第4型式 (12世紀末葉~13世紀初頭) と思われる山茶碗 (258)、渥美産と思われる片口鉢、知多産と思われる甕、青磁皿がある。259を除き小片が多い。Ⅳ期の井戸と思われる。

S E 90 (第43・67図) S B 98のすぐ東に位置する。平面形が円形の素掘りの井戸で、上部の径は約1.1mである。検出面からの深さ約2.7mで湧水し、深さ約2.8mで礫層が確認できた。出土遺物には土師器小皿C (260~263)・皿C (264~269)・鍋 (270~276)・羽釜、知多編年第6型式 (13世紀後葉) の山皿・山茶碗 (277)・片口鉢 (279)・甕 (282)、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗 (278)、瀬戸編年の古瀬戸前Ⅱ期かⅢ期 (13世紀中葉) の折縁深皿 (281)、瓦質火鉢 (280)、青磁碗 (283)、鉄釘がある。土師器鍋270は伊藤分類第1段階a型式、271・272・274はb型式、273は第2段階c型式のものである。Ⅲ期の井戸と思われる。

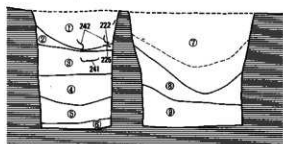
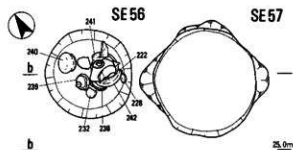
S E 134 (第44・67・68図) S B 158と重複する位置にある平面形が円形の素掘りの井戸である。検出面付近は径が約3.8mの大きな土坑状となっているが、深さ0.6m付近から下は径約1.2mである。深さ約3mで湧水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿C (284~287)・台付小皿 (288)・皿B₁ (292)・皿C (289~291)・盤 (293)・鍋 (294~298)・火鉢 (299)、知多産と渥美産の13世紀代の山茶碗、知多編年第8段階 (14世紀後半) の片口鉢 (300)、知多産と渥美産の甕、信楽産と思われる甕 (301)、瀬戸産の折縁深皿、青磁碗、石鍋 (302)、砥石 (303) がある。土師器鍋294・295は伊藤分類の第1段階b型式、296は第3段階b型式のものである。Ⅳ期の井戸と思われる。

S E 157 (第45・68図) S E 158の東南東約10mに位置する。素掘りの井戸としたが、検出面からの深さが約1.6mと浅く、湧水もみられなかったことから中世墓と考えた方がよいかもしれない。平面形は方形で、上部では長辺約1.3m、短辺約1.1m、底部では長辺約0.8m、短辺約0.7mである。出土遺物には土師器小皿C (304~309)・皿B₁ (310)・皿C (311~315)・三足付盤 (320)・伊藤分類第3段階b型式の鍋 (316~319)・瓦質火鉢 (321・322)、知多産の山茶碗・片口鉢、知多編年第6型式 (13世紀後葉) の甕 (324)、瀬戸編年の古瀬戸前Ⅱ期かⅢ期 (13世紀中葉) の四耳壺 (323)・竜泉窯系青磁碗 (325)・石鍋 (326)、砥石、鉄釘 (327)、縄文土器 (2) がある。325は13世紀後葉から14世紀初頭にか



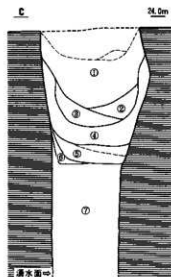
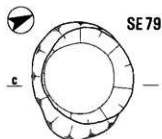
SE 3 掘土

- ① 黒ボクと地山崩壊土の混成土
- ② ①に似るがより砂質
- ③ ①に似るが地山崩壊土の量が多い
- ④ ①に似るが地山崩壊土の量が少い
- ⑤ ①に似るが色調がやや明るい



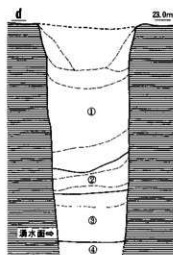
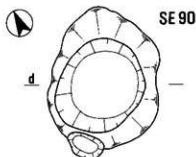
SE 56・57 掘土

- ① 黒ボク
- ② 黒ボクと地山崩壊土の混成土
- ③ ①に似るが粗砂混じる
- ④ ②に似るが粗砂混じる
- ⑤ ②に似るが地山崩壊土の量が多い
- ⑥ ②に似るが黒ボクの量が多い
- ⑦ ①に似るが色調がやや明るい
- ⑧ ②に似るが色調がより明るい
- ⑨ ①に似るが泥質



SE 79 掘土

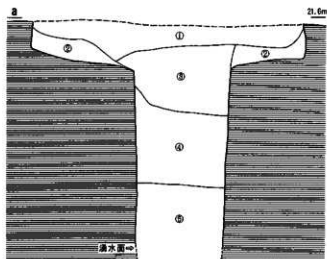
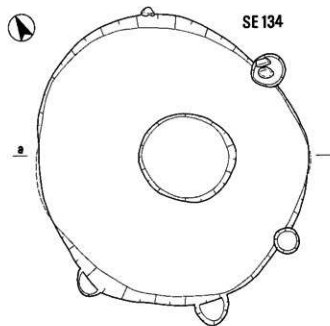
- ① 黒ボク
- ② 黒ボクと地山崩壊土の混成土
- ③ ①に似るが粗砂混じる
- ④ 地山崩壊土
- ⑤ 黒ボクに地山崩壊土少し混じる
- ⑥ ①に似るが粗砂混じる
- ⑦ ⑤に似るが粗砂混じる



SE 90 掘土

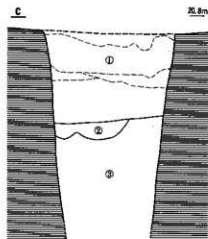
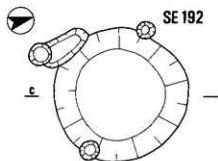
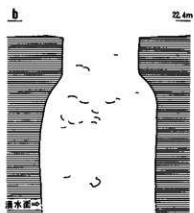
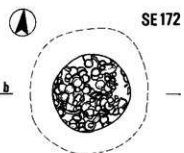
- ① 黒ボク
- ② 黒ボクと地山崩壊土の混成土
- ③ ①に似るが色調がより黒い
- ④ ②に多く混じる

第43図 SE 3・56・57・79・90実測図 (1:50)



SE 134 様土

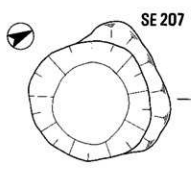
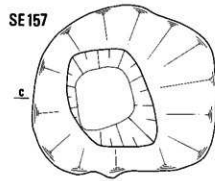
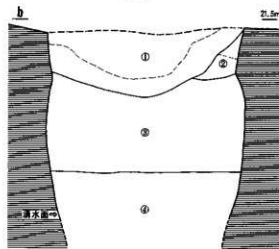
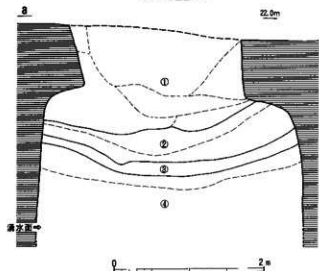
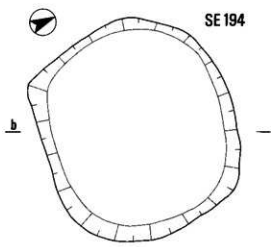
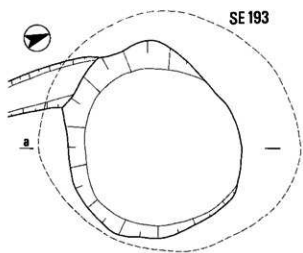
- ① 黒ボクに準大の礫面する
- ② 黒ボクと地山礫壤土の混成土に準大の礫面する
- ③ ①に似るが礫がより多い
- ④ 地山礫壤土
- ⑤ 黒ボクと地山礫壤土の混成土



SE 192 様土

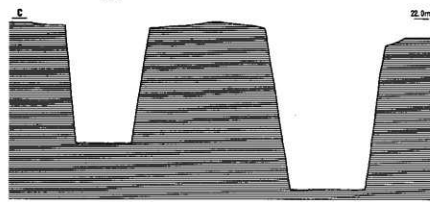
- ① 黒ボクと地山礫壤土の混成土
- ② ①に似るか粘質
- ③ ①に似るかより砂質

第44図 SE 134・172・192実測図 (1:50)



- SE 193 埋土
- ① 黒ボクに準大の礫層がある
 - ② ①に似るが粗砂が多い
 - ③ 地山層埋土
 - ④ ②に似るが礫少ない

- SE 194 埋土
- ① 黒ボクに人堀大の礫多く混じる
 - ② 黒ボクに準大の礫多く混じる
 - ③ 黒ボクと地山層埋土の混成土に人堀大の礫混じる
 - ④ 粗砂に準大の礫混じる



第45図 SE 157・193・194・207実測図 (1:50)

けてのものである。陶磁器類はⅡ期のものが多いが、完形のを多く出土した土師器鍋はⅣ期のものと考えられる。Ⅳ期の井戸であろう。

SE172 (第44・69・70図) SB24の北西約5mに位置する平面形が円形の素掘りの井戸である。上部の径は約1mであるが、深さ0.5m付近からは径約1.5mとなる。検出面付近から深さ1.3m付近まで土器がびっしりと埋まっていた。深さ約2.2mで湧水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿B₁・小皿B₂(328~341)・皿B₁・皿B₂(342)~(356)、伊藤分類第1段階a型式(357~360)、第1段階b型式(361~365)、第2段階a型式(366)の土師器鍋、知多編年第5型式か第6型式(13世紀前葉~後葉)の山皿(367・368)・山茶碗(369~372・374~376)・片口鉢(379)、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗(373)、猿投産の四耳壺(377)

と三筋壺(378)、竜泉窯系青磁碗(380)、口縁端部が露胎の景德鎮産白磁碗、土製支脚(381)などがある。土師器小皿・皿で口縁部が1/3以上残存しているものは、小皿では、小皿B₁=5点(平均口径8.3cm、器高1.3cm)、小皿B₂=142点(平均口径7.7cm、器高1.2cm)の計147点、皿では、皿B₁=6点(平均口径13.6cm、器高2.9cm)、皿B₂=139点(平均口径12.9cm、器高2.6cm)の計145点である。Ⅱ期の井戸である。

SE192 (第44・70図) SE201・205と重複する。平面形が円形の素掘りの井戸で、上部の径は約1.8mである。検出面からの深さ約2.6mまで掘り下げた時点で危険になったため完掘はしなかった。出土遺物は景德鎮産の白磁碗(382)1点のみであるため、13世紀代の井戸と思われるが断定できない。

SE193 (第45・70~72図) SB128の北東約2

遺構名	位置	平面形	規模	出土遺物	時期	備考
SE 3	T・U 87・88	方形	上部=長辺1.9m×短辺1.8m	土師器小皿B ₁ ・皿B ₁ ・皿B ₂ ・皿C・鍋、陶器小碗・山茶碗	Ⅰ期	素掘り。未完掘。
SE 56	R 39・40	円形	上部=径1.1m、深さ=1.5m 底部=径0.9m	土師器小皿B ₁ ・皿B ₁ ・鍋、陶器山皿、山茶碗	Ⅰ期	素掘り。湧水せず。中世基か。
SE 57	R 40	円形	上部=径1.4m、深さ=1.5m 底部=径1.3m	土師器小皿B ₁ ・皿B ₁ ・皿C・鍋、陶器山皿・山茶碗	Ⅱ期	素掘り。湧水せず。中世基か。
SE 79	Q 48	円形	上部=径1.2m 下部=径0.9m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗・片口鉢・壺、青磁皿	Ⅳ期	素掘り。未完掘。
SE 90	R 57	円形	上部=径1.1m	土師器小皿C・皿C・鍋、羽釜、陶器山皿・山茶碗・片口鉢・壺、折縁深皿、瓦質火鉢、青磁碗、鉄釘	Ⅱ期	素掘り。未完掘。
SE134	M・N 70	円形	上部=径1.2m	土師器小皿C・台付小皿・皿B ₁ ・皿C・鍋・壺・火鉢、陶器山茶碗・片口鉢・壺、折縁深皿、青磁碗、石鍋、磁石、鉄釘	Ⅳ期	素掘り。未完掘。
SE157	N 75	方形	上部=長辺1.3m×短辺1m 底部=長辺0.8m×0.7m 深さ=1.6m	土師器小皿C・皿B ₁ ・皿C・鍋・三足付壺、瓦質火鉢、陶器山茶碗・片口鉢・四耳壺・壺、青磁碗、石鍋、磁石、鉄釘	Ⅳ期	素掘り。湧水せず。中世基か。
SE172	T 68	円形	上部=径1m 下部=径1.5m	土師器小皿B ₁ ・皿B ₁ ・鍋、陶器山皿・山茶碗・片口鉢・四耳壺・三筋壺、青磁碗、白磁碗、土製支脚	Ⅱ期	素掘り。未完掘。
SE192	P 88	円形	上部=径1.8m	白磁碗	不明	素掘り。未完掘。
SE193	O・P 81	円形	上部=径2.5m 下部=径3.3m	土師器小皿A・小皿B ₁ ・小皿C・台付小皿・皿B ₁ ・皿C・羽釜・鍋、陶器山皿・片口鉢・山茶碗・片口鉢・三筋文系壺・壺、青磁碗・皿、白磁碗、刀子、鉄釘、須形器杯身・軒蓋、高杯・壺	Ⅱ期	素掘り。未完掘。
SE194	O・P 83・84	楕円形	上部=長軸3m×短軸2.5m	土師器小皿B ₁ ・皿B ₁ ・皿C・鍋、陶器山皿・山茶碗・片口鉢・壺、青磁碗、鉄釘	Ⅱ期	素掘り。未完掘。
SE207	O 75	円形	上部=径1.6m、深さ=2m 底部=径1m	土師器小皿C・皿C・鍋、山茶碗、青磁碗、鉄釘	Ⅱ期か Ⅳ期	素掘り。湧水せず。中世基か。

第5表 井戸一覧

mに位置する平面形が円形の素掘りの井戸である。上部の径は約2.5mであるが、深さ0.8m付近からは径約3.3mと大きく広がる。検出面からの深さ約2.5mで湧水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿A(383)・小皿B₁・小皿B₂(384-395)・小皿C(396-404)・台付小皿(405)・皿B₁(407-417)・皿C(418-427)・羽釜(428)・鍋(429-448)、渥美編年で12世紀中葉とされる三筋文茶壺(459)・12世紀後葉とされる甕(460)・12世紀末葉とされる片口小皿(449)・13世紀前葉とされる山皿(450-451)・山茶碗(453-456)、知多編年第4型式あるいは第5型式(12世紀末葉-13世紀前葉)の山茶碗(452-457-458)、猿投産の山茶碗(454-455)、渥美産と知多産の片口鉢、竜泉窯系の青磁皿(461-462)・碗(465-467)、阿安窯系青磁皿(463)、白磁碗(464)、刀子、鉄釘、古墳時代の須恵器杯蓋・杯身・高杯・甕などがある。土師器小皿・皿で口縁部が1/3以上残存しているものは、小皿では、小皿A=2点、小皿B₁=1点、小皿B₂=53点(平均口径7.5cm、器高1.2cm)小皿C=23点(平均口径7.5cm、器高1.1cm)の計79点、皿では皿B₂=34点(平均口径12.6cm、器高2.6cm)、皿C=19点(平均口径12.0cm、器高2.5cm)の計53点である。SE172より若干新しい要素がみられるが、Ⅱ期の井戸と思われる。

SE194(第45・73図) SB128の東約10mに位置する素掘りの井戸で、平面形は長軸約3m、短軸約2.5mの楕円形である。埋土には人頭大から拳大の礫が多数混じっていた。検出面付近からの深さ約2.5mで湧水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿B₁(468)・皿B₁(469)・皿C・伊藤分類第1段階b型式(470-472)と第2段階a型式の鍋、渥美編年で12世紀末葉あるいは13世紀前葉とされる山皿・山茶碗(473-475)・片口鉢(476)、知多編年第4型式(12世紀末葉-13世紀初頭)の片口鉢、渥美産と知多産の壺、竜泉窯系青磁碗、鉄釘がある。Ⅱ期の井戸と思われる。

SE207(第45・73図) SE157の隣に位置する。素掘りの井戸としたが、検出面からの深さが約2mと比較的浅く、湧水もみられなかったことから中世墓と考えた方がよいかもしれない。平面形は円形で、

上部では径約1.6m、底部では径約1mである。出土遺物には土師器小皿C(478)・皿C(479-481)、伊藤分類第1段階b型式(482)・第2段階b型式(483)・第2段階c型式(484)・第3段階a型式(485)の土師器鍋、知多編年第6型式(13世紀後葉)の山茶碗(486-487)、竜泉窯系青磁碗(488)、鉄釘などがある。Ⅲ期かⅣ期の遺構と思われる。

4. 中世墓

中世墓としたものは40基であるが、中世墓の可能性が考えられるものが井戸としたものの中に4基、土坑としたものの中に5基ある。いずれにしても石組み、盛土等の外部施設は全くみられず、明確な藏骨器や人骨も確認されていない。また、土壌分析等の化学分析を実施する余裕がなかったため、人が葬られていたという確証もない。それでもなおかつ墓と考えた理由はいくつかあるが、最も端的な理由は、単なる土坑にしては遺構の形態が方形あるいは円形に整っているということである。中世墓と考えられる遺構については、その形態から次の5つの型に分けた。A型=細長い長方形の平面形をもつ墓塚で、遺体を横に寝かせて葬ったと考えられる。B型=方形の平面形をもち、本来の深さか1m近く、あるいはそれ以上あったと想定できる墓塚である。遺体を座らせて葬ったと考えられる。C型=円形の平面形をもつ深い墓塚で、B型と同じく遺体を座らせて葬ったと考えられる。A型-C型は確証はないが、棺桶を使用した土葬墓の可能性が考えられる。D型=方形あるいは円形に近い平面形をもつ浅い墓塚である。さらにいくつかの型に分けられるが、煩雑になること、他の土坑との区別が困難なものがあることなどから一つにまとめた。屈葬、あるいは火葬が想定できる。E型=ピット状の小規模な墓塚の中に完形の土師器鍋が納まっているもので、火葬墓と考えられる。

SX5(第46・73図) 調査区の東端近くに位置し、SE3と重複する。墓塚は平面形が楕円形のもので、上部では長軸約0.95m、短軸約0.8m、底部では長軸約0.85m、短軸0.7m、検出面からの深さ約0.3mである。D型に近いがE型とする。墓塚の中には完形の土師器鍋(492)が納まっており、墓

墳埋土や鍋の中には炭が認められた。出土遺物には伊藤分類第1段階b型式の土師器鍋(492)の他、土師器小皿C(489)・皿C(490・491)、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗(493)がある。490・491は口径が12cm前後より皿B₁に近い。切り合い関係からSE3(I期)より新しいことがわかる。Ⅲ期の墓と思われる。

SX28(第46・73図) SB24のすぐ西に位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約2m、短辺約1.6m、底部では長辺約1.65m、短辺約1.2m、検出面からの深さ約0.3mである。墓境内の北よりはは拳大から人頭大の石が積み重ねられており、石の間から知多編年第6型式(13世紀後葉)の甕(494)の破片が出土した。甕以外の出土遺物には土師器小皿C・皿C・伊藤分類第2段階c型式の鍋、竜泉窯系青磁碗、古墳時代の須恵器片などがある。Ⅲ期の墓と思われる。

SX38(第46・73図) SX32(5号墳)の墳域のはは中央に位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.3m、短辺約1.2m、底部では長辺約0.95m、短辺約0.85m、検出面からの深さ約0.4mである。墓境内には拳大の石がびっしりと詰められており、石の間から知多編年第4型式(12世紀末葉～13世紀初頭)と思われる甕(495)、渥美産と思われる須恵質壺(496)、渥美編年で12世紀後葉か末葉とされる山茶碗(497)・片口鉢、瓦質火鉢、竜泉窯系青磁碗、白磁四耳壺(498)、土製支脚、平瓦、古墳時代の須恵器杯蓋(13)・杯身(14)・土師器ミニチュア高杯(19)が出土した。I期の墓と思われる。

SX40(第46・74図) SB2の北西約5mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.3m、短辺約1.1m、底部では長辺約1.1m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.7mである。墓境内から土師器小皿B₁(500)・小皿C(499)・皿B₁(503)・皿C(501・502)・伊藤分類第1段階a型式の鍋(504)、知多編年第4型式か第5型式(12世紀末葉～13世紀前葉)の山皿(505)、古墳時代の須恵器壺が出土している。Ⅱ期の墓と思われる。

SX41(第46・74図) 調査区の西端近くに位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では

長辺約1.2m、短辺約0.75m、底部では長辺約1m、短辺約0.55m、検出面からの深さ約0.1mである。墓としたが根拠は薄い。出土遺物には土師器小皿C(506～508)・皿C(509～511)・伊藤分類第2段階c型式の鍋(513)と第5段階の焙塔(512)がある。Ⅳ期末以降の遺構と思われる。

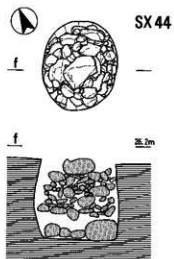
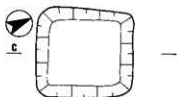
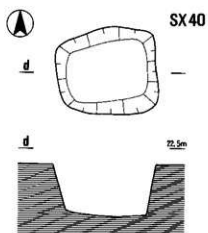
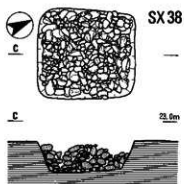
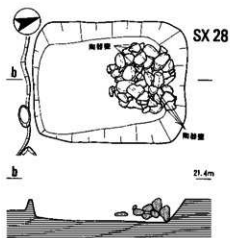
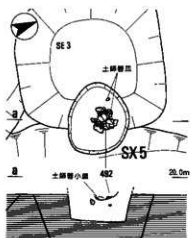
SX44(第46・74図) SX40の西北西約15mに位置するC型のもので、長軸約1.15m、短軸約1mの楕円形の平面形をもつ。検出面からの深さ約1mである。墓境内には拳大から人頭大の石が詰められていた。出土遺物には土師器小皿C・小皿B₂(514)・皿C、知多編年第5型式か第6型式(13世紀前葉～後葉)の山茶碗(515)、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗、知多産と渥美産の甕、瀬戸産の折縁深皿、竜泉窯系青磁碗がある。Ⅲ期の墓と思われる。

SX46(第47・74図) SB51と重複する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.4m、短辺約1m、底部では長辺約1.1m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.9mである。墓境内から土師器小皿A(516)・小皿B₂・小皿C(517～521)・皿B₁・皿C(522～525)・伊藤分類第1段階b型式の鍋(526・527)、渥美編年で13世紀前葉とされる山皿(528)・山茶碗が出土している。522～523は皿B₁に近い。Ⅲ期の墓と思われる。

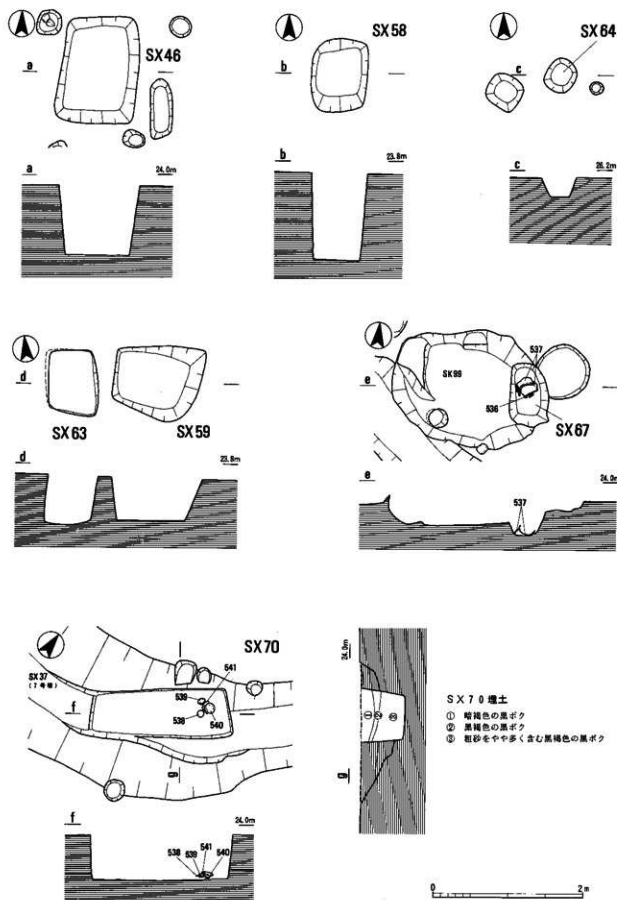
SX58(第47図) SX46の東約9mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約0.95m、短辺約0.75m、底部では一辺約0.6m、検出面からの深さ約1.2mである。出土遺物はなく時期は不明である。

SX59(第47・74図) SX58のすぐ南に位置する。平面形は方形で、深さは比較的浅いがB型としておく。上部では長辺約1.15m、短辺約0.9m、底部では長辺約0.9m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約0.6mである。墓境内から土師器小皿C・皿B₁・皿C(529)・伊藤分類第1段階b型式と第2段階c型式の鍋(530)が出土している。529は口径が12cm前後で皿B₂に近い。Ⅲ期の墓と思われる。

SX63(第47・74図) SX59のすぐ西に位置する。平面形は方形で、比較的小規模で深さも浅いがB型としておく。上部では長辺約0.85m、短辺約0.7m、底部では長辺約0.8m、短辺約0.65m、検出面



第46图 SX 5 · 28 · 38 · 40 · 41 · 44实测图 (1 : 50)



第47図 SX46・58・59・63・64・67・70実測図 (1:50)

からの深さ約0.65mである。墓壇内から土師器小皿B₂・小皿C・皿B₁(532)・皿C(531)・伊藤分類第1段階b型式の鍋が出土している。Ⅱ期の墓と思われる。

S X64 (第47・74図) S X44の西約6mに位置する。E型のもので、径約0.45m、検出面からの深さ約0.25mのピット状の墓壇の中に完形の土師器鍋(534)が納まっていた。この鍋は伊藤分類の第1段階b型式に相当する。他に、土師器小皿C(533)・皿C、知多編年第5型式か第6型式(13世紀前葉～後葉)の片口鉢、竜泉窯系青磁碗が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X67 (第47・74図) S X46の南約17mに位置する。S K99によって上部がかなり削り取られている。平面形は方形で、現存の上部では長辺約0.8m、短辺約0.5m、底部では長辺約0.6m、短辺約0.3m、検出面からの深さ約0.45mである。B型に近いが小規模であることからE型としておく。墓壇の中には完形の土師器皿B₂(535・536)とほぼ完形の土師器鍋(537)が納まっていた。鍋は伊藤分類の第1段階a型式に相当するものである。他に古墳時代の須恵器片も出土している。Ⅱ期の墓と思われる。

S X70 (第47・75図) S X46の南約4m、S X37(7号墳)の周溝の内に位置する。長方形の平面形をもつA型のもので、上部では長辺約1.8m、短辺約0.65m、底部では長辺約1.75m、短辺約0.55m、検出面からの深さ約0.6mである。墓壇内の東端には土師器皿B₁(540)を蓋とした渥美編年で12世紀中葉とされる山茶碗(541)が据えられており、その前には土師器小皿B₁が2枚(538・539)が並べられていた。これらの土器は明らかに供え物を入れた容器として遺体と共に埋納されたものである。Ⅰ期の墓である。

S X77 (第48・75図) S X67の西南西約11mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約2.1m、短辺約1.3m、底部では長辺約1.65m、短辺約0.9m、検出面からの深さ約0.85mである。墓壇内から土師器小皿B₂・皿B₁(542)・鍋が出土している。Ⅱ期の墓と思われる。

S X78 (第48・75図) S X77のすぐ東に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長

辺約1.65m、短辺約0.9m、底部では長辺約1.2m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.8mである。墓壇内から土師器小皿B₁(543)・皿B₁(544)・鍋、知多産と渥美産の山茶碗、古墳時代の須恵器杯蓋が出土している。Ⅰ期の墓と思われる。

S X88 (第48図) S X28の南西約17mに位置する。長方形の平面形をもつA型のものである。南端付近がS X224によって壊されているため墓壇の全長は不明である。上部では長辺1.8m以上、短辺約0.75m、底部では長辺1.6m以上、短辺約0.6m、検出面からの深さ約0.3mである。出土遺物はないが、切り合い関係からS D218(Ⅰ期)より新しく、S X224(Ⅲ期)より古いことがわかる。Ⅱ期の墓としておく。

S X92 (第48・75図) S B85のすぐ北に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.5m、短辺約1m、底部では長辺約1.3m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.75mである。墓壇北西隅の底近くから完形の竜泉窯系青磁碗(545)が1点出土した。Ⅱ期かⅢ期の墓と思われる。

S X94 (第48図) S X70の南西約10mに位置する。長方形の平面形をもつA型のものである。上部では長辺約2.6m、短辺約0.9m、底部では長辺約2.5m、短辺約0.75m、検出面からの深さ約0.3mである。出土遺物はなく時期は不明である。

S X96 (第49・75図) S X92の南約5mに位置する。円形の平面形をもつE型のもので、径約0.5m、検出面からの深さ約0.2mのピット状の墓壇の中に体部が完形の土師器鍋(546)が納まっていた。この鍋は口頸部が欠けているが、伊藤分類の第1段階か第2段階のものと思われる。他に遺物は出土していない。Ⅱ期かⅢ期の墓と思われる。

S X106 (第49・75図) S X88の南西約18mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.3m、短辺約0.9m、底部は上部よりやや広がり長辺約1.3m、短辺約1.0m、検出面からの深さ約1.1mである。墓壇内の中央付近の埋土がかなりやわらかく、棺桶の使用が想定できるような状況であった。出土遺物には土師器小皿B₁(548)・小皿C(547)・皿C(549・550)・伊藤分類第1段階b型式の鍋と第2段階c型式の鍋(551)、知多産

の山茶碗と片口鉢、竜泉窯系青磁碗がある。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 120 (第49・75図) S X 106の南東約30mに位置する。長方形の平面形をもつA型のものである。上部では長辺約2.8m、短辺約1.2m、底部では長辺約2.5m、短辺約0.75m、検出面からの深さ約0.4mである。墓壇内から土師器小皿C (552)・皿C (553～555)・杯 (556)・ミニチュア羽釜 (557)・器台柱状部・鍋体部、知多編年第5型式 (13世紀前葉)の山茶碗、竜泉窯系青磁碗が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 138 (第49・75図) S X 106の北約2mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では一辺約1.1m、底部では一辺約1m、検出面からの深さ約0.8mである。墓壇内は後世に掘られた土坑によりかなり下まで攪乱されている。出土遺物には土師器小皿C・皿C (559・560)・鍋がある。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 139 (第49図) S X 138の南南西約4mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では一辺約1.3m、底部では一辺約1.15m、検出面からの深さ約0.75mである。出土遺物はなく時期は不明である。

S X 140 (第50・75図) S X 139の南東約1mに位置する。長方形の平面形をもつがA型ほど細長くないことからB型としておく。上部では長辺約1.95m、短辺約1.1m、底部では長辺約1.75m、短辺約0.9mである。S K 103と重複しているため、壁の高さは0.25mしか検出されなかったが、S K 103の検出面から測ると深さは約1mとなる。出土遺物には土師器小皿C・皿C (561・562)・伊藤分類第1段階b型式の鍋がある。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 149 (第50・75・76図) S X 106の東北東約8mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.2m、短辺約0.95m、底部では長辺約0.85m、短辺約0.65m、検出面からの深さ約0.85mである。墓壇内から土師器小皿B₂ (566)・小皿C (565)・皿B₂ (577)・皿C (568～572)・鍋・壺・三足付盤、知多編年第4段階 (12世紀末葉～13世紀初頭)の山茶碗、古墳時代の須恵器甕体部片が出土している。568～572はB₂に近い。Ⅲ期の墓と思わ

れる。

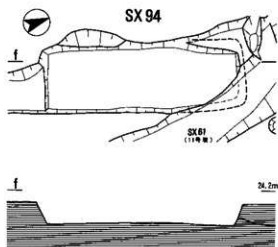
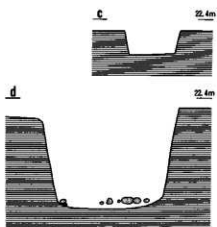
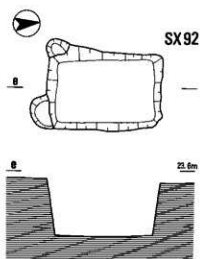
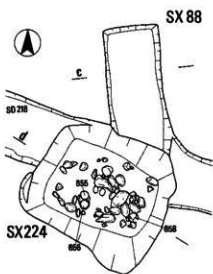
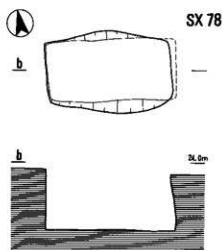
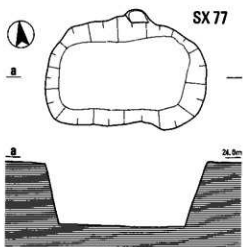
S X 151 (第50・76図) S X 149のすぐ北に位置し、西側に深さ0.15cm程の浅い土坑が重複している。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.15m、短辺約1m、底部では長辺約1m、短辺約0.9m、検出面からの深さ約0.35mである。墓壇内から土師器小皿 (577)・小皿B₂・小皿C・皿B₂・皿C (578)・壺・三足付盤、伊藤分類第1段階a型式 (579)、第1段階b型式 (580)、第2段階a型式の土師器鍋、瀬美編年で13世紀前葉とされる山茶碗 (583)、竜泉窯系青磁碗、古墳時代の須恵器甕体部片が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 152 (第50・76図) S X 151の北約3mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.15m、短辺約0.85m、底部では長辺約0.85m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約0.75mである。墓壇内から土師器小皿C (584)・皿C・伊藤分類第1段階に相当すると思われる鍋が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

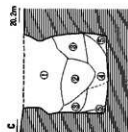
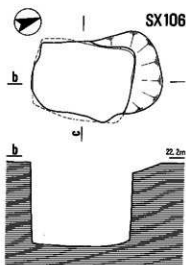
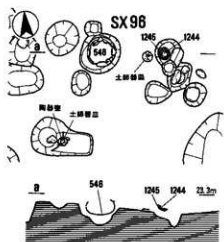
S X 162 (第50・76図) S E 157の西約3mに位置する。上部の平面形は崩壊のためか不定型であるが、方形の平面形をもつB型と思われる。底部では長辺約0.8m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約1.2mである。墓壇内から土師器小皿C (585～588)・皿B₂・皿C (589・590)・伊藤分類 (飯) A段階 (591)と第1段階a型式の鍋、知多産の山茶碗と瀬美産の片口鉢、竜泉窯系青磁碗が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 165 (第50・76図) S X 151のすぐ西北に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.2m、短辺約1.05m、底部では長辺約0.9m、短辺約0.85m、検出面からの深さ約1mである。墓壇内から土師器小皿B₂ (592)・小皿C (593)・皿B₂・皿C (594・595)・伊藤分類第1段階b型式の鍋 (596)、瓦器ミニチュア碗 (598)、知多産の山茶碗、知多編年第6型式 (13世紀後葉)の片口鉢 (597)、景徳鎮産の白磁皿、鉄釘が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

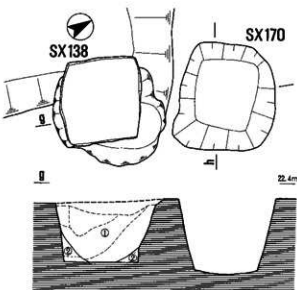
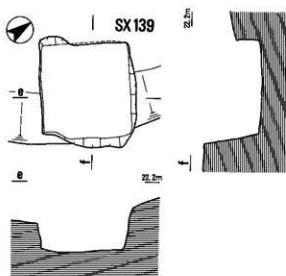
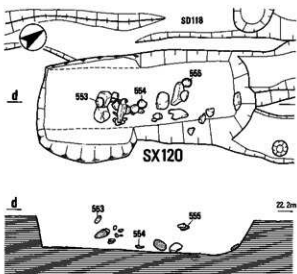
S X 166 (第51図・76図) S X 152の東北約1mに位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.2m、短辺約1m、底部では長辺約1.1



第48图 SX 77 · 78 · 88 · 92 · 94 · 224实测图 (1 : 50)



- SX106 礎土
- ① 黒褐色の黒ボク
 - ② 黒褐色の黒ボク（かなりやわらかい）
 - ③ 黒褐色の黒ボクと地山崩壊土の混成土
 - ④ 軽褐色の黒ボク
 - ⑤ 地山崩壊土

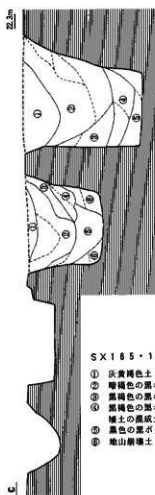
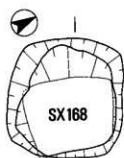
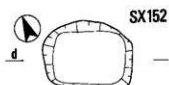
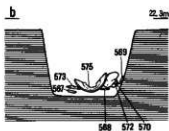
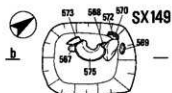
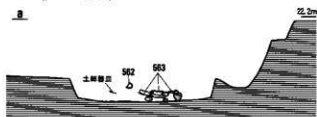
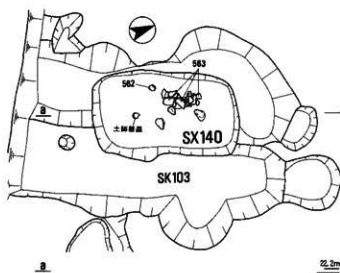


- SX138 礎土
- ① 腐乱土（黒ボクと地山崩壊土の混成土）
 - ② 地山崩壊土

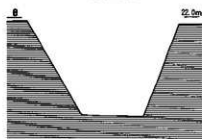
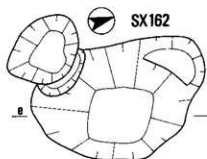
- SX170 礎土
- ① 黒色の黒ボク
 - ② 粗砂が混じる黒褐色の黒ボク
 - ③ 黒色の黒ボクと地山崩壊土の混成土
 - ④ 地山崩壊土
 - ⑤ 黒褐色の黒ボク
 - ⑥ 粗砂が混じる黒褐色の黒ボク



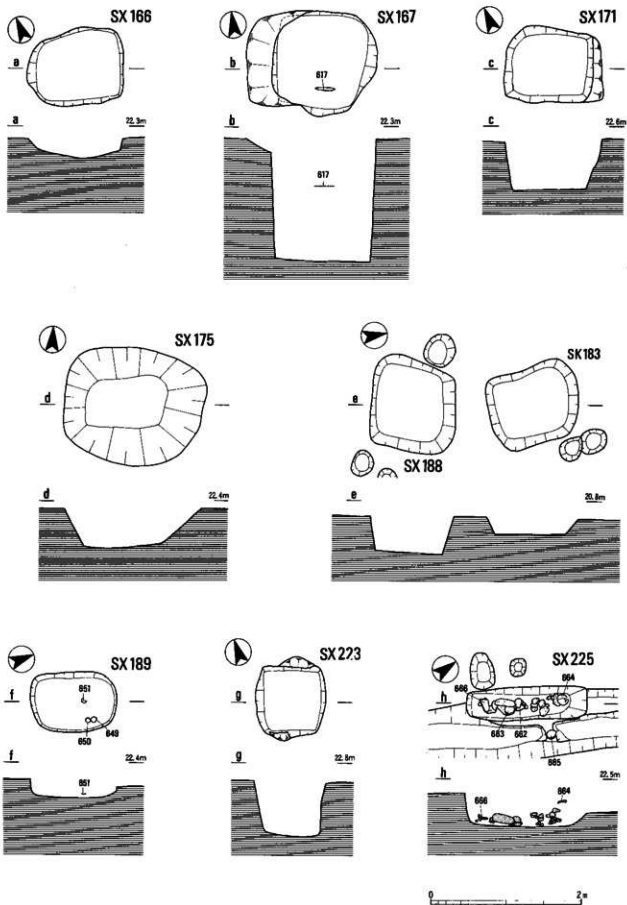
第49図 S X 96・106・120・138・139・170実測図（1：50）



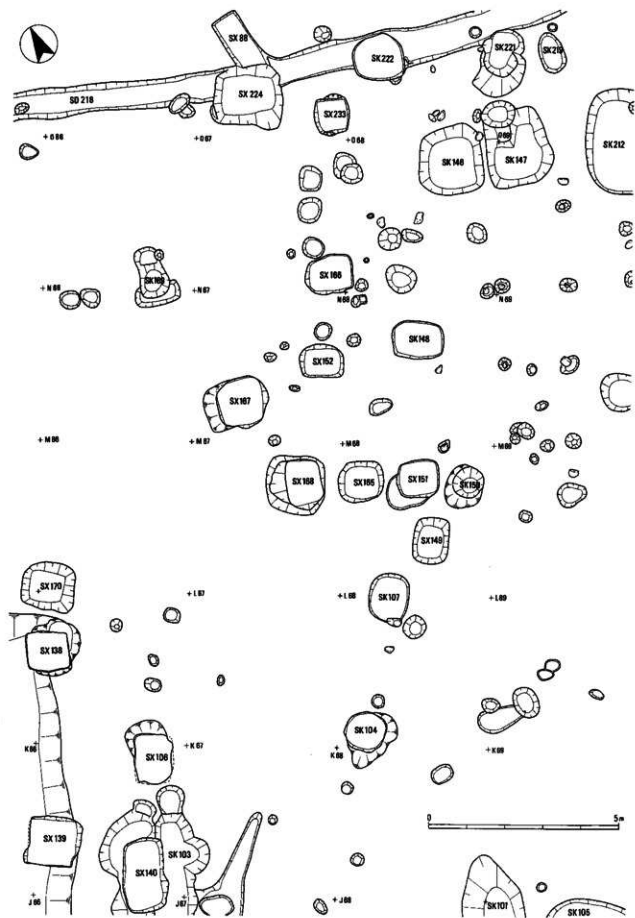
- SX165・168 雑土
- ① 淡黄褐色土（黒ボク質）
 - ② 暗褐色の黒ボク
 - ③ 黒褐色の黒ボク
 - ④ 黒褐色の黒ボクと地山崩壊土の混成土
 - ⑤ 黒色の黒ボク
 - ⑥ 地山崩壊土



第50図 SX140・149・151・152・162・165・168実測図（1：50）



第51图 SX166·167·171·175·188·189·223·225实测图(1:50)



第52図 SX168周围中世基配置図 (1:100)

m、短辺約0.95m、検出面からの深さ約0.25mである。墓壇埋土には炭が多く混じっていた。墓壇内から土師器小皿C・皿C(600)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、知多産の甕、鉄釘、銅銭が出土した。銅銭は開元通寶2枚(600・601)、真書体の天聖元寶1枚(603)・篆書体の天聖元寶1枚(604)・篆書体の景祐元寶1枚(605)・篆書体の治平元寶2枚(606・607)・真書体の熙寧元寶1枚(608)・真書体の元豊通寶1枚(609)・篆書体の元豊通寶2枚(610)・真書体の元符通寶2枚(611)・篆書体の聖宋元寶と思われるもの1枚(612)、篆書体の政和通寶1枚(613)、文字が解説不明のもの1枚あるいは2枚の合計16枚か17枚ある。IV期の墓と思われる。

S X 167(第51・76図) S X 152の西約1mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では一辺約1.35m、底部では一辺約1.15m、検出面からの深さ約1.6mである。墓壇内から土師器小皿C(614)・皿C(615・616)、伊藤分類第1段階b型式の鍋(598)、知多産と思われる山茶碗と甕、竜泉窯系青磁碗、鉄製の小刀(617)、鉄釘が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 168(第50・77図) S X 165のすぐ北西に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部は崩壊によるものか不定型であるが、底部では長辺約1.15m、短辺約0.95m、検出面からの深さ約1.6mである。墓壇内から土師器小皿B₂(618~620)・小皿C・皿B₂(621~626)・皿C(627~630)・伊藤分類第1段階b型式の鍋(631)と第2段階a型式の鍋、瓦器ミニチュア羽釜(632)、瀬美産と思われる入子(633)、知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀初頭)の山茶碗(634)、瀬美編年で13世紀前葉とされる山茶碗(635)、知多産の甕、竜泉窯系青磁碗、鉄製の小刀(636)がある。Ⅱ期の墓と思われる。

S X 170(第49・77図) S X 138のすぐ北に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.4m、短辺約1.25m、底部では長辺約0.9m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.95mである。墓壇内から土師器小皿C・皿C(637)・羽釜(638・639)・甕、知多編年第6型式(13世紀後葉)の片口鉢(640)、青磁皿が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 171(第51図) S X 120の東南東約25mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.15m、短辺約0.95m、底部では長辺約0.95m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.65mである。墓壇内から土師器小皿B₂・皿B₂、知多産の山茶碗が出土している。Ⅱ期の墓と思われる。

S X 175(第51・77図) S X 28の北西約20mに位置する。上部の平面形は崩壊のためか不定型であるが、方形の平面形をもつと思われる。B型とも考えられるがD型としておく。底部では長辺約1m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約0.5mである。墓壇内から土師器皿C(641・642)・伊藤分類第1段階a型式(643)と第1段階b型式(644)の鍋、知多産の片口鉢が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 188(第51・77図) 調査区の東端近くに位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.2m、短辺約1.1m、底部では一辺約0.9m、検出面からの深さ約0.45mである。墓壇内から土師器小皿C(645・646)・皿C(647)・伊藤分類第1段階b型式と第2段階c型式と思われる鍋、知多産の山茶碗、鉄釘、砥石(648)が出土している。Ⅳ期の墓と思われる。

S X 189(第51・77図) S X 171の北北東約16mに位置する。楕円形に近い隅丸方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.15m、短辺約0.75m、底部では長辺約1.05m、短辺約0.65m、検出面からの深さ約0.2mである。墓壇内から土師器小皿C(649~651)が出土した。Ⅲ期かⅣ期の墓と思われる。

S X 223(第51・77図) S X 88の南南東約1.5mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では一辺約0.9m、底部では一辺約0.75m、検出面からの深さ約0.7mである。墓壇内から土師器小皿C・皿B₂(653)・皿C(652)・鍋、知多編年第6型式(13世紀後葉)の山茶碗、13世紀後半とされる竜泉窯系青磁碗が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 224(第48・78図) S X 88の南西に重複する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.8m、短辺約1.5m、底部では長辺約1.4m、短辺約1m、検出面からの深さ約1.3mである。底面

遺跡名	位置	平面形状	型	規模	出土遺物	時期	備考
SX 5	T・U 88	楕円形	E	上部=長軸0.95m×短軸0.8m 底部=長軸0.85m×短軸0.7m 深さ=0.3m	土師器小皿C・皿C・銅、陶器山茶碗	旧期	
SX 28	S 69, 70	方形	D	上部=長辺2m×短辺1.6m 底部=長辺1.65m×短辺1.2m 深さ=0.3m	土師器小皿C・皿C・銅、陶器壺、青磁碗、須恵器炭甕?	旧期	墓域内に集石
SX 38	W 59	方形	D	上部=長辺1.3m×短辺1.2m 底部=長辺0.95m×短辺0.85m 深さ=0.4m	陶器山茶碗、片口鉢、甕、須恵器壺、瓦葺火鉢、青磁碗、白磁四平盤、土製支脚、平瓦、須恵器杯蓋・杯身、土師器ミニチュア高杯	1期	墓域内に集石
SX 40	V 29	方形	B	上部=長辺1.3m×短辺1.1m 底部=長辺1.1m×短辺0.8m 深さ=0.7m	土師器小皿B ₂ ・小皿C・皿B ₁ ・皿C・銅、陶器山皿、須恵器壺	旧期	
SX 41	T 20・21	方形	D	上部=長辺1.2m×短辺0.75m 底部=長辺1m×短辺0.55m 深さ=0.1m	土師器小皿C・皿C・銅、漆器	V期末以降	
SX 44	U・V 25	楕円形	C	上部=長軸1.15m×短軸1m 底部=長軸1.15m×短軸1m 深さ=1m	土師器小皿C・小皿B ₁ ・皿C・陶器山茶碗・壺、折縁深皿、青磁碗	旧期	墓域内に集石
SX 46	W 46, 47	方形	B	上部=長辺1.4m×短辺1m 底部=長辺1.1m×短辺0.8m 深さ=0.9m	土師器小皿A・小皿B ₁ ・小皿C・皿B ₁ ・皿C・銅、陶器山皿・山茶碗	旧期	
SE 56	R 39, 40	円形	C	上部=径1.1m 底部=径0.9m 深さ=1.5m	土師器小皿B ₁ ・皿B ₁ ・銅、陶器山皿・山茶碗	1期	井戸としたが中世墓か
SE 57	R 40	円形	C	上部=径1.4m 底部=径1.3m 深さ=1.5m	土師器小皿B ₁ ・皿B ₁ ・皿C・銅、陶器山皿・山茶碗	旧期	井戸としたが中世墓か
SX 58	X 49	方形	B	上部=長辺0.95m×短辺0.75m 底部=長辺0.7m×短辺0.6m 深さ=1.2m	—	不明	
SX 59	W 49	方形	B	上部=長辺1.15m×短辺0.9m 底部=長辺0.9m×短辺0.7m 深さ=0.6m	土師器小皿C・皿B ₁ ・皿C・銅	旧期	
SX 63	W 49	方形	B	上部=長辺0.85m×短辺0.7m 底部=長辺0.8m×短辺0.65m 深さ=0.65m	土師器小皿B ₁ ・小皿C・皿B ₁ ・皿C・銅	旧期	
SX 64	U 24	円形	E	上部=径0.45m 深さ=0.25m	土師器小皿C・皿C・銅、陶器片口鉢、青磁碗	旧期	
SX 67	S 48	方形	E	上部=長辺0.8m×短辺0.5m 底部=長辺0.6m×短辺0.3m 深さ=0.45m	土師器山皿、銅、須恵器壺?	旧期	
SX 70	V 47	長方形	A	上部=長辺1.8m×短辺0.65m 底部=長辺1.75m×短辺0.55m 深さ=0.6m	土師器小皿B ₁ ・皿B ₁ ・陶器山茶碗	1期	
SX 77	P・Q 46	方形	B	上部=長辺2.1m×短辺1.3m 底部=長辺1.65m×短辺0.9m 深さ=0.85m	土師器小皿B ₁ ・皿B ₁ ・銅	旧期	
SX 78	Q 47	方形	B	上部=長辺1.65m×短辺0.9m 底部=長辺1.2m×短辺0.8m 深さ=0.8m	土師器小皿B ₁ ・皿B ₁ ・陶器山茶碗、須恵器杯蓋	1期	
SK 83	R 52	方形	D	上部=長辺1.5m×短辺1.1m 底部=長辺1.5m×短辺0.75m 深さ=0.35m	土師器小皿B ₁ ・皿B ₁	旧期	土坑としたが中世墓か
SX 88	O 67	長方形	A	上部=長辺1.8m以上×短辺0.75m、 底部=長辺1.6m以上×短辺0.6m 深さ=0.3m	—	旧期?	
SX 92	R・S 54・55	方形	B	上部=長辺1.5m×短辺1m 底部=長辺1.3m×短辺0.8m 深さ=0.75m	青磁碗	旧期小旧期	
SX 94	S・T 45・46	長方形	A	上部=長辺2.6m×短辺0.9m 底部=長辺2.5m×短辺0.3m 深さ=0.3m	—	不明	
SX 96	Q 55	円形	E	上部=径0.3m 深さ=0.2m	土師器銅	旧期小旧期	
SK 104	K 68	円形	C	上部=径1.1m 底部=径1m 深さ=1.5m	土師器小皿A・小皿B ₁ ・小皿C・古付小皿・皿C・三足付壺・羽釜・銅、陶器山茶碗、片口鉢、青磁碗、白磁台子、細粒砂岩製四脚臺	旧期	土坑としたが中世墓か
SX 106	J・K 66	方形	B	上部=長辺1.3m×短辺0.9m 底部=長辺1.3m×短辺1.0m 深さ=1.1m	土師器小皿B ₁ ・小皿C・皿C・銅、陶器山茶碗、片口鉢、青磁碗	旧期	
SX 120	I 74	長方形	A	上部=長辺2.3m×短辺1.2m 底部=長辺2.5m×短辺0.75m 深さ=0.4m	土師器小皿C・皿C・杯・ミニチュア羽釜・器台・銅、陶器山茶碗、青磁碗	旧期	

第6表 中世墓一覧

遺跡名	位置	平面形	型	測 候	出 上 遺 物	時 期	備 考
SX138	K 65・66	方形	B	上部=長辺1.1m 底辺=長辺1m 深さ=0.8m	土師器小皿C・皿C・鍋	Ⅲ期	
SX139	J 66	方形	B	上部=長辺1.3m 底辺=長辺1.15m 深さ=0.75m		不明	
SX140	I・J 66	方形	B	上部=長辺1.95m×短辺1.1m 底辺=長辺1.75m×短辺0.9m 深さ=1m	土師器小皿C・皿C・鍋	Ⅲ期	
SK148	M 68	方形	D	上部=長辺1.35m×短辺1m 底辺=長辺1.25m×短辺0.9m 深さ=0.1m		不明	土坑とした が中世遺小
SX149	L 68	方形	B	上部=長辺1.2m×短辺0.95m 底辺=長辺0.85m×短辺0.65m 深さ=0.85m	土師器小皿B、小皿C・皿B、皿C・鍋・釜・ 三足付釜、陶器山茶碗、須恵器壺	Ⅲ期	
SX151	L 68	方形	D	上部=長辺1.15m×短辺1m 底辺=長辺1m×短辺0.9m 深さ=0.35m	土師器小皿、小皿B、小皿C・皿B、皿C・釜・ 三足付釜、鍋、陶器山茶碗、青磁碗、須恵器壺	Ⅲ期	
SX152	M 67	方形	B	上部=長辺1.15m×短辺0.85m 底辺=長辺0.85m×短辺0.7m 深さ=0.75m	土師器小皿C・皿C・鍋	Ⅲ期	
SE157	N 75	方形	B	上部=長辺1.3m×短辺1m 底辺=長辺0.8m×0.7m 深さ=1.6m	土師器小皿C・皿B、皿C・鍋・三足付釜、瓦 質火鉢、陶器山茶碗・片口鉢・四耳壺・壺、青磁 碗、石鍋、砥石、鉄釘	Ⅲ期	井戸とした が中世遺小
SX162	N 73・74	方形	B	底辺=長辺0.8m×短辺0.7m 深さ=1.2m	土師器小皿C・皿B、皿C・鍋、陶器山茶碗・ 片口鉢、青磁碗	Ⅲ期	
SX165	L 68	方形	B	上部=長辺1.2m×短辺1.06m 底辺=長辺0.9m×短辺0.85m 深さ=1m	土師器小皿B、小皿C・皿B、皿C・鍋、瓦器 ミニチュア碗、陶器山茶碗・片口鉢、白磁皿、鉄 釘	Ⅲ期	
SX166	N 67	方形	D	上部=長辺1.2m×短辺1m 底辺=長辺1.1m×短辺0.95m 深さ=0.25m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器壺、鉄釘、銅鏡	Ⅲ期	
SX167	M 67	方形	B	上部=長辺1.35m 底辺=長辺1.15m 深さ=1.6m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗・壺、青磁 碗、小刀、鉄釘	Ⅲ期	
SX168	L 67・68	方形	B	底辺=長辺1.15m×短辺0.95m 深さ=1.6m	土師器小皿B、小皿C・鍋、瓦器ミニチュア羽 釜、陶器入子、山茶碗・壺、青磁碗、小刀	Ⅲ期	
SX170	K・L 65・66	方形	B	上部=長辺1.4m×短辺1.25m 底辺=長辺0.9m×短辺0.8m 深さ=0.95m	土師器小皿C・皿C・羽釜・壺、陶器片口鉢、青 磁皿	Ⅲ期	
SX171	I 81	方形	B	上部=長辺1.15m×短辺0.95m 底辺=長辺0.95m×短辺0.8m 深さ=0.65m	土師器小皿B、皿B、陶器山茶碗	Ⅲ期	
SX175	V 64・65	方形	D	底辺=長辺1m×短辺0.7m 深さ=0.5m	土師器皿C・鍋、陶器片口鉢	Ⅲ期	
SK183	M 87	方形	D	上部=長辺1.2m×短辺1m 底辺=長辺1m×短辺0.75m 深さ=0.2m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗・片口鉢、 砥石	Ⅲ期	
SX188	M 87・88	方形	D	上部=長辺1.2m×短辺1.1m 底辺=長辺0.9m 深さ=0.45m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗、鉄釘、砥 石	Ⅲ期	
SX189	M 82	方形	D	上部=長辺1.15m×短辺0.75m 底辺=長辺1.05m×短辺0.65m 深さ=0.2m	土師器小皿C	Ⅲ期かⅣ期	
SE207	O 75	円形	C	上部=径1.6m 底辺=径1m 深さ=2m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗、青磁碗、 鉄釘	Ⅲ期かⅣ期	井戸とした が中世遺小
SK221	O 68・60	楕円形	D	上部=長軸1.25m×短軸0.9m 底辺=長軸1m×短軸0.6m 深さ=0.3m	土師器小皿C・皿C・鍋、釜?	Ⅲ期	土坑とした が中世遺小
SX223	O 67・68	方形	B	上部=長辺1.09m 底辺=長辺0.75m 深さ=0.7m	土師器小皿C・皿B、皿C・鍋、陶器山茶碗、 青磁碗	Ⅲ期	
SX224	O 67	方形	B	上部=長辺1.8m×短辺1.5m 底辺=長辺1.4m×短辺1m 深さ=1.3m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗	Ⅲ期	
SX225	M・N 74	長方形	A	上部=長辺1.6m×短辺0.45m 底辺=長辺1.3m×短辺0.35m 深さ=0.4m	土師器小皿C・皿B、皿C・鍋、陶器片口鉢、 鉄釘	Ⅲ期	

には小石と灰泥じりの砂層が約0.1mの厚さでみられ、その直上から拳大から人頭大の石が多く検出された。出土遺物には土師器小皿C・皿C (655-658)・伊藤分類第1段階a型式の鍋、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗 (660)、知多編年第6型式 (13世紀後葉) の山茶碗が出土している。土師器小皿・皿はいずれもB₂に近い。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 225 (第51・78図) S X 162のすぐ南東に位置する。長方形の平面形をもつA型と思われるが小規模である。上部では長辺約1.6m、短辺約0.45m、底部では長辺約1.3m、短辺約0.35m、検出面からの深さ約0.4mである。墓域内から土師器小皿C・皿B₂ (665)・皿C (662-664)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、12世紀末葉頃の渥美産片口鉢 (666)、鉄釘 (667) が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

5. 土 坑

調査区内には土坑として遺構番号を付したものが72基ある。そのうちの70基を出土遺物から中世のものとしたが、少量の土器片が出土しただけの土坑については時期は確定しがたい。

S K 12 (第16・78図) S X 15 (4号墳) と重複する。平面形は楕円形で、長軸約8m、短軸約5m、検出面からの深さ約1mである。北側が調査区外へのびる。四周の壁の上部が内側へオーバーハングしていることから、土取り穴と思われる。出土遺物には土師器小皿B₁ (670)・小皿B₂ (668・669)・皿B₂ (671・674)・伊藤分類第1段階b型式 (676) と第2段階b型式 (677) の鍋・鍋蓋のつまみかんの高台 (675)、知多編年第4型式 (12世紀末葉～13世紀初葉) と思われる山皿 (678)・山茶碗 (682)・片口鉢 (683)、渥美編年で12世紀後葉から末葉とされる山茶碗 (680・681)、渥美編年で13世紀前葉とされる山皿 (679)、竜泉窯系青磁碗、古墳時代の須恵器甕がある。Ⅱ期の土坑と思われる。

S K 22 (第16・78図) S D 8東端の土坑群の中の1つである。平面形は楕円形で、長軸約1.2m、短軸約0.8m、検出面からの深さ約0.6mである。土師器小皿C (684・685) と皿C (686-688) が出土した。いずれも完形あるいはほぼ完形で、形態の特徴はB₂に近い。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 26 (第23・78図) S B 24の東約3mに位置する。長軸約1.4m、短軸約0.7m、検出面からの深さ約0.3mの楕円形に近い平面形をもつ土坑で、底部は船底状になっている。土坑内からは完形あるいは完形に近い土師器小皿B₂ (689)・皿B₂ (690・691)・皿C (692) の他、土師器小皿C・鍋、山茶碗、片口鉢の小片が出土した。Ⅱ期の土坑である。

S K 29 (第23・78図) S K 26の北北西約12mに位置する。平面形はやや形の崩れた一辺約2mの方形で、検出面からの深さは約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C、皿C (693)・羽釜・鍋 (694) がある。Ⅳ期の土坑と思われる。

S K 30 (第23・78図) S K 29の南端に重複する。平面形は円形で、径約1m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は全て小片で、土師器皿・鍋、渥美産の山皿・山茶碗 (695)、知多産と思われる山茶碗がある。Ⅰ期かⅡ期の土坑であろう。

S K 31 (第23・78図) S K 29の西端に重複する。平面形は円形で、径約0.8m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物には土師器小皿C (696)・皿B₂ (697)・皿C・陶器甕がある。Ⅱ期かⅢ期の土坑と思われる。

S K 45 (第53・63・78図) 調査区の西端近くに位置する。平面形は方形で、長辺約3.6m、短辺約2.5m、検出面からの深さ約1.8mである。出土遺物には土師器小皿B₂ (698-700)・皿A (702)・皿B₂ (701)・鍋 (703-705)、渥美編年で12世紀末葉から13世紀初葉とされる山皿 (706)・山茶碗 (707)、渥美産と知多産の片口鉢、竜泉窯系青磁碗、古墳時代の薬師石製紡錘車 (44) がある。土師器鍋は伊藤分類第1段階a型式のものがほとんどである。Ⅰ期の土坑と思われる。

S K 48 (第11・79図) S X 95 (15号墳) の周溝と重複する円形の平面形をもつ土坑で、径約1.6m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物には土師器小皿B₂ (708)・皿B₂ (709-711)・伊藤分類第1段階a型式の鍋 (712)・渥美編年で12世紀末葉から13世紀前葉とされる山皿 (713)・山茶碗 (714)、渥美産の壺、土製土脚 (715) がある。Ⅰ期の土坑と思われる。

S K 65 (第13・79図) S X 61 (11号墳) の墳域

内に位置する土坑である。平面形は長軸約1.7m、短軸約1.2mの不定形で、検出面からの深さは約0.1mである。出土遺物には土師器小皿B1(716・717)、知多編年第4型式(12世紀末葉～13世紀前葉)の山皿(718)がある。I期の土坑と思われる。

S K66(第13・79図) S K65の南に隣接する土坑である。平面形は東西に長い楕円形で、長軸約2.6m、短軸約0.9m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物には土師器小皿B1(719)・皿B1(720)がある。I期の土坑と思われる。

S K69(第13・79図) S K65・S K66と重複する平面形が楕円形の土坑で、長軸約1.4m、短軸約1m、検出面からの深さ約0.6mである。出土遺物には土師器小皿B1・皿B1(721)がある。I期の土坑と思われる。

S K80(第13図) S X78のすぐ南に位置する土坑である。平面形は長軸約2m、短軸約1.3mの不定形で、検出面からの深さは約0.2mである。出土遺物は土師器小皿C・皿C・鍋の細片のみである。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

S K81(第53・79図) S X78の東約7.5mに位置する。平面形は方形で、上部では長辺約3.3m、短辺約2m、底部では長辺約3m、短辺約1.7m、検出面からの深さ約0.2mである。底面には人頭大の結晶片岩が散乱した状態でみられた。出土遺物には土師器小皿C(722～724)・皿B2・皿C(725・726)、伊藤分類第1段階a型式(727)、第2段階a型式(728)・第2段階c型式の土師器鍋、知多産の山茶碗・片口鉢がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K83(第53・79図) S K81の東南東約8mに位置する。平面形は方形で、上部では長辺約1.5m、短辺約1.1m、底部では長辺約1.5m、短辺約0.75m、検出面からの深さ約0.35mである。D型の中世墓としたほうがよいかもしれない。出土遺物には土師器小皿B1(729～730)・皿B1(731)がある。Ⅱ期の遺構と思われる。

S K84(第53・79図) S K83の南約10mに位置する楕円形に近い平面形をもつ土坑で、長軸約1.7m、短軸約1.3m、検出面からの深さは約0.5mである。出土遺物には土師器小皿B1・皿B1(732)、渥美産の壺がある。I期の土坑と思われる。

S K86(第53・79図) S K84の北東約24mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約1m、短軸約0.7m、検出面からの深さは約0.15mである。出土遺物には土師器小皿B1(733)・皿C(734)・鍋、知多産の片口鉢がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K89(第53・79図) S K86の南約8mに位置する楕円形に近い平面形をもつ土坑で、長軸約2m、短軸約1.5m、検出面からの深さ約1.5mである。底面には集石がみられた。出土遺物には土師器小皿C・皿C(735)・鍋、渥美産の山茶碗、知多産の壺がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K99(第47図) S X67と重複する。平面形はほぼ楕円形で、長軸約2.1m、短軸約1.5m、検出面からの深さ約0.3mである。四周の壁の上部が内側へオーバーハングしていることから、土取り穴と思われる。出土遺物はない。切り合い関係からS X67(Ⅱ期)より新しいことがわかる。

S K101(第57・79図) S X40の南東約8mに位置する溝状の土坑で、南側が調査区内へのびる。長さは4m以上、幅は約1.7m、検出面からの深さは約0.5mである。出土遺物には土師器小皿C(736)・皿C(737)がある。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

S K102(第57図) S K101のすぐ南東に位置する。南西側は調査区外へのびるが平面形は円形と思われる。径約1.8m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は細片ばかりで、土師器小皿C・皿C・鍋がある。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

S K103(第50・79・80図) S X40と重複する土坑で、南西側は調査区外へのびる。平面形は不定形で、長さ約3.5m以上、幅約2m、検出面からの深さ約0.7mである。出土遺物は多く、土師器小皿C(738～742)・皿B1・皿C(743～758)・壺(768)・三足付壺・羽釜(767)・伊藤分類第1段階b型式(761～766)と第2段階a型式(759・760)に相当する鍋、知多編年第4型式(12世紀末葉～13世紀初頭)の山茶碗(769)、渥美編年で12世紀代とされる三筋文系壺(772)と13世紀前葉とされる山茶碗(770)・片口鉢(771)、13世紀後葉から14世紀初頭とされる竜泉窯系青磁碗(773)、鉄釘がある。土師器小皿・皿で口縁部が1/3以上残存しているものは、小皿では小皿C=13点(平均口径7.6cm、器高

1.1cm)、皿では皿B₂=1点、皿C=26点(平均口径11.6cm、器高2.6cm)の計27点である。Ⅲ期の土坑と思われる。

SK104(第54・80図) SK103の東約5mに位置する。C型の中世墓とすべき円形の平面形をもつ深い土坑で、上部では径約1.1m、底部では径約1m、検出面からの深さ約1.5mである。出土遺物には土師器小皿A(774)・小皿B₂(775)・小皿C(776・777)・台付小皿(778)・皿C(779~782)・三足付盤(786)・羽釜(784・785)・伊藤分類第1段階b型式の鍋(783)、知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀初頭)の片口鉢、知多編年第6型式(13世紀後葉)の山茶碗(787)、竜泉窯系青磁碗(788)、景德鎮産の牡丹文平彩白磁合子、細粒砂岩製四葉硯(789)がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

SK105(第57・81図) SK101のすぐ東に位置する。平面形は円形で、径約2.5m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C(790~792)、知多産の山茶碗がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

SK107(第52図) SK104の北東約2.5mに位置する。楕円形に近い平面形をもつ土坑で、長軸約1.3m、短軸約1.1m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物は土師器皿B₂の小片と鉄釘1本のみである。Ⅱ期の土坑と思われる。

SK108(第58図) 調査区の南東端近くに位置する溝状の土坑で、南西側が調査区外へのびる。長さ2.5m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は土師器小皿C・皿Cの細片のみである。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

SK111(第58・81図) SK108の北約4mに位置する溝状の土坑で、南側が調査区外へのびる。長さ3m以上、幅約1.6m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C(793・794)・鍋がある。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

SK114(第35・81図) SB131と重複する。平面形は円形で、径約2m、検出面からの深さ約0.3mである。出土遺物は小片ばかりで、土師器小皿C・皿C(795)・伊藤分類第1段階a型式(796)と第2段階c型式(797)の鍋、知多編年第5型式から第6型式(13世紀前葉~後葉)の山皿(798)・山茶

碗・片口鉢がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

SK115(第57・81図) SK114の西約7.5mに位置する。平面形はややいびつな楕円形で、長軸約1.6m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.5mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C(799)・伊藤分類第1段階a型式の鍋(800)、知多編年第5型式(13世紀前葉)の山茶碗(801)、渥美産の山茶碗がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

SK122(第57・81図) SK115の西南西約11mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約2.8m、短軸約2.3m、検出面からの深さ約0.8mである。底部には約0.2mの厚さで地山崩壊土が堆積しており、その上は単純な黒ボク層である。四周の壁の上部が内側に大きくオーバーハングしていることから、土取り穴と思われる。出土遺物には土師器小皿B₂(802)・小皿C(803・804)・皿C(805)・伊藤分類第1段階b型式(806)と第2段階b型式(807)の鍋、知多編年第5型式と第6型式(12世紀末葉~13世紀前葉)の山茶碗(808・809)、瀬戸産御皿、竜泉窯系青磁碗、福建省産白磁碗、鉄釘、古墳時代の甕がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

SK123(第57・81図) SK122の北約5mに位置する。平面形はいびつな円形で、径約1.7m、検出面からの深さ約0.7mである。出土遺物には土師器小皿C(810)・皿B₂(811・812)・皿C・伊藤分類第1段階b型式の鍋、知多産の山茶碗・13世紀後葉から14世紀初頭とされる竜泉窯系青磁碗(813)、土製支脚、鉄釘がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

SK124(第57図) SK123のすぐ北に位置する。平面形は円形で、径約1.6m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は全て小片で、土師器小皿C・皿C・盤・鍋、知多産の甕、竜泉窯系青磁碗がある。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

SK129(57頁) 掘立柱建物SB128に伴う土坑である。

SK130(第54・81図) SK129のすぐ南西に位置する。平面形はやや細長い不定形で、長軸約2.9m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.35mである。出土遺物には土師器小皿B₂(814・815)・皿B₂(816)・皿C・盤(818)・器台柱状部・伊藤分類第1段階a型式(817)と第1段階b型式の鍋、

渥美編年で13世紀前葉とされる山皿(819)・山茶碗、知多編年第5型式(13世紀前葉)と第6型式(13世紀後葉)の山茶碗(820・821)、竜泉窯系青磁碗があるⅡ期の土坑と思われる。

S K135(第57・81図) S E57の南約3mに位置する。平面形は細長い楕円形で、長軸約2m、短軸約0.8m、深さ約0.3mである。出土遺物は土師器皿の細片と伊藤分類第1段階a型式の鍋(822)のみである。Ⅰ期かⅡ期の土坑と思われる。

S K144(第55・81・82図) S E134の南東約2mに位置する長軸約1m、短軸約0.7m、検出面からの深さ約0.5mの土坑から遺物が集中して出土した。出土遺物は土師器小皿C(823～828)・皿C(829～836)・伊藤分類第1段階b型式の鍋(837)、渥美編年で12世紀末葉から13世紀前葉とされる山皿(838)・山茶碗(839～841)・片口鉢(843)・知多編年第4型式(12世紀末葉～13世紀初葉)の片口鉢(842)・壺・軒丸瓦(844)、竜泉窯系青磁碗がある。これらの遺物の中にはS K144とS K161との間にある土坑状の窪みから出土したのも多数混入してしまった。

S K146(第52・82図) S E134の北約6mに位置する。平面形は方形で、一辺約1.7m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿B₂(845)・小皿C・皿B₂(846)・皿C(847)・伊藤分類第1段階b型式と第2段階c型式(848)の鍋がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K147(第52・82図) S E146のすぐ東に位置する。平面形はややいびつな方形で、長辺約2m、短辺約1.6mである。底部は2段になっており、検出面からの深さは約0.35mと約0.5mである。出土遺物には土師器小皿C(849)・皿C(850)・鍋、知多産の山茶碗がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K148(第54図) S E146の南西約3.5mに位置する。平面形は方形で、上部では長辺約1.35m、短辺約1m、底部では長辺約1.25m、短辺約0.9m、検出面からの深さ約0.1mである。埋土には炭が多く認められた。D型の中世墓である可能性も考えられる。出土遺物はない。

S K150(第50・82図) S X151のすぐ南東に位置する。平面形は円形で、径約0.8m、検出面から

の深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿C(851・852)・皿C(853)・壺・ミニチュア器台柱状部・伊藤分類1段階b型式の鍋(854)、渥美産の壺、知多産の壺、瀬戸産の灰胎平碗、竜泉窯系青磁碗、鉄釘がある。Ⅳ期の土坑と思われる。

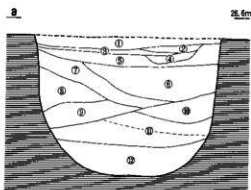
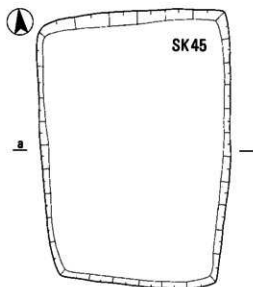
S K153(64頁) 掘立柱建物S B159に伴う土坑である。

S K154(第38・82図) S K153の北東約2.5mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約1.1m、短軸約0.95m、検出面からの深さ約0.25mである。出土遺物には土師器小皿B₂(855)・小皿C・皿B₂・伊藤分類第1段階b型式の鍋(856)、知多編年第5型式(13世紀前葉)の山茶碗(857・858)が出土している。Ⅱ期の土坑と思われる。

S K155A・S K155B(第55・82図) S K153の東側に位置する。検出当初は1つの遺構と思われたが、土層断面を観察した結果、2つの土坑が重複していたことが判明した。S K155Aは平面形がややいびつな円形で、径約2.1m、検出面からの深さ約0.75mである。S K155B平面形が楕円形で、長軸約2m、短軸約1.5m、検出面からの深さ約0.5mである。切り合い関係ではS K155BよりS K155Aの方が古いことがわかる。遺物はほとんどがS K155A出土のものであるが、厳密な分離は不可能である。出土遺物には土師器小皿C(859～862)・皿C(863～868)・壺(871)・ミニチュア鍋・伊藤分類第1段階a型式の鍋(869・870)、知多編年第5型式(13世紀前葉)の山茶碗(873)、知多産の壺、竜泉窯系青磁碗、鉄釘がある。土師器小皿・皿はB₂に近い。ともにⅢ期の土坑と思われる。

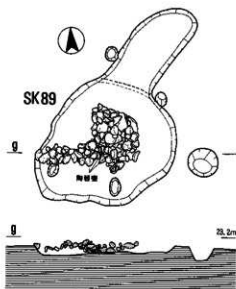
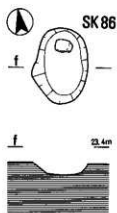
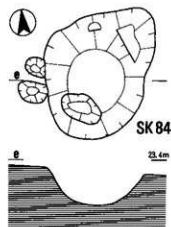
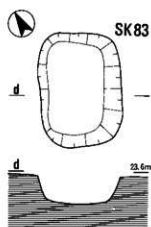
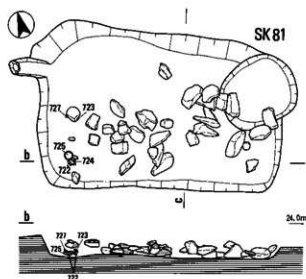
S K156(第55・82図) S K155Bのすぐ南東に位置する。平面形は楕円形で、長軸約1.6m、短軸約1.1m、底部は2段になっており検出面からの深さ0.5mと0.6mである。出土遺物には土師器小皿B₂・小皿C(874)・皿B₂・皿C(875)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、渥美編年で13世紀前葉とされる山皿(876)、知多産の山茶碗・壺がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K161(第55・82図) S K153の西側に接する。平面形はややいびつな円形で、径約1.6m、検出面からの深さ0.4mである。出土遺物には土師器小皿

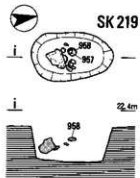
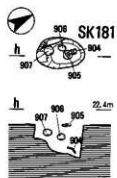
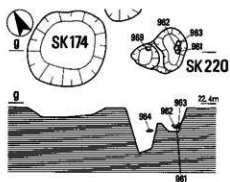
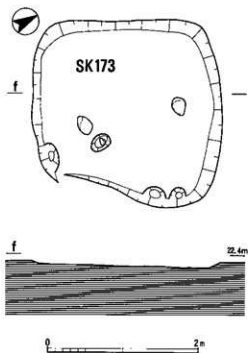
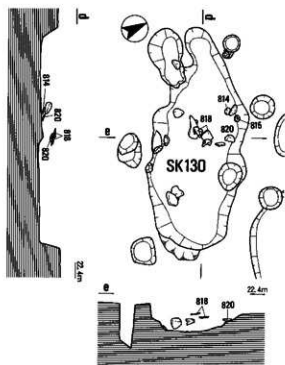
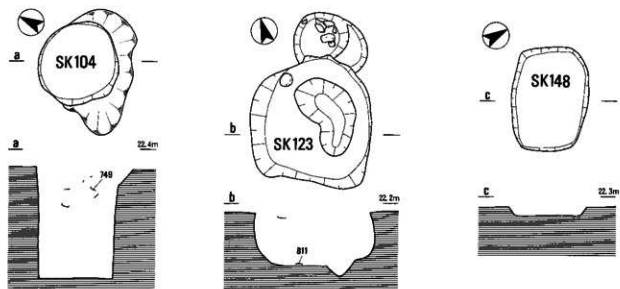


SK45 掘土

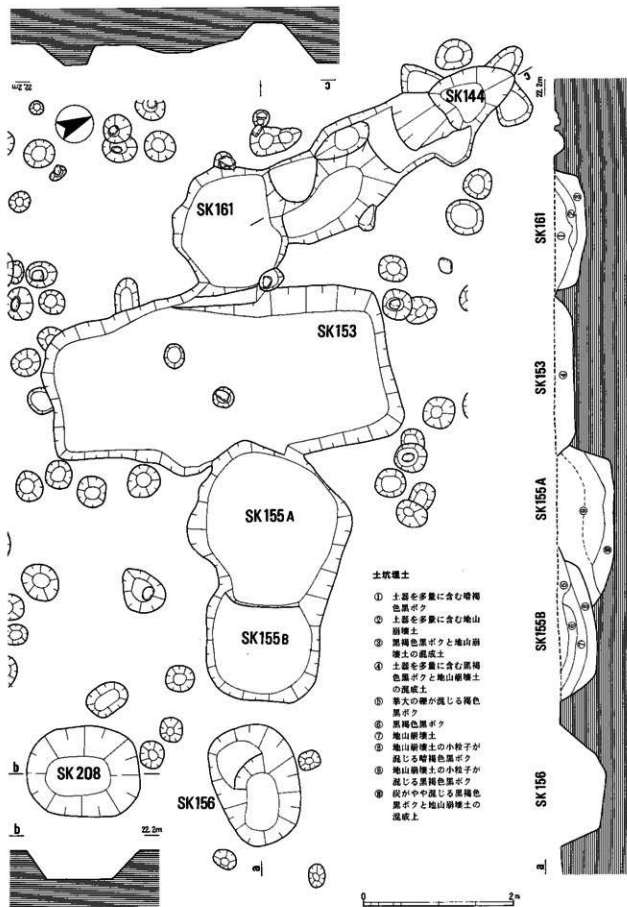
- | | |
|-----------------|---------------------|
| ① 粗砂が混じる暗褐色黒ボク | ⑦ 暗褐色黒ボクと地山崩壊土の混成土 |
| ② 粗砂が混じる黒褐色黒ボク | ⑧ 泥状の暗褐色黒ボク |
| ③ と地山崩壊土の混成土 | ⑨ 粗砂が多く混じる地山崩壊土 |
| ④ 粗砂が多く混じる褐色黒ボク | ⑩ 泥状の黒褐色黒ボク |
| ⑤ 土層を多数含む暗褐色黒ボク | ⑪ 粗砂が多く混じる泥状の地山崩壊土 |
| ⑥ 地山崩壊土 | ⑫ 粗砂が多く混じる泥状の黒褐色黒ボク |



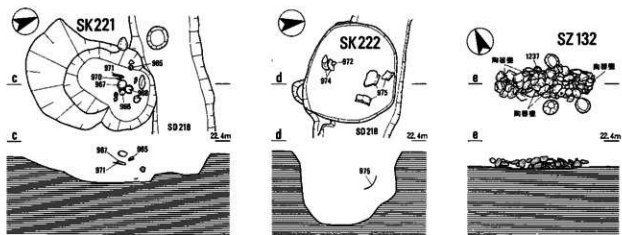
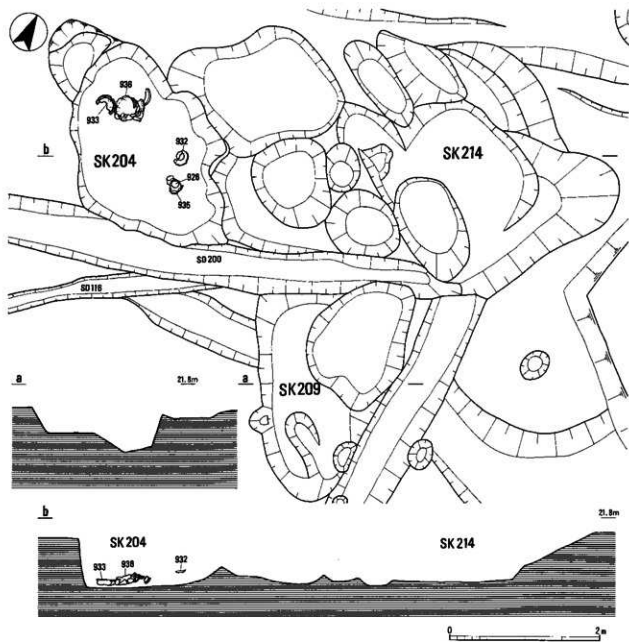
第53図 SK45・81・83・84・86・89実測図 (1:50)



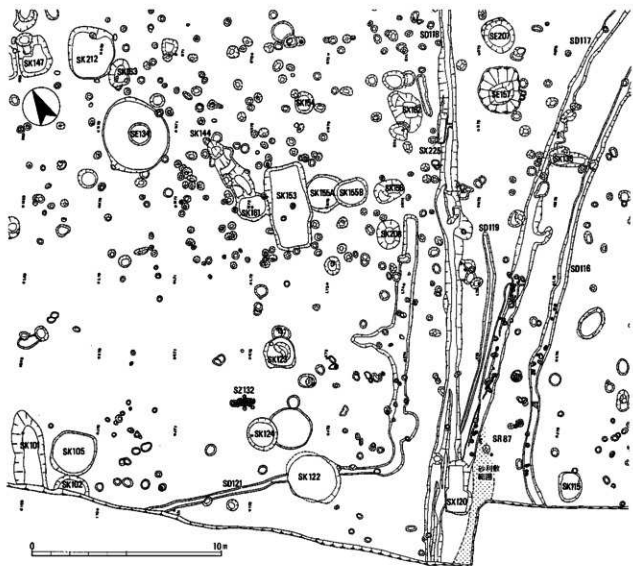
第54图 S K104 · 123 · 130 · 148 · 173 · 174 · 181 · 219 · 220实测图 (1 : 50)



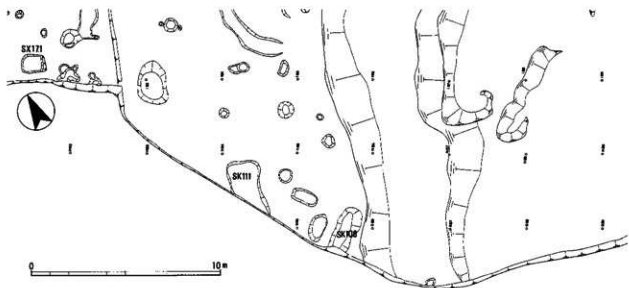
第55図 SK144・153・155A・155B・156・161・208実測図(1:50)



第56图 S K 204 · 209 · 214 · 221 · 222, S Z 132实测图 (1 : 50)



第57图 SK153周围 土坑配置图 (1:200)



第58图 SK108·111实测图 (1:200)

B₂ (880)・小皿C (877~879)・皿C (881~884)・
盤・伊藤分類第1段階b型式の鍋 (886)、知多編年
第6型式 (13世紀後葉) の山茶碗 (885)、知多産の
片口鉢・甕・壺などがある。881には内外面に墨書
が認められるが判読できない。土師器小皿・皿B₂・
皿Cが1/3以上残存しているものは小皿B₂ =
2点、小皿C = 40点 (平均口径7.5cm、器高1.0cm)
の計42点、皿では皿C = 29点 (平均口径11.5cm、器
高2.5cm) である。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 163 (第40図) S E 134のすぐ北に位置する。
楕円形に近い平面形をもつ土坑で、長軸1.4m、短
軸約1m、検出面からの深さ約0.3mである。出土遺
物はすべて小片で、土師器小皿C・皿B₂・皿C・
伊藤分類第1段階b型式の鍋・知多編年第5型式
(13世紀前葉) と思われる山茶碗がある。Ⅲ期の土
坑と思われる。

S K 169 (第52図) S X 167の北約2.5mに位置
する。平面形は楕円形で、長軸1.3m、短軸約0.7m、
底部は2段になっており、検出面からの深さ0.25m
と約0.65mである。2つのピットが重複しているとも
考えられる。遺物は土師器皿の細片が少量出土し
たのみで、遺構の時期は不明である。

S K 173 (第54・83図) S E 172の北約5mに位
置する。平面形は方形で、一辺約2.5m、深さ0.1m
である。出土遺物には土師器小皿C・皿C (887・
888)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、知多編年第5
型式 (13世紀前葉) か第6型式 (13世紀後葉) の片
口鉢 (890)、知多産の山茶碗・壺、鉄釘がある。Ⅲ
期の土坑と思われる。

S K 174 (第54・83図) S K 173の西約4.5mに
位置する。平面形は円形に近い隅丸方形で、一辺約
1m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物
には土師器小皿B₂・小皿C・皿B₂・皿C・鍋、知
多編年第6型式 (13世紀後葉) の片口鉢 (891) が
ある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 176 (第18図) S K 129の北約4mに位置す
る。方形の平面形をもつ土坑と思われるが、北側が
確認できなかった。長辺2m以上、短辺約1.5m、
検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物は全て
小片で、土師器小皿C・皿C・伊藤分類第1段階b
型式の鍋、知多産と渥美産の山茶碗がある。Ⅲ期の

土坑と思われる。

S K 177 (第30・83図) S K 176のすぐ西に位置
する。平面形は方形で、長辺約2.4m、短辺約1.6m、
検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土
師器小皿C・皿B₂・皿C (892・893)・伊藤分類第
1段階b型式の鍋、知多産の山茶碗がある。Ⅲ期の
土坑と思われる。

S K 178 (第30・83図) S K 177の西約1.5mに
位置する。平面形は不定形で、長軸約2.8m、短軸
約2m、検出面からの深さ約0.25mである。出土遺
物には土師器小皿C (894・895)・皿C (897~899)・
杯 (896)・伊藤分類第1段階b型式 (900) と第2
段階a型式の鍋 (901)、知多編年第5型式 (第13世
紀前葉) の片口鉢 (903) と第6型式の山茶碗 (902)
がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 181 (第54・83図) S K 129の南約2mに位
置する。平面形は楕円形で、長軸約6.5m、短軸約0.
4m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物
には土師器小皿C (904)・皿B₂ (907)・皿C (905~
906) がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 183 (第51・83図) S X 188のすぐ北に位置
する。平面形は方形で、上部では長辺約1.2m、短
辺約1m、底部では長辺約1m、短辺約0.75m、検
出面からの深さ約0.2mである。D型の中世墓とも
考えられる。出土遺物には土師器小皿C (908)・皿
C (9097・910)・伊藤分類第3段階の鍋、渥美産の
山茶碗、知多産片口鉢、砥石 (911) がある。Ⅳ期
の土坑と思われる。

S K 185 (第19図) 調査区の東端、S K 183の東
約5.5mに位置する。平面形は方形と思われるが南
東側が調査区外へのびる。長辺2.5m以上、短辺約
2m、深さ約0.3mである。遺物には土師器甕の細
片と中世あるいは近世の陶器小皿の小片が出土し
たのみである。遺構の時期は中世とは断定できない。

S K 187 (36頁) 古墳時代の土坑とした。

S K 190 (第32・83図) S K 129の南端と重複す
る。平面形は方形で、上部では長辺約0.75m、短辺
約0.65m、底部では長辺約0.55m、短辺約0.45m、
検出面からの深さ約0.35mである。土坑埋土には炭
が含まれていた。出土遺物には土師器小皿B₂ (912・
913)・皿B₂ (914)・伊藤分類第1段階b型式の鍋

遺構名	位 置	平面形	規 模		時 期	実 測 図			備 考	
			上 面	深 さ		1/50	1/100	1/200		
SK 1 2	V・W	73~75	楕円形	長軸8m×短軸5m	1m	Ⅱ期		第16図		
SK 2 2	V	79	楕円形	長軸1.2m×短軸0.8m	0.6m	Ⅲ期		第16図		
SK 2 6	T	72	楕円形	長軸1.4m×短軸0.7m	0.3m	Ⅱ期	第23図			
SK 2 9	V	69	方 形	一辺2m	0.1m	Ⅳ期	第23図			
SK 3 0	V	69	円 形	径1m	0.4m	Ⅰ期かⅡ期	第23図			
SK 3 1	V	69	円 形	径0.8m	0.2m	Ⅱ期かⅢ期	第23図			
SK 4 5	T・U	22・23	方 形	長辺3.6×短辺2.5m	1.8m	Ⅰ期	第53図			
SK 4 8	V	36	円 形	径1.6m	0.2m	Ⅰ期		第11図		
SK 6 5	S	44・45	不定形	長軸1.7m×短軸1.2m	0.1m	Ⅰ期		第13図		
SK 6 6	S	45	楕円形	長軸2.6m×短軸0.9m	0.2m	Ⅰ期		第13図		
SK 6 9	S	44・45	楕円形	長軸1.4m×短軸1m	0.6m	Ⅰ期		第13図		
SK 8 0	P	47・48	不定形	長軸2m×短軸1.3m	0.2m	Ⅲ期かⅣ期		第13図		
SK 8 1	Q・R	48・49	方 形	長辺3.3m×短辺2m	0.2m	Ⅲ期	第53図	第13図		
SK 8 3	R	52	方 形	長辺1.5m×短辺1.1m	0.35m	Ⅱ期	第53図		中世墓か	
SK 8 4	P	54	楕円形	長軸1.7m×短軸1.3m	0.5m	Ⅰ期	第53図			
SK 8 6	V	55	楕円形	長軸1m×短軸0.7m	0.15m	Ⅲ期	第53図			
SK 8 9	T	57	楕円形	長軸2m×短軸1.5m	1.5m	Ⅲ期	第53図	第15図		
SK 9 9	R・S	48	楕円形	長軸2.1m×短軸1.5m	0.3m	Ⅱ期以降	第47図	第13図		
SK 1 0 1	I・J	68・69	溝 状	長さ4m以上×幅1.7m	0.5m	Ⅲ期かⅣ期		第57図		
SK 1 0 2	I	69	円 形	径1.8m	0.4m	Ⅲ期かⅣ期		第57図		
SK 1 0 3	I・J	66・67	不定形	長さ3.5m以上×幅2m	0.7m	Ⅲ期	第50図	第52図		
SK 1 0 4	K	68	円 形	径1.1m	1.5m	Ⅲ期	第54図	第52図	中世墓か	
SK 1 0 5	I	69	円 形	径2.5m	0.4m	Ⅲ期		第57図		
SK 1 0 7	K・L	68	楕円形	長軸1.3m×短軸1.1m	0.1m	Ⅱ期	第52図			
SK 1 0 8	F・G	85	溝 状	長さ2.5m以上×幅1m	0.4m	Ⅲ期かⅣ期		第58図		
SK 1 1 1	G	84	溝 状	長さ3m以上×幅1.6m	0.1m	Ⅲ期かⅣ期		第58図		
SK 1 1 4	I・J	78	円 形	径2m	0.3m	Ⅲ期	第35図			
SK 1 1 5	I	76	楕円形	長軸1.6m×短軸1.2m	0.5m	Ⅲ期		第57図		
SK 1 2 2	I	72・73	楕円形	長軸2.8m×短軸2.3m	0.8m	Ⅲ期		第57図		
SK 1 2 3	J・K	72	円 形	径1.7m	0.7m	Ⅲ期	第54図	第57図		
SK 1 2 4	I・J	71・72	円 形	径1.6m	0.4m	Ⅲ期かⅣ期		第57図		
SK 1 2 9	M・N	80・81	方 形	長辺3.4×短辺1.8m	0.2m	Ⅰ期	第32図	第31図	第18図	S B 128に付?
SK 1 3 0	M	80・81	不定形	長軸2.9m×短軸1.2m	0.35m	Ⅱ期	第54図	第37図	第18図	
SK 1 3 5	M	75・76	楕円形	長軸2m×短軸0.8m	0.3m	Ⅰ期かⅡ期		第57図		
SK 1 4 4	M	71	不定形	長軸1m×短軸0.7m	0.5m	Ⅲ期?	第55図	第38図	第57図	
SK 1 4 6	N・O	68	方 形	一辺1.7m	0.4m	Ⅲ期		第52図	第17図	

第7図 土坑一覽

遺構名	位置	平面形	規模		時期	実測図			備考	
			上面	深さ		1/50	1/100	1/200		
SK147	N・O	68・69	方形	長辺2m×短辺1.6m	0.5m	Ⅱ期		第52図	第57図	
SK148	M	68	方形	長辺1.35m×短辺1m	0.1m	不明	第54図	第52図		中世基か
SK150	L	68	円形	径0.8m	0.4m	Ⅳ期	第50図	第52図		
SK153	L・M	72	方形	長辺4.5m×短辺2.2m	0.3m	Ⅲ期	第55図	第38図	第57図	S B158に伴う
SK154	N	72	楕円形	長軸1.1m×短軸0.95m	0.25m	Ⅱ期		第38図		
SK155A	L・M	72・73	円形	径2.2m	0.75m	Ⅲ期	第55図			
SK155B	M	73	楕円形	長軸2m×短軸1.5m	0.5m	Ⅱ期	第55図			
SK156	M	73	楕円形	長軸1.6m×短軸1.1m	0.6m	Ⅱ期	第55図		第57図	
SK161	L・M	71・72	円形	径1.6m	0.4m	Ⅱ期	第55図	第38図	第57図	
SK163	N	70	楕円形	長軸1.4m×短軸1m	0.3m	Ⅱ期		第40図	第57図	
SK169	M・N	66	楕円形	長軸1.3m×短軸0.7m	0.65m	不明		第52図		
SK173	U・V	67	方形	一辺2.5m	0.1m	Ⅱ期	第54図			
SK174	U	65・66	方形	一辺1m	0.1m	Ⅱ期	第54図			
SK176	O	80	方形	長辺2m以上×短辺1.5m	0.2m	Ⅱ期			第18図	
SK177	O	79・80	方形	長辺2.4m×短辺1.6m	0.1m	Ⅱ期		第30図	第18図	
SK178	N・O	78・79	不定形	長軸2.8m×短軸2m	0.25m	Ⅱ期		第30図	第18図	
SK181	L・M	81	楕円形	長軸6.5m×短軸0.4m	0.4m	Ⅱ期	第54図		第18図	
SK183	M	87	方形	長辺1.2m×短辺1m	0.2m	Ⅳ期	第51図		第19図	中世基か
SK185	N・O	89	方形	長辺2.5m以上×短辺2m	0.3m	不明			第19図	
SK187	Q・R	90	不明	長さ6.8m以上	1m	古墳時代?			第19図	
SK190	M	81	方形	長辺0.75m×短辺0.65m	0.35m	Ⅱ期	第32図	第31図	第18図	
SK195	Q	83・84	円形	径0.9m	0.25m	Ⅱ期			第19図	
SK197	S	84	方形	長辺2.5m×短辺1.8m	0.1m	Ⅱ期		第41図	第19図	
SK198	Q	71・72	溝状	長さ3.3m×幅0.7m	0.1m	古墳時代		第24図	第17図	
SK203	O	79	楕円形	長軸1.8m×短軸1.2m	0.1m	Ⅱ期			第18図	
SK204	T	78	不定形	長軸3m×短軸2m	0.7m	Ⅳ期	第56図			
SK208	L	73	楕円形	長軸1.5m×短軸1.2m	0.4m	Ⅲ期	第55図		第57図	
SK209	T	79	不明	長軸2.7m×短軸1.7m	3.5m	Ⅲ期	第56図			
SK212	N・O	69・70	方形	長辺2.7m×短辺2.4m	1.5m	Ⅱ期かⅢ期			第57図	
SK214	U	79	方形	一辺2m	0.6m	Ⅲ期	第56図		第16図	
SK219	O	69	楕円形	長軸1.1m×短軸0.6m	0.45m	Ⅳ期	第54図	第52図	第17図	
SK220	U	66	円形 円形	径0.4m 径0.3m	0.3m 0.6m	Ⅱ期 Ⅰ期	第54図	第52図	第17図	2つのピットが隣接
SK221	O	68・69	楕円形	長軸1.25m×短軸0.9m	0.3m	Ⅳ期	第56図	第52図	第17図	中世基か
SK222	O	68	楕円形	長軸1.4m×短軸1.2m	0.95m	Ⅱ期	第56図	第52図	第17図	
SK228	P・Q	66・67	方形	長辺5.3m×短辺4.5m	0.4m	Ⅳ期			第17図	
SK229	Q	68・69	長方形	長辺3.3m×短辺1m	0.2m	不明			第17図	

(915)、知多編年第5型式(13世紀前葉)の山茶碗(916)、渥美産の山茶碗、土製支脚がある。Ⅱ期の土坑と思われる。

SK195(第19・83図) SE194の北東約5mに位置する。平面形はややいびつな円形で、径約0.9m、検出面からの深さ約0.25mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C(917・918)・鍋、渥美産の山茶碗がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

SK197(第41・83図) SK195の北東約7mに位置する。平面形は方形で、長辺約2.5m、短辺約1.8m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C・皿B₂・皿C(919)・伊藤分類第1段階b型式(921)と第2段階b型式(922)の鍋、知多産の山茶碗と片口鉢、鉄釘が出土している。Ⅲ期の土坑と思われる。

SK198(36頁) 古墳時代の土坑とした。

SK203(第18・83図) SK178のすぐ北東に位置する。平面形は楕円形に近いものと思われるが、北側が確認できなかった。長軸約1.8m、短軸約1.1m以上、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C・皿B₂・皿C(923)・伊藤分類第1段階b型式の鍋・知多産の山茶碗、竜泉齋系青磁碗、鉄釘がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

SK204(第56・83・84図) SK196(20号墳)の北約7mに位置する。平面形は不定形で、長軸約3m、短軸約2m、検出面からの深さ約0.7mである。出土遺物には土師器小皿C(924・925)・皿B₂(928)・皿C(926・927)・羽釜(937)、伊藤分類第1段階a型式(930)・第1段階b型式(929)・第3段階b型式(931~936)の土師器鍋、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗(938)、平瓦がある。SK204付近は遺構の重複が激しく出土遺物にも混入がみられるが、Ⅳ期の土坑と思われる。

SK208(第55・84図) SK153の南東約3.5mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約1.5m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿B₂・小皿C・皿B₂(939)・皿Cがある。Ⅲ期の土坑と思われる。

SK209(第56・84図) SK204の南東約1mに位置する。他の遺構がかなり重複しているために平面形はよくわからないが、長軸約2.7m、短軸約1.7

m、検出面からの深さ約3.5mとしておく。出土遺物には土師器小皿C(940)・皿C(941)・鍋(942)、渥美産の甕、知多産の山茶碗が出土している。Ⅲ期の土坑と思われる。

SK212(第57・84図) SE134の北約1.5mに位置する。平面形は方形で、長2.7m、短辺約2.4m、検出面からの深さ約1.5mである。出土遺物には土師器小皿B₂(943・944)・小皿C・皿B₂(945)・皿C・伊藤分類第1段階b型式の鍋(948)・羽釜、景徳鎮産の白磁皿である。Ⅱ期かⅢ期の土坑と思われる。

SK214(第56・84図) SK204の東約2mに位置する。他の遺構が重複しているために平面形はよくわからないが、一辺約2mの方形と思われる。検出面からの深さは約0.6mである。出土遺物には土師器小皿C(948)・皿B₂(952)・皿C(949~952)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、渥美編年で12世紀後葉から12世紀末葉とされる山茶碗(953・954)、土鍾(955)が出土している。Ⅲ期の土坑と思われる。

SK219(第54・84図) SK212の北約1mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約1.1m、短軸約0.6m、検出面からの深さ約0.45mである。出土遺物には土師器小皿C(956・957)・皿(958)・伊藤分類第3段階a型式の鍋、瀬戸編年の古瀬戸後Ⅰ期あるいは後Ⅱ期(14世紀末葉~15世紀初葉)の灰柄平碗がある。Ⅳ期の土坑と思われる。

SK220(第54・85図) SK174のすぐ南東に位置する。検出当初は平面形が楕円形の土坑と思われたが、平面形が円形の2つのピットが隣合っていると考えたほうがよさそうである。東側のピットは径約0.4m、検出面からの深さ約0.3m、出土遺物は土師器小皿B₂(961~963)、西側のピットは径約0.3m、検出面からの深さ約0.6m、出土遺物は土師器小皿B₂(964)である。時期は、東側ピットがⅡ期、西側のピットがⅠ期と思われる。

SK221(第56・81図) SK174のすぐ北に位置する。平面形はかなり乱れているが楕円形と思われる。上部では長軸約1.25m、短軸約0.9m、底部では長軸約1m、短軸約0.6m、検出面からの深さ約0.3mで、埋土には炭が認められた。D型の中世墓とも考えられる。出土遺物には土師器小皿C(965・

966)・皿C(967・968)・伊藤分類第3段階a型式かb型式の鍋、槍と思われる両刃の鉄器(971)、用途不明の鉄製品(970)、鉄釘がある。Ⅳ期の土坑と思われる。

S K 222(第56・85図) S K 221の西約2mに位置する。平面形は円形に近い楕円形で、長軸約1.4m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.95mである。出土遺物には土師器小皿C(972)・皿B₂(973)・鍋(974・975)・知多産の山茶碗がある。974は伊藤分類第1段階b型式の鍋である。Ⅱ期の土坑と思われる。

S K 228(第17図) S X 215(21号墳)の西約4mに位置する。平面形が方形の大きな土坑で、長辺約5.3m、短辺約4.5m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は小片ばかりで、土師器小皿C・皿C・鍋、知多産の山茶碗と片口鉢、瀬戸産の灰袖平碗がある。Ⅳ期の土坑と思われる。

S K 229(第17図) S X 215(21号墳)の墳域のほぼ中央に位置する。平面形はやや乱れているが隅丸の長方形で、上部では長辺約3.3m、短辺約1m、底部では長辺約2.95m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物は土師器小皿C・皿Cの細片のみである。

6. 溝・道路

調査区内には、古墳の周溝を除いて、溝と思われる遺構は40数条みられる。そのうちの33条に遺構番号を付した。また、溝には、2条一組で道路の側溝と考えられるものが計4条含まれている。

S D 1(第85図) 調査区の北東端に位置する延長8m以上、幅約0.8m、検出面からの深さ約0.2mの溝である。出土遺物は全て小片で、土師器小皿C・皿B₂・皿C・鍋(976)、山茶碗、青磁、白磁などがある。Ⅳ期の溝と思われる。

S D 6(第19・85図) S D 1の北西約23mに位置する。東側は崖によって切れているが、調査区外へのびていたと思われる。延長8m以上、幅約0.6m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物は土師器皿C・伊藤分類第3段階b型式の鍋(977)のみで、いずれも小片である。Ⅳ期の溝と思われる。

S D 8(第16・59・85～88図) S D 6の北西約

16mに位置する。平面でみるとL字形になっており、東西方向に約19m、ほぼ直角に曲がって南北方向に12mある。東端と北端は完全に終わっており、それ以上は続かない。幅は2mから3m、検出面からの深さは0.9mから1.3mで、壁面は急傾斜となっている。底面はほぼ平坦であるが東西部分に1か所、南北部分に2か所、0.2m程の段がみられる。かなりの計画性をもった堀ともいべき大きな溝であるが、この溝で囲まれた部分が他の遺構によって大きく攪乱されているため、その性格はよくわからない。溝埋土から土師器小皿A(991・992)・小皿B₂(990)・小皿B₂(978～989)・台付小皿(993)・皿B₂(996～1011)・伊藤分類第1段階と第2段階の鍋(10121024)・羽釜(1025・1026)・器台の柱状部(1028)・器種不明の高台部(1027)、瓦器碗(1029)、知多産の山皿(1030～1034)・山茶碗(1035～1045・1047・1048)・片口鉢(1049・1050)・甕、渥美産の小杯(1052)・山茶碗(1046・1051)・片口(1053)、竜泉窯系青磁皿(1055)・碗(1054)、景徳鎮産白磁皿(1056)、土製支脚(1059)、土錘(1062)、刀子(1060・1061)、鉄釘、古墳時代の須恵器杯蓋・甕など多量の遺物が出土した。Ⅱ期の溝と思われる。

S D 10A・S D 10B(第16・88図) S D 8に接している。検出当初は一つの溝と思われたため溝として報告するが、2基の大きな土坑が並んでいると考えたほうがよいと思われる。S D 10Aは延長約6.5m、幅約3m、検出面からの深さ約0.9mで、出土遺物には土師器小皿A(1063)・小皿B₂(1062)・小皿C・皿B₂(1065)・皿C(1066～1068)・羽釜(1070・1071)・鍋(1072)、渥美産の山茶碗(1069)・片口鉢、知多産の山茶碗、古墳時代の須恵器片がある。S D 10Bは延長約6m、幅約3.5m、検出面からの深さ約0.9mで、出土遺物には土師器小皿B₂(1073)・皿B₂(1074・1075)・鍋、渥美産の山皿(1076)・山茶碗、知多産の山茶碗、竜泉窯系青磁碗(1077)、土錘(1078～1080)、鉄釘、古墳時代の須恵器片がある。S D 10AはⅢ期、S D 10BはⅡ期の遺構で、両遺構とも土取り穴と思われる。

S D 11(第16・88図) S D 8の南側と重複する延長9.5m以上、幅約0.7m、検出面からの深さ約0.4mの溝である。出土遺物には小皿C・皿C(1081)・

1082)・鍋(1084・1085)、瀬美産の山茶碗(1083)、知多産の山茶碗と壺が出土している。Ⅳ期の溝と思われる。

SD13(第16・88図) SD8のすぐ南東に位置する延長6m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.3mの溝である。出土遺物には小皿B₁・皿B₁(1086)・鍋(1087)、瀬美産の山茶碗、鉄釘がある。Ⅰ期の溝と思われる。

SD17(第59・88図) SD8の北端と重複している延長10m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.7mである。出土遺物には小皿C(1088)・皿C(1089・1090)・伊藤分類第1段階b型式の鍋(1091)、瀬美産の山茶碗(1092)、竜泉窯系青磁碗、丸瓦がある。切り合い関係からSD8より新しいことがわかる。Ⅳ期の溝と思われる。

SD18(第16・88図) SD8の西約3mにある。SD8の南北部分にはほぼ並行して走り、南端近くはSD8のコーナー部分に沿うように東へ曲がっている。途中で一部途切れているが、この部分は溝の深さの変化をみるかぎり削平によって消滅したのではなく、陸橋を意識していると思われる。幅は約0.6m、検出面からの深さ約0.3m、延長は陸橋の北側部分が7.5m以上、南側部分が約19mである。出土遺物には土師器小皿B₁・小皿B₂(1093・1094)・皿B₁・皿B₂(1095・1096)・伊藤分類第1段階a型式の鍋(1097)がある。Ⅱ期の溝と思われ、SD8との強い関係が想定される。

SD35A(第59・88・89図) 調査区の中央付近をほぼ南北に横切る大きな溝で、総延長46m以上、北側では幅約1.5m、検出面からの深さ約0.6m、南側では幅約3.5m、検出面からの深さ約1.6mである。北から南へと水が流れていたと思われる。出土遺物には土師器小皿C(1102・1103)・小皿B₁(1098~1101)・皿B₁(1105~1107)・皿B₁(1104)・皿C(1109~1111)・盤・ミニチュア羽釜(1116)・伊藤分類第1段階a型式の鍋、瀬美産の小杯(1117)・山茶碗(1118・1119・1121・1122)・片口鉢(1124)、知多産の山茶碗(1120)・片口鉢(1123)・壺、土製支脚(1125)がある。切り合い関係からSB97(Ⅲ期)・SB98(Ⅱ期)より古いことがわかる。Ⅰ期からⅡ期にかけての溝と思われる。

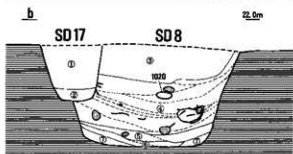
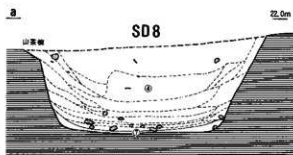
SD35B(第89図) SD35Aが屈曲する部分から派生する溝で、SD35Aの流れを直線的に変更するために新たに作られたと思われる。SD35Aから派生する部分のみをみると、幅1.2~1.5m、検出面からの深さ約0.5~1.3m、延長21m以上であるが、SD35Aと共有する部分を含めると総延長37m以上となる。出土遺物には土師器小皿C(1126)・皿B₁・皿C(1127~1129)・鍋、瀬美産の山茶碗(1131)、竜泉窯系青磁碗(1132)・鉄釘(1133)がある。切り合い関係からSB76(Ⅱ期)より新しく、SB85(Ⅲ期)より古いことがわかる。Ⅱ期からⅢ期にかけての溝と思われる。

SD36(第89図) SD35の中央部分と重複する延長25m以上、幅約3mの溝で、検出面からの深さは北側で約0.5m、南側で約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C(1134)・皿C(1135)・鍋、知多産の壺、古墳時代の須恵器杯身(42・43)がある。Ⅲ期かⅣ期の溝と思われる。

SD39(第59・90図) 調査区の西端近くから東へ流れる溝で、延長43m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.3mである。西側部分は自然流路的な様相をしているが、東側にはほぼ一直線に流れ、掘形もかなりしっかりしている。遺物は土師器小皿B₁(1137~1144)・皿A(1156)・皿B₁(1145~1155)・鍋、瀬美編年で12世紀末葉から13世紀前葉とされる山皿・山茶碗(1162~1165)、土製支脚(1166)があり、溝の東端近くから多く出土した。1157は伊藤分類第1段階b型式、1158~1160は第1段階a型式の鍋である。Ⅰ期の溝と思われる。

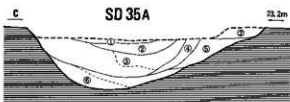
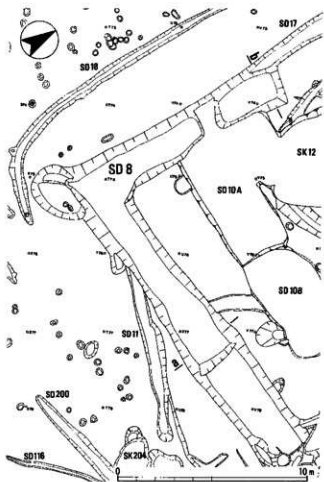
SD42(第90図) 調査区の西端近くに位置する延長13m以上、幅約0.7m、検出面からの深さ約0.3mの溝である。出土遺物には土師器小皿B₁(1167)・小皿B₁・皿B₁(1168)・皿B₁・鍋がある。Ⅰ期かⅡ期の溝と思われる。

SD43(第9・91図) 調査区の西端近くを南西から北東方向へ横切る大きな溝で、自然流路と思われる。延長23m以上、幅6~8m、検出面からの深さ0.4~1.2mである。遺物は土師器小皿B₁(1170~1179)・皿B₁(1180~1186)・盤・伊藤分類第1段階a型式の鍋(1197・1198)、瀬美編年で12世紀末葉から13世紀前葉とされる山皿(1187・1190)・



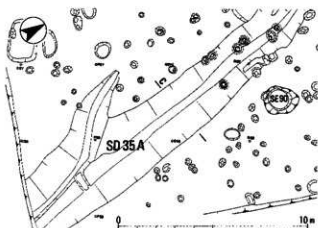
SD 8・17 埋土

- ① 粗砂が混じる暗褐色黒ボク
- ② 粘質の暗褐色黒ボク
- ③ 埴山礫層土
- ④ 土器を多量に含む暗褐色黒ボク
- ⑤ 壱大の礫層
- ⑥ 礫砂層
- ⑦ 暗褐色黒ボクと埴山礫層土の混成土



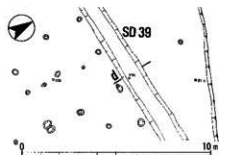
SD 35A 埋土

- ① 黒褐色黒ボク
- ② 埴山礫層土
- ③ 黒色黒ボク
- ④ 粗砂を含む埴山礫層土
- ⑤ や粘質の黒褐色黒ボク
- ⑥ や粘質の埴山礫層土



SD 39 埋土

- ① 黒色黒ボク
- ② 粗砂を多く含む黒褐色黒ボク
- ③ 黒褐色の粗砂層
- ④ 黒色黒ボク
- ⑤ 黒色の粗砂層
- ⑥ 粗砂を多く含む暗褐色黒ボク
- ⑦ 暗褐色黒ボクと埴山礫層土の混成土



第59図 SD 8・17・35A・39土層断面実測図 (1 : 50)

※平面図は 1 : 200

山茶碗(1191~1196)、竜泉窯系青磁碗などがあり、溝の東端近くから多く出土した。土師器小皿・皿で口縁部が1/3以上残存しているものは、小皿B₁=70点(平均口径8.4cm、器高1.4cm)、皿B₁=51点(平均口径14.5cm、器高2.7cm)である。I期の溝と思われる。

S D47(第11・91図) S X49(8号墳)の墳域内に位置する延長5.5m以上、幅約0.3m、深さ約0.1mの小規模な溝である。遺物は伊藤分類第4段階の土師器鍋の小片が出土したのみである。IV期末以降の溝と思われる。

S D50(第11・91図) S D47の西側に位置する溝である。S X53(9号墳)を横切る部分は溝が途切れているようにみえるが、S X53の周溝に沿って若干曲がっていたのを見逃したのかもしれない。延長30m以上、幅約0.6m、検出面からの深さ約0.3mである。出土遺物には土師器小皿B₁(1200)・小皿C・皿C・伊藤分類第1段階b型式の鍋がある。III期の溝と思われる。

S D55(第13図) S X61(11号墳)のすぐ南に位置する周溝状の溝である。細長い土坑が2基つながっているとも考えられる。延長10m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.5mである。出土遺物がないため時期は不明であるが中世の遺構とした。

S D62(第13・91図) S X61(11号墳)の東部分を横切っては南北に流れる細く浅い溝で、延長約17m、幅約0.5m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿B₁・皿B₂・皿C・鍋(1202)、瀬美産の山茶碗(1203)がある。II期かIII期の溝と思われる。

S D71 S D62の西方に位置する東西に流れる溝で、延長18m以上、幅約0.8m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物がないため時期は不明であるが中世の遺構とした。

S D73(第91図) S D43を横切る溝で、自然流路と思われる。延長約36m、幅約1.2m、検出面からの深さ約0.3mで、遺物は土師器皿B₁(1204)が1点出土したのみである。I期の溝と思われる。

S D116・S D117・S R87(第57・91図) S X120付近から北東方向へ流れる2条の溝とその溝を側溝とする1条の道路である。S D116は東側の側

溝で、延長47m以上、幅0.6m、検出面からの深さ約0.1m、S D117は西側の側溝で、延長36m以上、幅0.7m、検出面からの深さ約0.2mである。この2条の溝を側溝とするS R87は幅約2mで、調査区を南西から北東方向へ横切っていたと考えられる。S X120付近では数cm程の大きさの砂利が敷かれているのが確認できた。遺物はS D116から土師器皿B₁・皿B₂・皿C・鍋(1205)、瀬美産の山茶碗、S D117から土師器皿B₂・皿C(1206)・鍋(1207)、瀬美産の山茶碗が出土している。II期からIII期にかけての道路と思われる。

S D118(第57・91図) S X120付近から北東へ直線的に流れる延長38m以上、幅約0.7m、深さ約0.5mの溝である。出土遺物には土師器小皿B₁(1208)・小皿C・皿B₂(1209~1213)・皿C・盤・火鉢・伊藤分類第1段階a型式(1214・1216)と第1段階b型式(1215・1217)の鍋、知多編年第5型式(13世紀前葉)の山茶碗(1218・1219・1221)と瀬美編年で13世紀前葉とされる山茶碗(1220)、知多産の片口鉢、竜泉窯系青磁碗などがある。II期の溝と思われる。

S D119(第57図) S D117とS D118の間にある小規模な溝で、延長約11m、幅約0.3m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物がないため時期は不明であるが中世の遺構とした。

S D121(第57図) S D118の西にある溝で、L字形に屈曲している。総延長は28m以上、幅約0.6m、検出面からの深さ約0.1mである。遺物は土師器皿B₂と皿Cの小片が出土したのみである。III期の溝と思われる。

S D200(第92図) S D8の南に位置する小規模な溝で、延長約10m、幅約0.7m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿B₁(1223)・小皿B₂(1222)・皿A(1224)・鍋、知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀初頭)の山茶碗がある。I期の溝と思われる。

S D202(第19・92図) S D6のすぐ西に位置する。L字形に屈曲している小規模な溝で、総延長は約10m、幅約0.5m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物は土師器小皿B₁・小皿C・皿C(1227)がある。III期の溝と思われる。

選標名	位置	規 模	時期	備 考	選標名	位置	規 模	時期	備 考
SD 1	S-U 90	延長=8m以上 幅=0.8m、深さ=0.2m	Ⅳ期		SD 50	P-W 37-38	延長=30m以上 幅=0.6m、深さ=0.3m	Ⅱ期	
SD 6	U・V 82-84	延長=8m以上 幅=0.6m、深さ=0.1m	Ⅳ期		SD 55	P・Q 45-47	延長=10m以上 幅=1m、深さ=0.5m	不明	2基の土 坑か?
SD 8	S-V 73-78	延長=19m+12m 幅=2~3m 深さ=0.9~1.3m	Ⅱ期	幅か? L字形に 曲がる	SD 62	Q-U 44-46	延長=17m 幅=0.5m、深さ=0.1m	Ⅱ期か Ⅲ期	
SD10A	U・V 74-76	延長=6.5m 幅=3m、深さ=0.9m	Ⅲ期	土取り穴 か?	SD 71	O-Q 39-43	延長=18m以上 幅=0.8m、深さ=0.2m	不明	
SD10B	U-W 75-77	延長=6m 幅=3.5m、深さ=0.9m	Ⅱ期	土取り穴 か?	SD 73	S・T 22-31	延長=36m 幅=1.2m、深さ=0.3m	Ⅰ期	自然流路
SD 11	T 76-78	延長=9.5m以上 幅=0.7m、深さ=0.4m	Ⅳ期		SD116	I-T 75-79	延長=47m以上 幅=0.6m、深さ=0.1m	Ⅱ期か Ⅲ期	SR87の 側溝
SD 13	U・V 78-79	延長=6m以上 幅=1m、深さ=0.3m	Ⅰ期		SD117	H-P 74-77	延長=36m以上 幅=0.7m、深さ=0.2m	Ⅱ期か Ⅲ期	SR87の 側溝
SD 17	V・W 72-73	延長=10m以上 幅=1m、深さ=0.7m	Ⅳ期		SD118	H-Q 74	延長=38m以上 幅=0.7m、深さ=0.5m	Ⅱ期	
SD 18	R-W 71-75	延長=19m+7.5m以上 幅=0.6m、深さ=0.3m	Ⅱ期	中断部分 あり	SD119	J-L 74-75	延長=11m 幅=0.3m、深さ=0.1m	不明	
SD35A	O-X 52-59	延長=30m以上+16m以上 幅=1.5m~3.5m 深さ=0.6m~1.6m	Ⅰ期 ~Ⅱ期		SD121	H-L 70-74	延長=14m以上+14m 幅=0.6m、深さ=0.1m	Ⅱ期	L字形に 曲がる
SD35B	O-T 53-55	延長=21m以上+16m以上 幅=1.2m~3.5m 深さ=0.5~1.3m	Ⅱ期 ~Ⅲ期	SD35A の流路改 修溝	SD200	S-T 77-79	延長=10m 幅=0.7m、深さ=0.4m	Ⅰ期	
SD 36	T-X 51-54	延長=7m+18m以上 幅=3m、深さ=0.1~0.5m	Ⅲ期か Ⅳ期	L字形に 曲がる	SD202	S・T 81-82	延長=10m 幅=0.5m、深さ=0.1m	Ⅱ期	L字形に 曲がる
SD 39	S-W 23-32	延長=43m以上 幅=1m、深さ=0.6m	Ⅰ期		SD210	O-Q 60-65	延長=46m以上 幅=0.6m、深さ=0.1m	Ⅳ期末 以降	SR91の 側溝
SD 42	R-U 19-21	延長=13m以上 幅=0.7m、深さ=0.3m	Ⅰ期か Ⅱ期		SD211	P・Q 70-71	延長=6m 幅=0.4m、深さ=0.1m	不明	
SD 43	R-V 24-28	延長=23m以上 幅=6~8m、 深さ=0.4~1.2m	Ⅰ期	自然流路	SD217	Q-S 63-71	延長=36m 幅=1m、深さ=0.2m	Ⅳ期末 以降	SR91の 側溝
SD 47	U・V 39	延長=5.5m以上 幅=0.3m、深さ=0.1m	Ⅳ期末 以降		SD218	N-R 60-76	延長=77m以上 幅=0.8m、深さ=0.2m	Ⅰ期	
					SD230	L-N 62	延長=10m以上 幅=0.4m、深さ=0.1m	Ⅲ期か Ⅳ期	

第8表 溝 一 覧

S D 210・S D 217・S R 91 (第92図) S X 215 (21号墳)の北端をかすめて走る1条の道路とその両側の側溝である。S D 210は南側の側溝で、延長46m以上、幅約0.6m、検出面からの深さ約0.1m、S D 217は北側の側溝で、延長約36m、幅約1m、検出面からの深さ約0.2m、S R 91の幅は約1.5mである。遺物はS D 210から土師器皿・盤の細片と土鍾(1228)、S D 217から土師器小皿C・皿B₁・皿C・鍋、知多産の山茶碗、瀬戸産の天目茶碗、青磁碗などの細片が出土している。Ⅳ期末以降の道路と思われる。

S D 211 (第17図) S X 215T (21号墳)のすぐ南東に位置する周溝状の溝である。延長約6m、幅約0.4m、検出面から約0.1mの小規模なもので、出土遺物はない。

S D 218 (第92図) S R 91の南約10mに位置し、ほぼ東西に流れる溝で、延長77m以上、幅約0.8m、検出面からの深さ約0.2mである。遺物は土師器小皿B₁(1229)・皿B₁(1230)・伊藤分類(仮)A段階(1231)と第1段階a型式の鍋、渥美編年で12世紀中葉とされる山茶碗などが出土している。Ⅰ期の溝と思われる。

S D 230 (第92図) S D 218の西端近くに位置し、

ほぼ南北に流れる小規模な溝である。幅約0.4m、検出面からの深さ約0.1mで、延長は10m以上であるが、S X 32 (5号墳)の南にある長さ約4mの溝状の遺構がS D 230の続きだとすれば総延長約35m以上となる。遺物は土師器小皿C (1234~1236)が出土している。Ⅲ期かⅣ期の溝と思われる。

7. その他の遺構

S Z 132 (第56・92図) S K 124のすぐ北に位置する性格不明の集石遺構である。拳大から人頭大の石が1.4m×0.4mの範囲に集められており、その下には遺構らしいものは認められなかった。石と石の間から渥美産の山茶碗(1237)、知多産の片口鉢・甕の破片が出土している。Ⅱ期かⅢ期の遺構と思われる。

8. 包含層・ピット出土の遺物

包含層・ピット・遺構番号を付さなかった遺構から出土した中世の遺物は整理用コンテナで50箱程ある。第92図に掲載したのはその一部で、観察結果は第9表に記載した。また、陶器類は第11表にも記載されている。なお、1244・1245は第49図、1258は第37図に出土位置を示した。

【註】

- ① 中村浩『陶器目録』朝大東洋歴史文化財センター1978
- ② a 藤澤良祐「長野県出土の古瀬戸について」『信濃 第31巻 第11号』信濃史学会 1979
b 藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』瀬戸市歴史民俗資料館 1982
c 藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅱ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅱ』瀬戸市歴史民俗資料館 1991
d 藤澤良祐「山茶碗と中世集落」『尾呂』瀬戸市教育委員会 1990
- ③ 中野晴久「常滑瀬戸」『東日本における古代・中世産業の諸問題』大戸古窯跡群検討会・会津若松市教育委員会 1992
- ④ 『愛知県古窯跡群分布調査報告(V)』愛知県教育委員会 1986

- ⑤ 伊藤裕博「中世南伊勢系土師器に関する一試論」[Mie history] vol. 1 三重歴史文化研究会 1990
伊藤裕博氏は、中世南伊勢系の鍋の分類にあたっては口縁部の形態とともに頸部の形態も重視しているが、蚊山遺跡左部地区出土のものも伊藤分類にあてはめるにあたっては、やむをえず口縁部の形態のみで判断したものもあった。
- ⑥ 亀井明徳氏に直接指導していただいたが、個々の遺物の産地や時期については指導のもとで前川が解釈したものである。
- ⑦ 小坂宣広「掘立住建物に関する一考察」[Mie history] vol. 5 三重歴史文化研究会 1993. 2

Ⅳ. 出土遺物の観察

敷山遺跡左郡地区出土遺物のうち実測図を掲載した1265点の観察結果を「第9表 出土遺物観察表」に以下の要領でまとめた。

1. 遺物番号

上段には報告書内に実測図を掲載した遺物の通し番号（遺物番号）を、下段には遺物取蔵に関する遺物整理番号を示した。

2. 器種

上段に縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶器・磁器・石器・鉄製品等の区別を、下段に小皿・皿・杯・椀・鉢・鍋・壺・甕等の器形を示した。なお、土師器小皿・皿についてはさらに細分を行った。

土師器小皿

A 口縁部の内外面にヨコナデが幅広く施されている。口径は9cm前後である。

B 口縁端部の内外面にヨコナデが施されている。ヨコナデ幅は狭く、外面のみのものもある。胎土には砂粒を多く含み、器壁はやや厚い。口径は8cm前後である。

B 口縁端部の外面のみにヨコナデが認められる。ヨコナデ幅は狭く、その有無の判断が困難なものもある。胎土にはあまり砂粒を含まない。器壁は薄い。口径は7.5～8cmのものが多い。

C ヨコナデは認められない。外面にはオサエ痕が目立つが内面は平滑である。胎土にはあまり砂粒を含まず、色調は白っぽい。器壁はかなり薄く、口縁端部が尖る。口径は7.5～8cmのものが多い。

土師器皿

A 口縁部の内外面にヨコナデが幅広く施されている。口径は15cm前後である。

B 口縁端部の内外面にヨコナデが施されている。ヨコナデ幅は狭く、外面のみのものもある。胎土には砂粒を多く含み、器壁はやや厚い。口径は14cm前後である。

B 口縁端部の外面のみにヨコナデが認められる。ヨコナデ幅は狭く、その有無の判断が困難なものもある。胎土にはあまり砂粒を含まないが、個体によってはかなり多いものもある。器壁は薄い。口径は12.5～13cmのものが多い。

C ヨコナデは認められない。外面にはオサエ痕が目立つが内面は平滑である。胎土にはあまり砂粒を含まず、色調は白っぽい。器壁はかなり薄く、口縁端部が尖る。口径は11～12cmのものが多い。

3. 出土位置

主に遺物が出土した小地区を示した。

4. 計測値と残存度

口径＝口縁部径、台径＝高台端部径、底径＝平底の土器の底部径、体径＝体部最大径のことである。数値はmm単位で表したが、残存度が低く復元数値が不確かなものについては含みをもたせた。また、完存に近いものでも歪みが大きいものについては最小と最大の計測値を併記した。残存度は各部位の計測値の後ろに大ききな数値を分数で示した。口径のところに完存と示してあっても底部が欠損している場合があるので注意願いたい。

5. 形態・技法・調整等の特徴

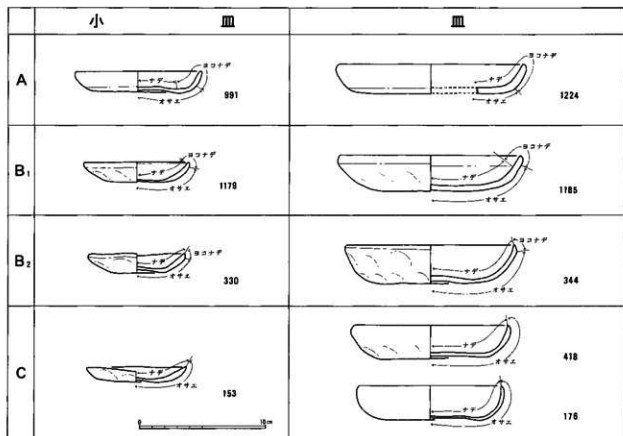
調整の特徴を主に示し、最小限の記述にとどめた。

6. 色調

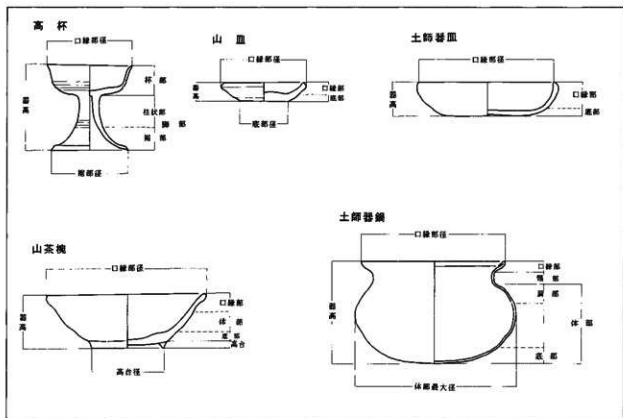
色調の名称は日本色研事業株式会社発行の「新版標準土色帳」（1987年版）による。

7. 胎土

胎土に含まれる砂粒の大きさは「砂粒・細砂粒・微砂粒」、砂粒の量は「多含・含・少含」のそれぞれ3区分とした。また、砂粒がほとんど認められないものについては「精良」とした。



第60図 土器器小皿・皿分類図 (1 : 3)



第61図 土器細部の名称と計測位置図

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
------	----	------	----------------	--------------	-----	-----

《弥生時代以前の遺物》

1 000-002	縄文土器 鉢	T86 包含層		(口縁部片) 外面に口縁部に沿う沈線1条。器壁の磨減激しく調整不明。	5YR 6/6 橙	砂粒多含
2 000-013	縄文土器 鉢	N75 S E 157		(口縁部片) 外面に縦方向の沈線2条。器壁の磨減激しく調整不明。	10YR 6/4 に近い黄緑	砂粒多含
3 000-001	縄文土器 鉢	O38 包含層		(体部片) 外周は磨消陶文。器壁の磨減激しく調整不明瞭。	10YR 6/4 に近い黄緑	砂粒多含
4 000-004	石器 磨製石斧	W36 包含層	長11.9cm、幅5.0cm、厚3.0cm、重量243.7g (完存)			緑泥片岩製
5 000-003	弥生土器 盃	G85 包含層	口径：14.4 (1/9)	内外面ヨコナデ。外面に細線模陶文。内面は磨減激しく。	外：10YR 7/3 に近い黄緑 内：10YR 7/4 に近い黄緑	砂粒多含

《古墳時代の遺物》

S X 4 (紋山1号墳)

6 004-001	土師器 壺	T88 周溝	(底径1/2) (台径欠損)	体部下半外面ハケ目、内面ナデ。台付壁。	7.5YR 8/4 浅黄緑	砂粒多含
--------------	----------	-----------	-------------------	---------------------	---------------	------

S X 1 5 (紋山4号墳)

7 015-003	須恵器 杯身	W75 周溝	口径：11.8 器高：3.5 (3/4)	内外面ロクロナデ。底面外面へり切り未調整。突起不良のため器壁の磨減激しく。	10GY 7/1 明緑灰	細砂粒含
8 015-002	須恵器 杯蓋	W75 周溝	口径：11.6 器高：4.7 (完存)	内外面ロクロナデ。天井部外面へり切り未調整。口縁部ナデ。口ロ右回転。	10BG 6/1 青灰	砂粒多含
9 015-005	須恵器 杯蓋?	V75 包含層	口径：11.0前後 (1/8)	内外面ロクロナデ。	5BG 7/1 明青灰	微砂粒含
10 015-001	須恵器 高杯	V74 周溝	口径：11.0前後 器高：11.0 胎厚：9.7 (1/2)	内外面ロクロナデ。杯底面外面ロクロナデ。杯口部に磨めて陶質化した2方2段溝から。口ロ右回転。	10BG 6/1 青灰	砂粒含
11 015-004	須恵器 壺	W75 周溝	口径：8.5 器高：4.3 (3/4)	内外面ロクロナデ。底面外面へり切り未調整。一底突起不良。	5BG 6/1 青灰	微砂粒含
12 000-044	土師器 (ヒツナ7号)	V74 包含層	口径：7.3 (1/5)	内外面ナデ。口縁部内外面ロクロナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含

S X 3 2 (紋山5号墳)

13 032-006	須恵器 杯蓋	W99 S X 38 包含層	口径：14.8 器高：4.0前後 (1/4)	内外面ロクロナデ。天井部外面ロクロナデ。内面に同心円状突起具成。口ロ右回転。	7.5GY 8/6 明緑灰	微砂粒含
14 032-007	須恵器 杯身	W99 S X 38	口径：14.0前後 (1/8)	内外面ロクロナデ。	5BG 6/1 青灰	細砂粒含
15 032-002	須恵器 残塊	V61・W63 周溝		(体部片) 外周ハケ目、内面ロクロナデ。	10BG 7/1 明青灰	細砂粒含
16 032-001	須恵器 壺	W51 周溝	口径：13.2 (2/5)	口縁部内外面ロクロナデ。底面外面磨消片状印キ具成。内面同心円状突起具成。	5BG 6/1 青灰	砂粒多含
17 032-003	土師器 (ヒツナ7号)	U60 周溝		(杯底面～胴部七半) 外面ナデ。杯底面内ナデ。胴部内面未調整。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
18 032-005	土師器 (ヒツナ7号)	V61 包含層		(杯底面～柱状部) 外面ハケ目。杯底面内ナデ。器壁の磨減激しく。	10YR 6/6 明黄緑	細砂粒含
19 032-004	土師器 (ヒツナ7号)	W99 S X 38	口径：8.6～8.8 (1/2)	外面磨なハケ目。口縁部内外面と胴部内外面ヨコナデ。杯底面内ナデ。器壁の磨減激しく。	10YR 7/6 明黄緑	砂粒含

S X 3 7 (紋山7号墳)

20 037-005	須恵器 杯蓋	V47 周溝		(天井部1/8) 内外面ロクロナデ。天井部外面丁寧なロクロナデ。口ロ右回転。	外：5BG 5/1 青灰 内：N 7/1 灰白	細砂粒含
21 037-002	須恵器 杯蓋	W48 周溝	口径：14.6 器高：5.0 (1/2)	内外面ロクロナデ。天井部外面ロクロナデ。口ロ右回転。	5BG 6/1 青灰	細砂粒含
22 037-004	須恵器 壺	W48 周溝	口径：12.0前後 体径：10.0前後 (1/4)	内外面ロクロナデ。底面外面ロクロナデ。口縁部、胴部。体部に明確な波状文1段ずつ。	5BG 6/1 青灰	細砂粒含
23 037-001	須恵器 壺	W48 周溝	口径：23.0 (1/6) (胴部3/4)	口縁部内外面ロクロナデ。底面外面に磨消片状突起。体部外面に印キ具成。内面に同心円状印キ具成。内面ナデ消し。	外：5BG 6/1 青灰 内：N 3/1 暗灰 内：7.5Y 6/1 灰	砂粒含
24 037-003	土師器 瓶	U47 周溝	口径：10.6 (2/5)	外面ナデ。内面ナデ。外周は磨消の斜線や磨減激しく調整不明瞭。	10YR 6/8 明黄緑	微砂粒含

第9表 出土遺物観察表

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 上
SX53 (紋山19号墳)							
25 053-004	土師器 甕	R38 高溝	口径: 11.6 器高: 4.9	(7/8)	器底の磨減激しく調整不明。	10YR 7/6 明黄褐色	細砂粒多
26 053-003	土師器 甕	R38 高溝	口径: 13.5~12.5 器高: 4.7	(4/6)	外面オナエ残らず、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	細砂粒多
27 053-002	土師器 甕	T36-T37 高溝	口径: 10.0 (体部トテ1/6)	(1/3)	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ハケH。器底の磨減激しく調整不明。	2.5YR 6/8 黄	細砂粒少
28 053-001	土師器 甕	Q38 高溝	口径: 12.8 器高: 17.0前後 体径: 19.0	(3/4) (7/8)	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ハケH。器底の磨減激しく調整不明。	2.5YR 6/8 黄	細砂粒少
SX61 (紋山11号墳)							
29 061-001	土師器 甕	S46 高溝	口径: 14.0前後	(1/8)	外面オナエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。器底の磨減激しく調整不明。	7.5YR 6/8 黄	細砂粒多
SX72 (紋山12号墳)							
30 072-002	土師器 甕	U48 高溝	口径: 11.0前後 器高: 4.5	(1/3)	外面オナエ、内面ナデ。器底の磨減激しく調整不明。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒多
31 072-001	滑石器 高杯	U49 高溝	口径: 13.5~13.8	(3/4)	内外面ロクロナデ。杯底部外面ロクロズリ。ロクロ左回転。透かしは3刀。	外: 10BG 4/1 暗黄灰 内: 5BG 6/1 黄灰	砂粒多
SX82 (紋山14号墳)							
32 082-001	滑石器 杯蓋	P51 直縁杯	口径: 12.8 器高: 3.8~4.1	(1/4)	内外面ロクロナデ。天弁部外面中央へラ切り未調整、両面へラ切り後ナデ。ロクロ右回転。	5BG 6/1 黄灰	砂粒多
SX180 (紋山17号墳)							
33 180-001	滑石器 高杯	L81 高溝	口径: 11.0前後	(1/3)	内外面ロクロナデ。34と同一個体か。	10Y 6/1 灰	細砂粒多
34 180-002	滑石器 高杯	L81 高溝	口径: 9.7	(1/8)	内外面ロクロナデ。33と同一個体か。	10Y 6/1 灰	細砂粒多
SX196 (紋山20号墳)							
35 196-001	滑石器 杯身	P79 高溝	口径: 10.0 器高: 3.2	(定存)	内外面ロクロナデ。底部外面へラ切り未調整、内面ナデ。	外: 5BG 4/1 暗黄灰 内: 5PB 6/1 青灰	砂粒多
SK187 (土坑)							
36 187-001	滑石器 杯身	R90 高溝?	口径: 10.5	(1/4)	内外面ロクロナデ。	10Y 5/1 灰	砂粒多
SK198 (土坑)							
37 198-004	滑石器 杯蓋	Q71 高溝?	口径: 12.2 器高: 3.3	(7/8)	内外面ロクロナデ。天弁部外面ロクロズリ、内面ナデ。	10Y 6/1 灰	砂粒多
38 198-003	滑石器 杯蓋	Q71 高溝?	口径: 12.8 器高: 4.0	(4/5)	内外面ロクロナデ。天弁部外面ロクロズリ、内面ナデ。ロクロ右回転。	10Y 6/1 灰	細砂粒少
39 198-002	滑石器 杯身	Q71 高溝?	口径: 12.1 器高: 3.9	(3/5)	内外面ロクロナデ。底部外面へラ切り後オナエ、内面ナデ。	10Y 6/1 灰	砂粒多
40 198-004	滑石器 杯身	Q71 高溝?	口径: 11.8 器高: 3.3	(4/5)	内外面ロクロナデ。底部外面へラ切り未調整、両面ロクロズリ。	7.5Y 5/1 灰	砂粒多
ピット							
41 000-009	滑石器 杯蓋	S56 ピット1	口径: 13.0前後 器高: 3.7前後	(1/10)	内外面ロクロナデ。天弁部外面中央へラ切り未調整、両面ロクロズリ。内面中央に同心円状当て具痕。	5BG 6/1 黄灰	細砂粒多
中伊達墳							
42 000-010	滑石器 杯身	T53 S D36	口径: 10.2 器高: 4.5前後	(1/6)	内外面ロクロナデ。底部外面ロクロズリ。内面中央に同心円状当て具痕。	5BG 6/1 黄灰	細砂粒多
43 000-011	滑石器 杯身	T54 S D36	口径: 12.0 器高: 4.8前後	(1/6)	内外面ロクロナデ。底部外面ロクロズリ。ロクロ右回転。	外: 5BG 6/1 黄灰 内: 5BG 5/1 黄灰	細砂粒少
44 000-012	石製品 砂磨平	U23 S K45	径 4.8~5.1 cm、高 1.5cm、孔径 7.5cm、重量40.4g (定存)			10Y 6/1 灰	黄褐色製

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存率)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
包含層							
45 000-007	須恵器 蓋	T79 包含層		(大半部)	内外面ロクロナデ。大方部外面ロクロナ リ	10Y 7/1 灰白	砂 粒 含
46 000-008	須恵器 高杯	Q79 包含層	口径: 12.0前後	(1/8)	内外面ロクロナデ。透かしは1方1段が残 るのみ(3方2段透かしか)。	5DG 6/1 青灰	微砂粒少含
47 000-006	須恵器 高杯	T78 包含層		(杯底部~柱状部)	杯底部内外面ロクロナデ。柱状部外面ナ リ。3方2段透かし。	2.5GY 6/1 オリーブ灰	微砂粒少含
48 000-005	須恵器 長細壺	O76 包含層		(頸部)	頸部内外面ロクロナデ。腹部外面に雉な沈 積2条、内面にシボリ痕。	N 7/ 灰白	砂 粒 多 含
49 000-004	土師器 コナフ瓶	Q54 包含層	口径: 6.5前後 底径: 1.4	(1/20) (1/4)	内外オサエ横堀リナデ。内面輝なナデ。手 掘れ。	10YR 6/1 褐灰	微 砂 粒 含
50 000-019	土師器 壺	Q21 包含層	口径: 23.0	(1/6)	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。 外面に厚付帯。	2.5Y 8/2 灰白	砂 粒 含

(中) 世 の 遺 物

S B 2 (獨立柱建物)

51 002-002	土師器 小皿C	U30 ビット1	口径: 8.4 器高: 1.0	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減込み調 整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄緑	精 良
52 002-001	土師器 皿C	U30 ビット1	口径: 12.0前後 器高: 2.4	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減込み調 整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含

S B 9 (獨立柱建物)

53 009-001	土師器 皿B	S39 ビット1	口径: 11.0前後	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨ コナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	細 砂 粒 含
54 009-002	土師器 皿B	R39 ビット1	口径: 12.5前後 器高: 2.3	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	微 砂 粒 含

S B 2 3 (獨立柱建物)

55 003-001	土師器 皿B	W67 ビット10	口径: 14.5前後	(1/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨ コナデ。外面厚付帯。	10YR 7/3 にぶい黄緑	微砂粒少含
---------------	-----------	--------------	------------	--------	----------------------------------	----------------	-------

S B 2 4 (獨立柱建物)

56 004-001	土師器 小皿B	U71 ビット9	口径: 14.0	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 ヨコナデ。	外: 10YR 4/1 褐灰 内: 10YR 6/2 灰黄褐	砂 粒 多 含
57 004-003	土師器 小皿B	U71 ビット9	口径: 8.0 器高: 1.1~1.5	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	砂 粒 多 含
58 004-002	土師器 小皿B	U71 ビット9	口径: 7.9~8.4 器高: 1.0~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 多 含
59 004-004	土師器 小皿B	U71 ビット9	口径: 8.0 器高: 1.1	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 ヨコナデ。	10YR 7/6 明黄褐	砂 粒 多 含

S B 2 7 (獨立柱建物)

60 027-004	土師器 小皿B	R72 ビット1	口径: 7.5前後 器高: 1.4	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わ ずかにヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	細 砂 粒 含
61 027-005	土師器 皿B	R72 ビット1	口径: 10.5前後	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	精 良
62 027-002	陶器 山形杯	R72 ビット2	口径: 15.5前後	(1/32)	内外面ロクロナデ。器高未知。	7.5Y 6/1 灰	細 砂 粒 含
63 027-001	陶器 山形杯	Q72 ビット3	台径: 7.8	(1/2)	内外面ロクロナデ。底厚内面厚付帯、外面 ナデ。高台端部砂粒痕。器完成か。	10Y 6/1 灰	砂 粒 少 含
64 027-003	土師器 甕台	R72 ビット1		(柱状部)	外面ナデ。柱状部の中心に径5mmの円孔。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含

S B 5 1 (獨立柱建物)

65 051-001	土師器 小皿B	W45 ビット1	口径: 7.5前後 器高: 11.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わ ずかにヨコナデ。	10YR 7/6 明黄褐	微 砂 粒 含
66 051-002	土師器 皿B	W47 ビット4	口径: 12.0前後	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 ヨコナデ。	10YR 8/1 明黄褐	微 砂 粒 含

建物番号	器 種	出上位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
S B 5 4 (獨立柱建物)							
67 054-001	土師器 小皿C	V44 ビット1		(口縁部片)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	微砂粒含
S B 7 6 (獨立柱建物)							
68 076-006	土師器 小皿B	Q55 ビット3	口径: 7.5前後 器高: 1.0前後	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑	細砂粒少含
69 076-005	土師器 小皿B	Q55 ビット3	口径: 7.2 器高: 1.0前後	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒少含
70 076-008	土師器 小皿B	Q55 ビット16	口径: 8.5	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
71 076-001	土師器 皿B	Q55 ビット1	口径: 12.2	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
72 076-004	土師器 皿B	Q55 ビット3	口径: 11.5前後 器高: 2.4	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
73 076-002	土師器 皿	Q56 ビット1		(口縁部片)	口縁部内外面コナデ。傾き不確定。外面僅け付着。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
74 076-003	土師器 皿	P54 ビット2		(口縁部片)	口縁部内外面コナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	砂粒多含
75 076-007	土師器 山系杯	Q55 ビット3	口径: 15.5前後	(1/7)	内外面クロコナデ。知多産か。	7.5Y 7/1 灰白	砂粒多含
76 076-009	土師器 山系杯	Q55 ビット16	口径: 15.0前後	(1/12)	内外面クロコナデ。知多産か。	7.5Y 7/1 灰白	細砂粒多含
S B 8 5 (獨立柱建物)							
77 085-002	土師器 小皿C	R55 ビット2	口径: 8.0前後 器高: 1.0前後	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
78 085-001	土師器 皿C	R54 ビット3	口径: 12.0前後 器高: 2.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
S B 9 3 (獨立柱建物)							
79 093-003	土師器 皿C	Q56 ビット3	口径: 10.6 器高: 2.4	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	精 良
80 093-005	土師器 皿C	Q55 ビット2	口径: 11.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒含
81 093-004	土師器 皿	Q55 ビット2		(口縁部片)	口縁部内外面コナデ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	砂粒多含
S B 9 7 (獨立柱建物)							
82 097-002	土師器 皿C	R56 ビット2		(口縁部片)	外面オサエ、内面ナデ。	5YR 8/3 灰緑	精 良
83 097-001	土師器 皿	P56 ビット1		(口縁部片)	口縁部内外面コナデ。外面僅け付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
84 097-003	土師器 山系杯	R56 ビット2	口径: 6.4	(1/3)	内外面クロコナデ。底部外面ナデ。高台端部僅け付着。知多産か。	7.5Y 7/1 灰白	微砂粒多含
S B 9 8 (獨立柱建物)							
85 098-001	土師器 小皿B	R56 ビット1	口径: 8.1 器高: 1.4	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。内外面油塗付着。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
86 098-007	土師器 小皿B	R56 ビット1	口径: 7.8 器高: 1.3	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑 ~10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒少含
87 098-006	土師器 小皿B	R56 ビット1	口径: 8.2 器高: 2.2	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
88 098-005	土師器 皿B	R56 ビット1	口径: 13.7	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑 ~10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒少含
89 098-003	土師器 皿B	R56 ビット1	口径: 14.5前後 器高: 2.5前後	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
90 098-004	土師器 皿B	R56 ビット1	口径: 13.6 器高: 2.6前後	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	砂 粒 含
91 098-002	土師器 皿B	R56 ビット1	口径: 14.0前後 器高: 2.5前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。口縁端部一部油塗付着。	10YR 7/3 にぶい黄緑 ~10YR 6/3 にぶい黄緑	微砂粒少含

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
SB112 (孤立柱建物)						
92 112-001	土師器 高足鉢	N77 ピット3	口径：12.5前後 器高：1.6 (2/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コ コナデ。器壁の磨き込み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 多
SB125 (孤立柱建物)						
93 125-001	陶器 山系焼	N79 ピット1	口径：15.0前後 器高：4.5 台径：7.7 (1/2)	内外面ロクロナデ。底部内面曲線付着。外 面糸切り肌。両台端部砂粒状。黄変産物。	10YR 7/1 灰白	微 砂 粒 多
SB126 (孤立柱建物)						
94 126-001	土師器 高足鉢	M80 ピット2	口径：11.8 器高：2.5 (2/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒多
95 126-003	土師器 高足鉢	M80 ピット3	台径：4.8 (1/2)	高台端部～高台内面露筋。福縁有。	胎：10YR 8/1 灰白 胎土：10YR 8/1 灰白	精 良
96 126-002	土師器 土器	M80 ピット2	長 3.8cm、径 1.2cm、孔径 0.5cm、重量 4.8g (完存)		2.5YR 6/8 橙	微砂粒少
SB127 (孤立柱建物)						
97 127-001	土師器 小皿	M80 ピット4	口径：7.7～7.9 体径：1.2 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微 砂 粒 多
SB128 (孤立柱建物)						
98 128-001	土師器 小皿	M79 ピット6	口径：8.0前後 体径：10.0 (1/16)	口縁部内外面ココナデ。体部外面ナデ、内 面ナデ。外面露筋。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 多
SK129 (孤立柱建物SB128に伴う土坑)						
99 129-001	土師器 小皿	M80 土坑	口径：7.5 器高：1.4～1.5 (11/12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コ コナデ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	微 砂 粒 多
100 129-002	土師器 小皿	M80 土坑	口径：7.3 器高：1.4 (11/12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コ コナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 多
101 129-003	土師器 小皿	M80 土坑	口径：7.2 器高：1.2 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わ ずかにココナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑	微 砂 粒 多
102 129-004	土師器 小皿	M80 土坑	口径：8.0 器高：1.5前後 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面コ コナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多
103 129-005	土師器 小皿	M80 土坑	口径：10.1 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面コ コナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒多
104 129-008	土師器 高足鉢	M80 土坑	口径：12.0 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 ココナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	細砂粒少
105 129-006	土師器 高足鉢	M80 土坑	口径：13.5前後 器高：2.4 (1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コ コナデ。磨き不確定。	10YR 6/2 灰黄緑	微砂粒少
106 129-009	土師器 高足鉢	M80 土坑	口径：12.8 (1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コ コナデ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 多
107 129-010	土師器 高足鉢	M81 土坑	口径：14.2 器高：2.3 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コ コナデ。内外面曲線付着。	10YR 7/4 にぶい黄緑	微砂粒少
108 129-007	土師器 高足鉢	M80 土坑	口径：14.4 器高：3.0前後 (2/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 ココナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	砂 粒 多
109 129-011	土師器 台付小皿	M81 土坑	台径：4.5 (完存)	内外面ナデ。底部内面布目肌。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 多
110 129-004	土師器 高足鉢	M80 土坑	口径：25.0前後 体径：27.0前後 (1/3)	口縁部内外面ココナデ。体部内外面ナデ。 外面露筋。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 多
111 129-022	土師器 高足鉢	M80 土坑	口径：37.0前後 (1/18)	口縁部内外面ココナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 多
112 129-021	土師器 高足鉢	M80-M81 土坑	口径：27.0前後 体径：30.5 (1/2)	口縁部内外面ココナデ。体部外面オサエ、 内面ナデ。底部内外面ナズリ。外面露筋。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 多
113 129-023	土師器 高足鉢	M80 土坑	口径：33.0前後 (1/12)	口縁部内外面ココナデ。外面露筋。	10YR 7/2 にぶい黄緑	砂 粒 多
114 129-025	土師器 高足鉢	M80 土坑	口径：22.5～24 器高：12.4 体径：25.8～27.4 (5/6)	口縁部内外面ココナデ。体部内外面ナズリ。 底部不要オサエ一部ナズリ、内面は器壁の 剥離込み調整不明。外面露筋。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 多
115 129-018	陶器 山系焼	M81 土坑	口径：15.8 器高：5.2 台径：6.8 (1/6)	内外面ロクロナデ。黄変産物。	10Y 7/1 灰白	砂 粒 少
116 129-016	陶器 山系焼	M80 土坑	口径：15.5前後 (1/7)	内外面ロクロナデ。黄変産物。	2.5Y 8/1 灰白	細砂粒少

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	拍 十
117 129-017	陶器 山茶碗	M80 土坑	口径: 15.0前後	(1/6)	内外面ロクロナデ。産地産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
118 129-020	陶器 山茶碗	N81 土坑	台径: 6.8	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒。底部外面に塗層「メ」か。高台産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
119 129-013	陶器 山茶碗	M80 土坑	台径: 7.3~7.6	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り肌。高台端部砂粒。高台産か。	10Y 7/1 灰白	炭粒多含
120 129-019	陶器 山茶碗	N81 土坑	台径: 7.0	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒。高台産か。	7.5Y 7/1 灰白	炭粒多含
121 129-014	陶器 山茶碗	M80 土坑	台径: 7.1~7.8	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒。高台産か。	7.5Y 7/1 灰白	砂粒少含
122 129-012	陶器 山茶碗	M80 土坑	台径: 8.0	(1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒。産地産か。	7.5Y 7/1 灰白	炭粒多含
123 129-015	陶器 山茶碗	M80 土坑	台径: 6.6	(2/5)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒。高台産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
124 129-026	土器 土管 フイコ引口	N81 土坑		(破片)	一方の端は溶解。外面にへう記号あり。		砂粒多含

S B 1 3 1 (獨立柱建物)

125 131-002	土器 小皿 土管	L79 ピット1	口径: 6.5前後 器高: 0.9前後	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
126 131-003	土器 小皿 土管	J79 ピット2	口径: 6.5前後 器高: 0.8前後	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒少含
127 131-001	土器 土管 土管	K79 ピット1	口径: 13.4	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	炭粒多含

S B 1 3 3 (獨立柱建物)

128 133-001	土器 土管 土管	J77 ピット1	口径: 10.5前後 器高: 2.5前後	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒少含
129 133-002	土器 土管 土管	J77 ピット1	口径: 11.0前後 器高: 2.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/6 明黄緑	炭粒多含
130 133-003	土器 土管 土管	K78 ピット6		(口縁破片)	口縁部内外面コナデ。外面係付着。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含

S B 1 3 6 (獨立柱建物)

131 136-001	土器 土管 土管	K78 ピット4		(口縁破片)	外面オサエ、内面ナデ。器底の調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
----------------	----------------	-------------	--	--------	----------------------	-------------	-------

S B 1 4 1 (獨立柱建物)

132 141-001	土器 小皿 土管	J80 ピット3	口径: 7.4 器高: 1.2	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナデか。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
----------------	----------------	-------------	--------------------	-------	----------------------------	-------------	-------

S B 1 4 2 (獨立柱建物)

133 143-001	土器 小皿 土管	J81 ピット1	口径: 7.4 器高: 1.3	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。器底の調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	炭粒多含
134 142-002	土器 土管 土管	K81 ピット3	口径: 11.0前後	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/1 灰白	炭粒多含
135 142-004	土器 土管 土管	K81 ピット3		(口縁破片)	口縁部内外面コナデ。傾き不確定。	10YR 7/4 に近い黄緑	細砂粒多含
136 142-003	土器 土管 土管	K81 ピット3	口径: 32.0前後	(1/7)	口縁部内外面コナデ。外面係付着。傾き不確定。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒少含

S B 1 4 3 (獨立柱建物)

137 143-001	土器 土管 土管	K81 ピット1	口径: 10.5前後	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
----------------	----------------	-------------	------------	-------	-------------	-------------	-------

S B 1 4 5 (獨立柱建物)

138 145-001	土器 土管 土管	M77 ピット2	口径: 12.4 器高: 2.5前後	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。傾き不確定。	10YR 7/5 に近い黄緑	細砂粒少含
----------------	----------------	-------------	-----------------------	-------	------------------------------	----------------	-------

S B 1 5 8 (獨立柱建物)

139 158-001	土器 小皿 土管	N72 ピット6	口径: 7.5 器高: 1.1	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
----------------	----------------	-------------	--------------------	-------	---------------------------	--------------	------

遺物番号	種 類	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・装飾等の特徴	色 調	胎 土
140 153-003	土師器 小皿B	L72 ビット5	口径：6.8 器高：1.5前後	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
141 153-004	土師器 小皿C	L72 ビット5	口径：7.0 器高：1.2	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部の器底のみ黄緑不明。	7.5YR 8/1 灰白	精 良
142 153-002	土師器 皿C	N72 ビット2	口径：12.2 器高：2.8	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
143 153-005	土師器 小皿B	M71 ビット2	口径：16.0前後	(1/14)	内外面ロクロナデ。知多産か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含

SK153 (掘立柱建物S B153に伴う土坑)

144 153-040	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.0 器高：0.8~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
145 153-032	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.4 器高：0.8~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
146 153-030	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.2~7.9 器高：0.7~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
147 153-039	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.4~7.7 器高：0.7~1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 7/4 ぶいい微	砂 粒 含
148 153-055	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：8.0 器高：0.7~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
149 153-052	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.8 器高：0.8~1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。内面曲線付着。	外：7.5YR 8/4 黄緑 内：7.5YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
150 153-066	土師器 小皿C	L72 土坑	口径：7.4~8.0 器高：0.8~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
151 153-034	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：8.0~8.7 器高：0.8~1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 含
152 153-067	土師器 小皿C	L72 土坑	口径：7.6~7.9 器高：0.9~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
153 153-069	土師器 小皿C	L72 土坑	口径：7.8 器高：0.7~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒含
154 153-052	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.2~7.6 器高：1.0~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
155 153-026	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.4~7.8 器高：0.8~1.2	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
156 153-028	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.3~7.6 器高：0.8~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	砂粒多含
157 153-031	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.4~7.9 器高：0.9~1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
158 153-042	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.2~7.8 器高：0.7~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5YR 8/2 灰白	砂粒多含
159 153-038	土師器 小皿B	M72 土坑	口径：7.6~7.9 器高：0.8~1.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/2 ぶいい黄緑	砂 粒 含
160 153-041	土師器 小皿B	M72 土坑	口径：7.3~7.8 器高：1.3~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	外：7.5YR 5/1 黄灰 内：7.5YR 7/3 ぶいい黄緑	砂 粒 含
161 153-049	土師器 小皿B	M72 土坑	口径：7.1~7.5 器高：0.7~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
162 153-063	土師器 小皿B	L72 土坑	口径：7.7~8.1 器高：1.0~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。内面油付着。	7.5YR 4/1 黄灰 ~7.5YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
163 153-065	土師器 小皿B	L72 土坑	口径：7.6~8.1 器高：1.1~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
164 153-001	土師器 皿C	M72 土坑	口径：11.1 器高：2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
165 153-002	土師器 皿C	M72 土坑	口径：10.6 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
166 153-004	土師器 皿C	M72 土坑	口径：10.7 器高：2.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底面内面一部に強い指痕ナデ。外面に散状沖刺。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 含
167 153-005	土師器 皿C	M72 土坑	口径：10.8 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
168 153-006	土師器 皿C	M72 土坑	口径：11.0 器高：2.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
169 153-009	土師器 皿C	M72 土坑	口径：11.0 器高：2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
170 153-008	土師器 甕C	M72 土坑	口径: 11.6 器高: 2.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 含
171 153-010	土師器 甕C	M72 土坑	口径: 11.8 器高: 2.9 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
172 153-012	土師器 甕C	M72 土坑	口径: 10.1~11.3 器高: 2.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指痕ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
173 153-013	土師器 甕C	M72 土坑	口径: 11.0 器高: 2.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
174 153-017	土師器 甕C	M72 土坑	口径: 11.0 器高: 2.4 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
175 153-015	土師器 甕C	M72 土坑	口径: 12.0 器高: 2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂 粒 含
176 153-003	土師器 甕C	M72 土坑	口径: 11.4 器高: 2.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
177 153-018	土師器 甕C	M72 土坑	口径: 11.0 器高: 2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減率強く調整不明瞭。	10YR 8/4 浅黄緑	砂 粒 含
178 153-020	土師器 甕C	M72 土坑	口径: 11.0 器高: 2.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	砂 粒 含
179 153-025	土師器 甕丸	M72 土坑	口径: 12.4 器高: 3.0 (1/3)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減率強く調整不明瞭。	7.5YR 8/2 灰白	砂 粒 含
180 153-007	土師器 甕丸	M72 土坑	口径: 12.3~13.5 器高: 2.8 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナダ。底部内面一部に強い指痕ナデ、外面に板状圧痕。	外: 2.5Y 8/2 灰白 内: 10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
181 153-014	土師器 甕丸	M72 土坑	口径: 12.8 器高: 3.1 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナダ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 含
182 153-023	土師器 甕丸	M72 土坑	口径: 12.2 器高: 2.4 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナダ。	2.5Y 8/2 灰白	砂 粒 含
183 153-022	土師器 甕丸	M72 土坑	口径: 13.0 器高: 2.7 (1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナダ。底部内面一部に強い指痕ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/4 浅黄緑	砂 粒 含
184 153-024	土師器 甕丸	M72 土坑	口径: 14.0 器高: 2.5 (1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナダ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
185 153-076	土師器 甕	M72 土坑	口径: 18.9 (器高 1/6)	口頸部内外面コナダ。器部外面ナデ、内面ナデ。	10YR 7/2 にぶい黄緑	砂 粒 多 含
186 153-074	土師器 甕	M72 土坑	口径: 27.0前後 (器高 1/10)	口頸部内外面コナダ。器部内外面ナデ、外面磨付着。	7.5YR 8/3 浅黄緑 ~7.5YR 7/2 暗褐灰	砂 粒 多 含
187 153-073	土師器 甕	M72 土坑	口径: 26.5 (器高 1/12)	口頸部内外面コナダ。器部内外面ナデ、外面磨付着。	7.5YR 7/4 にぶい黄緑	砂 粒 多 含
188 153-077	土師器 甕	M72 土坑	口径: 29.7 (器高 1/6)	口頸部内外面コナダ。外面磨付着。	7.5YR 7/3 にぶい黄緑 ~7.5YR 6/2 灰褐	砂 粒 多 含
189 153-075	土師器 甕	M72 土坑	口径: 34.0前後 (器高 1/9)	口頸部内外面コナダ。外面磨付着。	7.5YR 7/3 にぶい黄緑 ~7.5YR 6/2 灰褐	砂 粒 多 含
190 153-064	陶器 山形	L72 土坑	口径: 9.2 器高: 1.6 底径: 6.9 (1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面切り筋。知多産か。	5Y 8/1 灰白	細砂粒多含
191 153-078	陶器 山茶碗	L72 土坑	口径: 15.0 器高: 4.9 口径: 6.7 (2/3)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指痕ナデ、外面切り筋。高台端部磨殺痕多。知多産か。	10YR 7/1 灰白	砂 粒 含
192 153-079	陶器 山茶碗	M72 土坑	口径: 14.9 台高: 6.2 器高: 5.1 (2/3)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指痕ナデ、外面切り筋。高台端部磨殺痕。知多産か。	7.5YR 7/1 暗褐灰	砂 粒 含
193 153-080	陶器 山茶碗	M72 土坑	口径: 15.0前後 器高: 5.2 口径: 5.9 (1/4)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指痕ナデ、外面切り筋。高台端部磨殺痕。知多産か。	10YR 7/1 灰白	砂 粒 含
194 153-082	陶器 山茶碗	L72 土坑	口径: 15.0前後 (器高 1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面切り筋。煤付着。高台磨殺。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒多含
195 153-081	陶器 山茶碗	M72 土坑	口径: 15.0 (1/4)	内外面ロクロナデ。内面磨付着。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒多含
196 153-070	磁器 青磁皿	M72 土坑	底径: 5.2 (3/5)	底部外面露胎。底部外面ロクロズリ。内面にへう摺文と雷文。阿波産系。	軸: 10Y 6/2 オリーブ灰 胎土: 2.5Y 8/1 灰白	精 良
197 153-069	磁器 青磁鉢	M72 土坑	口径: 16.0前後 (1/8)	内外面露胎。体部外面に蓮弁文。阿波産系。	軸: 2.5GY 6/1 オリーブ灰 胎土: 5Y 6/1 灰	精 良
198 153-071	土製品 土鉢	L72 土坑	径 1.9cm, 口径 0.6cm, 重量 18.0g (-部欠損)		2.5Y 7/2 灰黄 ~10YR 3/1 黄褐	砂 粒 少 含
199 153-083	土製品 土鉢	M72 土坑	径 5.8cm, 径 2.1cm, 口径 0.7cm, 重量 18.0g (完存)		7.5YR 7/2 暗褐灰	細砂粒多含
200 153-072	土製品 土鉢	M72 土坑	径 5.7cm, 径 2.2cm, 口径 0.8cm, 重量 25.3g (完存)		7.5YR 8/4 浅黄緑 ~10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 少 含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	----------------	--------------	----	----

S B 1 5 9 (獨立柱建物)

201 159-002	土師器 小皿B,	N70 ビット1	口径: 8.5 器高: 1.1	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	磁砂粒多
202 159-005	土師器 小皿B,	N70 ビット1	口径: 8.5前後	(1/9)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/6 明黄緑	磁砂粒多
203 159-003	土師器 皿B,	N70 ビット1	口径: 13.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	磁砂粒多
204 159-004	土師器 皿B,	N70 ビット1	口径: 13.0前後	(1/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。傾き不確定。	10YR 8/4 浅黄緑	磁砂粒多
205 159-001	土師器 皿C	O71 ビット1	口径: 12.0前後 器高: 2.5前後	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	磁砂粒多
206 159-006	土師器 皿	N72 ビット1	口径: 21.0前後	(1/8)	内外面ヨコナデ。外面に條行者。	10YR 8/4 浅黄緑	磁砂粒多
207 159-007	陶器 山茶碗	N72 ビット3	口径: 7.8	(1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデか。器蓋か。	10Y 7/1 灰白	磁砂粒多

S B 1 6 4 (獨立柱建物)

208 164-001	陶器 山茶碗	M70 ビット1	口径: 14.5前後	(1/12)	内外面ロクロナデ。器蓋か。	N 7/ 灰白	磁砂粒多
----------------	-----------	-------------	------------	--------	---------------	---------	------

S B 1 8 4 (獨立柱建物)

209 184-001	土師器 皿C	M64 ビット2	口径: 11.0前後	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。傾き不確定。	10YR 8/3 浅黄緑	磁砂粒多
----------------	-----------	-------------	------------	-------	-------------------	--------------	------

S B 1 9 9 (獨立柱建物)

210 199-001	土師器 皿C	K88 ビット2	口径: 12.0前後	(1/14)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	磁砂粒多
----------------	-----------	-------------	------------	--------	-------------	--------------	------

S B 2 0 5 (獨立柱建物)

211 205-001	土師器 皿C	O86 ビット2	口径: 12.2 器高: 2.6	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5Y 8/1 灰白	磁砂粒多
----------------	-----------	-------------	---------------------	-------	-------------	-------------	------

S E 3 (戸)

212 3-004	土師器 皿B,	U88	口径: 14.0前後	(1/12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	磁砂粒多
213 3-006	土師器 皿B,	U88	口径: 15.0前後	(1/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 8/5 浅黄緑	磁砂粒多
214 3-007	土師器 皿B,	U88	(口縁部片)		外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデか。	10YR 8/2 灰白	磁砂粒多
215 3-005	土師器 皿C	U88	(口縁部片)		器蓋の跡減衰しく調整不明。	7.5Y 8/1 灰白	磁砂粒多
216 3-003	陶器 小皿	U88	口径: 9.4	(1/6)	内外面ロクロナデ。器蓋か。	2.5Y 7/1 灰白	磁砂粒少
217 3-002	陶器 山茶碗	U88	口径: 15.5前後	(1/12)	内外面ロクロナデ。器蓋か。	7.5Y 7/1 灰白	磁砂粒少
218 3-001	陶器 山茶碗	U88	口径: 16.5前後	(1/12)	内外面ロクロナデ。器蓋か。	5 Y 8/1 灰白	磁砂粒少

S E 5 6 (井ノ・中世墓?)

219 56-001	土師器 小皿B,	R40	口径: 7.9 器高: 1.0~1.2	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	磁砂粒多
220 56-002	土師器 小皿B,	R40	口径: 7.2~7.5 器高: 1.3~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。口縁部底物散乱。	10YR 8/3 浅黄緑	磁砂粒少
221 56-003	土師器 小皿B,	R40	口径: 7.8 器高: 1.2~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	磁砂粒少
222 56-004	土師器 小皿B,	R40	口径: 7.7 器高: 1.3~1.5	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	磁砂粒多
223 56-001	土師器 小皿B,	R40	口径: 7.5~8.2 器高: 1.0~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	磁砂粒多
224 56-002	土師器 小皿B,	R40	口径: 8.0 器高: 1.7	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/6 明黄緑	磁砂粒多

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色	調	胎上
225 56-007	土師器 皿B	R40	口径: 13.2 器高: 3.0	(ほぼ完存) 外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面コナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多含
225 56-009	土師器 皿A	R40	口径: 13.7	(1/4) 外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部内外面わずかにコナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多含
227 56-026	土師器 皿D	R40	口径: 12.6	(1/4) 外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面コナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多含
228 56-006	土師器 皿D	R40	口径: 13.2~13.5 器高: 3.1	(完存) 外面オサエ、内面ナゲ。口縁内外面コナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多含
229 56-025	土師器 皿D	R40	口径: 12.0前後 器高: 2.5前後	(1/6) 外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面コナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多含
230 56-010	土師器 皿D	R40	口径: 13.0前後 器高: 2.5前後	(1/6) 外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面コナデか。器底の筋線読み調整不明瞭。	10YR 8/2	灰白	砂粒多含
231 56-008	土師器 皿B	R40	口径: 14.0前後 器高: 2.5前後	(1/6) 外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面コナデ。	10YR 8/2	灰白	微砂粒多含
232 56-005	土師器 皿A	R40	口径: 13.7 器高: 2.9	(3/4) 外面オサエ、内面ナゲ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多含
233 56-011	陶器 山茶碗	R40	口径: 15.6 器高: 5.2 台径: 7.1	(1/2) (3/4) 内外面クロコナデ。底面内面に強い凹部ナゲ。外糸糸切り肌。高台端部割裂。知多産か。	10Y 7/1	灰白	砂粒多含
234 56-013	陶器 山茶碗	R40	口径: 16.5前後	(1/8) 内外面クロコナデ。知多産か。	10Y 7/1	灰白	細砂粒多含
235 56-012	陶器 山茶碗	R40 底上層	台径: 7.5	(完存) 内外面クロコナデ。底面内面に強い凹部ナゲ。外面ナゲ。高台端部砂粒肌。若菜産か。	10Y 7/1	灰白	微砂粒多含
236 56-028	土師器 皿	R40	口径: 16.0前後 器高: 2.5	(1/6) 口縁部内外面コナデ。	10YR 7/2	にぶい黄緑	砂粒多含
237 56-015	土師器 皿	R40	口径: 20.6	(2/5) 口縁部内外面コナデ。体部外面オサエ、内面ナゲ。外面僅付着。	10YR 7/2	にぶい黄緑	砂粒多含
238 56-016	土師器 皿	R40	口径: 18.7 器高: 10.6 底径: 19.2	(7/8) (完存) 口縁部内外面コナデ。体部外面オサエ、内面ナゲ。底面外面ケズリとナゲ、内面ケズリ。外面僅付着。	10YR 8/4	浅黄緑	砂粒多含
239 56-017	土師器 皿	R40	口径: 20.2~20.4 器高: 10.8 底径: 20.0	(7/8) (完存) 口縁部内外面コナデ。体部外面オサエ、内面ナゲ。底面外面ケズリとナゲ、内面ケズリ。外面僅付着。	10YR 8/4	浅黄緑	砂粒多含
240 56-018	土師器 皿	R40	口径: 23.8 器高: 17.0前後 底径: 27.8	(完存) 口縁部内外面コナデ。体部外面オサエ、内面ナゲ。底面外面ケズリとナゲ、内面ケズリ。外面僅付着。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多含
241 56-019	土師器 皿	R40	口径: 27.8 器高: 19.4 底径: 30.0	(1/2) (完存) 口縁部内外面コナデ。体部外面オサエ、内面ナゲ。底面外面ケズリとナゲ、内面ケズリ。外面僅付着。	10YR 8/4	浅黄緑	砂粒多含
242 56-020	土師器 皿	R40	口径: 8.0 器高: 37~38	(1/4) (1/5) 口縁部内外面コナデ。体部外面オサエナゲ。内面ナゲ。外面僅付着。	7.5YR 7/4	にぶい黄	砂粒多含
243 56-027	土師器 皿	R40	口径: 26.0前後	(1/10) 口縁部内外面コナデ。	10YR 7/4	にぶい黄緑	砂粒多含

SE57 (井戸・中世墓?)

244 57-001	土師器 小皿B	R40	口径: 7.5~8.0 器高: 1.3	(3/4) 外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面コナデ。	7.5YR 8/4	浅黄緑	砂粒多含
245 57-016	土師器 小皿B	R40	口径: 8.0 器高: 1.2	(1/3) 外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面コナデ。	10YR 7/4	にぶい黄緑	微砂粒多含
246 57-004	土師器 皿B	R40	口径: 12.0前後 器高: 2.3前後	(1/8) 外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面コナデ。	7.5YR 8/4	浅黄緑	微砂粒多含
247 57-002	土師器 皿B	R40	口径: 12.5前後 器高: 2.3	(1/10) 外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面コナデ。	7.5YR 8/4	浅黄緑	砂粒多含
248 57-015	土師器 皿B	R40	口径: 11.6 器高: 2.3	(1/6) 外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面わずかにコナデ。内面に凹部付着。	10YR 8/2	灰白	細砂粒多含
249 57-005	土師器 皿C	R40	口径: 12.0前後 器高: 2.2	(1/6) 外面オサエ、内面ナゲ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多含
250 57-003	土師器 皿C	R40	口径: 12.0 器高: 2.5	(1/3) 外面オサエ、内面ナゲ。	7.5YR 8/1	灰白	細砂粒多含
251 57-014	土師器 皿C	R40	口径: 11.5前後 器高: 2.6	(1/5) 外面オサエ、内面ナゲ。	10YR 8/2	灰白	砂粒多含
252 57-012	土師器 皿	R40	口径: 15.0	(1/5) 口縁部内外面コナデ。体部内外面ナゲ。	10YR 8/2	灰白	細砂粒多含
253 57-013	土師器 皿	R40	口径: 21.6	(1/5) 口縁部内外面コナデ。体部内外面ナゲ。外面に凹部付着。	10YR 8/2	灰白	砂粒多含
254 57-006	土師器 皿	R40	(口縁部片)	内外面コナデ。	7.5YR 8/3	浅黄緑	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
255 57-007	土師器 甕	R40	(1) (熟部片)	内外面コシナテ。	5YR 7/4 に近い橙 ~2.5YR 7/8 橙	砂粒多含
256 57-010	陶器 山茶碗	R40	口径: 16.5前後 (1/8)	内外面ロクロナデ。泥染成か。	N7/ 灰白	砂粒少含
257 57-011	陶器 山茶碗	R40	口径: 7.2 (1/2)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い割割ナデ、外周ナデ。泥染成か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含
S E 7 9 (舟戸)						
258 79-002	陶器 山茶碗	Q48	口径: 8.0 (1/7)	内外面ロクロナデ。底部外周ナデか。知多産か。	N 7/ 灰白	微砂粒含
259 79-001	土師器 甕	Q48	口径: 33.0前後 (1/8)	口縁部内外面コシナテ。器部外面ハケ目、内面ハケ目ナデ消し。外面煤付着。	外: 2.5Y 7/3 灰黄緑 内: 10YR 8/3 灰黄緑	砂 粒 含
S E 9 0 (舟戸)						
260 90-001	土師器 小皿C	R57	口径: 7.5~7.9 器高: 1.0~1.2 (宛存)	外面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
261 90-003	土師器 小皿C	R57	口径: 7.9 器高: 1.3 (1/2)	外面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/3 灰黄緑	微砂粒多含
262 90-004	土師器 小皿C	R57	口径: 7.5前後 器高: 1.0 (1/3)	外面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
263 90-008	土師器 小皿C	R57	口径: 7.8 器高: 0.9~1.3 (3/5)	外面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 多 含
264 90-007	土師器 皿C	R57	口径: 10.6 器高: 2.4 (1/5)	外面オサエ。内面ナデ。外面煤付着。	10YR 7/3 に近い黄緑	微砂粒少含
265 90-009	土師器 皿C	R57	口径: 11.7 器高: 2.3 (1/4)	外面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
266 90-010	土師器 皿C	R57	口径: 12.0 器高: 2.3 (1/4)	外面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/3 灰黄緑	黄 砂 粒 含
267 90-011	土師器 皿C	R57	口径: 11.6 器高: 2.4 (1/5)	外面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微 砂 粒 含
268 90-012	土師器 皿C	R57	口径: 12.0 器高: 2.4 (1/4)	外面オサエ。内面ナデ。外面の割割痕強く 剥離不明瞭。	10YR 7/2 に近い黄緑	微砂粒多含
269 90-014	土師器 皿C	R57	口径: 12.3 器高: 2.7 (1/5)	外面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 多 含
270 90-015	土師器 皿	R57	口径: 16.8 (1/8)	口縁部内外面コシナテ。器部外面強いハケ目、内面オサエ。外面煤付着。	10YR 7/3 に近い黄緑	微砂粒多含
271 90-017	土師器 甕	R57	口径: 23.0前後 (1/8)	口縁部内外面コシナテ。外面煤付着。	10YR 8/3 灰黄緑	砂 粒 多 含
272 90-016	土師器 甕	R57	口径: 27.0前後 (1/10)	口縁部内外面コシナテ。器部内面ハケ目ナデ消し。外面に煤付着。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
273 90-018	土師器 甕	R57	口径: 30.0前後 (1/12)	口縁部内外面コシナテ。外面煤付着。	10YR 8/3 灰黄緑	微砂粒多含
274 90-020	土師器 甕	R57	口径: 32.0前後 (1/6)	口縁部内外面コシナテ。外面煤付着。	10YR 8/3 灰黄緑	微砂粒多含
275 90-022	土師器 甕	R57	口径: 22.0前後 (1/10)	口縁部内外面コシナテ。器部外面ハケ目、内面ナデ。	外: 10YR 6/2 灰黄緑 内: 10YR 8/3 灰黄緑	微砂粒多含
276 90-021	土師器 甕	R57	口径: 21.0前後 (1/16)	口縁部内外面コシナテ。器部外面ハケ目、内面ナデ。	外: 10YR 5/2 灰黄緑 内: 10YR 8/3 灰黄緑	微 砂 粒 含
277 90-026	陶器 山茶碗	R57	口径: 6.5 (1/2)	内外面ロクロナデ。底部外周糸切り痕。両台端形物数多い。知多産か。	5 Y 6/1 灰	砂 粒 含
278 90-024	陶器 山茶碗	R57	口径: 7.8 (3/4)	内外面ロクロナデ。底部外周糸切り痕。両台端形物数多い。泥染成か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒多含
279 90-025	陶器 井口鉢	R57	口径: 11.0前後 (1/4)	外面ナデ。内面ロクロナデ。底部外周ナデ。両台端形物数多い。知多産か。	10Y 6/1 灰	砂 粒 多 含
280 90-031	丸蓋土師 火鉢	R57	(底部片)	内外面ナデ。胴部1箇所残存。三脚か。	断面: 7.5Y 8/1 灰白	砂 粒 少 含
281 90-030	陶器 折縁深皿	R57	口径: 30.0前後 器高: 7.1 底径: 22.0前後 (1/26)	内外面ロクロナデ。底部外面オサエ痕軽いナデ。全面輪轆。瀬戸産。	輪: 7.5Y 7/2 灰白 胎土: 10YR 8/2 灰白	砂 粒 少 含
282 90-028	陶器 甕	R57	口径: 31.0前後 (1/8)	内外面ロクロナデ。知多産。	輪: 7.5Y 4/2 灰オリーブ 胎土: 10Y 7/1 灰白	微 砂 粒 含
283 90-032	陶器 背磁碗	R57	口径: 5.0 (宛存)	高台縁部~身内内面輪轆。体部外周に蓮弁文。尾島系系。	輪: 10Y 7/1 灰白 胎土: 10Y 5/2 オリーブ灰	砂 粒 少 含

遺物番号	類別	出土位置	計測値 (cm)	(残存率)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
------	----	------	----------	-------	--------------	-----	-----

SE134 (井戸)

284 134-001	土師器 小皿C	M70	口径:7.6 器高:1.0	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒少含
285 134-002	土師器 小皿C	M70	口径:7.6 器高:1.1	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
286 134-004	土師器 小皿C	M70	口径:7.9 器高:1.3	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒含
287 134-003	土師器 小皿C	M70	口径:9.2 器高:1.5	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
888 134-017	土師器 台付小皿	M70	口径:9.7 器高:2.6 台径:4.7	(1/2) (1/3)	内外面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
289 134-008	土師器 皿C	M70	口径:11.4 器高:2.3	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
290 134-011	土師器 皿C	M70	口径:11.7 器高:2.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	黄砂粒含
291 134-010	土師器 皿C	M70	口径:11.8 器高:2.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	黄砂粒少含
292 134-012	土師器 皿C	M70	口径:12.8 器高:2.4	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	10YR 8/2 灰白	黄砂粒少含
293 134-086	土師器 盤	M70-N70	口径:36.0前後	(1/7)	口縁部内外面コナデ。肩部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒含
294 134-024	土師器 皿	M70	口径:33.0前後	(1/8)	口縁部内面～口縁部外面コナデ。肩部内面ハケ目。肩部内外面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒含
295 134-020	土師器 皿	M70	口径:22.0前後	(1/3)	口縁部内外面コナデ。肩部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒含
296 134-021	土師器 皿	M70	口径:27.0	(1/3)	口縁部内外面コナデ。肩部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	外:10YR 6/2 灰黄褐 内:10YR 8/2 灰白	細砂粒含
297 134-023	土師器 皿	M70	口径:29.2	(1/4)	口縁部内外面コナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	外:10YR 7/3 にぶい黄緑 内:10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
298 134-022	土師器 皿	M70	口径:22.8 体径:26.9	(1/4) (1/4)	口縁部内外面コナデ。体部内外面ナデ、内面ナデ。体部外面下半は軽いケズリか。外面煤厚く付着。	外:10YR 6/2 灰黄褐 内:10YR 8/2 灰白	砂粒多含
299 134-016	土師器 火鉢	M70		(口縁部片)	外面は縦方向ハケ目後印花文、内面ナデ。口縁部縦方向へラミガキ。	2.5YR 7/6 緑	砂粒含
300 134-019	陶器 片口皿	M70	口径:20.0前後	(1/6)	外面ハケ目後印花文。口縁部内外面コナデ。短多産。	外:2.5YR 5/4 にぶい黄褐 内:2.5YR 4/3 にぶい赤褐	砂粒多含
301 134-018	陶器 釜	M70	口径:42.0前後	(1/8)	内外面回転ナデ。黄褐色か。	2.5Y 6/4 にぶい緑	砂粒含
302 134-029	石製品 皿	M70		(体部片)	内面平滑、外面にケズリ痕残る。径4mmの孔有り。外面に煤付着。		黄緑石粒
303 134-028	石製品 砥石	M70	残存長7.3cm、幅3.5cm、厚1.0cm				細粒砂岩質

SE157 (井戸・中世墓?)

304 157-001	土師器 小皿C	N75	口径:7.0~7.9 器高:1.4~1.6	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒含
305 157-002	土師器 小皿C	N75	口径:7.5 器高:1.4	(2/4)	外面オサエ、内面ナデ	10YR 8/2 灰白	黄砂粒含
306 157-003	土師器 小皿C	N75	口径:7.5 器高:1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部煤付着。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
307 157-004	土師器 小皿C	N75	口径:7.5 器高:1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部煤付着。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
308 157-005	土師器 小皿C	N75	口径:7.6~7.9 器高:1.3	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
309 157-007	土師器 小皿C	N75	口径:7.1 器高:1.1	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
310 157-014	土師器 皿C	N75	口径:11.9~12.1 器高:2.4~2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデか。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
311 157-009	土師器 皿C	N75	口径:11.2 器高:2.4~2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に磨減ナデ。	10YR 8/1 灰白	細砂粒含
312 157-010	土師器 皿C	N75	口径:11.3 器高:2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/1 灰白	細砂粒含

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 上
313 157-011	土師器 直 Ⅲ	N75	口径：11.0～12.0 器高：2.4～2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底面内周一部に強い指痕ナデ。	10YR 8/2 灰白	撒 砂 粒 含
314 157-012	土師器 直 Ⅲ	N75	口径：11.0～11.4 器高：2.3～2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底面内周一部に強い指痕ナデ。外面に板状圧痕。	7.5YR 8/1 灰白	撒 砂 粒 含
315 157-013	土師器 直 Ⅲ	N75	口径：11.2～11.5 器高：2.8	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/1 灰白	細砂粒少含
316 157-026	土師器 罎	N75	口径：20.3 体径：21.3	(1/3) (2/5)	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ハケ目。体部外面ナデとハケ目。内面ナデ。底面内外面ナデリ。外面板状圧痕。	10YR 8/1 灰白	砂 粒 多 含
317 157-025	土師器 罎	N75	口径：22.2 器高：2.7 体径：21.7	(1/2) (完存)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目。内面ナデ。底部外面ナデナリとナデ。内面ナデナリ。外面板状圧痕。	10YR 8/1 灰白	細砂粒多含
318 157-028	土師器 罎	N75	口径：21.5前後 体径：18.7	(1/12) (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目。内面ナデナリ。底面内外面ナデナリ。外面板状圧痕。	7.5YR 7/2 灰白	細砂粒多含
319 157-027	土師器 罎	N75	口径：23.7 体径：24.0	(2/5) (2/5)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目。内面ナデ。外面板状圧痕。	7.5YR 7/2 灰白	細砂粒多含
320 157-029	土師器 足付壺	N75	口径：37.2 器高：35.5	(1/3) (1/3)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目。口縁部内外面ナデナリ。底面内外面ナデナリ。外面板状圧痕。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 多 含
321 157-033	瓦質土器 火鉢	N75		(口縁部片)	内外面縦方向リガキ。外面に印文。	7.5Y 6/1 灰	撒 砂 粒 含
322 157-034	瓦質土器 火鉢	N75		(口縁部片)	内外面縦方向リガキ。外面に印文。	2.5Y 7/2 灰黄	撒 砂 粒 含
323 157-016	土師器 内丹豆	N75	口径：12.4	(1/4)	口縁部内外面ヨコナデ後戻灰板状圧痕。脚戸底。	灰：10YR 7/6 明黄褐	撒砂粒少含
324 157-030	土師器 罎	N75		(口縁部片)	内外面縦板ナデ。頸部に輪厚く付着。知多産。	灰：10YR 5/2 灰黄褐 内：10YR 6/3 にぶい黄緑	砂 粒 含
325 157-017	土師器 有段椀	N75	台径：6.2	(1/4)	高台底部底除。外面に蓮弁文。内面に魚鱗片付。底面黒染。	釉：7.5GY 明黄褐 胎土：10Y 7/1 灰白	精 良
326 157-018	土師器 小皿	N75	口径：22.0前後 器高：23.0前後	(1/12) (1/12)	内面は平滑。外面にケズリ痕明確に残る。外面に板状圧痕。底面内面に炭化物付着。		黄 緑 石 割
327 157-023	土師器 小皿	N75	全長6.3cm。断面方向。	(完存)			敷 製

SE 172 (井戸)

328 172-078	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：8.0 器高：1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 7/6 明黄褐	砂 粒 多 含
329 172-076	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：8.0 器高：1.3～1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/6 緑	砂 粒 多 含
330 172-079	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：7.5～8.0 器高：1.3～1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/6 緑	砂 粒 少 含
331 172-082	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：7.5～8.0 器高：1.3～1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/6 緑	砂 粒 含
332 172-080	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：7.0 器高：1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/6 明黄褐	砂 粒 含
333 172-029	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：7.2～8.0 器高：0.9～1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄緑	砂 粒 含
334 172-034	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：6.9～7.4 器高：0.6～1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	5YR 7/6 緑	細砂粒含
335 172-048	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：7.7～8.0 器高：0.7～1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	5YR 8/4 淡緑	砂 粒 含
336 172-028	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：8.4～8.7 器高：0.5～1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
337 172-071	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：6.9 器高：0.4～1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。外面油膜付着。	5YR 8/4 淡緑	砂 粒 含
338 172-020	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：7.2～7.8 器高：1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 多 含
339 172-025	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：7.5 器高：1.2～1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	撒 砂 粒 含
340 172-063	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：7.2～7.5 器高：0.7～1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	5YR 7/6 緑 ～2.5YR 6/6 にぶい緑	砂 粒 多 含
341 172-102	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：8.0 器高：1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
342 172-114	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径：12.9 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。底面内周一部に強い指痕ナデ。外面に板状圧痕。内面油膜付着。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 少 含

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存率)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
343 172-119	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径: 12.2~12.7 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 コナテ。内外面曲線付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多量
344 172-117	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径: 13.1~13.8 器高: 3.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 コナテ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多量
345 172-124	土師器 小皿Ⅱ	T68	口径: 13.2 器高: 2.3~2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 コナテ。内外面曲線付着。	10YR 7/2 に近い黄緑	細砂粒少量
346 172-125	土師器 皿Ⅱ	T68	口径: 12.4 器高: 2.0~2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 コナテ。底部内面一部に強い指痕ナデ、外面 に縦状圧痕。	7.5YR 8/4 浅黄緑	微砂粒少量
347 172-129	土師器 皿Ⅱ	T68	口径: 12.5~13.0 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 コナテ。内外面曲線付着。	5YR 7/6 緑	微砂粒少量
348 172-139	土師器 皿Ⅱ	T68	口径: 12.8~13.5 器高: 2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 コナテ。内外面曲線付着。	2.5Y 8/4 淡黄	細砂粒少量
349 172-132	土師器 皿Ⅱ	T68	口径: 12.4 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 コナテ。	7.5Y 7/6 緑	微砂粒少量
350 172-142	土師器 皿Ⅱ	T68	口径: 12.4 器高: 2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 コナテ。	10YR 6/4 に近い黄緑	砂粒少量
351 172-145	土師器 皿Ⅱ	T68	口径: 13.0 器高: 2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 コナテ。底部内面一部に強い指痕ナデ、外面 に縦状圧痕。	10YR 8/4 浅黄緑	砂粒少量
352 172-150	土師器 皿Ⅱ	T68	口径: 11.7~12.1 器高: 2.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 コナテ。底部内面一部に強い指痕ナデ、外面 に縦状圧痕。	7.5YR 7/6 緑	砂粒少量
353 172-151	土師器 皿Ⅱ	T68	口径: 13.0~13.8 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 コナテ。	5YR 6/8 緑	砂粒少量
354 172-158	土師器 皿Ⅱ	T68	口径: 12.8~13.1 器高: 2.3~2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 コナテ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	細砂粒少量
355 172-164	土師器 皿Ⅱ	T68	口径: 12.5~13.2 器高: 2.3~2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 コナテ。内外面曲線付着。	5YR 7/6 緑	細砂粒少量
356 172-155	土師器 皿Ⅱ	T68	口径: 13.8 器高: 3.0~3.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面 コナテ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少量
357 172-167	土師器 皿	T68	口径: 18.1 器高: 9.1 体径: 17.6	(5/6) (完存)	口縁部内外面コナテ。体部内外面ナデ。 底部外面ナデ。内外面ナデ。外面 付着。	10YR 8/3 浅黄緑 ~7.5YR 6/2 灰緑	砂粒多量
358 172-175	土師器 皿	T68	口径: 16.9~18.0 器高: 9.6 体径: 17.6	(5/6) (3/4)	口縁部内外面コナテ。体部内外面ナデ。 底部外面ナデ。内外面ナデ。外面 付着。	10YR 8/3 浅黄緑 ~10YR 7/2 に近い黄緑	砂粒多量
359 172-168	土師器 皿	T68	口径: 15.7 器高: 10.5前後 体径: 19.3	(1/4)	口縁部内外面コナテ。体部内外面ナデ。 底部外面ナデ。内外面ナデ。外面 付着。	7.5YR 7/2 に近い黄緑 ~7.5YR 8/2 浅黄緑	砂粒多量
360 172-165	土師器 皿	T68	口径: 23.0 器高: 23.7	(1/2) (2/5)	口縁部内外面コナテ。体部内外面ナデ。 底部外面ナデ。内外面ナデ。外面 付着。	5YR 6/2 灰黄	砂粒多量
361 172-170	土師器 皿	T68	口径: 23.4 器高: 14.7 体径: 29.5	(5/6) (完存)	口縁部内外面コナテ。体部内外面ナデ。 底部外面ナデ。内外面ナデ。外面 付着。	7.5YR 6/2 灰緑	砂粒多量
362 172-173	土師器 皿	T68	口径: 23.0 器高: 22.5	(1/2) (1/4)	口縁部内外面コナテ。体部内外面ナデ。 底部外面ナデ。内外面ナデ。外面 付着。	10YR 7/3 に近い黄緑	砂粒多量
363 172-175	土師器 皿	T68	口径: 24.8 器高: 26.7	(完存) (1/3)	口縁部内外面コナテ。体部内外面ナデ。 底部外面ナデ。内外面ナデ。外面 付着。	7.5YR 7/6 明黄緑	砂粒多量
364 172-174	土師器 皿	T68	口径: 27.4 器高: 30.5	(1/5) (5/6)	口縁部内外面コナテ。体部内外面ナデ。 底部外面ナデ。内外面ナデ。外面 付着。	10YR 8/3 浅黄緑 ~10YR 7/2 に近い黄緑	砂粒多量
365 172-172	土師器 皿	T68	口径: 27.2	(1/4)	口縁部内外面コナテ。体部内外面ナデ。 底部外面ナデ。内外面ナデ。外面 付着。	10YR 8/2 浅黄緑 ~10YR 7/2 に近い黄緑	砂粒多量
366 172-171	土師器 皿	T68	口径: 24.8 器高: 17.3 体径: 26.6	(1/2) (3/4)	口縁部内外面コナテ。体部内外面ナデ。 底部外面ナデ。内外面ナデ。外面 付着。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多量
367 172-009	陶器 山形Ⅱ	T68	口径: 18.0 器高: 1.7 体径: 8.7	(5/6) (完存)	内外面コナテ。底部内面に強い指痕 ナデ。外面未切り痕。知多産か。	10Y 7/1 灰白	細砂粒少量
368 172-010	陶器 山形Ⅱ	T68	口径: 7.9 器高: 1.9 体径: 5.0~5.5	(1/3) (2/3)	内外面コナテ。底部内面に強い指痕 ナデ。外面未切り痕。知多産か。	N7/ 灰白	砂粒少量
369 172-001	陶器 山形Ⅱ	T68	口径: 15.1 器高: 4.8 体径: 22.5	(3/4)	内外面コナテ。底部内面に強い指痕 ナデ。外面ナデ。高台端部微段。知多産か。	7.5Y 7/1 明黄緑	砂粒多量
370 172-002	陶器 山形Ⅱ	T68	口径: 13.4 器高: 6.8~7.0 体径: 6.5	(3/4) (完存)	内外面コナテ。底部外面未切り痕。高 台端部微段。知多産か。	7.5Y 7/1 明黄緑	砂粒多量
371 172-003	陶器 山形Ⅱ	T68	口径: 14.8 器高: 4.8 体径: 6.4~6.7	(3/5) (完存)	内外面コナテ。底部外面未切り痕。高 台端部微段。知多産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒多量
372 172-004	陶器 山形Ⅱ	T68	口径: 14.3 器高: 4.7 体径: 5.9	(1/3) (1/3)	内外面コナテ。底部外面未切り痕。高 台端部微段。知多産か。	10Y 6/1 灰	砂粒多量
373 172-005	陶器 山形Ⅱ	T68	口径: 15.2 器高: 5.2 体径: 7.4	(1/6) (完存)	内外面コナテ。底部外面ナデ。高台端 部微段。知多産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒少量

遺物番号	産 種	出土位置	計測値 (cm) (残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
374 172-006	陶器 山本輪	T68	口径: 15.0 器高: 4.8 口径: 6.5 (3/7)	内外面ロクロナデ。底面内面に強い指痕ナデ。外周ナデ。高台縁部肉厚多い。知多産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒多量
375 172-007	陶器 山本輪	T68	口径: 15.8 器高: 4.8 口径: 7.3 (2/5)	内外面ロクロナデ。底面内面に強い指痕ナデ。外周半切り痕。高台縁部肉厚多い。知多産か。	N7/ 灰白	砂粒多量
376 172-008	陶器 山本輪	T68	口径: 15.0前後 器高: 5.0前後 口径: 8.0前後 (1/5)	内外面ロクロナデ。器部外面半切り痕。知多産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒多量
377 172-013	陶器 壺	T68	口径: 10.0前後 (1/12)	内外面ロクロナデ。縁部内面凹みか。	N7/ 灰白	細砂粒少量
378 172-012	陶器 壺	T68	口径: 7.2~7.9 (器部のみ定存)	内外面ロクロナデ。底面外面ササム。縁部肉厚多い。	N7/ 灰白	砂粒少量
379 172-011	陶器 片山鉢	T68	口径: 30.0 (1/3)	内外面ロクロナデ。外周口縁ロクロナデ。内面に指痕残る。知多産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒多量
380 172-014	陶器 石段鉢	T68	口径: 15.8 (1/4)	内外面施釉。内面にへく雜文。中央黒点。	釉: 7.5GY 6/1 褐灰 胎土: 7.5Y 6/1 灰	滑 良
381 172-177	土製品 土甕	T68	口径: 10.9 (1/2)	台部内外面ササエ、台端部ナデ。	7.5YR 7/6 緑	砂粒少量

SE 192 (R+)

382 192-001	磁器 山本輪	P86	口径: 15.0 (1/16)	内外面施釉。内面に磨擦文。華美産。	釉: 10Y 7/1 灰白 胎土: 10Y 7/1 灰白	滑 良
----------------	-----------	-----	-----------------	-------------------	---------------------------------	-----

SE 193 (R+)

383 193-068	土師器 小皿A	O81	口径: 8.8 器高: 1.3 (2/5)	外面ササエ、内面ナデ。口縁部内外面ロクロナデ。	7.5YR 8/4 浅黄緑	砂粒少量
384 193-055	土師器 小皿B	O81	口径: 6.5~7.0 器高: 0.8~1.3 (定存)	外面ササエ、内面ナデ。口縁部内外面わずかにロクロナデ。	7.5YR 7/6 緑	微砂粒少量
385 193-056	土師器 小皿B	O81	口径: 7.8 器高: 1.4~1.6 (定存)	外面ササエ、内面ナデ。口縁部内外面わずかにロクロナデ。	7.5YR 7/6 緑	砂粒少量
386 193-057	土師器 小皿B	O81	口径: 6.5~6.8 器高: 0.8 (定存)	外面ササエ、内面ナデ。口縁部内外面わずかにロクロナデ。	7.5YR 7/4 に近い黄	砂粒少量
387 193-051	土師器 小皿B	O81	口径: 7.6~7.9 器高: 1.3~1.5 (5/6)	外面ササエ、内面ナデ。口縁部内外面わずかにロクロナデ。内面に磨擦文多い。	7.5YR 6/6 緑	細砂粒少量
388 193-062	土師器 小皿B	O81	口径: 8.0~8.3 器高: 1.1~1.3 (定存)	外面ササエ、内面ナデ。口縁部内外面わずかにロクロナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少量
389 193-064	土師器 小皿B	O81	口径: 7.4~7.6 器高: 1.0~1.2 (定存)	外面ササエ、内面ナデ。口縁部内外面わずかにロクロナデ。	7.5YR 6/4 に近い黄	細砂粒多量
389 193-065	土師器 小皿B	O81	口径: 7.3~8.0 器高: 1.3 (定存)	外面ササエ、内面ナデ。口縁部内外面わずかにロクロナデ。	7.5YR 7/6 緑	細砂粒少量
391 193-067	土師器 小皿B	O81	口径: 7.2~7.7 器高: 0.9 (1/2)	外面ササエ、内面ナデ。口縁部内外面わずかにロクロナデ。	10YR 7/3 に近い黄緑	砂粒少量
392 193-069	土師器 小皿B	O81	口径: 7.1 器高: 1.2~1.4 (1/2)	外面ササエ、内面ナデ。口縁部内外面わずかにロクロナデ。	7.5YR 6/8 緑	微砂粒少量
393 193-070	土師器 小皿B	O81	口径: 7.0~7.4 器高: 1.2 (1/2)	外面ササエ、内面ナデ。口縁部内外面わずかにロクロナデ。	2.5YR 7/8 緑	微砂粒少量
394 193-071	土師器 小皿B	O81	口径: 7.2~7.9 器高: 1.0~1.2 (1/2)	外面ササエ、内面ナデ。口縁部内外面わずかにロクロナデ。	2.5YR 7/8 緑	微砂粒少量
395 193-074	土師器 小皿B	O81	口径: 7.0~7.4 器高: 0.9~1.1 (1/2)	外面ササエ、内面ナデ。口縁部内外面わずかにロクロナデ。内面に磨擦文。	7.5YR 7/4 に近い黄	微砂粒少量
396 193-049	土師器 小皿C	O81	口径: 7.2~7.7 器高: 0.9~1.1 (1/2)	外面ササエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒少量
397 193-060	土師器 小皿C	O81	口径: 7.2~7.4 器高: 1.1~1.3 (1/2)	外面ササエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒少量
398 193-052	土師器 小皿C	O81	口径: 7.7~8.0 器高: 1.4 (9/10)	外面ササエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少量
399 193-053	土師器 小皿C	O81	口径: 7.0~7.4 器高: 1.5 (3/4)	外面ササエ、内面ナデ。外面磨擦。	10YR 7/4 に近い黄緑	細砂粒少量
400 193-058	土師器 小皿C	O81	口径: 7.7~8.3 器高: 1.2~1.4 (定存)	外面ササエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒多量
401 193-059	土師器 小皿C	O81	口径: 7.8~8.5 器高: 1.5 (定存)	外面ササエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒少量
402 193-061	土師器 小皿C	O81	口径: 7.5~7.7 器高: 0.8~1.0 (3/5)	外面ササエ、内面ナデ。	7.5YR 7/6 緑	細砂粒少量

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色	調	胎土
403 193-066	土師器 小皿C	O81	口径: 8.1 器高: 1.1~1.3	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2	灰白	磨砂粒少
404 193-078	土師器 小皿C	O81	口径: 7.4~7.5 器高: 1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。内面油煙付着。	10YR 7/4	にぶい黄	磨砂粒少
405 193-084	土師器 台付小皿	O81	口径: 8.8 器高: 4.4 台径: 7.5~7.8	(2/3) (3/4)	内外面ナデ。器縁部ヨコナデ。	7.5YR 8/2	灰白	磨砂粒少
406 193-083	土師器 ?	O81	台径: 4.5	(完存)	高台のみ残存。銅葉のツマミか。	7.5YR 7/4	にぶい黄	精良
407 193-024	土師器 皿B ₁	O81	口径: 12.3~12.6 器高: 2.4~2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 7/4	にぶい黄緑	磨砂粒少
408 193-025	土師器 皿B ₁	O81	口径: 12.4~12.6 器高: 2.4~3.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。器壁の磨減進む。	2.5Y 8/3	淡黄	細砂粒多
409 193-027	土師器 皿B ₁	O81	口径: 12.2~13.0 器高: 2.3~2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。器壁の磨減進む。	10YR 8/2	灰白	砂粒多
410 193-047	土師器 皿B ₁	O81	口径: 13.5 器高: 2.6	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 8/4	淡黄緑	砂粒多
411 193-033	土師器 皿B ₁	O81	口径: 12.7~13.2 器高: 3.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部ヨコナデか。器壁の磨減進む。高台不明瞭。	10YR 8/2	灰白	細砂粒多
412 193-039	土師器 皿B ₁	O81	口径: 13.5~13.7 器高: 2.6~3.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部ヨコナデか。内外面に油煙付着。	10YR 8/3	淡黄緑	砂粒多
413 193-046	土師器 皿B ₁	O81	口径: 12.7~12.9 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	7.5YR 8/3	淡黄緑	細砂粒多
414 193-038	土師器 皿B ₁	O81	口径: 12.3 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。器壁の磨減進む。	10YR 8/3	淡黄緑	磨砂粒少
415 193-040	土師器 皿B ₁	O81	口径: 12.7 器高: 3.2	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 7/3	にぶい黄緑	砂粒多
416 193-041	土師器 皿B ₁	O81	口径: 12.4 器高: 3.1	(5/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。器壁の磨減進む。	10YR 8/3	淡黄緑	砂粒多
417 193-052	土師器 皿B ₁	O81	口径: 12.8 器高: 2.3	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	7.5YR 7/1	明確灰	砂粒多
418 193-043	土師器 皿C	O81	口径: 12.2~12.4 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進む。調整不明瞭。	10YR 8/1	灰白	砂粒少
419 193-044	土師器 皿C	O81	口径: 11.6~12.4 器高: 2.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/4	淡黄緑	砂粒多
420 193-028	土師器 皿C	O81	口径: 11.6~12.4 器高: 2.3~2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指痕ナデ、外面に仮状片着。	2.5Y 8/3	淡黄	砂粒少
421 193-030	土師器 皿C	O81	口径: 11.9~12.5 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進む。調整不明瞭。	10YR 8/2	灰白	細砂粒少
422 193-026	土師器 皿C	O81	口径: 12.7 器高: 2.1~2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進む。調整不明瞭。	2.5Y 8/2	灰白	磨砂粒少
423 193-031	土師器 皿C	O81	口径: 11.8~12.0 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進む。調整不明瞭。	10YR 8/2	灰白	砂粒多
424 193-032	土師器 皿C	O81	口径: 12.0 器高: 2.6	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2	灰白	砂粒少
425 193-036	土師器 皿C	O81	口径: 12.1~12.5 器高: 2.9	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3	淡黄緑	磨砂粒少
426 193-037	土師器 皿C	O81	口径: 11.7 器高: 2.0~2.5	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2	灰白	砂粒多
427 193-034	土師器 皿C	O81	口径: 12.1 器高: 2.6	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指痕ナデ、外面に仮状片着。	10YR 8/2	灰白	細砂粒少
428 193-096	土師器 羽釜	O81	口径: 24.6 胴径: 29.4	(1/4) (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。外面に假付着。	10YR 8/3	淡黄緑	砂粒多
429 193-097	土師器 鍋	O81	口径: 28.7 体径: 26.3	(3/4) (1/3)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部外面ナズリ。外面に假付着。	10YR 8/3	淡黄緑	砂粒多
430 193-100	土師器 鍋	O81	口径: 16.0 体径: 14.9	(1/4) (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部内外面ナズリ。外面に假付着。	10YR 8/2	灰白	砂粒多
431 193-103	土師器 鍋	O81	口径: 18.0 体径: 17.6	(1/6) (1/5)	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ナズリ。内面ナデ。器壁の磨減付着せず。	10YR 8/2	灰白	砂粒多
432 193-102	土師器 鍋	O81	口径: 17.2 体径: 17.4	(1/5) (1/5)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。外面に假付着。	10YR 8/3	淡黄緑	細砂粒多
433 193-101	土師器 鍋	O81	口径: 20.0	(1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ナデ。内面に假付着。	10YR 8/2	灰白	細砂粒多

遺物番号	部 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
434 193-104	十指部 指	O81	口径: 19.0 体径: 19.2	(1/5) (1/6)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	10YR 7/2 にぶい黄緑	細砂粒多量
435 193-105	十指部 指	O81	口径: 20.8 体径: 20.4	(1/3) (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底面内外面ケズリ。外面塗付着。	10YR 7/4 にぶい黄緑	砂 粒 少
436 193-108	土師器 指	O81	口径: 23.0 体径: 26.4	(1/4) (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。外面塗付着。	2.5Y 8/3 黄赤 ~10YR 5/2 黄赤黄	砂 粒 少
437 193-090	十指部 指	O81	口径: 25.2 体径: 27.6	(1/3) (2/5)	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ハケ目、内面ナデ。底部外面ケズリ。外面塗付着。	10YR 7/3 にぶい黄緑	砂 粒 多量
438 193-091	土師器 指	O81	口径: 24.8 体径: 24.8	(1/6) (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ケズリ。外面塗付着。	10YR 7/2 にぶい黄緑	砂 粒 多量
439 193-096	十指部 指	O81	口径: 24.7	(1/3)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。外面塗付着。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 多量
440 193-087	土師器 指	O81	口径: 23.7 体径: 23.7	(1/3) (7/8)	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ハケ目、内面ナデ。底部外面ケズリとナデ。内面軽いくズリ。外面塗付着。	7.5YR 6/2 灰黒	砂 粒 多量
441 193-089	土師器 指	O81	口径: 27.8 体径: 27.2	(1/6) (1/5)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。外面塗付着。	10YR 7/4 にぶい黄緑	砂 粒 多量
442 193-098	土師器 指	O81	口径: 29.4	(1/3)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。外面塗付着。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 多量
443 193-106	十指部 指	O81	口径: 26.2 体径: 30.6	(1/5) (1/5)	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ナデ。内面軽くなデ。底部外面ケズリ。外面塗付着。	10YR 8/3 浅黄緑 ~10YR 6/3 にぶい黄緑	砂 粒 多量
444 193-107	土師器 指	O81	口径: 27.8 体径: 30.5	(2/3) (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリ。外面塗付着。	10YR 6/4 にぶい黄緑 ~10YR 4/4 にぶい黄赤	砂 粒 多量
445 193-088	土師器 指	O81	口径: 26.8 体径: 37.6	(1/5) (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。底部内外面ケズリ。外面塗付着。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 多量
446 193-092	土師器 指	O81	口径: 39.0 体径: 35.0前後	(2/5) (1/8)	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面薄く厚なハケ目、内面ナデ。外面塗付着。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 少
447 193-085	十指部 指	O81	口径: 38.7 体径: 41.0	(7/8) (3/5)	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面オサエ縁上半部ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリ。外面塗付着。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 少
448 193-086	土師器 指	O81	口径: 40.8 体径: 41.6前後	(2/3) (3/4)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。外面塗付着。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 少
449 193-011	陶器 片口小皿	O81	口径: 7.0 体径: 2.2 底径: 3.5	(1/4) (1/3)	内外面ヨコナデ。底面外面未切り焼。黄赤黄少。	N7/ 灰白	黄砂粒多量
450 193-012	陶器 山形	O81	口径: 8.2 体径: 2.2~1.4 底径: 3.1	(1/3) (1/3)	内外面ヨコナデ。底面外面未切り焼。黄赤黄少。	10Y 7/1 灰白	黄砂粒多量
451 193-013	陶器 山形	O81	口径: 8.8 体径: 1.9 底径: 5.4	(1/6) (1/3)	内外面ヨコナデ。底面外面未切り焼。黄赤黄少。	10Y 7/1 灰白	黄砂粒多量
452 193-001	陶器 山形	O81	口径: 15.9 体径: 5.0 台径: 6.8	(1/5) (1/2)	内外面ヨコナデ。底面内面に強い指痕ナデ。外面未切り焼。黄赤黄多量。知多産か。	10Y 7/1 灰白	砂 粒 少
453 193-002	陶器 山形	O81	口径: 15.3 体径: 4.6 台径: 7.4	(完存)	内外面ヨコナデ。底面外面未切り焼。高台噴出部焼。11輪部に自然融れ付着。黄赤黄少。	2.5Y 8/1 灰白	細砂粒多量
454 193-003	陶器 山形	O81	口径: 16.4 体径: 5.3 台径: 6.8	(1/10) (7/8)	内外面ヨコナデ。底面外面未切り焼。黄赤黄少。	10Y 6/1 灰	砂 粒 多量
455 193-005	陶器 山形	O81	口径: 14.4 体径: 5.0 台径: 5.6	(1/3) (1/8)	内外面ヨコナデ。底面外面未切り焼。高台の残像強い。黄赤黄少。	10Y 7/1 灰白	砂 粒 多量
456 193-006	陶器 山形	O81	口径: 15.8 体径: 4.9 台径: 8.0	(1/4) (3/4)	内外面ヨコナデ。底面外面ナデ。高台端部砂粒焼。黄赤黄少。	10Y 6/1 灰	細砂粒少
457 193-009	陶器 山形	O81	口径: 14.7 体径: 4.6~5.1 台径: 7.0	(1/6) (1/6)	内外面ヨコナデ。底面外面未切り焼。知多産か。	10Y 7/1 灰白	砂 粒 多量
458 193-004	陶器 山形	O81	口径: 15.2 体径: 4.9 台径: (高台は完全に割断)	(3/4)	内外面ヨコナデ。底面外面未切り焼。外面に梅花?の遺跡。知多産か。	7.5Y 6/1 灰	砂 粒 多量
459 193-015	陶器 煎豆	O81	口径: 14.6	(1/8)	内外面ヨコナデ。11輪部内外面に灰赤を染付。黄赤黄少。	N7/ 灰白	細砂粒多量
460 193-023	陶器 煎豆	O81	口径: 56.7	(1/4)	内外面ヨコナデ。口縁部内外面に灰赤を染付。体部片も出上。黄赤黄少。	5Y 5/1 灰	黄砂粒多量
461 193-018	陶器 煎豆	O81	口径: 9.2 体径: 2.0 底径: 5.2	(1/3) (完存)	外面下半ヨコナデ。外面下半露出。黄赤黄少。	輪: 7.5Y 7/3 黄赤 胎土: 7.5Y 7/1 灰白	黄砂粒少
462 193-016	陶器 煎豆	O81	口径: 9.2 体径: 2.0 底径: 4.8	(1/8) (1/3)	外面下半ヨコナデ。外面下半露出。黄赤黄少。	輪: 10GY 7/1 明緑灰 胎土: 10Y 7/1 灰白	黄砂粒少
463 193-021	陶器 煎豆	O81	口径: 11.0 体径: 2.4 底径: 5.0	(1/6) (1/6)	外面下半ヨコナデ。内面にヘラ摺文と磨文。底面外面露出。黄赤黄少。	輪: 5GY 6/1 ナリーブ灰 胎土: N7/ 灰白	黄砂粒少
464 193-020	陶器 白磁	O81	口径: 9.9 体径: 5.0 底径: 4.6	(2/5) (1/4)	外面下半ヨコナデ。口縁部内外面に各1本の沈線。高台部露出。	輪: 2.5Y 8/1 灰白 胎土: 10Y 8/1 灰白	精 良

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色	調	胎土
465 193-017	磁器 青磁焼	O81	口径: 15.0	(1/4)	口縁端部内側に1条の沈線。内外面施釉。電気窯系。	釉: 5GY 7/1 明オリーブ灰胎土: 7.5Y 7/1 灰白		磁砂粒少
466 193-022	磁器 青磁焼	O81	口径: 15.6	(1/5)	口縁端部内側に1条の沈線。内外面施釉。電気窯系。	釉: 7.5Y 5/3 灰オリーブ胎土: N6/ 灰		磁砂粒少
467 193-019	磁器 青磁焼	O81	口径: 16.3	(1/4)	内外面施釉。体部外側に透升文。電気窯系。	釉: 10Y 5/2 オリーブ灰胎土: 10Y 7/1 灰白		磁砂粒少

S E 1 9 4 (井戸)

468 194-004	土師器 小皿C	O84	口径: 8.2 器高: 1.9	(1/3)	外面オサヌ。内面ナデ。口縁端部外面わずかにコソナデ。	10YR 7/3 に近い黄緑 ~10YR 6/1 黄灰		磁砂粒少
469 194-002	土師器 皿内	O84	口径: 11.0	(1/5)	外面オサヌ。内面ナデ。口縁端部外面わずかにコソナデ。	10YR 7/4 に近い黄緑		磁砂粒少
470 194-009	土師器 鉢	O84	口径: 22.8	(2/5)	口縁部内外面コソナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/3 浅黄緑		磁砂粒多
471 194-011	土師器 鉢	O84	口径: 28.0前後	(1/7)	口縁部内外面コソナデ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白		磁砂粒少
472 194-010	土師器 鉢	O84	口径: 29.0前後	(1/16)	口縁部内外面コソナデ。器部外面オサヌ。内面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄緑		磁砂粒多
473 194-004	陶器 山茶焼	O84	口径: 16.8前後	(1/8)	内外面ロクロナデ。器底平か。	2.5Y 7/1 灰白		磁砂粒少
474 194-006	陶器 山茶焼	O84	口径: 7.8	(完存)	内外面ロクロナデ。器底外面平切り。器口縁部割取。器底平か。	2.5Y 8/1 灰白 ~2.5Y 7/1 灰白		磁砂粒少
475 194-005	陶器 山茶焼	O84	口径: 8.0	(完存)	内外面ロクロナデ。器底外面平切り。器口縁部割取。器底平か。	5 Y 7/1 灰白 ~5Y 6/1 灰白		磁砂粒少
476 194-007	陶器 片口鉢	O84	口径: 31.4	(1/5)	内外面ロクロナデ。器底外面ロクロヘケズリ。器底平か。	5 Y 6/1 灰白		磁砂粒少
477 194-008	陶器 片口鉢	O84	口径: 30.0 器高: 15.5 台径: 13.5	(1/6)	内外面ロクロナデ。外面ドテロクロヘケズリ。知多泥か。	5 Y 7/1 灰白		磁砂粒多

S E 2 0 7 (井戸・中屋裏?)

478 207-005	土師器 小皿C	O75	口径: 7.0~7.5 器高: 1.1	(完存)	外面オサヌ。内面ナデ。器底の器底蓋調整不明。	7.5YR 8/1 灰白		磁砂粒少
479 207-002	土師器 皿C	O75	口径: 12.0 器高: 2.2	(2/5)	外面オサヌ。内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白		磁砂粒少
480 207-001	土師器 皿C	O75	口径: 11.6 器高: 2.4	(7/8)	外面オサヌ。内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白		磁砂粒少
481 207-004	土師器 皿C	O75	口径: 11.7 器高: 2.7	(1/3)	外面オサヌ。内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白		磁砂粒少
482 207-007	土師器 鉢	O75	口径: 22.5前後	(1/10)	口縁部内外面コソナデ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白		磁砂粒少
483 207-010	土師器 鉢	O75	口径: 22.5前後	(1/12)	口縁部内外面コソナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄緑		磁砂粒多
484 207-013	土師器 鉢	O75	口径: 22.0前後	(1/16)	口縁部内外面コソナデ。外面煤付着。	7.5Y 8/1 灰白		磁砂粒多
485 207-012	土師器 鉢	O75	口径: 26.0前後	(1/14)	口縁部内外面コソナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/2 灰白		磁砂粒少
486 207-014	陶器 山茶焼	O75	口径: 14.0前後	(1/14)	内外面ロクロナデ。知多泥か。	N8/ 灰白		磁砂粒多
487 207-008	陶器 山茶焼	O75	口径: 5.5前後	(2/5)	内外面ロクロナデ。器底外面ナデ。器底平か。知多泥か。	10Y 6/1 灰		磁砂粒多
488 207-009	磁器 青磁焼	O75	口径: 11.2前後	(1/6)	内外面施釉。外面に透升文。電気窯系。	釉: N7/ 灰胎土: 10Y 5/1 灰		磁砂粒少

S X 5 (中屋裏)

489 095-003	土師器 小皿C	U88	口径: 7.8 器高: 1.0	(1/2)	外面オサヌ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白		磁砂粒少
490 095-001	土師器 小皿C	U88	口径: 11.7 器高: 2.2	(7/10)	外面オサヌ。内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白		磁砂粒少
491 095-002	土師器 小皿C	U88	口径: 12.4 器高: 2.6	(2/5)	外面オサヌ。内面ナデ。器底内面に強い煤付着。外面に炭状付着。	2.5Y 8/3 黄灰		磁砂粒少
492 095-005	土師器 鉢	U88	口径: 29.2 器高: 16.7 体径: 34.0	(1/4)	口縁部内外面コソナデ。器底内面に強い煤付着。内面ナデ。器底外面ナデ。器底平か。器底に炭状付着。器底に炭状付着。	10YR 7/3 に近い黄緑		磁砂粒多

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色	調	胎 上
493 005-006	陶器 山茶碗	U88	台径: 7.0前後	(1/6)	内外面ロクロナデ。底縁外面ナデ。高台端部砂粒多。	5Y 7/1	灰白	砂 粒 含

S X 2 8 (中世墓)

494 028-001	陶器 甕	N70-T69		(11) 胴部 1/5	内外面回転ナデ。体部と底部片も出土。知多産。	5YR 4/4	にぶい赤褐 ~5Y 4/4	灰オリブ	砂 粒 含
----------------	---------	---------	--	-------------	------------------------	---------	------------------	------	-------

S X 3 8 (中世墓)

496 038-003	陶器 盆	W59		(口頸部片)	内外面回転ナデ。知多産か。	2.5YR 5/4	にぶい赤褐 ~5Y 4/4	灰オリブ	砂 粒 含
496 038-001	陶器 甕	W59	口径: 14.6	(1/6)	内外面ロクロナデ。	5Y 5/1	灰		砂 粒 含
497 038-005	陶器 山茶碗	W59	台径: 8.3	(1/2)	内外面ロクロナデ。底縁外面糸切り肌。高台端部砂粒多。底欠産か。	10YR 7/1	灰白		細砂粒多
498 038-003	陶器 山組内下	W59	台径: 7.3	(完存)	高台部胴縁。	胎: 5GY 8/1	灰白 胎土: N8/	灰白	精 良

S X 4 0 (中世墓)

499 040-004	土師器 小皿C	V29	口径: 8.0	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3	淡黄		砂 粒 含
500 040-005	土師器 小皿B	V29	口径: 8.2 器高: 1.1	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。11) 縁部外面コナデか。	2.5Y 8/2	灰白		砂 粒 含
501 040-001	土師器 皿C	V29	口径: 10.0	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2	灰白		砂 粒 少 含
502 040-002	土師器 皿C	V29	口径: 11.0 器高: 2.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3	淡黄		砂 粒 含
503 040-003	土師器 皿B	V29	口径: 13.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面コナデ。	10YR 8/3	淡黄緑		砂 粒 多 含
504 040-006	土師器 鍋	V29	口径: 23.0前後 体径: 24.0前後	(1/8) (1/16)	口部内外面コナデ。体部外面オサエ接ナデ、内面ナデ。外面全体煤付甚。	10YR 7/1	灰白		砂 粒 含
505 040-007	土師器 山皿	V29	口径: 8.0 器高: 1.2 底径: 4.8	(1/5) (1/5)	内外面ロクロナデ。底縁外面糸切り肌。知多産か。	2.5Y 8/1	灰白		砂 粒 少 含

S X 4 1 (中世墓)

506 041-004	土師器 小皿C	T21	口径: 6.6-7.0 器高: 1.1	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2	灰白		砂 粒 少 含
507 041-006	土師器 小皿C	T21	口径: 7.8 器高: 0.9-1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2	灰白		微砂粒多
508 041-005	土師器 小皿C	T21	口径: 7.9 器高: 0.7	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3	淡黄		砂 粒 少 含
509 041-002	土師器 皿C	T21	口径: 12.0 器高: 2.6	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3	淡黄		砂 粒 含
510 041-001	土師器 皿C	T21	口径: 10.7~11.5 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/4	淡黄		砂 粒 含
511 041-003	土師器 皿C	T21	口径: 10.0 器高: 2.0	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。底面内部一部に強い指痕ナデ。外面に板状沖灰。	10YR 8/2	灰白		砂 粒 少 含
512 041-009	土師器 板椀	T21		(口頸部片)	11) 胴部内外面コナデ。体部内外面ナデ。	7.5YR 7/3	にぶい褐		細砂粒多
513 041-008	土師器 鍋	T21	口径: 23.3	(1/4)	口部内外面コナデ。外面煤付甚。	10YR 8/3	淡黄緑		細砂粒多

S X 4 4 (中世墓)

514 041-001	土師器 小皿B	V25	口径: 8.3-9.0 器高: 1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面コナデか。	10YR 8/3	淡黄緑		砂 粒 多 含
515 041-002	陶器 山茶碗	V25	台径: 6.1	(1/2)	内外面ロクロナデ。底縁外面ナデ。高台端部砂粒多。知多産か。	10YR 7/1	灰白		微砂粒多

S X 4 6 (中世墓)

516 046-008	土師器 小皿A	W47	口径: 8.6 器高: 1.0-1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面コナデ。	10YR 8/1	灰白		細砂粒多
517 046-005	土師器 小皿C	W47	口径: 8.0-8.5 器高: 1.4	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/1	灰白		砂 粒 含

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (mm) (残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
518 046-006	土胎器 小皿C	W47	口径: 8.4~8.7 器高: 0.9~1.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	細砂粒少
519 046-007	土胎器 小皿C	W47	口径: 8.1~8.6 器高: 0.8~1.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少
520 046-009	土胎器 小皿C	W47	口径: 8.2~8.7 器高: 0.9~1.9 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/1 灰白	砂 粒 少
521 046-010	土胎器 小皿C	W47	口径: 7.8 器高: 1.3 (1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 少 含
522 046-001	土胎器 皿C	W47	口径: 12.6 器高: 2.6~2.9 (7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 少 含
523 046-002	土胎器 皿C	W47	口径: 12.2 器高: 2.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。器底の磨減痕を調整不顕。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒少含
524 046-004	土胎器 皿C	W47	口径: 12.3~12.9 器高: 2.8~3.0 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。内外面微隆付着。	外: 10YR 3/1 黒褐色 内: 10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
525 046-003	土胎器 皿C	W47	口径: 12.0~12.4 器高: 2.3~2.7 (4/5)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い微隆ナデ、外面に収状凹痕。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 少 含
526 046-012	土胎器 皿	W47	口径: 22.8 器高: 14.4 体径: 25.5 (3/5)	口縁部内外面ココナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面ケズリ。外周隆付着。	10YR 8/1 灰白	砂粒多含
527 046-013	土胎器 皿	W47	口径: 24.1 器高: 13.0 体径: 25.4 (2/5)	口縁部内外面ココナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面ケズリ。外周隆付着。	10YR 7/3 にぶい黄緑	砂粒多含
528 059-046	海部 山皿	W47	口径: 8.2 器高: 2.1 底径: 4.4 (1/12)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り風か、蓋裏面か。	10YR 7/1 灰白	砂粒少含

S X 5 9 (中世墓)

529 059-001	土胎器 皿C	W49	口径: 12.0前後 器高: 2.2 (1/6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑	微砂粒少含
530 059-002	土胎器 皿	W49	口径: 25.0前後 (1/12)	口縁部内外面ココナデ。外周隆付着。	10YR 7/3 にぶい黄緑	砂粒多含

S X 6 3 (中世墓)

531 063-001	土胎器 皿C	W49	口径: 12.2 器高: 2.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部微隆付着。	10YR 7/3 にぶい黄緑 ~10YR 6/2 灰黄褐色	微砂粒少含
532 063-002	土胎器 皿B	W49	口径: 13.0前後 器高: 2.4 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにココナデ。内外周隆付着。	7.5YR 3/2 黒褐色 ~7.5YR 4/2 灰黄褐色	微砂粒多含

S X 6 4 (中世墓)

533 064-001	土胎器 小皿C	U24	口径: 8.2 器高: 1.1 (2/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 少 含
534 064-002	土胎器 皿	U24	口径: 37.0前後 器高: 31.0前後 体径: 38.5前後 (1/2)	口縁部内外面ココナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。	5 YR 8/4 黄緑	砂 粒 少 含

S X 6 7 (中世墓)

535 067-001	土胎器 皿B	S48	口径: 13.2 器高: 2.9 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ココナデ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	砂粒少含
536 067-002	土胎器 皿B	S48	口径: 13.2 器高: 2.9 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ココナデ。	5 YR 7/6 緑	微砂粒少含
537 067-003	土胎器 皿	S48	口径: 24.2 体径: 25.4 (9/10) (3/4)	口縁部内外面ココナデ。体部外面ナデ。内周隆ナデ。底部内外面ケズリ。外周隆付着。	7.5YR 7/3 にぶい黄緑	砂 粒 少 含

S X 7 0 (中世墓)

538 070-001	土胎器 小皿B	V74	口径: 8.0~8.4 器高: 1.4 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ココナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑	細砂粒多含
539 070-002	土胎器 小皿B	V74	口径: 8.9 器高: 1.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ココナデ。	10YR 7/6 明黄褐色	細砂粒少含
540 070-003	土胎器 小皿B	V74	口径: 16.0 器高: 3.2 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ココナデ。山形隆の蓋として利用。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒多含
541 070-004	海部 山茶鉢	V74	口径: 16.5~17.0 器高: 6.0 台径: 8.5 (完存)	内外面ロクロナデ。口縁部内外面に微隆付着。器底に糸切り風。高台隆部微隆付着。蓋裏面糸切り風。高台隆部微隆付着。蓋裏面糸切り風。	10YR 7/1 灰白	微砂粒少含

S X 7 7 (中世墓)

542 077-001	土胎器 皿B	P46	口径: 13.0前後 器高: 2.2 (1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ココナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑	砂粒少含
----------------	-----------	-----	-----------------------------	-------------------------	----------------	------

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色	調	胎 土
------	-----	------	----------	-------	--------------	---	---	-----

SX78 (中世墓)

543 078-001	土師器 小皿C	Q47	口径:7.4 器高:1.1	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コ ナデ。口縁端部埋付着。	10YR 7/3	にぶい黄緑	微砂粒多
544 078-002	土師器 皿C	Q47	口径:14.8 器高:2.4	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コ ナデ。	7.5YR 7/4	にぶい黄	細砂粒多

SX92 (中世墓)

545 092-001	土師器 甕	S54	口径:16.1 器高:6.6 台径:5.8	(11/12) (完存)	体部外面に産物文。高台端部～高台内面露 胎。高台内面にハマ炭。東向き。胎:5GY 6/1 胎土:N7/ 灰			精 良
----------------	----------	-----	-----------------------------	-----------------	---	--	--	-----

SX96 (中世墓)

546 096-001	土師器 甕	Q55	口径:16.1 器高:6.6 台径:5.8	(11/12) (5/6)	体部内外面ナデ。底蓋内外面ケズリとナデ。 外面埋付着。	10YR 7/3	にぶい黄緑	細砂粒多
----------------	----------	-----	-----------------------------	------------------	--------------------------------	----------	-------	------

SX106 (中世墓)

547 106-004	土師器 小皿C	K66	口径:7.2~8.0 器高:1.0	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2	灰白	微砂粒多
548 106-003	土師器 小皿C	K66	口径:8.9 器高:1.4	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コ ナデ。口縁端部埋付着。	7.5YR 8/3	浅黄緑	細砂粒少
549 106-001	土師器 皿C	J66	口径:11.0~11.4 器高:2.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底蓋内面一部に強 い指痕ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/2	灰白	砂 粒 少
550 106-002	土師器 皿C	J66	口径:12.0 器高:2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。底蓋内面 一部に強 い指痕ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/2	灰白	砂 粒 少
551 106-005	土師器 甕	K66	口径:34.0前後 器高:35.2	(1/12) (1/5)	口縁部内外面コナデ。底蓋内面ハケ目。 体部外面ハケ目、内面ナデ。外面埋付着。	10YR 8/4	浅黄緑	砂 粒 少

SX120 (中世墓)

552 120-004	土師器 小皿C	174	口径:7.2~7.8 器高:1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2	灰白	微砂粒多
553 120-001	土師器 皿C	174	口径:11.8~12.4 器高:2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/1	灰白	微砂粒少
554 120-002	土師器 皿C	174	口径:11.6~11.8 器高:2.7	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2	灰白	微砂粒多
555 120-003	土師器 皿C	174	口径:11.4~12.4 器高:2.6	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3	淡黄	微砂粒少
556 120-005	土師器 杯	174	口径:10.4	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面コ ナデ。	10YR 8/2	灰白	微砂粒少
557 120-008	土師器 ハコ+7磁	174	口径:6.5前後 胴径:8.0前後	(1/10) (1/8)	口縁部内外面コナデ。体部内外面ナデ。	10YR 8/4	浅黄緑	細砂粒多
558 120-006	土師器 山茶碗	174	口径:15.0 器高:5.8 台径:6.4	(3/5) (1/2)	内外面コロコナデ。底蓋外面未切り痕。高 台端部に指痕多し。知多産か。	2.5Y 7/1	灰白	微砂粒少

SX138 (中世墓)

559 138-002	土師器 皿C	K66	口径:11.2 器高:2.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3	淡黄	微砂粒少
560 138-001	土師器 皿C	K66	口径:12.0 器高:2.0	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。底蓋内面一部に強 い指痕ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/2	灰白	微砂粒少

SX140 (中世墓)

561 140-001	土師器 皿C	J66	口径:11.1 器高:2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂 粒 多
562 140-002	土師器 皿C	J66	口径:10.4 器高:2.4	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2	灰白	砂 粒 少
563 140-005	土師器 甕	J66	口径:31.5	(7/10)	口縁部内外面コナデ。底蓋内面にハマ目 残る。体部外面ハケ目、内面ナデ。外面埋 付着。	外:10YR 7/4 にぶい黄緑 内:2.5Y 8/3 淡黄		砂 粒 少
564 140-006	土師器 甕	J66	口径:21.3 器高:13.1 体径:23.1	(2/5) (2/5)	口縁部内外面コナデ。体部外面ハケ目、 内面ナデ。底蓋内外面ケズリ。外面埋付着。 底蓋内面炭化物付着。	10YR 7/2 にぶい黄緑 ~7.5YR 6/4 にぶい黄		砂 粒 少

SX149 (中世墓)

565 149-007	土師器 小皿C	L68	口径:7.3~8.0 器高:1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/4	浅黄緑	細砂粒少
----------------	------------	-----	----------------------	------	-------------	-----------	-----	------

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存率)	形態・技法・調整等の特徴	色	調	胎土
566 149-008	土師器 小皿C	L68	口径: 7.6 器高: 1.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデか。	10YR 8/2	灰白	微砂粒多
567 149-001	土師器 皿B	L68	口径: 12.6 器高: 2.5	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデか。	7.5YR 8/2	灰白	微砂粒多
568 149-002	土師器 皿C	L68	口径: 12.4 器高: 2.6	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い凹線ナデ。	7.5YR 8/2	灰白	微砂粒多
569 149-003	土師器 皿C	L68	口径: 12.0~12.8 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YK 8/3	浅黄緑	細砂粒多
570 149-004	土師器 皿C	L68	口径: 12.4~12.6 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2	灰白	細砂粒多
571 149-005	土師器 皿C	L68	口径: 12.4~12.7 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4	浅黄緑	細砂粒多
572 149-006	土師器 皿C	L68	口径: 12.7 器高: 2.8	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YK 8/4	浅黄緑	細砂粒多
573 149-011	土師器 鉢	L68	口径: 40.2	(1/4)	内外面コナデ。底部内外面ナデ。	10YR 7/3 ~7.5YR 6/3	にぶい黄緑	砂粒多
574 149-010	土師器 壺	L68	口径: 30.0前後 器高: 3.7 底径: 25.5前後	(1/8)	内外面横方向ナデ。	2.5YR 8/3	浅黄	砂粒多
575 149-009	土師器 二足付甗	L68	口径: 41.8 器高: 13.0 底径: 29.5	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。脚部1か所、脚部製縁部2か所残る。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多
576 149-012	陶器 山茶碗	L68	口径: 15.5 器高: 5.3 台径: 7.5	(1/3)	内外面クロコナデ。底部内面に強い凹線ナデ。外面未切り肌。高台端部微数多い。加多き。	10YR 7/1	灰白	細砂粒多

SX151 (中世Ⅲ)

577 151-007	土師器 小皿	L68	口径: 5.0 器高: 0.7 底径: 5.2	(3/4)	口縁部内外面コナデ。底部外面オサエ。	10YR 8/4	浅黄緑	微砂粒少
578 151-001	土師器 皿C	L68	口径: 12.0	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	微砂粒多
579 151-002	土師器 皿	L68	口径: 26.0前後	(1/8)	口縁部内外面コナデ。器部内外面ナデ。	10YR 8/4	浅黄緑	細砂粒多
580 151-003	土師器 皿	L68	口径: 29.2	(1/3)	口縁部内外面コナデ。	10YR 7/2	にぶい緑	微砂粒多
581 151-004	土師器 壺	L68	口径: 25.0前後 器高: 3.4 底径: 20.0前後	(1/8)	内外面コナデ。底部外面ナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多
582 151-005 151-006	土師器 三足付甗	L68	口径: 33.0 器高: 8.6 器高: 23.0前後	(1/4)	内外面横方向ナデ。脚部1か所残る。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多
583 151-008	陶器 山茶碗	L68	口径: 8.2	(1/4)	内外面クロコナデ。底部外面未切り肌。高台端部微数。器高少。	10YK 7/1	灰白	微砂粒少

SX152 (中世Ⅲ)

584 152-001	土師器 小皿C	M67	口径: 7.9~8.3 器高: 1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒少
----------------	------------	-----	------------------------	------	-------------	----------	-----	------

SX162 (中世Ⅲ)

585 162-003	土師器 小皿C	N74	口径: 8.0~7.7 器高: 1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	微砂粒少
586 162-004	土師器 小皿C	N74	口径: 7.3~7.5 器高: 1.0	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3	浅黄	砂粒多
587 162-005	土師器 小皿C	N74	口径: 7.5 器高: 0.9~1.2	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 7/4	にぶい緑	微砂粒多
588 162-006	土師器 小皿C	N74	口径: 7.3~8.1 器高: 0.8~1.0	(5/8)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3	浅黄緑	砂粒多
589 162-001	土師器 皿C	N74	口径: 12.0 器高: 2.4	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YK 8/3	浅黄緑	細砂粒少
590 162-002	土師器 皿C	N74	口径: 12.5 器高: 2.5	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 7/4	にぶい緑	微砂粒多
591 162-007	土師器 鉢	N74	口径: 16.2	(1/5)	器部の調整度よく調整不明。	7.5YK 8/3	浅黄緑	砂粒多

SX165 (中世Ⅲ)

592 165-003	土師器 小皿B	L68	口径: 9.0前後 器高: 1.1	(3/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面コナデ。	5YR 8/4	灰緑	砂粒多
----------------	------------	-----	----------------------	-------	-----------------------	---------	----	-----

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色	調	胎上
593 165-004	土師器 小皿C	L.68	口径：7.8 器高：0.7-0.9	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2	灰白	細砂粒多
594 165-001	土師器 皿C	L.68	口径：12.0 器高：2.8	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多
595 165-002	土師器 皿C	L.68	口径：11.5-11.8 器高：2.3	(15/16)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3	浅黄緑	砂粒多
596 165-005	土師器 皿	L.68	口径：27.0前後	(1/10)	口縁部内外面コナデ。外面僅存者。	7.5YR 7/2	明褐色	細砂粒多
597 165-007	陶器 片口鉢	L.68	口径：13.8	(1/4)	内外面クロコナデ。底部付近外面ロタロクズリ。加多威か。	2.5Y 7/1	灰白	砂粒多
598 165-006	瓦器 コナテ	L.68	口径：6.0前後 器高：2.1 底径：3.4	(1/9) (1/4)	内外面コナテ。底面外面ナデ。	5Y 6/1	灰	微砂粒少
599 165-008	磁器 向形皿	L.68	口径：7.2 器高：1.3 口径：3.0	(1/3) (1/3)	内面に花文。底部外面露胎。景徳鎮産。	10GY 8/1	明緑灰	滑 良

S X 1 6 6 (中世墓)

600 166-001	土師器 皿C	N67	口径：10.0前後 器高：1.8	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	微砂粒多
601 166-013-1	鉄貨	N67	開元通寶、初唐年代 武德4年(621) 外径：2.40cm、穿径0.65cm、重量2.25g					銅 製
602 166-013-2	鉄貨	N67	開元通寶、初唐年代 武德4年(621) 外径：2.40cm、穿径0.65cm、重量2.25g					銅 製
603 166-007	鉄貨	N67	天監元寶(西)、初唐年代 天監元年(1023) 外径：2.45cm、穿径0.65cm、重量2.25g					銅 製
604 166-008	鉄貨	N67	天監元寶(東)、初唐年代 天監元年(1023) 外径：2.40cm、穿径0.65cm、重量1.48g(1/4欠損)					銅 製
605 166-009	鉄貨	N67	景祐元寶(東)、初唐年代 景祐元年(1034) 外径：2.55cm、穿径0.70cm、重量2.38g(一部欠損)					銅 製
606 166-005	鉄貨	N67	高平元寶(東)、初唐年代 高平元年(1064) 外径：2.35cm、穿径0.55cm、重量2.07g(一部欠損)					銅 製
607 166-006	鉄貨	N67	高平元寶(東)、初唐年代 高平元年(1064) 外径：2.30cm、穿径0.55cm、重量2.52g					銅 製
608 166-013-4	鉄貨	N67	聖皇元寶(東)、初唐年代 聖皇元年(1068) 外径：2.50cm、穿径0.70cm、重量1.96g(一部欠損)					銅 製
609 166-013-3	鉄貨	N67	元豐通寶(西)、初唐年代 元豐元年(1078) 外径：2.45cm、穿径0.65cm、重量3.83g					銅 製
610 166-002	鉄貨	N67	元豐通寶(東)、初唐年代 元豐元年(1078) 外径：2.45cm、穿径0.65cm、重量6.11との計4.02g)					銅 製
611 166-003	鉄貨	N67	元符元寶(東)、初唐年代 元符元年(1098) 外径：2.50cm、穿径0.70cm、重量1.1/4欠損、610との計4.02g)					銅 製
612 166-010	鉄貨	N67	聖宗元寶(東)？、初唐年代 建中靖国元年(1101) 外径：2.40cm、穿径0.65cm、重量2.03g					銅 製
613 166-004	鉄貨	N67	政和通寶(東)、初唐年代 政和元年(1111) 外径：2.45cm、穿径0.65cm、重量2.46g					銅 製

S X 1 6 7 (中世墓)

614 167-003	土師器 小皿C	M67	口径：6.9-7.4 器高：0.8-1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2	灰白	砂粒多
615 167-001	土師器 皿C	M67	口径：11.2-11.4 器高：2.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多
616 167-002	土師器 皿C	M67	口径：11.9 器高：2.0	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内面に強い擦痕ナデ。外面に数枚庄痕。	10YR 8/4	浅黄緑	砂粒多
617 167-004	鉄器 小刀	M67	残存長20.7cm、刀身幅残存長17.5cm、刀身幅2.6cm、棟幅0.5cm、 茎幅0.6cm					鉄 製

S X 1 6 8 (中世墓)

618 168-012	土師器 小皿D	L.67	口径：8.2 器高：1.1	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにコナテか。	10YR 8/3	浅黄緑	微砂粒多
619 168-013	土師器 小皿D	L.67	口径：8.5 器高：1.2	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにコナテか。	10YR 8/2	灰白	細砂粒多
620 168-014	土師器 小皿D	L.67	口径：8.9 器高：1.3	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにコナテ。口縁部底面僅存者。	2.5Y 8/3	浅黄緑	細砂粒多

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色	調	胎土
621 168-003	土師器 皿鉢	L67	口径: 12.4~12.8 器高: 2.7~2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外張りわずかにヨコナデ。	2.5Y 8/2	灰白	砂粒多含
622 168-002	土師器 皿鉢	L67	口径: 12.0~12.2 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外張りわずかにヨコナデ。	2.5Y 8/2	灰白	砂粒含
623 168-005	土師器 皿鉢	L67	口径: 11.9~12.2 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外張りヨコナデ。	2.5Y 8/3	淡橙	砂粒含
624 168-006	土師器 皿鉢	L67	口径: 12.0~12.5 器高: 2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外張りヨコナデ。	2.5Y 8/3	淡橙	砂粒含
625 168-007	土師器 皿鉢	L67	口径: 12.1~12.5 器高: 2.7~3.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外張りヨコナデ。	2.5Y 8/3	淡橙	微砂粒含
626 168-009	土師器 皿鉢	L67	口径: 11.6~13.0 器高: 2.3~2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外張りヨコナデ。底面内面一帯に強い凹線ナデ、外面に敷状圧痕。	2.5Y 8/3	淡橙	砂粒少含
627 168-010	土師器 皿鉢	L67	口径: 12.8 器高: 2.6	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2	灰白	細砂粒含
628 168-001	土師器 皿鉢	L67	口径: 11.6~12.2 器高: 2.4	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減調み調整不明瞭。	10YR 8/3	淡黄緑	砂粒含
629 168-004	土師器 皿鉢	L67	口径: 12.3~12.8 器高: 2.3~2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3	淡橙	砂粒含
630 168-008	土師器 皿鉢	L67	口径: 12.0~12.2 器高: 2.8	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一帯に強い凹線ナデ、外面に敷状圧痕。	2.5Y 8/2	灰白	砂粒多含
631 168-019	土師器 鉢	L67	口径: 26.8 体径: 30.5	(1/3)	11箇所内外面ヨコナデ。体部内外張りナデ。底部内外張りナデナデ。器壁僅行磨せ。	10YR 8/2	灰白	砂粒多含
632 168-016	瓦器 コトコト器	L67	口径: 5.8 器径: 9.8	(1/3)	11箇所内外面ヨコナデ。	7.5YR 4/1	褐灰	微砂粒少含
633 168-015	陶器 入子	L67	口径: 5.6 器高: 1.5 底径: 3.4	(3/8)	内外面ロクロナデ。底面外面未切り。研突完成。	10YR 7/1	灰白	砂粒少含
634 168-017	陶器 山茶碗	L67	口径: 16.0前後	(1/8)	内外面ロクロナデ。知多産か。	5Y 7/1	灰白	砂粒含
635 168-018	陶器 山茶碗	L67	台径: 6.6	(完存)	内外面ロクロナデ。底面外面ナデ。裏台端部砂粒状。産地不明。	5Y 6/1	灰	微砂粒含
636 168-020	鉄器 小刀	L67	残存長13.9cm、刃部幅3.9cm、棟幅0.3cm、刃部幅1.9cm、茎部厚0.8cm					鉄製

SX170 (中世Ⅱ)

637 170-001	土師器 皿鉢	K66	口径: 11.2 器高: 2.6	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減調み調整不明瞭。	10YR 8/2	灰白	砂粒多含
638 170-003	土師器 羽釜	K66	口径: 22.0前後 脚径: 25.0前後	(1/8)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外張りナデ。外面僅行磨。	10YR 7/1	灰白	細砂粒多含
639 170-002	土師器 羽釜	K66	口径: 21.0前後 脚径: 25.0前後	(1/10)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。外面僅行磨。	10YR 8/3	淡黄緑	微砂粒含
640 170-004	陶器 片貝鉢	K66	台径: 14.2	(3/5)	内外面ロクロナデ。底面付近外面ナデ。知多産か。	10YR 7/1	灰白	砂粒含

SX175 (中世Ⅲ)

641 175-001	土師器 皿鉢	V65	口径: 11.8~11.4 器高: 2.6~2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2	灰白	砂粒多含
642 175-002	土師器 皿鉢	V65	口径: 10.9~11.9 器高: 2.7~2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3	淡黄	砂粒含
643 175-003	土師器 皿鉢	V66	口径: 20.3~21.0 器高: 11.6 体径: 21.1	(3/4)	11箇所内外面ヨコナデ。体部内外張りナデ。底部内外張りナデ。外面僅行磨。底面内面炭化物付着。	2.5Y 8/3	淡黄	微砂粒多含
644 175-004	土師器 鉢	V65	口径: 28.0 体径: 29.2	(1/3)	11箇所内外面ヨコナデ。体部内外張りナデ。内面ナデ。底面内外張りナデ。外面僅行磨。底面内面炭化物付着。	10YR 8/3	淡黄緑	微砂粒多含

SX188 (中世Ⅳ)

645 188-002	土師器 小皿鉢	M88	口径: 7.0 器高: 0.9	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2	灰白	微砂粒少含
646 188-001	土師器 小皿鉢	M88	口径: 7.4~7.8 器高: 1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4	淡黄緑	微砂粒少含
647 188-003	土師器 皿鉢	M88	口径: 11.8 器高: 2.4	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2	灰白	細砂粒含
648 188-004	石製品 灰石	M88	残存長5.4cm、幅3.6cm、厚1.6cm(欠損部分多い)					砂質製

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存数)	形態・技法・調査等の特徴	色 調	胎 土
------	-----	------	----------	-------	--------------	-----	-----

SX189 (中世基)

649 189-001	土師器 小豆C	M82	口径: 7.6~8.6 器高: 1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒少含
650 189-002	土師器 小豆C	M82	口径: 7.6~8.0 器高: 1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒含
651 189-003	土師器 小豆C	M82	口径: 7.8 器高: 0.8	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.6Y 8/2 灰白	微砂粒少含

SX223 (中世基)

652 223-001	土師器 直C	O67	口径: 12.2 器高: 2.4	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒少含
653 223-002	土師器 直C	O67	口径: 11.8 器高: 2.8	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。口縁部内外面磨行着。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
654 223-003	甕罎 弁形陶	O67	口径: 14.0前後	(1/8)	内外面磨輪。体部外面に蓋弁文。竜巻高系。	輪: 5G6/1 緑灰	精 良

SX224 (中世基)

655 224-001	土師器 直C	O67	口径: 11.8 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂 粒 含
656 224-002	土師器 直C	O67	口径: 12.5 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。内面油磨行着。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
657 224-004	土師器 直C	O67	口径: 11.1 器高: 2.2	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 5/1 黄灰	砂 粒 多 含
658 224-003	土師器 直C	O67	口径: 12.5 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。内面油磨行着。	2.5Y 8/3 淡黄	砂 粒 含
659 224-006	土師器 直	O67	口径: 24.0前後	(1/8)	口縁部内外面コナデ。肩部外面ハケ目、内面ナデ。器壁の磨滅込み調整不明。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
660 224-006	陶器 山茶碗	O67	台径: 7.5~8.1	(完存)	内外面クロコナデ。底面外面ナデ。高台端部砂粒含。黄変産か。	10YR 7/1 灰白	細砂粒含
661 224-007	陶器 山茶碗	O67	台径: 6.5	(完存)	内外面クロコナデ。底面内面に強い指痕ナデ。外縁糸切り痕。高台端部砂粒多し。知多産か。	10YR 7/1 灰白	砂 粒 含

SX225 (中世基)

662 120-004	土師器 直C	N74	口径: 11.6 器高: 2.3	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面油磨付着。	10YR 8/3 淡黄 ~7.5YR 7/3 にぶい橙	砂 粒 含
663 120-002	土師器 直C	N74	口径: 11.5~12.5 器高: 3.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄 ~7.5YR 8/3 淡黄橙	砂 粒 多 含
664 120-001	土師器 直C	N74	口径: 13.1 器高: 2.8	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5YR 8/3 淡黄	砂 粒 多 含
665 120-003	土師器 直C	N74	口径: 14.0 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	7.5YR 8/8 黄橙 ~7.5YR 7/6 橙	細砂粒含
666 120-005	陶器 片口鉢	N74	台径: 15.7	(2/5)	内外面クロコナデ。底部外縁外面クロコナデ。高台端部砂粒含。黄変産か。	10Y 6/1 灰	砂 粒 含
667 120-006	鉄製 糸釘	N74	残存長8.9cm、釘身部断面方形。	(釘身先端部欠損)			鉄 製

SK12 (土埴)

668 012-003	土師器 小豆B	W74	口径: 7.9 器高: 1.1	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒含
669 012-004	土師器 小豆B	W74	口径: 8.0 器高: 0.9	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナデ。	5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒含
670 012-002	土師器 小豆B	V74	口径: 9.3 器高: 1.7	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂 粒 多 含
671 012-007	土師器 直B	W75	口径: 12.7 器高: 2.8	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	5YR 6/6 橙	砂 粒 多 含
672 012-005	土師器 直B	V75	口径: 13.0 器高: 3.2	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	5YR 7/4 にぶい橙	砂 粒 多 含
673 012-006	土師器 直B	V75	口径: 13.0 器高: 2.6	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナデ。	10YR 8/4 淡黄橙	砂 粒 多 含
674 012-008	土師器 直B	W75	口径: 13.7 器高: 2.7	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナデ。	7.5YR 8/4 淡黄橙	砂 粒 多 含

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
675 012-011	十勝器 ?	W74	台径: 5.0	(3/5)	底部内面ナデ。台部内外面横方向ナデ。	7.5YR 7/4 に近い橙	微砂粒含
676 012-009	十勝器 罎	V75	口径: 24.0前後	(1/8)	口縁部内外面ヨコナデ。外面縦付着。器底の磨減済み調整不可認。	10YR 7/4 に近い黄橙	粗砂粒多含
677 012 010	十勝器 罎	V74	口径: 22.0前後	(1/10)	口縁部内外面ヨコナデ。外面縦付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
678 012-013	十勝器 山皿	V74	口径: 8.5 器高: 1.9 底径: 4.3	(2/3) (完存)	内外面ロクロナデ。底面外面赤切り痕。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	砂 粒 含
679 012-013	十勝器 山皿	W74	口径: 8.6 器高: 1.6 底径: 5.0	(4/5) (完存)	内外面ロクロナデ。底面外面赤切り痕。産地不明か。	5 Y 7/1 灰白	微砂粒含
680 012-015	十勝器 山茶碗	V75	口径: 16.0前後 器高: 5.4 台径: 6.7	(1/4) (3/5)	内外面ロクロナデ。底面外面ナデ。高台端部砂粒痕。産地不明か。	2.5Y 8/1 灰白	微砂粒含
681 012-016	十勝器 山茶碗	W74	口径: 16.5前後 器高: 5.0 台径: 8.0	(1/16) (2/3)	内外面ロクロナデ。底面外面赤切り痕。高台端部砂粒痕。産地不明か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
682 012-014	十勝器 山茶碗	W74		(口縁部分)	内外面ロクロナデ。外面に黒漆「着」か。知多産か。	5 Y 5/1 灰	砂 粒 含
683 012-017	十勝器 片口鉢	W74	口径: 29.0前後	(1/12)	内外面ロクロナデ。知多産か。	5 Y 5/1 灰白	砂 粒 含

SK 2 2 (土坑)

684 022-006	十勝器 小皿C	V79	口径: 8.0 器高: 1.2	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10Y 8/2 灰白	砂粒多含
685 022-008	十勝器 小皿C	V79	口径: 8.2 器高: 1.4	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10Y 8/3 浅黄橙	砂 粒 含
686 022-001	十勝器 罎C	V79	口径: 13.2 器高: 2.5~2.7	(7/8)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂 粒 含
687 022-002	十勝器 罎C	V79	口径: 13.0 器高: 2.8	(7/8)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
688 022-004	十勝器 罎C	V79	口径: 12.4 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	粗砂粒含

SK 2 6 (土坑)

689 026-006	十勝器 小皿C	T72	口径: 7.9 器高: 2.3	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	粗砂粒含
690 026-001	十勝器 山皿	T72	口径: 13.0 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	微砂粒含
691 026-002	十勝器 山皿	T72	口径: 13.0 器高: 2.6	(3/4)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	5YR 8/3 黄橙	微砂粒含
692 026-003	十勝器 皿C	T72	口径: 12.5 器高: 3.0	(2/3)	外面オサエ。内面ナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	砂 粒 含

SK 2 9 (土坑)

693 029 001	十勝器 皿C	V69	口径: 10.9 器高: 2.4	(3/4)	外面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	微砂粒含
694 029-002	十勝器 罎	V69	口径: 20.0前後	(1/9)	口縁部内外面ヨコナデ。縁部外面ハケ目。内面ナデ。外面縦付着。	10YR 7/3 に近い黄橙	微砂粒多含

SK 3 0 (土坑)

695 030-001	十勝器 山茶碗	V69	台径: 8.2	(3/5)	内外面ロクロナデ。底面外面ナデ。高台端部砂粒痕。産地不明か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒多含
----------------	------------	-----	---------	-------	--------------------------------	-------------	-------

SK 3 1 (土坑)

696 031-001	十勝器 小皿C	V69	口径: 6.7~7.1 器高: 0.9	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	粗砂粒少含
697 031-002	十勝器 山皿	V69	口径: 12.3	(4/5)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	5YR 7/4 に近い橙	砂 粒 含

SK 4 5 (土坑)

698 045-002	十勝器 小皿C	U23	口径: 7.3~7.7 器高: 1.3	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/3 に近い黄橙	砂 粒 多 含
699 045-004	十勝器 小皿C	U23	口径: 7.8~8.1 器高: 1.2~1.4	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	5YR 7/4 に近い橙	砂 粒 多 含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色	調	胎土
701 045-005	土師器 直耳	T23	口径: 14.2 器高: 2.5	(3/7)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部内外面コ コナデ。	7.5YR 7/4	にぶい橙	砂粒多量
702 045-007	土師器 直A	T22-T23	口径: 15.0 器高: 2.9	(5/8)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部内外面コ コナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多量
703 045-009	土師器 直	T23	口径: 16.9 体径: 16.0前後	(1/5) (1/8)	口部部内外面ココナデ。体部内外面ナゲ。 外面保存せず。	7.5YR 8/3	浅黄緑	砂粒少量
704 045-011	土師器 直	U22	口径: 26.3	(1/8)	口部部内外面ココナデ。体部内外面ナゲ。 外面保存せず。	7.5YR 8/3	浅黄緑	砂粒多量
705 045-010	土師器 直	L'22	口径: 35.5前後	(1/12)	口部部内外面ココナデ。外面保存せず。	7.5YR 8/3	浅黄緑	砂粒多量
706 045-012	陶器 山耳	U22	口径: 9.0 器高: 1.9 底径: 4.4	(2/3) (完存)	内外面ロクロナゲ。底部外面未切り肌。蓋 裏面赤か。	10YR 8/1	灰白	微砂粒少量
707 045-013	陶器 山茶碗	U22	口径: 16.0前後 器高: 5.2 台径: 7.1	(1/6) (1/4)	内外面ロクロナゲ。底部外面未切り肌。高 台端部縁部微黄。蓋裏面赤か。	2.5Y 7/1	灰白	微砂粒少量

SK 4 8 (上坑)

708 048-004	土師器 小直耳	V36	口径: 8.2 器高: 1.3	(3/7)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部内外面コ コナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多量
709 048-001	土師器 直B	V36	口径: 14.3 器高: 2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部内外面コ コナデ。	7.5YR 7/4	にぶい橙	砂粒多量
710 048-002	土師器 直B	V36	口径: 14.5 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部内外面コ コナデ。	7.5YR 7/4	にぶい橙	砂粒多量
711 048-003	土師器 直B	V36	口径: 15.0 器高: 2.9	(3/5)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部内外面コ コナデ。	7.5YR 7/3	にぶい橙	砂粒多量
712 048-007	土師器 直	V36	口径: 17.8	(4/5)	口部部内外面ココナデ。肩部内外面ナゲ。	7.5YR 6/6	橙	微砂粒多量
713 048-005	陶器 山耳	V36	口径: 8.6 器高: 2.1 底径: 5.0	(5/8) (完存)	内外面ロクロナゲ。底部外面未切り肌。蓋 裏面赤か。	10YR 7/1	灰白	微砂粒少量
714 048-006	陶器 山茶碗	V36	台径: 7.7	(1/4)	内外面ロクロナゲ。底部外面未切り肌。体 部と口部の胎土が異なる。蓋裏面赤か。	体部: 10YR 5/1 高台: 10YR 4/1	黄緑 黄緑	微砂粒多量
715 048-008	土師器 直	V36		(大部分欠損)	外面オサエ。	7.5YR 7/3	浅黄	砂粒多量

SK 6 5 (土坑)

716 065-001	土師器 小直耳	S45	口径: 7.4 器高: 0.8-1.1	(11/12)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面コ コナデ。	7.5YR 7/4	にぶい橙	砂粒少量
717 065-002	土師器 小直耳	S45	口径: 7.0-7.2 器高: 1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面コ コナデ。口部内外面微黄緑色。	7.5YR 7/4	にぶい橙	砂粒少量
718 065-003	陶器 山耳	S45	口径: 8.3 器高: 2.1 底径: 4.8	(1/8) (完存)	内外面ロクロナゲ。底部外面未切り肌。外 面の3か所に墨青「十」か。加多赤か。	2.5Y 7/2	灰黄	砂粒多量

SK 6 6 (土坑)

719 066-002	土師器 小直耳	S45	口径: 7.8-8.1 器高: 1.4-1.6	(3/4)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面コ コナデ。	5YR 7/6	橙	細砂粒少量
720 066-001	土師器 直耳	S45	口径: 12.7-13.4 器高: 2.7-3.0	(7/8)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面わ かにココナデ。内面微黄緑色。	10YR 7/3	にぶい黄緑	細砂粒少量

SK 6 9 (土坑)

721 069-001	土師器 直耳	S45	口径: 13.5-13.9 器高: 2.6-2.8	(5/6)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部内外面コ コナデ。	5YR 7/6	橙	細砂粒多量
----------------	-----------	-----	------------------------------	-------	-----------------------------	---------	---	-------

SK 8 1 (上坑)

722 081-004	土師器 小直耳C	Q49	口径: 7.0 器高: 0.7	(1/2)	外面オサエ、内面ナゲ。	10YR 8/3	浅黄緑	微砂粒少量
723 081-002	土師器 小直耳	Q49	口径: 7.1 器高: 1.1	(1/2)	外面オサエ、内面ナゲ。	2.5Y 8/3	浅黄	微砂粒少量
724 081-001	土師器 小直耳	Q49	口径: 7.4-7.8 器高: 1.5	(8/9)	外面オサエ、内面ナゲ。	2.5Y 7/3	浅黄	微砂粒少量
725 081-005	土師器 直C	Q49	口径: 11.6-12.4 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。	2.5Y 8/3	浅黄	砂粒少量
726 081-006	土師器 直C	Q48	口径: 12.2 器高: 2.6	(1/4)	外面オサエ、内面ナゲ。	10YR 8/2	灰白	微砂粒少量

産物番号	器 種	出上位	計測値 (mm) (残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
727 081-006	土師器 罎	Q49		(口頸部片) 口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/3 に近い黄	砂粒 包含
728 081-009	土師器 罎	Q49		(口頸部片) 口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 7/3 に近い黄褐色	細砂粒 包含

SK83 (土坑・中群墓?)

729 083-001	土師器 小皿B	R52	口径: 7.2~7.6 器高: 1.2~1.5 (11/12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒 少量
730 083-002	土師器 小皿B	R52	口径: 7.7 器高: 1.3~1.5 (1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒 包含
731 083-003	土師器 皿B	R52	口径: 12.7~13.0 器高: 3.0 (9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/6 浅黄緑	細砂粒 包含

SK84 (土坑)

732 084-001	土師器 皿B	P54	口径: 13.6 器高: 3.0 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/6 黄	砂粒 多量
----------------	-----------	-----	--------------------------	------------------------	-------------	-------

SK86 (土坑)

733 086-001	土師器 小皿B	V35	口径: 8.2 器高: 1.2 (3/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	炭砂粒 包含
734 086-002	土師器 皿C	V35	口径: 12.6 器高: 2.7 (3/8)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	炭砂粒 多量

SK89 (土坑)

735 089-001	土師器 皿C	T57	口径: 13.0前後 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	外: 10YR 3/2 黒褐色 内: 10YR 8/3 浅黄緑	砂粒 多量
----------------	-----------	-----	------------------	-------------	------------------------------------	-------

SK101 (土坑)

736 101-001	土師器 小皿C	I69	口径: 8.0 器高: 0.9 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	精 良
737 101-002	土師器 皿C	I69	口径: 11.0 器高: 2.0 (1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	精 良

SK103 (土坑)

738 103-001	土師器 小皿C	J66	口径: 7.4 器高: 0.5~1.0 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂 粒 包含
739 103-002	土師器 小皿C	J66	口径: 7.6~7.9 器高: 0.7~1.3 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5Y 8/3 浅黄緑	砂 粒 包含
740 103-004	土師器 小皿C	J66	口径: 7.9 器高: 0.8~1.4 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒 包含
741 103-005	土師器 小皿C	J66	口径: 7.8 器高: 0.9~1.2 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒 多量
742 103-008	土師器 小皿C	I66	口径: 7.5~7.9 器高: 1.2 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒 多量
743 103-009	土師器 皿C	J66	口径: 11.3 器高: 2.8 (11/12)	外面オサエ、内面ナデ。底面内面一部に強い指痕ナデ、外面に敷状片痕。	10YR 8/4 浅黄緑	砂 粒 包含
744 103-010	土師器 皿C	J66	口径: 11.0 器高: 2.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 包含
745 103-012	土師器 皿C	J66	口径: 11.3 器高: 2.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。底面内面一部に強い指痕ナデ、外面に敷状片痕。	2.5Y 8/3 浅黄	砂 粒 包含
746 103-011	土師器 皿C	J66	口径: 10.6~11.2 器高: 2.8 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	砂 粒 包含
747 103-013	土師器 皿C	J66	口径: 11.1~11.6 器高: 2.4~2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。底面内面一部に強い指痕ナデ、外面に敷状片痕。	7.5Y 8/3 浅黄緑	砂 粒 包含
748 103-014	土師器 皿C	J66	口径: 11.0 器高: 2.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。底面内面一部に強い指痕ナデ、外面に敷状片痕。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 包含
749 103-015	土師器 皿C	J66	口径: 11.4 器高: 3.0 (2/3)	外面オサエ、内面ナデ。外面にへう状工具による刺突痕列。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 包含
750 103-016	土師器 皿C	J66	口径: 11.3~12.0 器高: 2.5~3.0 (2/3)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/1 灰白	砂 粒 包含
751 103-017	土師器 皿C	J66	口径: 11.6 器高: 2.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 包含

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
752 103-018	土師器 皿C	J 66	口径: 11.9 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。外面にへう状工具による刷文列。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含
753 103-019	土師器 皿C	J 66	口径: 11.3 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指痕ナデ、外面に板状圧痕。外面にへう状工具による刷文列。	10YR 8/1 灰白	砂粒含
754 103-020	土師器 皿C	J 66	口径: 11.5 器高: 2.4-2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
755 103-021	土師器 皿C	J 66	口径: 10.8 器高: 2.3	(11/13)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5Y 8/1 灰白	砂粒含
756 103-022	土師器 皿C	J 66	口径: 12.0 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 淡黄緑	砂粒含
757 103-023	土師器 皿C	J 66	口径: 11.3 器高: 2.2	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒含
758 103-024	土師器 皿C	J 66	口径: 11.6 器高: 2.3-2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
759 103-41-2	土師器 皿	J 66	口径: 22.1	(1/2)	口縁部内外面ココナデ。肩部内外面ナデ。外面僅け付着。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含
760 103-41-1	土師器 皿	J 66	口径: 23.3	(1/6)	口縁部内外面ココナデ。肩部外面ハケ目、内面ナデ。外面僅け付着。	7.5YR 7/6 緑	細砂粒多含
761 103-042	土師器 皿	J 66	口径: 22.5 器高: 11.8-12.5 体径: 23.3	(3/4) (5/6)	口縁部内外面ココナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁僅け付着せず。	10YR 8/4 淡黄緑	細砂粒多含
762 103-043	土師器 皿	J 66	口径: 22.5 器高: 15.2 体径: 30.0	(完存) (1/2)	口縁部内外面ココナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁僅け付着せず。	10YR 7/3 淡黄緑	細砂粒多含
763 103-039	土師器 皿	J 66	口径: 28.4 器高: 15.0 体径: 29.8	(1/2) (1/2)	口縁部内外面ココナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁僅け付着せず。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒多含
764 103-044	土師器 皿	J 66	口径: 28.0 器高: 19.0 器底: 17.0 体径: 30.0	(完存) (11/13)	口縁部内外面ココナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁僅け付着せず。	10YR 8/4 淡黄緑	砂粒多含
765 103-036	土師器 皿	J 66	口径: 28.0 器高: 17.9 体径: 30.8	(完存) (7/8)	口縁部内外面ココナデ。体部外面ハケ目、体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁僅け付着せず。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含
766 103-038	土師器 皿	J 66	口径: 27.2-28.4 器高: 17.0 体径: 29.8	(完存) (完存)	口縁部内外面ココナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁外面に僅、底部内面炭化物付着。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
767 103-059	土師器 羽釜	I 66		(口縁破片)	口縁部内外面ココナデ。内面ナデ。外面オサエ。外面僅け付着。	10YR 8/3 淡黄緑	細砂粒多含
768 103-025	土師器 壺	I 66		(口縁破片)	内外面ナデ。	7.5YR 8/4 淡黄緑	細砂粒多含
769 103-032	陶器 山系瓶	J 66	口径: 14.3 器高: 5.3 台径: 6.6-7.2	(4/5) (完存)	内外面クロコナデ。底部外面水切り痕。異台端部底段形成のみ。底部外面に塗層(土)か。知多産か。	2.5Y 6/1 黄灰	砂粒多含
770 103-033	陶器 山系瓶	J 66	口径: 16.2 器高: 4.9 台径: 8.6	(2/5) (2/5)	内外面クロコナデ。底部外面水切り痕。高台端部砂粒痕。黄美産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒多含
771 103-034	陶器 片口鉢	J 66	底径: 11.5-12.0	(完存)	内外面クロコナデ。底部付近外面クロコナデ。底部外面砂粒痕。黄美産か。	2.5Y 4/1 黄灰	細砂粒含
772 103-031	陶器 壺	J 66	口径: 15.5	(1/6)	口縁部内外面クロコナデ。底段輪を施施。黄美産三筋文系陶器。	10YR 4/2 淡黄褐	微砂粒含
773 103-030	陶器 古直柄	I 66	口径: 9.0 器高: 4.1 台径: 3.0	(1/4) (1/4)	高台端部露筋。胎部外面に塗文あり。電黒美産。	胎: 5G 7/1 明緑灰 胎土: 7.5Y 7/1 灰白	精 貝

SK104 (上段・中室蓋?)

774 104-004	土師器 小皿A	K 68	口径: 7.5 器高: 1.5	(5/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ココナデ。口縁部内外面僅け付着。	10YR 8/3 淡黄緑	微砂粒含
775 104-005	土師器 小皿B	K 68	口径: 7.5-7.7 器高: 0.9	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにココナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含
776 104-003	土師器 小皿C	K 68	口径: 8.0-8.3 器高: 1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 淡黄緑	砂粒多含
777 104-007	土師器 小皿C	K 68	口径: 7.1-7.9 器高: 1.0	(5/6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	微砂粒含
778 104-016	土師器 台付小皿	K 68	口径: 8.5前後 器高: 2.4 台径: 3.6	(1/4) (完存)	内外面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒多含
779 104-011	土師器 皿C	K 68	口径: 11.0-11.2 器高: 2.5	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
780 104-009	土師器 皿C	K 68	口径: 11.2 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒多含
781 104-010	土師器 皿C	K 68	口径: 10.8-11.0 器高: 2.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存率)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
782 104-014	土師器 直C	K68	口径: 11.5 器高: 2.5~2.7 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
783 104-026	土師器 罎	K68	口径: 28.5前後 体径: 30.0前後 (1/8)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。	外: 10YR 8/2 灰白 内: 10YR 7/4 に近い黄褐色	細砂粒多含
784 104-018	土師器 羽釜	K68	(口縁部~胴部片)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ケズリ。胴部ナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/1 灰白	微砂粒多含
785 104-019	土師器 羽釜	K68	(口縁部~胴部片)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ケズリ。胴部ナデ。外面煤付着。	7.5YR 7/2 明褐色	微砂粒多含
786 104-020	土師器 一足付罎	K68	口径: 37.0前後 器高: 11.9~12.3 底径: 14.5 (3/4)	内外面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。底部付足角面ケズリ。足部1か所残存。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
787 104-020	土師器 山形瓶	K68	口径: 14.8 (3/5)	内外面クロコナデ。知多産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒多含
788 104-022	土師器 青磁瓶	K68	口径: 15.2前後 (1/8)	内外面施釉。体部外面に遺存文。電泉窯系。	胎: 5GY 6/1 オリーブ灰 胎土: 5Y 6/1 灰	精 良
789 104-024	土師器 内蓋瓶	K68	長10.2cm、幅7.5cm、体部径5.1cm、蓋部径0.9cm (体部以外ほぼ完好)		N3/ 暗灰	細砂粒多含

SK 1 0 5 (土坑)

790 105-001	土師器 直C	I69	口径: 12.2~12.6 器高: 2.7~3.5 (完好)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	砂 粒 多 含
791 105-002	土師器 直C	I69	口径: 12.2 器高: 2.7 (2/3)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	砂 粒 多 含
792 105-003	土師器 直C	I69	口径: 12.5~12.7 器高: 3.2 (4/5)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	砂 粒 多 含

SK 1 1 1 (土坑)

793 111-006	土師器 直C	G84	口径: 11.9 器高: 2.3 (3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
794 111-001	土師器 直C	G84	口径: 12.0 器高: 2.7 (3/5)	外面オサエ、内面ナデ。内外面施釉付着。	10YR 8/1 灰白	細砂粒多含

SK 1 1 4 (土坑)

795 114-001	土師器 直C	J78	口径: 13.0 器高: 2.4 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒多含
796 114-003	土師器 瓶	J78	(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 多 含
797 114-002	土師器 罎	J78	(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
798 114-005	土師器 山形瓶	J78	口径: 8.3 器高: 1.9 底径: 4.6 (1/4)	内外面クロコナデ。底部外面糸切り痕。知多産か。	N7/ 灰白	砂 粒 多 含

SK 1 1 5 (土坑)

799 115-001	土師器 直C	I76	口径: 12.9 器高: 2.5 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 多 含
800 115-002	土師器 罎	I76	(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/3 に近い黄褐色	砂 粒 多 含
801 115-003	土師器 山形瓶	I76	口径: 15.0 器高: 5.6 台径: 7.2 (2/3)	内外面クロコナデ。底部外面糸切り痕。高台成造り製。知多産か。	10YR 7/1 灰白	細砂粒多含

SK 1 2 2 (土坑)

802 122-002	土師器 小直C	I72	口径: 7.5 器高: 1.1 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 に近い黄褐色	砂 粒 多 含
803 122-001	土師器 小直C	I72	口径: 8.0~8.4 器高: 1.2~1.6 (完好)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 多 含
804 122-003	土師器 小直C	I72	口径: 7.6 器高: 1.0~1.3 (3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部油煙付着。	5YR 7/4 に近い黄褐色	砂 粒 多 含
805 122-004	土師器 直C	I72	口径: 12.4~12.8 器高: 2.9 (3/5)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨滅込み調整不明瞭。	7.5YR 8/3 淡黄褐色	砂 粒 多 含
806 122-007	土師器 罎	I72	口径: 28.0前後 (1/12)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。器壁の磨滅込み調整不明瞭。外面煤付着。	10YR 8/3 淡黄褐色	砂 粒 多 含
807 122-005	土師器 罎	I72	口径: 35.5前後 (完好)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着せず。器壁の磨滅込み調整不明瞭。	7.5YR 7/4 に近い黄褐色	砂 粒 多 含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存率)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
808 122-009	陶器 山茶碗	I72	口径: 15.0前後 (1/8)	内外面クロコナデ。知多産か。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多
809 122-010	陶器 山茶碗	I72	台径: 5.0前後 (1/4)	内外面クロコナデ。底部外面糸切り痕。高台端部割毀が多い。知多産か。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多

SK 1 2 3 (十坑)

810 123-003	土器器 小皿C	K72	口径: 8.0 器高: 3.0 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5YR 8/3 浅黄	微砂粒多
811 123-001	土器器 皿B	K72	口径: 12.0 器高: 2.1 (1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面わずかにヨコナデ。	2.5YR 8/3 浅黄	細砂粒多
812 123-002	土器器 皿B	K72	口径: 12.0 器高: 2.3 (3/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面わずかにヨコナデ。	2.5YR 8/3 浅黄	細砂粒多
813 123-004	磁器 青磁皿	K72	口径: 13.9 器高: 3.9 台径: 6.5 (2/5)	高台端部露胎。電変寒系。	胎: 5G 7/1 暗緑灰 胎土: 2.5Y 7/1 灰白	精 良

SK 1 3 0 (土坑)

814 130-003	土器器 小皿B	M80	口径: 7.4~7.7 器高: 1.0~1.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/6 緑	微砂粒多
815 130-004	土器器 小皿B	M80	口径: 7.1~7.8 器高: 1.4~1.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/6 緑	微砂粒多
816 130-001	土器器 皿B	M80	口径: 12.8 器高: 2.3 (3/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	微砂粒多
817 130-010	土器器 皿	M80	口径: 22.2 器高: 24.0 (3/4) (1/3)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。外面底付番。	10YR 8/4 浅黄緑	砂粒多
818 130-011	土器器 二足付置	M80	口径: 41.0 器高: 8.7 底径: 27.5 (2/5)	内外面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。底部外面オサエ。足部残存せず。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多
819 130-006	陶器 山形碗	M80	口径: 9.4 器高: 2.0 底径: 4.8 (1/4) (1/2)	内外面クロコナデ。底部外面糸切り痕。高台端部割毀。	2.5Y 8/1 灰白	微砂粒多
820 130-008	陶器 山茶碗	M80	口径: 14.0 器高: 5.0 台径: 6.0前後 (1/5)	内外面クロコナデ。底部内面に底頸ナデ。外面糸切り痕。高台端部割毀が多い。知多産か。	2.5Y 8/1 灰白	砂粒多
821 130-009	陶器 山茶碗	M80	口径: 15.0 器高: 5.3 台径: 6.5 (2/5)	内外面クロコナデ。底部外面糸切り痕。高台端部割毀。知多産か。	2.5Y 8/1 灰白	砂 粒 多

SK 1 3 5 (土坑)

822 135-001	土器器 小皿	M76	口径: 18.3 (1/8)	口縁部内外面ヨコナデ。器部内外面ナデ。器部の割壊進入損壊不明瞭。	10YR 7/3 にぶい黄緑	砂粒多
----------------	-----------	-----	-------------------	----------------------------------	----------------	-----

SK 1 4 4 (土坑)

823 144-010	土器器 小皿C	M71	口径: 7.0~7.5 器高: 1.0~1.2 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑 ~10Y 6/2 灰黄緑	微砂粒多
824 144-001	土器器 小皿C	M71	口径: 7.8 器高: 1.1~1.3 (3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒多
825 144-012	土器器 小皿C	M71	口径: 7.0~7.5 器高: 1.0~1.2 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒多
826 144-013	土器器 小皿C	M71	口径: 7.0~7.9 器高: 1.2~1.4 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白 ~2.5Y 8/3 浅黄	微砂粒少
827 144-014	土器器 小皿C	M71	口径: 7.3~7.8 器高: 1.0~1.2 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑	微砂粒多
828 144-015	土器器 小皿C	M71	口径: 7.5~8.1 器高: 1.3 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒多
829 144-001	土器器 皿C	M71	口径: 10.5~11.0 器高: 2.2~2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒少
830 144-002	土器器 皿C	M71	口径: 11.2~11.5 器高: 2.5~2.8 (7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 浅黄緑	微砂粒少
831 144-003	土器器 皿C	M71	口径: 10.7~11.5 器高: 2.5~2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒多
832 144-004	土器器 皿C	M71	口径: 11.0~11.3 器高: 2.3~2.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒多
833 144-005	土器器 皿C	M71	口径: 10.5~11.5 器高: 2.3~2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面に強い指痕状片状。外面に板状片状。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 多
834 144-006	土器器 皿C	M71	口径: 10.5~11.5 器高: 2.4~2.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	微砂粒少

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色	調	胎上
835 144-007	土師器 皿C	M71	口径: 11.3 器高: 2.6	(5/6)	外側オサエ、内面ナデ。底部内面一帯に強い窪みナデ。	7.5YR 8/1	浅黄橙	黄砂粒多含
836 144-008	土師器 皿C	M71	口径: 11.0 器高: 2.4	(2/3)	外側オサエ、内面ナデ。底部内面一帯に強い窪みナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/3	浅黄橙	黄砂粒多含
837 144-016	土師器 鉢	M71	口径: 16.5前後	(1/8)	口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3	浅黄橙	黄砂粒多含
838 144-017	陶器 山形 山形	M71	口径: 9.0前後 器高: 2.1 底径: 4.5	(1/5)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。蓋突座か。	10YR 6/1	褐灰	黄砂粒多含
839 144-019	陶器 山茶 山茶	M71	口径: 17.0 器高: 5.2 台径: 7.0~7.3	(1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端縁部段状多、蓋突座か。	5 Y 7/1	灰白	黄砂粒多含
840 144-020	陶器 山茶 山茶	M71	口径: 16.8 器高: 5.0 台径: 8.0	(1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端縁部段状。蓋突座か。	2.5Y 7/1	黄灰	黄砂粒多含
841 144-018	陶器 山茶 山茶	M71	台径: 6.9~7.4	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕と蓋蓋「○」。高台端縁部段状。蓋突座か。	2.5Y 8/3	淡黄	黄砂粒少含
842 144-022	陶器 片口鉢 片口鉢	M71	口径: 34.0前後	(1/8)	内外面ロクロナデ。外面下平クロケズリ。知多座か。	5 Y 6/2	灰オリーブ	黄砂粒多含
843 144-023	陶器 片口鉢 片口鉢	M71	台径: 16.0前後	(1/5)	内外面ロクロナデ。蓋突座か。	5 Y 5/1	灰白	黄砂粒少含
844 144-021	瓦 軒丸瓦	M71	瓦当径: 31.0前後	(1/2)	右巻き三巴文。丸瓦凸縁ケズリ。凹面平口風。	5 Y 5/1	灰白	黄砂粒多含

S K 1 4 6 (土坑)

845 146-003	土師器 小皿B	N68	口径: 7.8 器高: 0.7	(2/5)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3	浅黄橙	黄砂粒多含
846 146-001	土師器 小皿B	N68	口径: 13.1 器高: 2.5	(1/2)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	2.5Y 8/3	淡黄	黄砂粒少含
847 146-002	土師器 皿C	N68	口径: 12.8 器高: 2.8	(1/3)	外側オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3	淡黄	黄砂粒多含
848 146-004	土師器 鉢	N68		(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面壁付着。	7.5YR 5/3	にぶい黄	黄砂粒多含

S K 1 4 7 (土坑)

849 147-001	土師器 小皿C	N69	口径: 7.7 器高: 1.2	(3/5)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3	浅黄橙	黄砂粒多含
850 147-002	J 類器 皿C	N69	口径: 13.8 器高: 2.5	(1/4)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4	浅黄橙	黄砂粒少含

S K 1 5 0 (土坑)

851 150-003	土師器 小皿C	N68	口径: 7.2 器高: 0.8	(1/4)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3	浅黄橙	黄砂粒多含
852 150-002	土師器 小皿C	N68	口径: 8.0 器高: 0.9	(2/5)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3	にぶい黄橙	黄砂粒多含
853 150-001	土師器 皿C	N68	口径: 10.5 器高: 2.2	(1/5)	外側オサエ、内面ナデ。器壁の磨滅込み調整不明瞭。	2.5Y 8/3	淡黄	黄砂粒多含
854 150-004	土師器 鉢	N68	口径: 19.0前後	(1/10)	口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3	浅黄橙	黄砂粒多含

S K 1 5 4 (土坑)

855 154-003	土師器 小皿B	N72	口径: 7.2~8.3 器高: 1.3	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	外: 10YR 7/6 内: 10YR 8/3	明黄橙 淡黄橙	黄砂粒多含
856 154-005	土師器 鉢	N72		(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3	浅黄橙	黄砂粒多含
857 154-001	陶器 山茶 山茶	N72	口径: 15.6 器高: 5.0 台径: 6.8	(1/2)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端縁部段状。知多座か。	10Y 6/1	灰	黄砂粒多含
858 154-002	陶器 山茶 山茶	N72	口径: 15.2 器高: 5.3 台径: 6.8	(1/2)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端縁部段状。内面全体保存。知多座か。	10Y 6/1	灰	黄砂粒多含

S K 1 5 5 (土坑)

859 155-014	土師器 小皿C	M72	口径: 7.0~7.5 器高: 1.0~1.5	(11/12)	外側オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3	浅黄橙	黄砂粒少含
860 155-015	土師器 小皿C	M72	口径: 7.9~8.4 器高: 0.5~1.2	(ほぼ完存)	外側オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3	浅黄橙	黄砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
861 155-012	土師器 小皿C	M73	口径: 7.0~7.3 器高: 1.0~1.5 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂多含
862 155-013	土師器 小皿C	M72	口径: 8.1 器高: 0.8~1.1 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
863 155-003	土師器 皿C	L73	口径: 11.0 器高: 2.3 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
864 155-006	土師器 皿C	M72	口径: 12.3 器高: 2.4~2.9 (7/8)	外面オサエ、内面ナデ。外面僅付着。	7.5YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
865 155-007	土師器 皿C	M73	口径: 11.0~11.6(ほぼ完存) 器高: 2.7	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
866 155-008	土師器 皿C	M72	口径: 11.2 器高: 2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
867 155-002	土師器 皿C	L73	口径: 12.4 器高: 2.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
868 155-001	土師器 皿C	L73	口径: 11.7~12.2 (完存) 器高: 1.3	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	微砂粒少含
869 155-018	土師器 鉢	M73	口径: 27.0前後 (1/6) (調整1/8)	口縁部内外面コナデ。外面僅付着。	7.5YR 8/3 浅黄緑	細砂粒多含
870 155-017	土師器 鉢	M73	口径: 25.0前後 (おつか) (調整1/4)	口縁部内外面コナデ。鉢部外面ヘケ目、内面ナデ。外面僅付着。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
871 155-021	土師器 皿	M72	口径: 36.0前後 (1/12)	外面ケズリ、外面ナデ。	5 YR 8/3 淡緑	細砂粒含
872 155-030	土師器 コナデ	M72	口径: 9.0前後 (1/5) 器高: 3.9 体径: 8.5 (1/3)	口縁部内外面コナデ。体部内外面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	2.5Y 8/3 浅黄緑	微砂粒少含
873 155-023	陶器 山芋椀	M72	口径: 6.7 (1/2)	内外面ロクコナデ。底部外面赤切り痕。高台端部割取痕。知多産小。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒多含

SK 156 (上段)

874 156-002	土師器 小皿C	M73	口径: 6.8 器高: 0.7 (3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
875 156-001	土師器 皿C	M73	口径: 11.6 器高: 1.9 (5/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面僅付着。	10YR 8/1 灰白	細砂粒含
876 156-003	陶器 山皿	M73	口径: 8.6 器高: 1.6 体径: 5.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部外面赤切り痕。高台産小。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含

SK 161 (上段)

877 161-019	土師器 小皿C	L71	口径: 6.6~7.7 器高: 0.7~1.3 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 含
878 161-021	土師器 小皿C	L71	口径: 7.4~7.6 器高: 0.6~1.0 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒多含
879 161-027	土師器 小皿C	L71	口径: 7.2~7.9 器高: 0.8~1.2 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部外面僅付着。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
880 161-022	土師器 小皿丸	L71	口径: 8.9~9.5 器高: 0.8~1.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面コナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
881 161-041	土師器 皿C	L71	口径: 10.9 器高: 2.3 (1/3)	外面オサエ、内面ナデ。内外面に墨書。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
882 161-010	土師器 皿C	L71	口径: 11.4 器高: 2.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂 粒 含
883 161-011	土師器 皿C	M71	口径: 11.2 器高: 2.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
884 161-012	土師器 皿C	M71	口径: 11.6 器高: 2.4 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進む。	10YR 8/4 浅黄緑	砂 粒 含
885 161-043	陶器 山芋椀	L71	口径: 14.0前後 (1/10)	内外面ロクコナデ。知多産小。	10YR 7/1 灰白	砂粒多含
886 161-042	土師器 鉢	M71	口径: 27.0前後 (1/12)	口縁部内外面コナデ。外面僅付着。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含

SK 173 (上段)

887 173-001	土師器 皿C	U67	口径: 10.4 器高: 2.0~2.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/1 灰白	微砂粒少含
888 173-002	土師器 皿C	V67	口径: 11.7 器高: 2.4~2.6 (3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
889 173-004	土師器 甕	V67	口径: 29.4	(1/3)	口縁部内外面コナテ。底部外面ハケ目、内面ナテ。外面輝行着。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒多含
890 173-003	陶器 片口鉢	U67-V67	口径: 29.0前後	(1/6)	内外面ロクロナテ。底部外面下段ケズリ。知多産か。	外: 2.5Y 4/1 黄灰 内: 2.5Y 5/1 黄灰	砂 粒 含

SK 174 (土坑)

891 174-001	陶器 片口鉢	U66	口径: 31.8 胎高: 10.5 台径: 15.2	(2/5)	内外面ロクロナテ。底部付近外面ケズリ。高台端部砂粒状。知多産か。	10YR 6/1 黄灰	砂 粒 含
----------------	-----------	-----	----------------------------------	-------	----------------------------------	-------------	-------

SK 177 (土坑)

892 177-001	土師器 皿C	O80	口径: 12.0 胎高: 2.2	(1/6)	外面オサエ、内面ナテ。	2.5Y 8/1 灰白	砂 粒 含
893 177-002	土師器 皿C	O80	口径: 12.0 胎高: 2.2	(1/4)	外面オサエ、内面ナテ。	2.5Y 8/1 灰白	微砂粒含

SK 178 (土坑)

894 178-002	土師器 小皿C	O79	口径: 7.4~7.9 胎高: 1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナテ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒多含
895 178-003	土師器 小皿C	O79	口径: 7.4~8.0 胎高: 1.8	(5/6)	外面オサエ、内面ナテ。	2.5Y 8/4 淡黄	微砂粒多含
896 178-008	土師器 杯	O79	口径: 10.4 胎高: 3.1	(3/7)	外面オサエ、内面ナテ。口縁部内外面コナテ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
897 178-005	土師器 皿C	O79	口径: 12.0 胎高: 2.7	(1/2)	外面オサエ、内面ナテ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
898 178-006	土師器 皿C	O79	口径: 13.0 胎高: 2.6	(1/4)	外面オサエ、内面ナテ。底部内面一部に強い指痕ナテ。外面に縦状圧痕。	2.5Y 8/4 淡黄	細砂粒含
899 178-007	土師器 皿C	O79	口径: 12.4 胎高: 2.6	(3/7)	外面オサエ、内面ナテ。	2.5Y 8/4 淡黄	細砂粒含
900 178-009	土師器 甕	O79	口径: 26.0	(1/6)	口縁部内外面コナテ。鉢部内外面ナテ。外面厚く行着。	7.5YR 8/3 淡黄橙	細砂粒多含
901 178-010	土師器 甕	O79	口径: 24.0	(1/8)	口縁部内外面コナテ。鉢部内外面ナテ。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒多含
902 178-004	陶器 山米焼	O79	台径: 5.5	(1/2)	内外面ロクロナテ。底部内面に強い指痕ナテ。外面未刃り状。高台端部砂粒状。知多産か。	2.5Y7/1 灰白	細砂粒多含
903 178-012	陶器 片口鉢	O79	口径: 32.0 胎高: 12.8 底径: 14.4	(3/5)	内外面ハケナテ。底部付近外面難なケズリ。高台完全に剥落。知多産か。	5Y 6/1 灰	細砂粒含

SK 181 (土坑)

904 181-004	土師器 小皿C	M81	口径: 7.8~8.0 胎高: 1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナテ。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒含
905 181-001	土師器 皿C	M81	口径: 12.4~12.7 胎高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナテ。	10YR 8/3 淡黄橙	細砂粒含
906 181-002	土師器 皿C	M81	口径: 11.5~12.1 胎高: 2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナテ。底部内面一部に強い指痕ナテ。外面に縦状圧痕。	10YR 8/4 淡黄橙	細砂粒含
907 181-003	土師器 皿B	M81	口径: 12.1~12.8 胎高: 2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナテ。口縁部内外面コナテ。内面全体輝行着。	7.5YR 8/1 灰白	細砂粒含

SK 183 (土坑)

908 183-003	土師器 小皿C	M87	口径: 7.8 胎高: 0.8	(1/3)	外面オサエ、内面ナテ。	10YR 8/3 淡黄橙	砂 粒 含
909 183-002	土師器 皿C	M87	口径: 10.6 胎高: 2.1~2.2	(1/4)	外面オサエ、内面ナテ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒含
910 183-001	土師器 皿C	M87	口径: 12.1 胎高: 2.3	(1/6)	外面オサエ、内面ナテ。	10YR 8/3 淡黄橙	砂 粒 含
911 183-004	石製品 灰台	M87	残存長3.8cm, 幅3.5cm, 厚さ0.6cm(欠損部分多い)			5YR 6/3 にぶい橙	砂 質 質

SK 190 (土坑)

912 190-001	土師器 小皿B	M81	口径: 6.8~7.2 胎高: 0.9~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナテ。口縁端部外面わずかにコナテ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒含
913 190-002	土師器 小皿B	M81	口径: 7.1~7.3 胎高: 0.9~1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナテ。口縁端部外面わずかにコナテ。	7.5YR 7/6 橙	微砂粒含

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm) (残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
914 190-007	土師器 甕B ₆	M81	口径: 6.1 器高: 2.4~2.5 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	微砂粒含
915 190-008	土師器 罎	M81	口径: 19.0前後 (1/12)	口縁部内外面コナナデ。外面僅け付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂 粒 含
916 190-009	陶器 山茶碗	M81	口径: 15.0前後 器高: 4.1 台径: 6.5 (完存)	内外面ロクロナデ。底面内面に強い指痕ナデ。内面糸切り肌。高台端部磨製状。加多彦か。	2.5Y 7/2 灰黄	砂 粒 含

SK195 (十坑)

917 195-001	土師器 直C	Q84	口径: 12.0 器高: 2.3 (1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 灰黄	砂 粒 含
918 195-002	土師器 直C	Q84	口径: 12.0 器高: 2.3 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 含

SK197 (十坑)

919 197-001	土師器 直C	S84	口径: 12.6 器高: 2.3 (1/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒含
920 197-002	土師器 コナナデ	S84	口径: 9.0前後 (1/16)	口縁部内外面コナナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
921 197-005	土師器 罎	S84	口径: 23.0 (1/5)	口縁部内外面コナナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	粗砂粒多含
922 197-004	土師器 罎	S84	口径: 24.0前後 (1/8)	口縁部内外面コナナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	粗砂粒含

SK203 (十坑)

923 203-001	土師器 小皿C	O79	口径: 11.0 器高: 2.5 (1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	粗砂粒含
----------------	------------	-----	---------------------------	-------------	-------------	------

SK204 (十坑)

924 204-001	土師器 小皿C	T78	口径: 7.3~7.5 器高: 0.9 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	粗砂粒含
925 204-002	土師器 小皿C	T78	口径: 7.3~7.7 器高: 1.2 (7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	粗砂粒含
926 204-003	土師器 直C	T78	口径: 11.1~11.6 器高: 2.5 (7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒多含
927 204-004	土師器 直C	T78	口径: 11.0 器高: 2.5 (1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部僅け付着。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒含
928 204-005	土師器 直C	T78	口径: 13.0 器高: 2.7 (3/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにコナナデ。	10YR 7/4 に近い黄橙	微砂粒多含
929 204-006	土師器 罎	T78	口径: 28.5前後 (1/5)	口縁部内外面ナデ。外面僅け付着。器壁の磨製痕み調整不明瞭。	2.5Y 8/3 浅黄	砂 粒 多 含
930 204-011	土師器 罎	T78	口径: 22.0前後 器高: 22.0前後 (1/8)	口縁部内外面コナナデ。体部外面オサエ、内面ナデ。外面僅け付着。	7.5YR 4/4 紺	粗砂粒多含
931 204-009	土師器 罎	T78	口径: 21.8~22.7 器高: 21.8 (7/8)	口縁部内外面ナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底面内外面ケズリとナデ。外面僅け付着せず。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒多含
932 204-010	土師器 罎	T78	口径: 23.2 器高: 21.8 (9/10)	口縁部内外面ナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底面内外面ケズリとナデ。外面僅け付着。	2.5Y 8/3 浅黄	粗砂粒多含
933 204-007	土師器 罎	T78	口径: 22.4 器高: 21.6 (2/3)	口縁部内外面ナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底面内外面ケズリとナデ。外面僅け付着。	2.5Y 8/2 灰白	粗砂粒含
934 204-013	土師器 罎	T78	口径: 22.0 器高: 21.4 (1/3)	口縁部内外面ナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底面内外面ケズリとナデ。外面僅け付着。	10YR 7/2 に近い黄橙	砂 粒 多 含
935 204-012	土師器 罎	T78	口径: 24.4 器高: 23.2 (完存)	口縁部内外面ナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底面内外面ケズリとナデ。外面僅け付着。	10YR 8/3 浅黄橙 →10YR 7/3 に近い黄橙	粗砂粒多含
936 204-008	土師器 罎	T78	口径: 31.7 器高: 16.2 器底: 30.0 (3/4)	口縁部内外面ナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底面内外面ケズリとナデ。外面僅け付着。	2.5Y 8/2 灰白	粗砂粒含
937 204-014	土師器 羽釜	T78	口径: 24.3 (1/3)	器壁の磨製痕み調整不明。	10YR 8/3 浅黄橙	砂 粒 多 含
938 204-015	陶器 山茶碗	T78	台径: 7.1 (完存)	内外面ハケコナナデ。底面外面糸切り肌と器底「上」か。高台端部磨製状。黒土混じり。	5Y 6/1 灰	微砂粒含

SK208 (十坑)

939 208-001	土師器 直B ₁	73	口径: 12.3 器高: 2.7 (1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	微砂粒含
----------------	------------------------	----	---------------------------	------------------------	-------------	------

建物番号	番 種	出仕位置	計測値 (cm)	(残存率)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	貼 上
------	-----	------	----------	-------	--------------	-----	-----

SK209 (土坑)

940 209-002	土坑部 小皿C	T79	口径: 7.2~7.9 器高: 1.2~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒多含
941 209-001	土坑部 皿C	T79	口径: 11.0 器高: 3.5	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
942 209-003	土坑部 皿	T79		(口縁部片)	口縁部内外面ココナデ。器壁の磨減済み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含

SK212 (土坑)

943 212-001	土坑部 小皿B ₁	O70	口径: 7.3~7.7 器高: 1.3	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにココナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	微砂粒多含
944 212-002	土坑部 小皿B ₂	N70	口径: 7.6~7.9 器高: 1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにココナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
945 212-003	土坑部 皿B ₁	N70	口径: 12.2 器高: 2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	微砂粒多含
946 212-004	土坑部 皿	N70	口径: 19.3	(1/4)	口縁部内外面ココナデ。肩部外面ハケ目、内面ナデ。丹塗痕付着。	2.5Y 8/4 浅黄	砂粒多含
947 212-007	器部 白磁皿	N69	口径: 8.8 器高: 1.7 底径: 5.3	(1/8)	口縁部露部粒。磨減痕。	無: 10YR 7/1 灰白 粘土: N 8/ 灰白	微砂粒 粒

SK214 (土坑)

948 214-005	土坑部 小皿C	T78	口径: 7.0~7.6 器高: 1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
949 214-003	土坑部 皿C	T79	口径: 11.6 器高: 2.6	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減済み調整不明瞭。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒多含
950 214-001	土坑部 皿C	T79	口径: 11.4~12.0 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	微砂粒 含
951 214-002	土坑部 皿C	T79	口径: 11.4~11.8 器高: 3.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒多含
952 214-004	土坑部 皿B ₁	T79	口径: 14.5 器高: 2.7	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ココナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒多含
953 214-007	陶器 山家椀	T78	口径: 16.4	(1/4)	内外面ロクロナデ。器壁残少。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒多含
954 214-008	陶器 山家椀	T78	口径: 7.0~7.5	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部磨減粒。無発芽か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒少含
955 214-006	土製品 土鍋	T79	残存径5.2cm、径0.8cm、孔径0.3cm(両端部欠損)			10YR 8/2 灰白	微砂粒少含

SK219 (土坑)

956 219-002	土坑部 小皿C	O69	口径: 7.5 器高: 1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒 含
957 219-003	土坑部 小皿C	O69	口径: 7.4~7.5 器高: 1.2	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/4 浅黄	微砂粒 粒
958 219-001	土坑部 皿C	O69	口径: 10.3~11.4 器高: 2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒 含
959 219-004	土坑部 皿	O69	口径: 34.9	(1/8)	口縁部内外面ココナデ。外面丹塗付着。	2.5Y 8/3 浅黄	砂 粒 含
960 219-005	陶器 灰胎平椀	O69	口径: 16.0 器高: 3.0	(1/5)	内面から外面上半磨減粒。顔戸産。	無: 7.5Y 7/2 灰白 粘土: 10YR 7/3 にぶい黄緑	細砂粒 含

SK220 (土坑)

961 220-001	土坑部 小皿B ₁	U66	口径: 6.9~7.4 器高: 1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにココナデ。	5YR 7/4 にぶい黄	微砂粒多含
962 220-002	土坑部 小皿B ₂	U66	口径: 7.8 器高: 1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにココナデ。	7.5YR 8/4 浅黄緑	微砂粒多含
963 220-003	土坑部 小皿B ₁	U66	口径: 6.9~7.5 器高: 1.1~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにココナデ。	5YR 7/4 にぶい黄	微砂粒多含
964 220-004	土坑部 小皿B ₂	U66	口径: 7.7 器高: 1.2	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ココナデ。器壁の磨減済み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 多 含

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm) (残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
------	-----	------	----------------	--------------	-----	-----

SK221 (上段・中盤部?)

965 221-003	土師器 小皿C	O69	口径: 6.6~7.2 器高: 1.0 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 に近い黄褐色	敷砂粒多量
966 221-007	土師器 小皿C	O69	口径: 7.4~7.7 (2/3) 器高: 1.1	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄褐色	砂粒多量
967 221-001	十師器 小皿C	O69	口径: 10.7~11.2 (完存) 器高: 2.6	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一帯に強い折痕ナデ、外面に底状圧痕。	10YR 7/4 に近い黄褐色	敷砂粒多量
968 221-002	十師器 小皿C	O69	口径: 11.1~11.4 (3/4) 器高: 2.7	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 浅黄褐色	敷砂粒多量
969 221-004	土師器 小皿	O69	口径: 24.0前後 (1/12)	口縁部内外面ヨコナデ。腹部内面ハケ目。	10YR 7/3 に近い黄褐色	敷砂粒多量
970 221-006	鉄製品?	O69	残存長6.0cm (ほぼ完存)			鉄 製
971 221-005	鉄器 器?	O69	残存長さ15.3cm、身部残存長さ11.5cm、身部最大幅2.1cm、身部厚0.4cm、 底幅幅1.4cm、身部厚0.35cm (胴と基部の 部分欠)			鉄 製

SK222 (土段)

972 222-002	十師器 小皿C	O68	口径: 7.9 器高: 1.1 (7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄褐色	敷砂粒多量
973 222-001	土師器 小皿	O68	口径: 13.0 (1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。器壁の折痕進入調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄褐色	細砂粒多量
974 222-004	十師器 小皿	O68	口径: 30.4 器高: 19.5 器底: 32.4 (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。腹部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面縁付着。	10YR 7/3 に近い黄褐色	砂粒多量
975 222-003	土師器 小皿	O68	口径: 27.7~28.4 (完存) 器高: 14.4 器底: 27.1 (7/8)	口縁部内外面ヨコナデ。腹部外面ハケ目。内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面縁付着。	10YR 8/4 浅黄褐色 ~7.5YR 5/3 に近い褐色	砂 粒 多

SD1 (溝)

976 001-001	十師器 小皿	T90	(口縁部一断面片)	口縁部内外面ヨコナデ。腹部外面ハケ目、内面ナデ。外面縁付着。	10YR 8/3 浅黄褐色	細砂粒多量
----------------	-----------	-----	-----------	--------------------------------	---------------	-------

SD6 (溝)

977 006-001	十師器 小皿	U89	(口縁部)	口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄褐色	敷砂粒多量
----------------	-----------	-----	-------	-------------	---------------	-------

SD8 (溝)

978 008-036	土師器 小皿B	U76	口径: 7.5~7.9 (7/8) 器高: 1.1	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面外わずかにヨコナデか。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 多
979 008-037	土師器 小皿B	V78	口径: 8.1~8.7 (完存) 器高: 1.0~1.2	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面外わずかにヨコナデか。	10YR 8/3 浅黄褐色	砂 粒 多
980 008-039	土師器 小皿B	V78	口径: 8.3~8.6 (完存) 器高: 1.4~1.6	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面外わずかにヨコナデか。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 多
981 008-108	土師器 小皿B	U73	口径: 7.5~8.2 (完存) 器高: 1.4	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面外わずかにヨコナデか。口縁部底面付着。	7.5YR 8/3 浅黄褐色	敷砂粒少量
982 008-107	土師器 小皿B	U73	口径: 7.9~8.7 (完存) 器高: 1.1	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面外わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/1 灰白	敷砂粒多
983 008-105	土師器 小皿B	U73	口径: 7.8~8.0 (完存) 器高: 1.5	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面外わずかにヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄褐色	砂 粒 多
984 008-110	土師器 小皿B	U73	口径: 8.2 (完存) 器高: 1.4	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面外わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄褐色	敷砂粒多
985 008-117	土師器 小皿B	V73	口径: 7.9~8.2 (完存) 器高: 1.5	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面外わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄褐色	敷砂粒多
986 008-118	土師器 小皿B	V73	口径: 8.2~8.6 (完存) 器高: 1.1	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面外わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄褐色	敷砂粒多
987 008-035	土師器 小皿B	T76	口径: 7.7 (完存) 器高: 1.1	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面外わずかにヨコナデ。外面底面付着。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多
988 008-076	土師器 小皿B	T74	口径: 7.9~8.2 (完存) 器高: 1.2~1.3	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面外わずかにヨコナデ。	2.5Y 8/3 浅黄褐色	砂粒少量
989 008-124	土師器 小皿B	V74	口径: 7.8~8.0 (完存) 器高: 1.1	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面外わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄褐色	細砂粒多
990 008-041	土師器 小皿B	V78	口径: 10.2 (1/4) 器高: 1.4	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多量

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存率)	形態・技法・装飾等の特徴	色	調	出土
991 008-031	土器器 小皿A	T75	口径：9.5~9.8 器高：1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面コ コナデ。	7.5YR 6/3	にぶい焼	砂 粒 合
992 008-151	土器器 小皿A	S75	口径：9.6~9.8 器高：1.4~1.7	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面コ コナデ。	2.5Y 8/3	浅黄	微砂粒合
993 008-159	土器器 存存小皿	S75	口径：8.7~8.8 器高：2.3~2.9 台径：5.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面 ココナデ。底部内面にわずかに赤目紋。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多合
994 008-012	土器器 皿C	V77	口径：12.4 器高：2.6~2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。高壁の磨減進み調 整不明瞭。	10YR 8/2	灰白	砂 粒 多 合
995 008-028	土器器 皿C	T75	口径：11.2 器高：2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底面内面一部に強 い滑沢ナデ、外面に砥状片痕。	10YR 8/3	浅黄緑	微砂粒少合
996 008-081	土器器 皿C	U73	口径：12.1~12.8 器高：3.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わず かにココナデか。	10YR 8/2	灰白	細砂粒多合
997 008-086	土器器 皿C	U73	口径：12.6~13.0 器高：2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わず かにココナデか。底面内面一部に強い滑沢 ナデ、外面に砥状片痕。	10YR 8/2	灰白	砂 粒 合
998 008-100	土器器 皿C	U74	口径：12.2~12.6 器高：2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わず かにココナデか。	7.5YR 8/3	浅黄緑	砂 粒 少 合
999 008-145	土器器 皿C	S75	口径：13.0 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わず かにココナデか。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒合
1000 008-146	土器器 皿C	S75	口径：12.2 器高：2.7	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わず かにココナデか。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多合
1001 008-002	土器器 皿C	V78	口径：13.1 器高：3.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わず かにココナデか。	10YR 8/3	浅黄緑	砂 粒 多 合
1002 008-004	土器器 皿C	V78	口径：12.6~13.2 器高：2.8~3.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。わずかに口縁部 外面ココナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂 粒 合
1003 008-013	土器器 皿C	U77	口径：12.8 器高：2.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面コ コナデ。	7.5YR 8/3	浅黄緑	砂 粒 合
1004 008-016	土器器 皿C	U77	口径：12.1~12.3 器高：2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わず かにココナデか。	10YR 8/3	浅黄緑	微砂粒少合
1005 008-029	土器器 皿C	T25	口径：12.5~12.7 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面コ コナデ。磨減の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2	灰白	微砂粒少合
1006 008-083	土器器 皿C	U73	口径：12.6~13.0 器高：2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面コ コナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多合
1007 008-085	土器器 皿C	U73	口径：12.3~12.5 器高：2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面コ コナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂 粒 合
1008 008-096	土器器 皿C	V73	口径：12.5~12.7 器高：3.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わず かにココナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂 粒 少 合
1009 008-097	土器器 皿C	V73	口径：13.2 器高：2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面コ コナデか。磨減の磨減進み調整不明瞭。	7.5YR 7/3	にぶい焼	砂 粒 多 合
1010 008-098	土器器 皿C	V73	口径：12.2~12.5 器高：2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わず かにココナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	微砂粒多合
1011 008-099	土器器 皿C	V73	口径：12.2~12.5 器高：2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面コ コナデ。	10YR 8/4	浅黄緑	砂 粒 多 合
1012 008-162	土器器 皿C	S74	口径：23.6 器高：24.6	(1/3)	口縁部内外面ココナデ。底部内面ハナ 底面内外面オサエナデ。外面磨付者。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多合
1013 008-138	土器器 皿C	U73	口径：25.6 器高：26.6 体径：28.2	(1/2)	口縁部内外面ココナデ。底部内面ナ 底面内外面オサエナデ。外面磨付者。	10YR 8/4	浅黄緑	砂 粒 多 合
1014 008-168	土器器 皿C	S75	口径：27.0 体径：28.0	(9/10)	口縁部内外面ココナデ。底部内面ナ 底面内外面オサエナデ。外面磨付者。	10YR 8/3	浅黄緑	砂 粒 多 合
1015 008-057	土器器 皿C	V77	口径：25.4 体径：26.8	(1/3)	口縁部内外面ココナデ。底部内面ナ 底面内外面オサエナデ。外面磨付者。 底部内面オサエナデ。外面磨付者。 底部内面オサエナデ。	10YR 7/4	にぶい焼	砂 粒 多 合
1016 008-136	土器器 皿C	U73	口径：23.0 体径：25.2	(9/10)	口縁部内外面ココナデ。底部内面ナ 底面内外面オサエナデ。外面磨付者。	7.5YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多合
1017 008-050	土器器 皿C	T75	口径：21.6 体径：22.2	(1/5)	口縁部内外面ココナデ。底部内面ナ 内面ナデ。底面内外面オサエナデ。外面磨付者。	10YR 8/2	灰白	細砂粒合
1018 008-134	土器器 皿C	U74	口径：19.0~19.6 器高：10.1 体径：19.2	(5/6)	口縁部内外面ココナデ。底部内面ナ 底面内外面オサエナデ。外面磨付者。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多合
1019 008-135	土器器 皿C	V73	口径：17.8 器高：8.5~9.6 体径：17.2	(2/3)	口縁部内外面ココナデ。底部内面ナ 底面内外面オサエナデ。外面磨付者。	10YR 8/3	浅黄緑	砂 粒 合
1020 008-141	土器器 皿C	V73	口径：16.6 体径：16.8	(1/3)	口縁部内外面ココナデ。底部内面ハナ 内面ナデ。底面内外面オサエナデ。外面磨付者。	10YR 8/2	灰白	砂 粒 多 合
1021 008-137	土器器 皿C	U74-V74	口径：26.9 体径：28.8	(9/10)	口縁部内外面ココナデ。底部内面ハナ 内面ナデ。底面内外面オサエナデ。外面磨付者。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多合

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存率)	形態・技法・調査等の特徴	色 調	粘 土	
1022 008-163	土器器 鉢	S74	口径: 27.8 口径: 21.4	(1/3) (1/3)	口頸部内外面コ罗纳ダ。体部外面ナダ。内面ハケ目。底部内外面ケズリとナダ。外面残存者。	10YR 7/3	ぶい黄緑	細砂粒多
1023 008-047	土器器 鉢	V78	口径: 31.3 口径: 21.5 口径: 32.7	(4/5) (3/4)	口頸部内外面コ罗纳ダ。体部外面ハケ目。内面ケズリ。底部内外面ケズリとナダ。外面残存者。	2.5Y 7/3	浅黄	砂粒多
1024 008-165	土器器 鉢	S75	口径: 40.7 口径: 42.2	(1/2) (1/2)	口頸部内外面コ罗纳ダ。体部内外面ナダ。外面残存者。	10YR 7/4	ぶい黄緑	細砂粒多
1025 008-078	土器器 羽釜	T74	口径: 16.0 口径: 19.5	(1/4) (1/4)	口頸部内外面コ罗纳ダ。体部外面ナダ。内面ケズリ。底部内外面ケズリ。外面残存者。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多
1026 008-05	土器器 羽釜	U77	口径: 23.2 口径: 27.6	(1/4) (1/4)	口頸部内外面コ罗纳ダ。体部内外面ケズリ。外面残存者。	7.5YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多
1027 008-077	土器器 ?	T74	口径: 4.8	(1/2)	内外面ナダ。	5 YR 8/4	淡緑	細砂粒多
1028 008-045	土器器 瓶	V78		(残状のみ)	器底の磨滅著しく調査不明。片状部中央に径φの円孔。	10YR 7/3	ぶい黄緑	砂粒多
1029 008-049	土器器 杯	S75	口径: 10.0 口径: 2.9 口径: 6.5	(5/6) (完存)	内外面コ罗纳ダの内面から口縁部外面までフミナキ。底部内面に菊花状の増文。へうすまに上る縁5カ所。	器底: N 3 / 暗灰 断面: 10Y 8/1 灰白		明 良
1030 008-129	土器器 山瓶	U73	口径: 8.2 口径: 2.1 口径: 4.2	(完存) (完存)	内外面コ罗纳ダ。底部内面に強い指痕ナダ。外面に赤切り痕。知多産か。	7.5YR 7/1	明緑灰	砂粒多
1031 008-132	土器器 山瓶	V73	口径: 8.2 口径: 2.1 口径: 4.0	(完存) (完存)	内外面コ罗纳ダ。底部内面に強い指痕ナダ。外面に赤切り痕。知多産か。	2.5Y 8/1	灰白	細砂粒多
1032 008-133	土器器 山瓶	V74	口径: 8.6 口径: 2.1 口径: 4.9-5.3	(完存) (完存)	内外面コ罗纳ダ。底部外面に赤切り痕。知多産か。	2.5Y 7/1	灰白	細砂粒多
1033 008-160	土器器 山瓶	S75	口径: 8.6 口径: 1.5-1.9 口径: 4.9-5.2	(完存) (完存)	内外面コ罗纳ダ。底部内面に強い指痕ナダ。外面赤切り痕。知多産か。	2.5Y 7/1	灰白	細砂粒多
1034 008-161	土器器 山瓶	S75	口径: 7.7 口径: 1.4-1.9 口径: 4.9	(完存) (完存)	内外面コ罗纳ダ。底部内面に強い指痕ナダ。外面赤切り痕。知多産か。	2.5Y 8/1	灰白	細砂粒多
1035 008-061	土器器 山土瓶	U76	口径: 15.6 口径: 5.3 口径: 6.8	(5/12) (3/5)	内外面コ罗纳ダ。底部内面に強い指痕ナダ。外面赤切り痕。高台端部粗粒多。知多産か。	7.5Y 7/1	灰	砂粒多
1036 008-065	土器器 山土瓶	V78	口径: 15.5 口径: 5.1 口径: 7.4	(4/5) (完存)	内外面コ罗纳ダ。底部外面赤切り痕。高台端部粗粒多。知多産か。	7.5YR 7/1	明緑灰	砂粒多
1037 008-079	土器器 山土瓶	T74	口径: 16.0 口径: 5.5 口径: 6.4	(1/4) (3/4)	内外面コ罗纳ダ。底部外面赤切り痕。内面に強い指痕ナダ。高台端部粗粒多。知多産か。	2.5Y 8/1	灰白	細砂粒多
1038 008-131	土器器 山土瓶	U73	口径: 15.0 口径: 5.0 口径: 6.5-6.8	(完存) (2/3)	内外面コ罗纳ダ。底部外面赤切り痕。高台端部粗粒多。知多産か。	2.5Y 7/1	灰白	砂粒多
1039 008-169	土器器 山土瓶	S75	口径: 16.0-16.5 口径: 4.9-5.4 口径: 6.7-7.0	(2/3) (完存)	内外面コ罗纳ダ。底部外面赤切り痕。高台端部粗粒多。知多産か。	2.5Y 7/1	灰白	砂粒多
1040 008-170	土器器 山土瓶	S75	口径: 15.0 口径: 4.6-5.3 口径: 5.4-6.3	(1/4) (7/8)	内外面コ罗纳ダ。底部内面に強い指痕ナダ。外面に板状片痕。高台端部粗粒多。知多産か。	2.5Y 6/1	黄灰	砂粒多
1041 008-171	土器器 山土瓶	S75	口径: 15.2 口径: 5.1-5.4 口径: 6.5-7.0	(1/2) (7/8)	内外面コ罗纳ダ。底部外面赤切り痕。高台端部粗粒多。知多産か。	2.5Y 7/1	灰白	砂粒多
1042 008-172	土器器 山土瓶	S74	口径: 15.5 口径: 5.0-5.5 口径: 6.2-6.5	(完存) (2/3)	内外面コ罗纳ダ。内面に強い指痕ナダ。底部外面赤切り痕。高台端部粗粒多。知多産か。	2.5Y 6/1	黄灰	砂粒多
1043 008-185	土器器 山土瓶	S74	口径: 15.7 口径: 4.8-5.7 口径: 6.5-5.7	(完存) (7/8)	内外面コ罗纳ダ。底部外面赤切り痕。高台端部粗粒多。知多産か。	10YR 6/1 暗灰 ~10YR 7/1 灰白		細砂粒多
1044 008-186	土器器 山土瓶	S75	口径: 15.3 口径: 5.4-5.2 口径: 6.3-6.5	(2/3) (完存)	内外面コ罗纳ダ。底部外面赤切り痕。高台端部粗粒多。知多産か。	10YR 6/1 暗灰 ~10YR 6/2 黄灰		細砂粒多
1045 008-187	土器器 山土瓶	S75	口径: 15.0 口径: 4.8 口径: 5.7-6.0	(3/4) (8/9)	内外面コ罗纳ダ。底部内面に強い指痕ナダ。外面赤切り痕と板状片痕。高台端部に粗粒多。知多産か。	10YR 7/1 灰白 ~10YR 6/1 暗灰		砂粒多
1046 008-062	土器器 片口鉢	T76	口径: 6.2	(完存)	内外面コ罗纳ダ。高台端部粗粒多。底部外面ケズリ。墨雲「十」が。近厚産か。	7.5YR 7/1	明緑灰	微砂粒多
1047 008-173	土器器 山土瓶	T75	口径: 15.0-15.4 口径: 5.0 口径: 6.5	(完存) (2/3)	内外面コ罗纳ダ。底部外面赤切り痕。高台端部粗粒多。体部外周と底部外面に墨雲「上」と「十」が。知多産か。	2.5Y 7/1	灰白	細砂粒多
1048 008-130	土器器 山土瓶	U73	口径: 15.4-15.9 口径: 4.2 口径: 5.2-6.5	(4/5) (完存)	内外面コ罗纳ダ。底部外面赤切り痕と墨雲「十」が。高台端部粗粒多。知多産か。	7.5YR 7/1	明緑灰	砂粒多
1049 008-188	土器器 片口鉢	S75-W74	口径: 30.2 口径: 13.8 口径: 13.1	(1/7) (1/4)	内外面コ罗纳ダ。底部付近外面コ罗纳ダ。底部外面と高台端部粗粒多。知多産か。	2.5Y 6/1 黄灰 ~3.5Y 5/1 黄灰		砂粒多
1050 008-063	土器器 片口鉢	V78		(底部片・高台端部欠損)	体部外面コ罗纳ダ。体部内周と底部外面の磨滅著しく調査不明。	10YR 6/1	暗灰	砂粒多
1051 008-064	土器器 山土瓶?	U77	口径: 8.8	(1/2)	内外面コ罗纳ダ。底部外面赤切り痕。高台端部粗粒多。体部と高台の粘土が異なる。黄灰産か。	器底: 10YR 7/1 灰白 断面: 10YR 6/1 黄灰		微砂粒多
1052 008-072	土器器 小杯	V77	口径: 6.0 口径: 2.0 口径: 3.6	(1/6) (1/3)	内外面コ罗纳ダ。墨灰産か。	2.5Y 5/2	暗黄灰	微砂粒多

遺物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	品 土
1053 008-067	陶器 片口	V77	口径: 14.7	(1/4)	内外面クロコナテ。器底平。底平。	2.5Y 6/1 黄灰	織砂粒多含
1054 008-069	陶器 有蓋鉢	V79	台径: 5.5	(1/3)	体部外面に薄弁文。高台基部～高台内面は黒釉。電氣窯系。	胎: 7.5Y 5/2 灰オリーブ 胎土: 7.5Y 6/1 灰	精 良
1055 008-070	陶器 有蓋皿	V79	口径: 10.0前後	(1/8)	内面に黒文。底部外面黒釉。電氣窯系。	胎: 7.5Y 5/2 灰オリーブ 胎土: 7.5Y 6/1 灰	精 良
1056 008-071	陶器 内皿	V78	口径: 10.1	(1/3)	口縁端部黒釉。香粉黒産。	胎: 10GY 8/1 明緑灰 胎土: 10GY 8/1 明緑灰	精 良
1057 008-044	土製品 支脚	T76		(大部分欠損)	外面ナデ。体部に径9cmの円孔。二次焼成を受け器壁もろい。	10YR 7/4 に近い黄橙	織砂粒多含
1058 008-175	土製品 支脚	S75			外面オサエ。(1059と同一個体か)	10YR 6/4 に近い橙	織砂粒多含
1059 008-174	土製品 支脚	S75			外面オサエ。(1058と同一個体か)	10YR 7/3 に近い黄橙	織砂粒多含
1060 008-068	鉄器 刀子	U77	残存長 4.4cm	(刀身部片)			鉄 製
1061 008-066	鉄器 刀子	T75	残存長 9.4cm	(刀身部片)			鉄 製
1062 008-184	土製品 土鏝	S75	長 5.5cm、幅 2.6cm、孔径 1.2cm、重量29.6g (完存)			2.5Y 6/8 橙	砂粒多含

SD10A (溝)

1063 010-001	土器 小皿B ₁	U74	口径: 10.0 器高: 1.4	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面クロコナテ。	7.5YR 7/4 に近い橙	織砂粒含
1064 010-006	土器 小皿B ₁	U74	口径: 8.4 器高: 1.6	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにクロコナテ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
1065 010-002	土器 皿B ₁	U74	口径: 12.1 器高: 2.2	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面クロコナテ。内面黒付着。	7.5YR 7/3 に近い橙	砂粒含
1066 010-003	土器 皿C	U74	口径: 12.1 器高: 2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨滅減少調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	織砂粒含
1067 010-004	土器 皿C	U74	口径: 12.3 器高: 2.5	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨滅減少調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	織砂粒含
1068 010-005	土器 皿C	U74	口径: 12.6 器高: 2.5	(11/12)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い黒染ナデ。外面に敷状圧痕。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
1069 010-008	陶器 山菜碗	U75	口径: 16.0前後 器高: 5.4 台径: 8.0前後	(1/6)	内外面クロコナテ。底部外面赤切り肌。高台端部黒釉。器底平。	5 Y 6/1 灰	織砂粒含
1070 010-019	土器 羽釜	U75	口径: 16.0 口径: 20.7	(2/5) (2/5)	口縁端部内外面クロコナテ。体部内外面ナデ。外面黒付着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
1071 010-010	土器 羽釜	U75	口径: 20.9 口径: 25.1	(1/2) (1/8)	口縁端部内外面クロコナテ。体部内外面ナデ。外面黒付着。	外: 7.5YR 7/4 に近い橙 内: 10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
1072 010-009	土器 鍋	U75	口径: 24.3 口径: 26.0	(1/4) (1/6)	口縁端部内外面クロコナテ。体部内外面ナデ。底部内外面ナデ。外面黒付着。	外: 5Y 7/4 に近い橙 内: 7.5YR 8/4 浅黄橙	織砂粒多含

SD10B (溝)

1073 010-013	土器 小皿B ₁	V76	口径: 7.4-7.9 器高: 1.2-1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面クロコナテ。	7.5YR 6/8 橙	織砂粒少含
1074 010-011	土器 皿B ₁	V76	口径: 12.1-12.4 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面クロコナテ。	7.5YR 8/6 浅黄橙	織砂粒含
1075 010-012	土器 皿B ₁	V77	口径: 12.7 器高: 4.1-4.3	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面クロコナテ。	7.5YR 8/6 浅黄橙	織砂粒含
1076 010-014	陶器 山皿	V76	口径: 8.4 器高: 2.0 口径: 4.2	(2/3) (完存)	内外面クロコナテ。底部外面赤切り肌。器底平。	2.5Y 7/1 灰白	織砂粒多含
1077 010-015	陶器 有蓋鉢	V76-V77	口径: 15.2	(1/5)	内外面黒釉。内面にヘラ掻文。電氣窯系。	胎: 10Y 5/2 オリーブ灰 胎土: 7.5Y 6/1 灰	精 良
1078 010-017	土製品 土鏝	V76-V77	長 5.1cm、幅 2.2cm、孔径 0.5cm、重量22.6g (完存)			7.5YR 7/3 に近い橙	織砂粒多含
1079 010-016	土製品 土鏝	V76-V77	長 4.8cm、幅 2.5cm、孔径 1.2cm、重量28.0g (完存)			7.5YR 7/3 に近い橙	織砂粒多含
1080 010-018	土製品 土鏝	V76-V77	長 4.0cm、幅 1.3cm、孔径 0.5cm、重量7.2g (一部欠損)			5 Y 6/8 橙	織砂粒含

建物番号	部 種	出位置	計測値 (cm) (残存率)	形態・技法・調性等の特徴	色 調	胎 上
SD11 (調)						
1081 011-002	土留部 直C	T79	口径: 10.8~11.3 器高: 2.2	外面ナサエ、内面ナデ。底部内面一帯に強い指痕ナデ。外面に収状凹痕。器壁の磨減甚し異調不連続。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多
1082 011-003	土留部 直C	T78	口径: 11.0~11.5 器高: 2.5~2.8	外面ナサエ、内面ナデ。底部内面一帯に強い指痕ナデ。外面に収状凹痕。器壁の磨減甚し異調不連続。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒少
1083 011-004	陶器 山系柄	U79	口径: 16.2 器高: 5.8 台径: 8.2	(1/4) (7/16) 内外面クロコナデ。底面外周ナデ。高台端部磨減。磨減差少。	10YR 6/2 灰黄褐	微砂粒少
1084 011-001	土留部 直	U79	口径: 27.4	(1/6) 口縁部内外面ヨコナデ。外面磨付着。	10YR 7/4 にぶい黄緑	砂 粒 多 含
1085 011-005	土留部 直	T75	口径: 23.4	(1/2) 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。外面磨付着。	2.5Y 8/3 浅黄	細砂粒多
SD13 (調)						
1086 013-001	土留部 直B	U79	口径: 14.0 器高: 2.4	(1/4) 外面ナサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。器壁の磨減進み調性不明瞭。	7.5YR 7/4 にぶい橙	細砂粒少
1087 013-002	土留部 直	V79	口径: 28.0前後	(1/10) 口縁端部内外面ヨコナデ。外面磨付着。	10YR 8/4 浅黄緑	砂 粒 多 含
SD17 (調)						
1088 017-001	土留部 小皿C	W74	口径: 8.0 器高: 1.3	(3/4) 外面ナサエ、内面ナデ。	7.5YR 7/6 橙	微砂粒含
1089 017-003	土留部 直C	W72	口径: 11.0 器高: 2.2	(1/2) 外面ナサエ、内面ナデ。底部内面一帯に強い指痕ナデ。外面に収状凹痕。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒少
1090 017-002	土留部 直C	U73	口径: 10.9~11.0 器高: 2.5	(完存) 外面ナサエ、内面ナデ。底部内面一帯に強い指痕ナデ。外面に収状凹痕。器壁の磨減進み調性不明瞭。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒少
1091 017-005	土留部 直	W72		(口縁部片) 口縁部内外面ヨコナデ。外面磨付着。	2.5Y 8/4 浅黄	細砂粒含
1092 017-004	陶器 山系柄	W72	台径: 6.5	(3/5) 内外面クロコナデ。底面外周ナデ。高台端部磨減。磨減差少。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒少
SD18 (調)						
1093 018-003	土留部 小皿B	W71	口径: 7.5~7.9 器高: 1.9~1.2	(完存) 外面ナサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	微砂粒少
1094 018-004	土留部 小皿B	W71	口径: 7.8~8.0 器高: 1.4	(7/8) 外面ナサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
1095 018-001	土留部 直B	W71	口径: 13.0 器高: 3.3	(1/4) 外面ナサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	砂 粒 多 含
1096 018-002	土留部 直B	W71	口径: 13.0 器高: 2.3	(5/8) 外面ナサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 6/6 橙	微砂粒含
1097 018-005	土留部 直	S73	口径: 20.0	(1/4) 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。外面磨付着。	2.5Y 8/4 浅黄	細砂粒多
SD35A (調)						
1098 035-010	土留部 小皿B	W53	口径: 7.7 器高: 1.7	(3/4) 外面ナサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒含
1099 035-011	土留部 小皿B	U53	口径: 8.3 器高: 1.3	(3/5) 外面ナサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄緑	微砂粒多
1100 035-012	土留部 小皿B	P53	口径: 7.8 器高: 1.6	(完存) 外面ナサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	微砂粒多
1101 035-013	土留部 小皿B	P58	口径: 7.7 器高: 1.7	(3/5) 外面ナサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/6 橙	微砂粒多
1102 035-014	土留部 小皿C	K56	口径: 7.5 器高: 1.3	(3/4) 外面ナサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒含
1103 035-015	土留部 小皿C	O58	口径: 8.3 器高: 1.1	(完存) 外面ナサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少
1104 035-005	土留部 直B	R55	口径: 12.5 器高: 2.6	(完存) 外面ナサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 多 含
1105 035-007	土留部 直B	O58	口径: 12.9 器高: 3.4	(3/4) 外面ナサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	微砂粒多
1106 035-008	土留部 直B	O58	口径: 13.6 器高: 2.7	(3/5) 外面ナサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒多

建物番号	器種	出仕位置	計測値 (mm) (残存度)	形態・柱法・鋼筋等の特徴	色調	胎土
1107 035-009	土師器 皿B	P58	口径: 13.2 器高: 2.7 (3/4)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面コナテ。	10YR 5/2 灰黄褐	磁砂粒多含
1108 035-003	土師器 皿B	O58	口径: 12.8 器高: 2.7 (7/8)	外面オサエ、内面ナゲ。	5 Y 7/4 にぶい黄	磁砂粒多含
1109 035-001	土師器 皿C	O58	口径: 11.8 器高: 2.5 (1/2)	外面オサエ、内面ナゲ。	10YR 8/3 浅黄緑	磁砂粒多含
1110 035-004	土師器 皿C	Q56	口径: 11.8 器高: 2.4 (完存)	外面オサエ、内面ナゲ。底部内面一部に強い指痕ナゲ、外縁に板状圧痕。	2.5Y 8/2 灰白	磁砂粒多含
1111 035-006	土師器 皿C	R55	口径: 11.7 器高: 2.4 (3/4)	外面オサエ、内面ナゲ。底部内面一部に強い指痕ナゲ、外縁に板状圧痕。	10YR 8/3 浅黄緑	磁砂粒多含
1112 035-028	土師器 皿	P57	口径: 18.2 器高: 10.6 体厚: 19.2 (1/2)	口縁部内外面コナテ。底部内外面ナゲコ 底部内外面ナゲ。外縁に板状圧痕。	10YR 8/4 浅黄緑	砂粒多含
1113 035-025	土師器 皿	O58	口径: 18.2 器高: 11.8 体厚: 21.2 (1/2)	口縁部内外面コナテ。底部内外面ナゲ。 底部内外面ナゲ。外縁に板状圧痕。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
1114 035-005	土師器 皿	P57	口径: 20.8 器高: 14.8 体厚: 23.3 (3/4)	口縁部内外面コナテ。底部内外面ナゲ。 底部内外面ナゲ。外縁に板状圧痕。	10YR 7/4 にぶい黄褐	砂粒多含
1115 035-027	土師器 皿	O58	口径: 31.9 器高: 10.6 (完存)	口縁部内外面コナテ。底部内外面ナゲ。 外縁に板状圧痕。	10YR 8/4 浅黄緑	砂粒多含
1116 035-016	土師器 1/2コナテ	Q57	口径: 4.0 器高: 2.7 (1/4)	口縁部内外面コナテ。底部内外面ナゲ。 器底の厚み減り調整不明確。	外: 5YR 8/3 赤橙 内: 10YR 8/2 灰口	磁砂粒少含
1117 035-017	陶器 小杯	U53	口径: 2.7 (3/5)	内外面クロコナテ。底部外面赤切り痕。器 底平か。	2.5Y 7/1 灰白	磁砂粒多含
1118 035-018	陶器 山茶碗	W53	口径: 16.4 器高: 5.4 台径: 7.7 (1/5)	内外面クロコナテ。底部外面赤切り痕。器 底平か。	10YR 7/1 灰白	砂粒多含
1119 035-019	陶器 山茶碗	P58	口径: 16.2 器高: 5.0 台径: 7.0 (完存)	内外面クロコナテ。底部外面赤切り痕。器 底平か。器底に指痕。器底平か。	2.5Y 6/1 灰白	磁砂粒多含
1120 035-030	陶器 山茶碗	P58	口径: 15.2 器高: 4.6-4.7 台径: 7.0 (完存)	内外面クロコナテ。底部外面赤切り痕。器 底平か。器底に指痕。器底平か。	2.5Y 7/2 黄灰	磁砂粒多含
1121 035-021	陶器 山茶碗	O58	口径: 15.4 器高: 4.5 台径: 7.5-8.0 (完存)	内外面クロコナテ。底部外面赤切り痕。器 底平か。器底に指痕。器底平か。	2.5Y 7/2 黄灰	磁砂粒多含
1122 035-022	陶器 山茶碗	O58	口径: 14.8 器高: 5.2 台径: 7.5 (7/8)	内外面クロコナテ。底部外面ナゲ。器底平 か。	2.5Y 6/2 灰白	磁砂粒多含
1123 035-023	陶器 片口鉢	P58	口径: 24.0前後 器高: 9.5 台径: 13.0 (3/4)	内外面クロコナテ。底部外縁クロコナテ ナゲ。口縁部内面に指痕。知多産か。	5 Y 7/1 灰白	砂粒多含
1124 035-024	陶器 片口鉢	R56	口径: 31.0前後 器高: 11.8 台径: 13.7 (3/7)	内外面クロコナテ。底部外縁クロコナテ ナゲ。器底平か。器底に指痕。知多産か。	10YR 7/1 灰口	磁砂粒少含
1125 035-038	土製皿 支脚	O58	(下半欠損)	外面ナゲ。	10YR 8/4 浅黄緑 ~7.5YR 7/5 橙	磁砂粒多含

S D 3 5 B (調)

1126 035-032	土師器 小皿C	Q55	口径: 5.9 口径: 0.8 (1/2)	外面オサエ、内面ナゲ。	2.5Y 8/3 黄灰	磁砂粒多含
1127 035-029	土師器 皿C	Q54	口径: 11.6 器高: 2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナゲ。	10YR 8/3 浅黄緑	磁砂粒多含
1128 035-030	土師器 皿C	Q56	口径: 10.9 器高: 2.5 (4/5)	外面オサエ、内面ナゲ。	5 Y 8/2 灰白	磁砂粒多含
1129 035-031	土師器 皿C	Q55	口径: 11.0 器高: 2.2 (5/6)	外面オサエ、内面ナゲ。	2.5Y 8/2 灰白	磁砂粒多含
1130 035-034	土師器 皿	Q54	口径: 26.2 (1/7)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部内外面コ ナテ。	10YR 4/4 褐	砂粒多含
1131 035-035	陶器 山茶碗	O54	口径: 15.2 器高: 4.6-5.0 台径: 7.2 (完存)	内外面クロコナテ。底部外面ナゲ。器底平 か。器底に指痕。器底平か。	2.5Y 6/2 黄灰	磁砂粒少含
1132 035-033	陶器 青磁碗	P54	口径: 5.0 (1/2)	器台座部~器台内面露胎。底部外縁に露胎 文。黄赤黒色。	黄: 5G 6/1 黄灰 胎土: 5Y 6/1 灰	磁砂粒多含
1133 035-036	鉄製品 引	Q54	全長6.4cm。肩部断面方形。(完存)			鉄製

S D 3 6 (調)

1134 036-001	土師器 小皿C	W51	口径: 8.2 口径: 1.5 (1/2)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部油膜付着。 器底の厚み減り調整不明確。	10YR 8/3 浅黄緑	磁砂粒多含
1135 036-002	土師器 皿C	T52	口径: 10.0 器高: 2.0 (1/4)	外面オサエ、内面ナゲ。	10YR 8/3 浅黄緑	磁砂粒多含

建物番号	器種	出寸位置	計測値 (cm) (残存率)	形態・技法・調整等の特徴	色	調	胎土
1136 036-003	土師器 甕	T53	(11/線部片)	口縁端部内外面ヨコナデ。外面保存者。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多

SD39 (再)

1137 039-013	土師器 小皿B	V32	口径: 8.0 器高: 1.4 (9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	10YR 7/4	にぶい黄緑	細砂粒少
1138 039-014	土師器 小皿B	V31	口径: 7.9~8.1 器高: 1.9 (7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	7.5YR 8/3	浅黄緑	細砂粒少
1139 039-015	土師器 小皿B	U30	口径: 8.3~8.6 器高: 1.5 (4/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	5YR 8/4	浅緑	細砂粒少
1140 039-016	土師器 小皿B	W32	口径: 7.8~8.1 器高: 1.9 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	7.5YR 8/3	浅黄緑	砂粒多
1141 039-017	土師器 小皿B	V32	口径: 8.2~8.4 器高: 1.3 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	10YR 8/4	浅黄緑	砂粒多
1142 039-018	土師器 小皿B	W33	口径: 8.3~8.5 器高: 1.5~1.6 (11/12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多
1143 039-019	土師器 小皿B	W32	口径: 8.2~8.8 器高: 0.9~1.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	10YR 8/2	灰白	細砂粒少
1144 039-020	土師器 小皿B	V31	口径: 8.0~8.2 器高: 1.6 (11/12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コナデ。	7.5YR 7/4	にぶい緑	細砂粒少
1145 039-001	土師器 皿B	V32	口径: 14.2 器高: 2.7 (2/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	外: 10YR 6/1 褐色 内: 10YR 7/4 にぶい黄緑		砂粒多
1146 039-002	土師器 皿B	V32	口径: 14.6 器高: 3.2 (9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	10YR 8/4	浅黄緑	細砂粒少
1147 039-003	土師器 皿B	V32	口径: 14.1 器高: 3.0 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多
1148 039-004	土師器 皿B	V32	口径: 14.4 器高: 2.8 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多
1149 039-006	土師器 皿B	W32	口径: 15.2 器高: 2.4 (4/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多
1150 039-006	土師器 皿B	V32	口径: 13.6 器高: 2.9 (4/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	7.5YR 7/3	にぶい緑	砂粒少
1151 039-007	土師器 皿B	V31	口径: 14.4 器高: 2.5 (1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	10YR 7/4	にぶい黄緑	細砂粒多
1152 039-008	土師器 皿B	V31	口径: 14.8 器高: 2.7 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	細砂粒多
1153 039-010	土師器 皿B	V30	口径: 14.6 器高: 2.9 (9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	10YR 8/2	灰白	細砂粒多
1154 039-011	土師器 皿B	V30	口径: 14.4 器高: 3.4 (1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	2.5Y 8/3	浅黄	細砂粒少
1155 039-009	土師器 皿B	V31	口径: 13.5 器高: 2.9 (9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多
1156 039-012	土師器 皿A	V31	口径: 14.7 器高: 2.9 (1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面コナデ。	2.5Y 8/3	浅黄	細砂粒少
1157 039-028	土師器 甕	W33	口径: 26.6 (1/4)	口唇部内外面コナデ。胴部内外面ナデ。外面保存者。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多
1158 039-027	土師器 甕	V32	口径: 34.2 (1/2) 体径: 37.2 (1/5)	口唇部内外面コナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。外面保存者。	10YR 7/3	にぶい黄緑	細砂粒多
1159 039-026	土師器 甕	V32	口径: 17.5 (3/7) 器高: 8.7 (3/4) 体径: 18.1 (3/4)	口唇部内外面コナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリ。外面保存者。	10YR 8/4	浅黄緑	砂粒多
1160 039-030	土師器 甕	W32	口径: 20.1 (1/5) 体径: 21.3 (1/4)	口唇部内外面コナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。外面保存者。	10YR 8/4	浅黄緑	砂粒多
1161 039-029	土師器 甕	W33	口径: 26.0 (1/8)	口唇部内外面コナデ。胴部内外面ケズリ。外面保存者。	10YR 7/3	にぶい黄緑	細砂粒多
1162 039-022	陶器 山茶碗	V30	口径: 16.0 (1/2) 器高: 5.0 (完存) 台径: 6.9~7.1 (完存)	内外面クロコナデ。底部外面ナデ。両台端縁部彫刻。底面保存。	2.5Y 7/1	灰白	砂粒少
1163 039-024	陶器 山茶碗	V31	口径: 16.0~16.4 (3/5) 器高: 5.7 (完存) 台径: 7.1~7.3 (完存)	内外面クロコナデ。底部外面半切り彫。高台端部彫刻。底面保存。	2.5Y 7/1	灰白	細砂粒少
1164 039-025	陶器 山茶碗	V32	口径: 16.0~16.4 (7/8) 器高: 5.5~5.7 (完存) 台径: 7.5~7.7 (完存)	内外面クロコナデ。底部外面半切り彫。高台端部砂粒彫。底面保存。	10YR 6/1	黄灰	細砂粒少
1165 039-023	陶器 山茶碗	V31	口径: 16.0 (3/5) 器高: 5.4 (完存) 台径: 6.5~6.9 (完存)	内外面クロコナデ。底部外面半切り彫。高台端部砂粒彫。体部外面と底部外面に墨塗し。底面保存。	2.5Y 7/1	灰白	細砂粒少

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・柱状・調整等の特徴	色	調	胎土
1166 039-021	土製品 支脚	V32	(1部のみ残存)	外面ナデ。	10YR 7/3	にぶい黄緑	砂粒多

S D 4 2 (黄)

1167 042-001	十餘部 小皿B	T21	口径: 8.3 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 コナテ。器底の磨減進み調整不明瞭。	10YR 7/4	にぶい黄緑	微砂粒多
1168 042-003	十餘部 小皿B	T21	口径: 12.0前後 器高: 2.3 (1/10)	外面ケスリ、内面ナデ。口縁端部外側 コナテ。	外: 2.5Y 8/2 灰白 内: 2.5Y 6/1 灰白		細砂粒多
1169 042-002	十餘部 小皿	U21	口径: 22.0前後 (1/6)	口縁部内外面コナテ。外面煤付否。	10YR 7/3	にぶい黄緑	細砂粒多

S D 4 3 (黄)

1170 043-019	土製器 小皿B	V26 中層	口径: 8.1~8.5 器高: 1.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側 コナテ。	7.5YR 7/3	にぶい黄	微砂粒多
1171 043-020	土製器 小皿B	V26 中層	口径: 8.1 器高: 1.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側 コナテ。	10YR 8/3	浅黄緑	微砂粒多
1172 043-021	土製器 小皿B	V26 中層	口径: 8.2~8.5 器高: 1.3 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側 コナテ。	10YR 6/1 濁灰 ~2.5Y 8/3 浅黄		細砂粒多
1173 043-022	土製器 小皿B	V26 中層	口径: 8.6 器高: 1.6 (6/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側 コナテ。	2.5Y 8/3	淡黄	細砂粒多
1174 043-023	十餘部 小皿B	V26 中層	口径: 8.2~8.4 器高: 1.4 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側 コナテ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多
1175 043-024	土製器 小皿B	V26 中層	口径: 8.2 器高: 1.3~1.4 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側 コナテ。	2.5Y 8/3	淡黄	細砂粒多
1176 043-025	土製器 小皿B	V26 中層	口径: 8.2~8.5 器高: 1.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側 コナテ。	10YR 8/3 浅黄緑 ~10YR 6.2 灰黄		砂粒多
1177 043-026	十餘部 小皿B	V26 上層	口径: 8.2 器高: 1.6 (9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側 コナテ。	10YR 8/2	灰白	微砂粒多
1178 043-026	土製器 小皿B	V26 上層	口径: 8.8 器高: 1.1~1.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側 コナテ。	10YR 7/2	にぶい黄緑	砂粒多
1179 043-045	土製器 小皿B	V26 上層	口径: 8.2 器高: 1.3 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側 コナテ。	10YR 8/2	灰白	細砂粒多
1180 043-008	十餘部 直皿	V26 中層	口径: 14.2~14.5 器高: 2.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 コナテ。器底の磨減進み調整不明瞭。	7.5YR 8/4	浅黄緑	砂粒多
1181 043-009	土製器 直皿	V26 中層	口径: 14.7~15.2 器高: 2.7 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 コナテ。	2.5Y 8/3	淡黄	砂粒多
1182 043-017	土製器 直皿	V26 上層	口径: 13.5~13.8 器高: 2.9 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 コナテ。器底の磨減進み調整不明瞭。	2.5Y 8/3	淡黄	微砂粒多
1183 043-010	土製器 直皿	V26 中層	口径: 14.7~15.0 器高: 2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 コナテ。器底の磨減進み調整不明瞭。	5 Y 8/3	淡黄	微砂粒多
1184 043-037	土製器 直皿	V26	口径: 14.0 器高: 3.3 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 コナテ。	10YR 8/2	灰白	微砂粒多
1185 043-042	土製器 直皿	V26	口径: 14.0~14.6 器高: 2.8 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 コナテ。	10YR 8/2	灰白	微砂粒多
1186 043-041	十餘部 直皿	V26	口径: 14.8 器高: 2.8 (9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面 コナテ。	10YR 8/3	浅黄緑	微砂粒多
1187 043-050	陶器 山皿	V26 上層	口径: 9.0 器高: 2.8 底径: 4.6 (完存)	内外面コナテ。底部外面未切り肌。磨 減産少。	5YR 7/1	明細灰	微砂粒多
1188 043-047	陶器 山皿	V27 中層	口径: 8.9 器高: 2.4 底径: 4.6 (完存)	内外面コナテ。底部外面未切り肌。磨 減産少。	5YR 7/1	明細灰	微砂粒多
1189 043-049	陶器 山皿	V26 上層	口径: 8.1 器高: 2.0 底径: 4.0~4.2 (完存)	内外面コナテ。底部外面未切り肌。磨 減産少。	5YR 5/2	灰褐	微砂粒多
1190 043-048	陶器 山皿	U27 中層	口径: 8.3 器高: 1.8 底径: 4.0 (完存)	内外面コナテ。底部外面未切り肌。磨 減産少。	5YR 5/1	灰褐	微砂粒多
1191 043-001	陶器 山茶碗	V26 中層	口径: 16.2 器高: 5.3 台径: 7.8 (完存)	内外面コナテ。底部外面未切り肌。高 台端部磨減多。磨減産少。	10Y 7/1	灰白	砂粒少
1192 043-002	陶器 山茶碗	V26 上層	口径: 16.2 器高: 5.4 台径: 7.4 (完存)	内外面コナテ。底部外面未切り肌。高 台端部磨減多。磨減産少。	10Y 7/1	灰白	砂粒少
1193 043-003	陶器 山茶碗	V26 中層	口径: 16.0 器高: 5.0 台径: 6.5 (完存)	内外面コナテ。底部外面未切り肌。高 台端部磨減多。磨減産少。	10Y 7/1	灰白	微砂粒多
1194 043-004	陶器 山茶碗	V26 上層	口径: 16.4 器高: 4.0 台径: 7.0 (完存)	内外面コナテ。底部外面ナデ。高台端 部磨減多。磨減産少。	10Y 7/1	灰白	細砂粒少

遺物番号	品 名	出土位置	計測値 (cm) (残存数)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	所 土
1195 043-005	陶器 山茶碗	V26	口径: 16.2 器高: 5.5 台径: 7.3-7.6 (1/4) (完存)	内外面クロコナダ。底部外面未切り紙。高台端部破損。産地不明。	10Y 7/1 灰白	細砂粒多
1196 043-006	陶器 山茶碗	U26 中層	口径: 16.3 器高: 5.0 台径: 7.0 (1/2) (完存)	内外面クロコナダ。底部外面未切り紙と赤漆(花押か)。高台端部破損多い。産地不明。	10Y 7/1 灰白	微砂粒多
1197 043-052	土師器 鉢	V26	口径: 19.2 器高: 18.6 (1/3) (1/3)	口縁部内外面ヨコナダ。体部外面オサエ、内面ナダ。外面黒付着。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒多
1198 043-053	土師器 鉢	U26	口径: 20.0前後 器高: 10.5 台径: 19.3 (2/5) (2/5)	口縁部内外面ヨコナダ。体部外面オサエ、内面ナダ。底部内外面ナダ。外面黒付着。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多

SD 4 7 (溝)

1199 047-001	土師器 鉢	V39	(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナダ。外面黒付着。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒多
-----------------	----------	-----	--------	-------------------	--------------	------

SD 5 0 (溝)

1200 050-001	土師器 小皿鉢	T37	口径: 7.8 器高: 1.2 (1/2)	外面オサエ、内面ナダ。口縁部外面ヨコナダ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	細砂粒多
1201 050-002	土師器 鉢	T37	(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナダ。外面黒付着。	10YR 5/2 灰黄	細砂粒多

SD 6 2 (溝)

1202 062-001	土師器 鉢	Q42	(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナダ。外面黒付着。	2.5Y 8/3 灰黄	細砂粒多
1203 062-002	陶器 山茶碗	Q42	口径: 8.6前後 (1/4)	内外面クロコナダ。底部外面未切り紙。基業不明。	2.5Y 6/2 灰黄	微砂粒多

SD 7 3 (溝)

1204 073-001	土師器 皿鉢	S30	口径: 15.0前後 器高: 2.4 (1/8)	外面オサエ、内面ナダ。口縁部内外面ヨコナダ。	10YR 8/4 浅黄緑	細砂粒多
-----------------	-----------	-----	--------------------------------	------------------------	--------------	------

SD 1 1 6 (溝)

1205 116-001	土師器 鉢	O77	口径: 33.0 (1/3)	口縁部内外面ヨコナダ。胴部外面オサエ、内面ナダ。外面黒付着。	10YR 8/4 浅黄緑	砂粒多
-----------------	----------	-----	-------------------	--------------------------------	--------------	-----

SD 1 1 7 (溝)

1206 117-002	土師器 碗C	L74	(口縁部片)	外面オサエ、内面ナダ。器壁の厚減薄不均等不明瞭。	7.5YR 8/2 灰口	微砂粒多
1207 117-001	土師器 鉢	N76	(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナダ。外面黒付着。	10YR 8/4 浅黄緑	細砂粒多

SD 1 1 8 (溝)

1208 118-006	土師器 小皿鉢	P74	口径: 7.8 器高: 1.3 (3/4)	外面オサエ、内面ナダ。口縁部外面わずかにヨコナダ。	7.5YR 7/6 緑	細砂粒少
1209 118-002	土師器 皿鉢	J74	口径: 13.4 器高: 2.6 (7/8)	外面オサエ、内面ナダ。口縁部外面ヨコナダ。底部内面に強い指痕ナダ。外面に灰状圧痕。	7.5YR 5/8 明黄	細砂粒多
1210 118-004	土師器 皿鉢	Q74	口径: 14.2 器高: 3.1 (完存)	外面オサエ、内面ナダ。口縁部外面わずかにヨコナダ。内外面黒付着。	7.5YR 4/4 黄	細砂粒少
1211 118-001	土師器 皿鉢	O74	口径: 12.3-12.7 器高: 2.9 (7/8)	外面オサエ、内面ナダ。口縁部外面わずかにヨコナダ。	7.5YR 8/4 浅黄緑	微砂粒少
1212 118-003	土師器 皿鉢	O74	口径: 12.2-12.6 器高: 2.5 (完存)	外面オサエ、内面ナダ。口縁部外面わずかにヨコナダ。底部内面に強い指痕ナダ。外面に灰状圧痕。	7.5YR 8/4 浅黄緑	細砂粒少
1213 118-005	土師器 皿鉢	P74	口径: 13.4 器高: 2.9 (完存)	外面オサエ、内面ナダ。口縁部外面わずかにヨコナダ。底部内面に強い指痕ナダ。外面に灰状圧痕。	7.5YR 7/4 にぶい緑	微砂粒多
1214 118-012	土師器 鉢	Q74	口径: 18.5 器高: 8.5 体径: 18.0 (1/4) (1/2)	口縁部内外面ヨコナダ。体部外面オサエ、内面ナダ。外面黒付着。	外: 7.5YR 7/6 黄 内: 5YR 6/6 橙	砂粒多
1215 118-011	土師器 鉢	Q74	口径: 19.0 器高: 18.6 (1/3) (1/3)	口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面ナダ。底部内外面ナダ。外面黒付着。	7.5YR 7/6 黄	砂粒多
1216 118-013	土師器 鉢	Q74	口径: 21.0 体径: 21.7 (3/7) (3/7)	口縁部内外面ヨコナダ。体部外面ナダ。内面ナダ。外面黒付着。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多
1217 118-014	土師器 鉢	Q74	口径: 23.6 体径: 24.2 (5/8) (1/10)	口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面ナダ。底部内外面ナダ。外面黒付着。	2.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多
1218 118-007	陶器 山茶碗	M74	口径: 15.8 器高: 4.4 台径: 7.0 (1/4) (3/7)	内外面クロコナダ。底部外面未切り紙。高台端部破損。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白 ~7.5Y 6/1 灰白	砂粒多

通物番号	器 種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
1219 118-008	陶器 山茶碗	N74	口径: 15.0 胎高: 5.1 台径: 6.0 (1/3) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部割取痕。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	砂 粒 含
1220 118-009	陶器 山茶碗	O74	口径: 15.8 胎高: 4.9 台径: 7.9-8.9 (3/4) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部割取痕。高美産か。	2.5Y 7/1 灰白 ~7.5YR 7/4 に近い値	砂 粒 含
1221 118-010	陶器 山茶碗	P74	口径: 15.6 胎高: 4.6 台径: 7.6 (1/2) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部割取痕と亀裂。体部外面に亀裂。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	砂 粒 含

SD200 (溝)

1222 200-002	土師器 小皿B	T79	口径: 7.9-8.4 胎高: 1.0-1.1 (8/10)	外面オサヌ。内面ナデ。口縁端部外面わずかにココナデ。	7.5YR 8/4 浅黄緑	砂 粒 含
1223 200-003	土師器 小皿B	T78	口径: 8.0-8.4 胎高: 1.3-1.4 (4/5)	外面オサヌ。内面ナデ。口縁端部外面ココナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
1224 200-001	土師器 皿A	S78	口径: 14.1 胎高: 2.2-2.3 (1/4)	外面オサヌ。内面ナデ。口縁部内外面ココナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂 粒 含
1225 200-004	土師器 皿	S78	(口縁部片)	口縁部内外面ココナデ。外面底付着。	7.5YR 7/2 明黄灰	微砂粒含
1226 200-005	陶器 山茶碗	S78	口径: 14.4 胎高: 4.0-4.8 台径: 7.3 (9/10) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部割取痕。知多産か。	7.5Y 8/1 灰白	微砂粒多含

SD202 (溝)

1227 202-001	土師器 皿C	T81	口径: 12.7-13.1 胎高: 2.6-2.7	外面オサヌ。内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	微砂粒多含
-----------------	-----------	-----	------------------------------	-------------	---------------	-------

SD210 (溝)

1228 210-001	土製品 土鏝	R71	長 4.1cm、径 2.2cm、孔径 0.8cm、重量 14.4g (完存)		5YR 7/6 緑	微砂粒含
-----------------	-----------	-----	--	--	-----------	------

SD218 (溝)

1229 218-001	土師器 小皿B	P70	口径: 8.2 胎高: 1.2-1.7 (完存)	外面オサヌ。内面ナデ。口縁端部外面ココナデ。	2.5Y 8/4 淡緑	砂 粒 含
1230 218-002	土師器 皿B	P69	口径: 14.4 (1/2)	外面オサヌ。内面ナデ。口縁部内外面ココナデ。	2.5Y 8/3 淡緑	砂 粒 含
1231 218-003	土師器 皿	P71	口径: 29.0 (1/6)	口縁部内外面ココナデ。外面底付着。	2.5Y 8/2 灰白	砂 粒 含
1232 218-004	陶器 山茶碗	P71	台径: 6.7 (1/2)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高美産か。	10YR 8/1 灰白	微砂粒含
1233 218-005	鉄器 刀	O67	残存長 4.0cm (鋒部分のみ)			鉄 製

SD230 (溝)

1234 230-001	土師器 小皿C	M62	口径: 7.2-7.8 胎高: 0.9-1.3 (完存)	外面オサヌ。内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	微砂粒少含
1235 230-002	土師器 小皿C	M62	口径: 7.6-8.0 胎高: 1.0-1.5 (完存)	外面オサヌ。内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒多含
1236 230-003	土師器 小皿C	M62	口径: 7.8 胎高: 0.9-1.4 (1/2)	外面オサヌ。内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒少含

SZ132 (集石遺構)

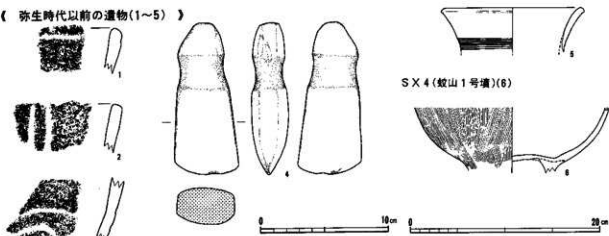
1237 132-001	陶器 山茶碗	J71	台径: 7.0 (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部割取痕。高美産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒少含
-----------------	-----------	-----	--------------	---------------------------------	-------------	-------

社合葬・ピット

1238 000-029	コハシ土師器 小皿	Q21 横舟上	口径: 7.2 胎高: 1.7 台径: 4.0 (1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。	7.5YR 7/3 に近い黄緑	微砂粒含
1239 000-049	土師器 付付小皿	Q44 皿外側	口径: 8.9 胎高: 2.7 台径: 5.2 (完存)	外面オサヌ。内面ナデ。高台部分内外面ナデ。胎部内面赤目肌。	10YR 8/4 浅黄緑	砂 粒 含
1240 000-033	土師器 付付小皿	O76 包合層	口径: 8.2 胎高: 2.1-2.3 台径: 4.4-4.7 (1/2)	外面オサヌ。内面ナデ。高台部分内外面ナデ。胎部内面赤目肌。	10YR 7/4 に近い黄緑	微砂粒多含
1241 000-030	土師器 鉢	I67 包合層	台径: 9.2 (3/8)	内外面ナデ。体部外面と底部外面中央部に窪いハズ目残存。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
1242 000-028	土師器 コハシ土師器	N72 空穴側	口径: 8.7前後 胎径: 10.3前後 (1/18) (1/18)	内外面ナデ。口縁部内外面ココナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒含

遺物番号	部 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	新 上
1243 000-018	土師器 羽釜	Q66 包含層	口径: 23.9~24.4 胴径: 27.5~27.8 底径: 19.5~20.0	(完存) (1/4)	体部内外面ケズリ。口縁部内外面ヨコナデ。外周縁付着。	10YR 8/3 黄緑色	細砂粒多量
1244 000-015	瓦葺上面 火舎	Q55 ピット21	口径: 9.2 器高: 3.9 器径: 12.7	(完存)	外面ケズリ、内面ナデ。底面外周ナデ。足部分は貼り付けのちケズリ。	2.5Y 8/2 灰白	砂 粒 含
1245 000-014	土師器 火内	Q55 ピット21	口径: 15.3 器高: 5.2 器径: 17.3	(完存) (9/10)	内外面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。底面外周縁付ケズリ。足部分は貼り付けのちケズリ。	10YR 8/4 黄緑色	砂 粒 多 含
1246 000-023	土師器 火鉢	L74 包含層	口径: 34.2	(1/2)	外面ケケ目、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外周に印花文。	器壁: 10YR 7/2 に近い黄褐色 断面: 2.5Y 4/1 黄灰	細砂粒含
1247 000-021	瓦葺 火鉢	L68 包含層	口径: 6.0	(1/5)	口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR 8/1 灰白 ~N4/ 灰	微砂粒含
1248 000-020	瓦葺 火鉢	T76 包含層	口径: 12.3前後	(1/10)	外面ナサエ、内面ヘウリガキ。口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR 8/1 灰白 ~N4/ 灰	微砂粒含
1249 000-038	陶器 山瓶	U26 包含層	口径: 8.8 器高: 2.6 器径: 4.6	(4/5) (完存)	内外面クロコナデ。底部内面に強い指痕ナデ、外周面切り痕。黄灰色か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒多量
1250 000-037	陶器 山瓶	L72 包含層	口径: 7.8 器高: 1.7 器径: 5.4	(6/7) (完存)	内外面クロコナデ。底部内面に強い指痕ナデ、外周面切り痕。知多産か。	5Y 6/1 灰	微砂粒含
1251 000-039	陶器 山瓶	N74 包含層	口径: 8.5 器高: 1.8 器径: 5.0	(11/12) (完存)	内外面クロコナデ。底部内面に強い指痕ナデ、外周面切り痕。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒少含
1252 000-040	陶器 山瓶	P77 包含層	口径: 8.5 器高: 2.2 器径: 5.3	(5/6) (完存)	内外面クロコナデ。底部内面に強い指痕ナデ、外周面切り痕。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒少含
1253 000-041	陶器 山薬瓶	L74 包含層	口径: 15.3~16.3 器高: 6.0~5.2 器径: 6.8	(完存)	内外面クロコナデ。底部外周面切り痕。高台端部砂粒状。黄灰色か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒含
1254 000-031	陶器 天目茶碗	K83 耕作土	口径: 11.5 器高: 4.2 器径: 3.7	(1/4) (1/4)	内周から体部上半部焼。黄台は削り出し。瀬戸産。	軸: 10YR 1.7/1 馬 胎土: 10YR 7/1 灰白	細砂粒含
1255 000-032	陶器 天目茶碗	L74 包含層	口径: 9.6 器高: 4.5 器径: 2.8	(1/4) (1/2)	内周から体部上半部焼。黄台は削り出し。クロコナデ焼。黄灰色。	軸: 5Y 3/3 明志焼 胎土: 7.5YR 5/1 黄灰	微砂粒含
1256 000-042	陶器 水注	W37 包含層	口径: 9.2 器高: 14.1 器径: 12.4 底径: 8.2	(2/3) (2/3) (2/3)	内外面クロコナデ。瀬戸産か。	外: 2.5Y 6/1 オリーブ灰 内: N 5/ 灰	微砂粒含
1257 000-043	陶器 三軒壺	M71 包含層	口径: 10.0 体径: 17.0	(3/5) (1/4)	内外面クロコナデ。器部外面に1条の紋線。知多産。	外: 2.5YR 4/3 に近い赤褐色 内: 2.5YR 4/2 灰赤	細砂粒多量
1258 000-016	陶器 三軒壺	L79 ピット3	口径: 13.5 体径: 18.8	(1/8) (1/4)	内外面クロコナデ。体部外面下半ケズリ。知多産。	外: 7.5YR 6/2 灰褐色 内: 7.5YR 7/4 に近い黄	細砂粒含
1259 000-036	陶器 広口壺	N69 包含層		(体破片)	内外面回転ナデ。内面に刻字「嘉禄1(1225~1227年)。知多産。	5YR 5/2 灰褐色	微砂粒含
1260 000-035	石製品 鍋	T82 包含層	口径: 21.0 胴径: 23.5前後	(1/6) (1/20)	内面は平滑、外面にケズリ痕明顯に残る。外周縁付着。		黄褐色石製
1261 000-036	石製品 鍋	T82 包含層	口径: 22.0前後	(1/12)	内面は平滑、外面にケズリ痕残る。外周縁付着。		黄褐色石製
1262 000-045	土製品 加工内蓋	P76 包含層	径: 2.4~2.6		陶輪製成の体部片を転用。		
1263 000-046	土製品 加工内蓋	O75 包含層	径: 5.0前後		花梨黒系黄緑色の高台部分を転用。		
1264 000-048	銅貨	K79 耕作土	厚さ×直径(真)、初鋳年代 外径: 2.40cm、穿径0.65cm、重量3.08g	歴家元年(1068)			銅 製
1265 000-047	銅貨	F89 包含層	厚さ×直径(真)、初鋳年代 外径: 2.40cm、穿径0.65cm、重量3.14g (約1/2欠損)	歴家元年(1068)			銅 製

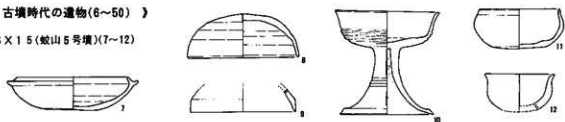
〔 弥生時代以前の遺物(1~5) 〕



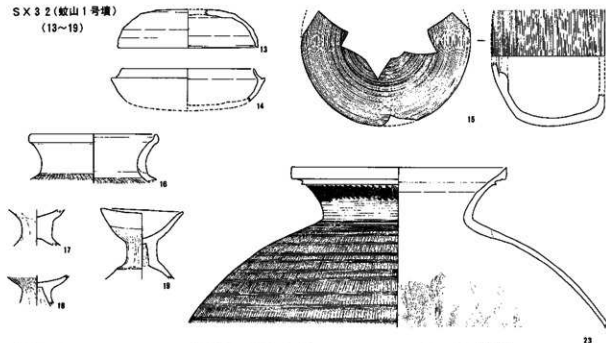
SX 4 (蛟山1号墳)(6)

〔 古墳時代の遺物(6~50) 〕

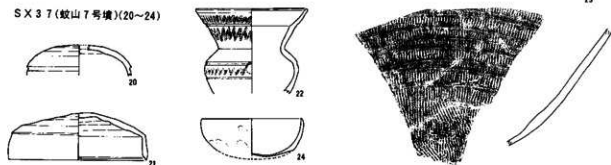
SX 1 5 (蛟山5号墳)(7~12)



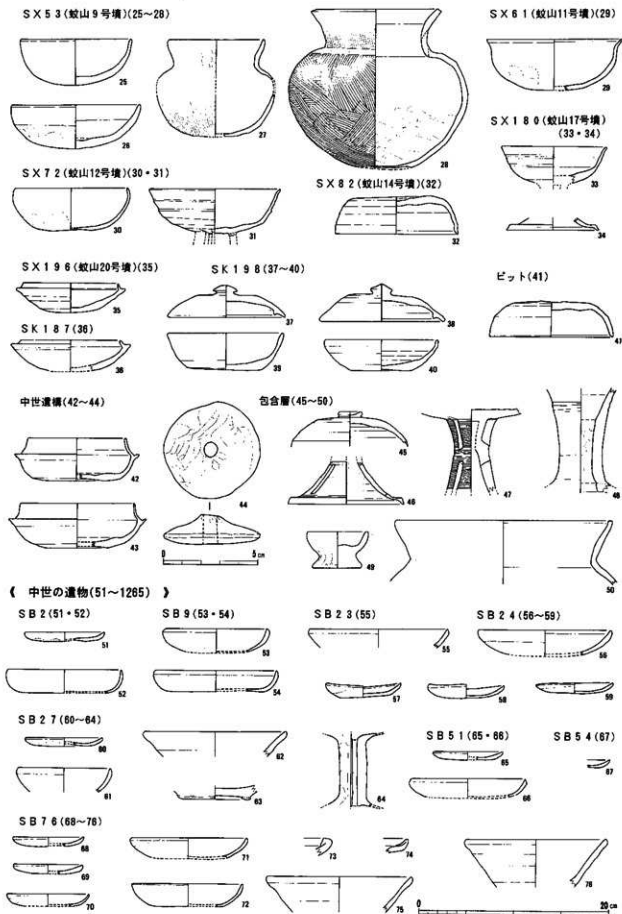
SX 3 2 (蛟山1号墳)
(13~19)



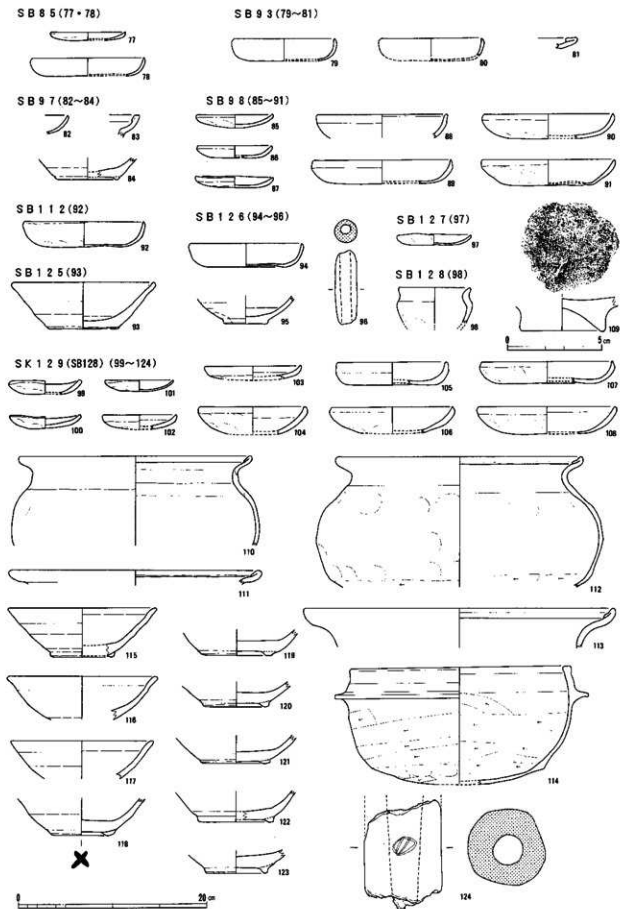
SX 3 7 (蛟山7号墳)(20~24)



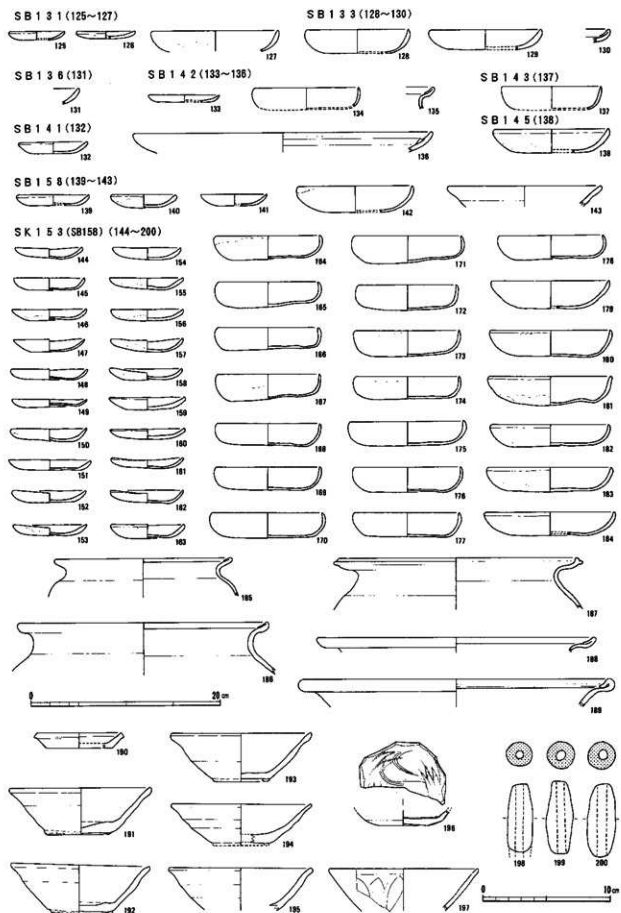
第62図 弥生時代以前・古墳時代の遺物実測図(1~4=1:3, 5~24=1:4)



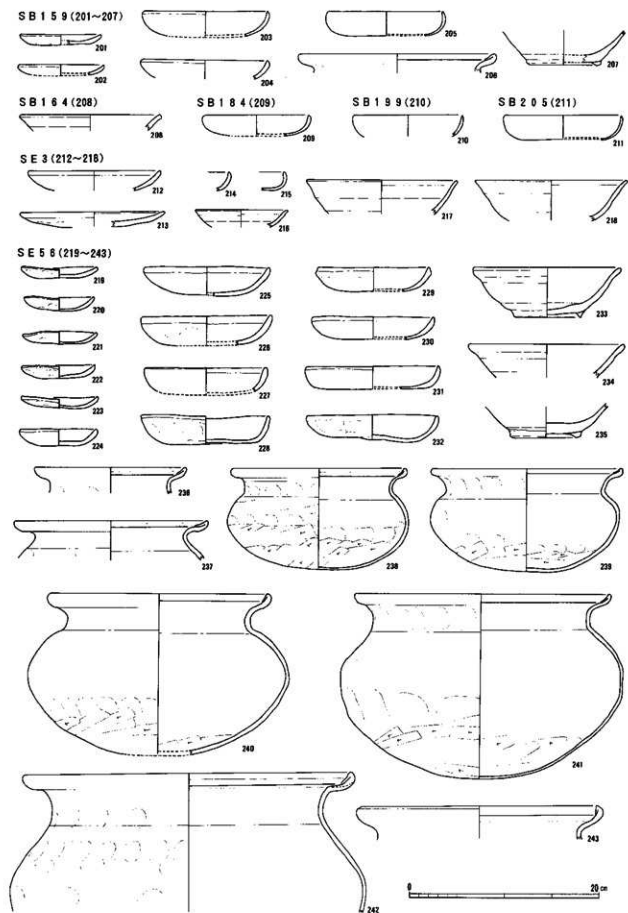
第63図 古墳時代の遺物・掘立柱建物出土遺物実測図(1:4, 44=1:2)



第64図 掘立柱建物出土遺物実測図 (1:4, 96・109=1:2)

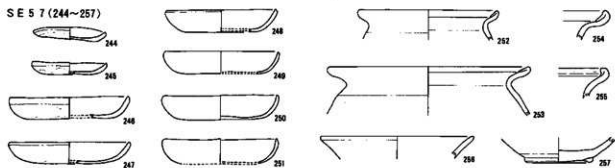


第65図 掘立柱建物出土遺物実測図 (1 : 4, 198~200 = 1 : 3)



第66図 掘立柱建物・井戸出土遺物実測図 (1 : 4)

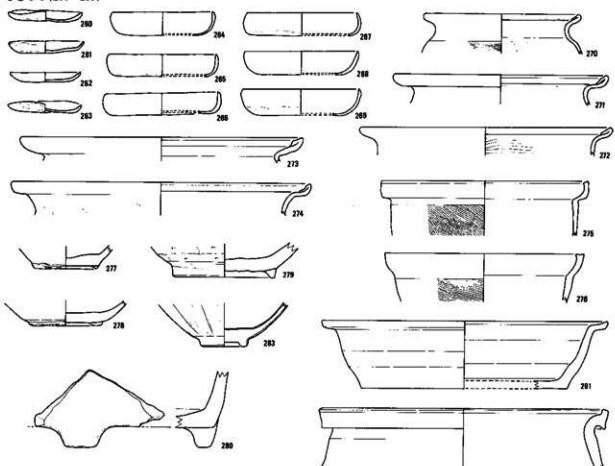
SE 5 7 (244~257)



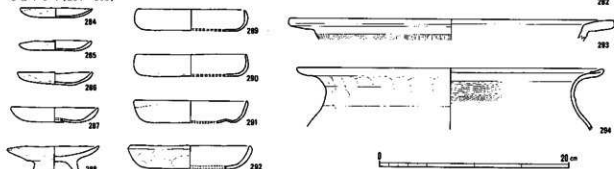
SE 7 9 (258・259)



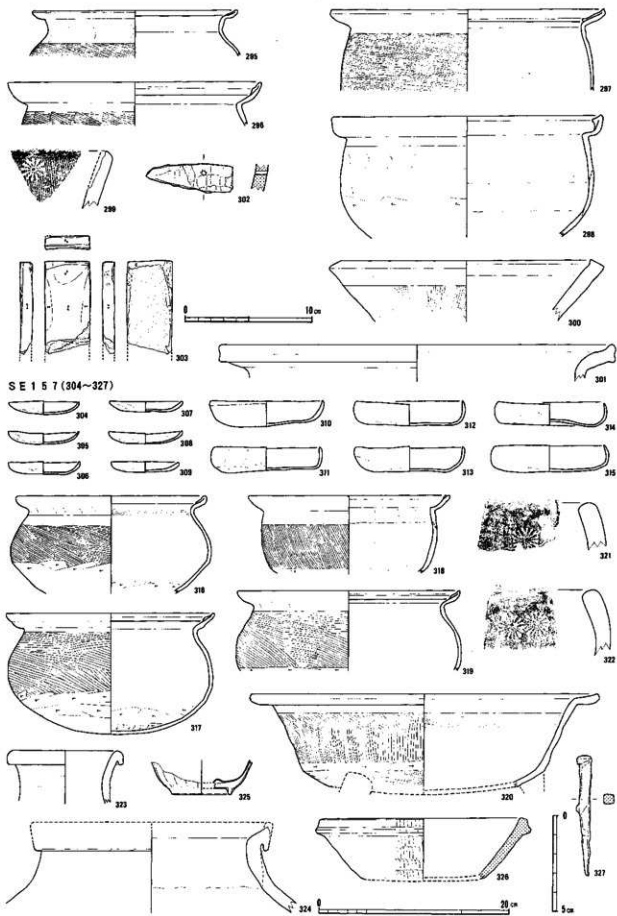
SE 9 0 (260~283)



SE 1 3 4 (284~303)



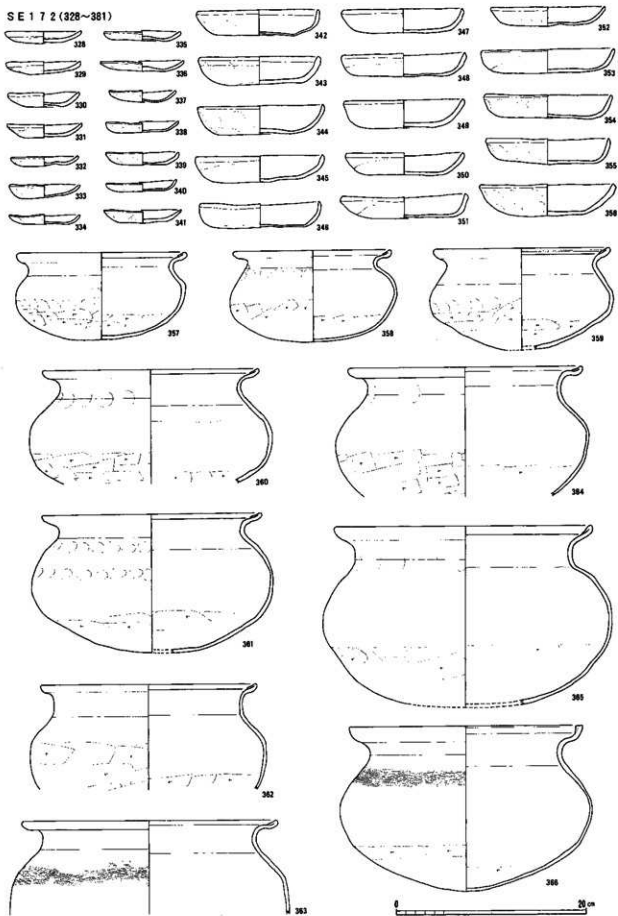
第67图 井戸出土遺物実測図 (1:4)



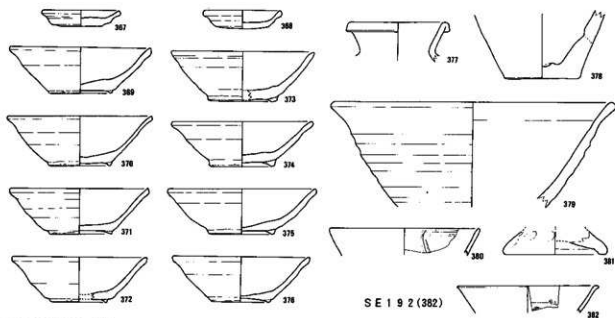
SE 157 (304~327)

第68图 井戸出土遺物実測図 (1:4, 303=1:3, 327=1:2)

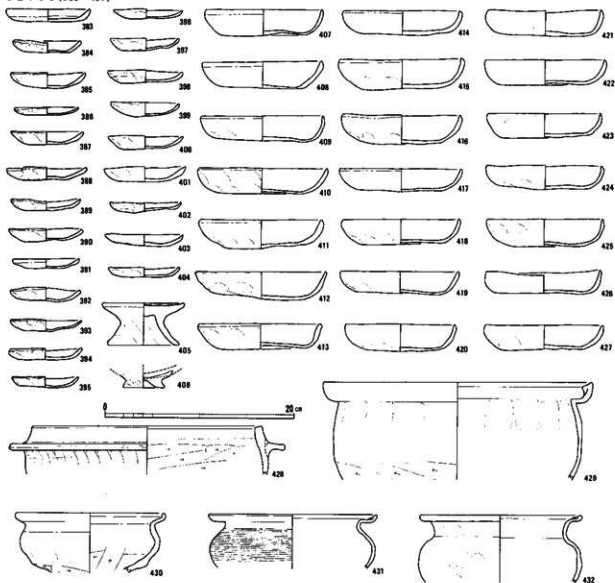
SE172 (328~381)



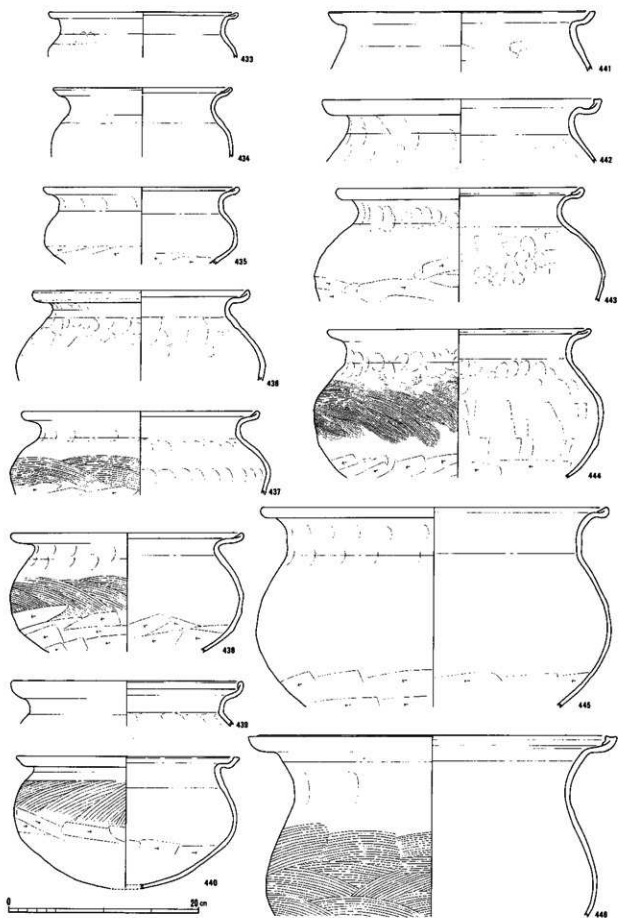
第69図 井戸出土遺物実測図 (1:4)



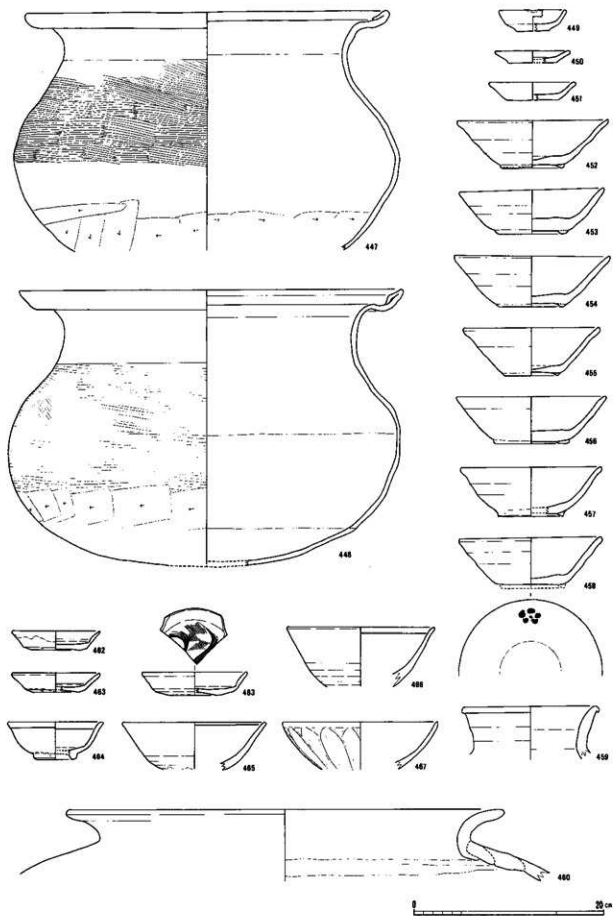
SE 19 3 (383~457)



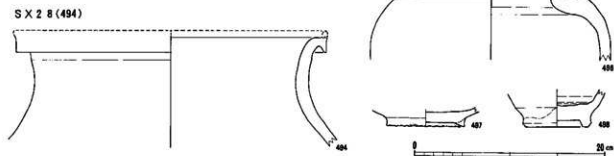
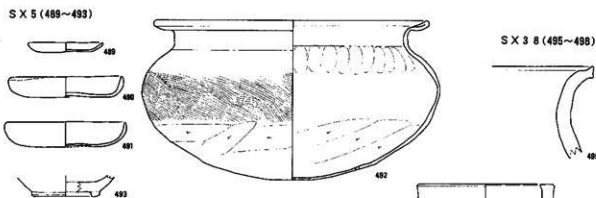
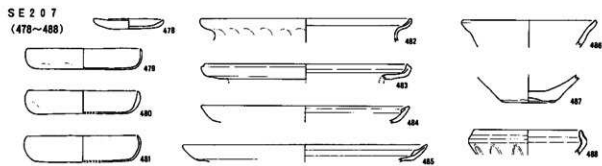
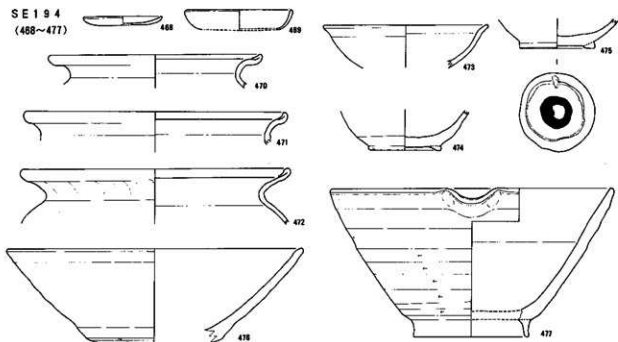
第70图 井戸出土遺物実測図(1:4)



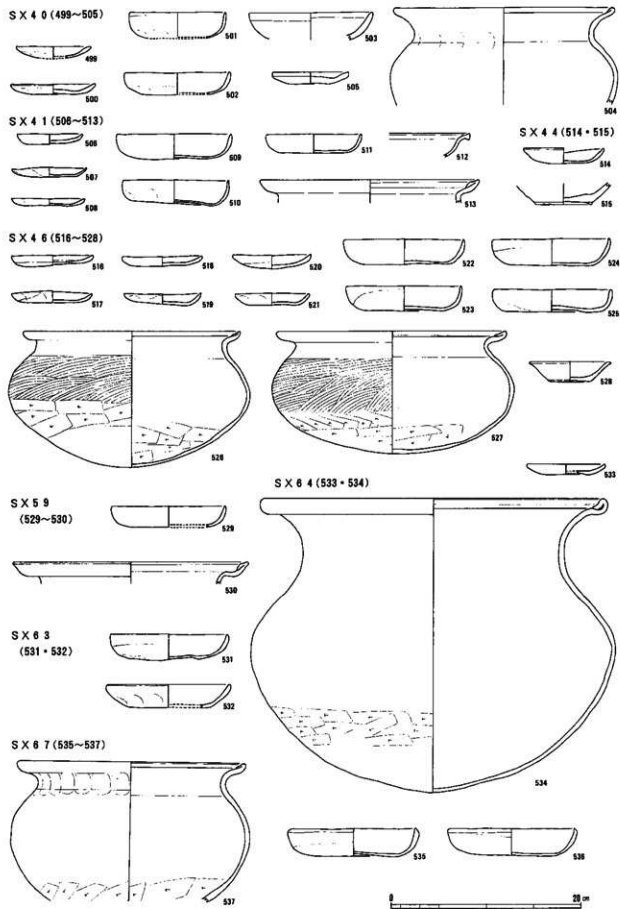
第71图 井戸出土遺物実測図 (1:4)



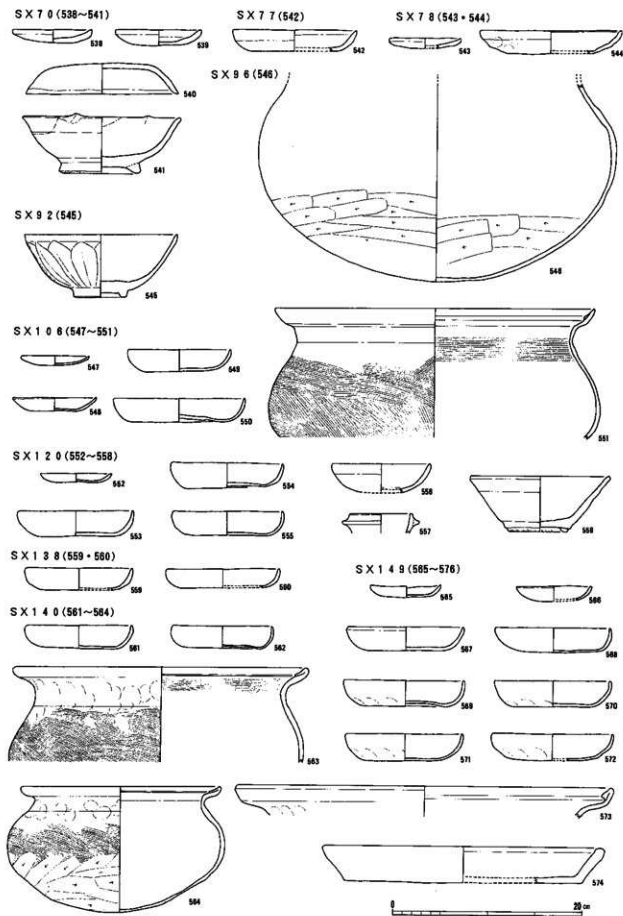
第72図 井戸出土遺物実測図 (1:4)



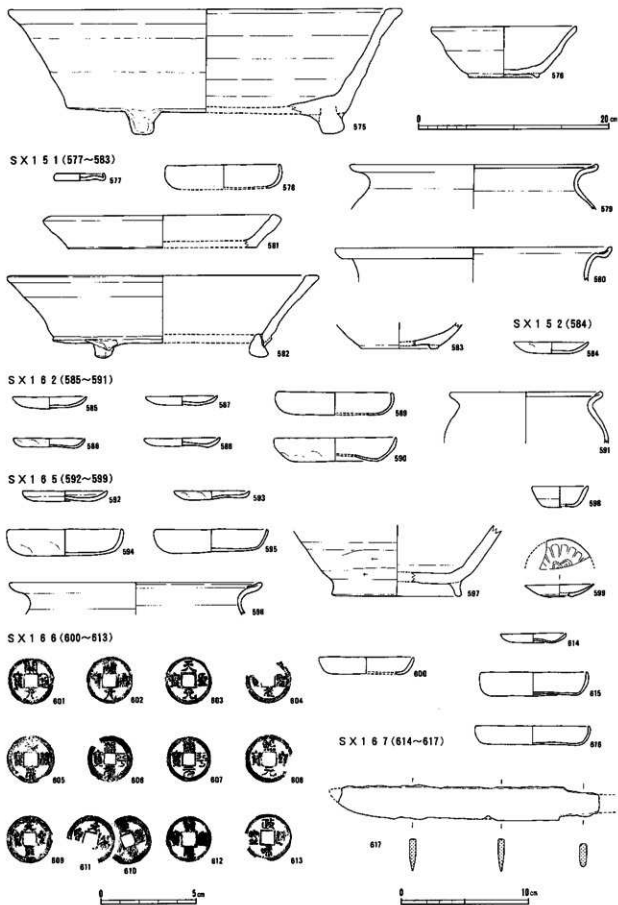
第73图 井戸・中世墓出土遺物実測図(1:4)



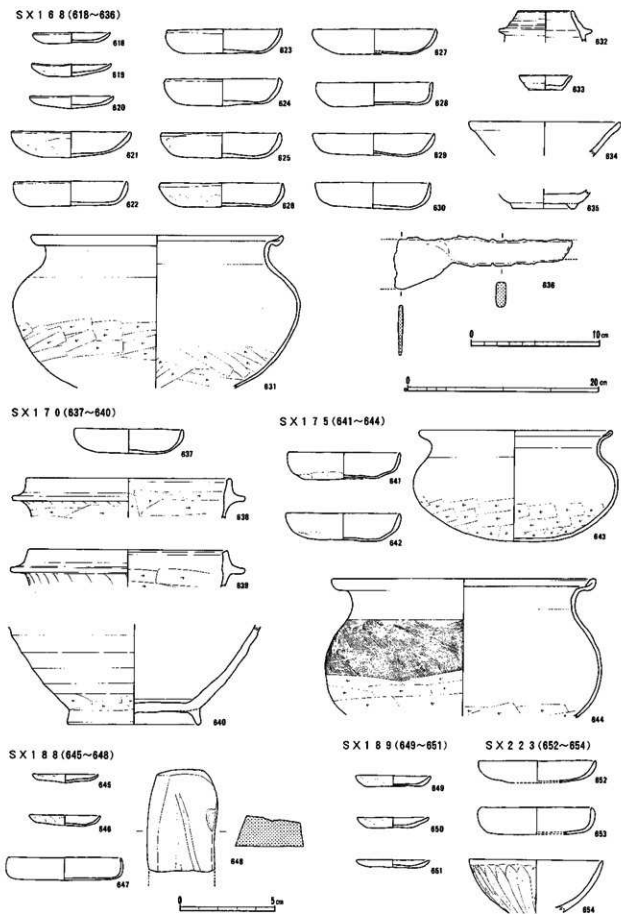
第74図 中世墓出土遺物実測図 (1 : 4)



第75图 中世墓出土遺物実測図 (1:4)



第76图 中世墓出土遺物実測図 (1:4, 601~613=1:2, 617=1:3)

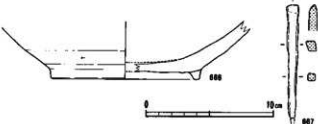
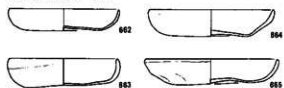


第77图 中世墓出土遺物実測図 (1 : 4, 636 = 1 : 3, 648 = 1 : 2)

SX 2 2 4 (655~661)



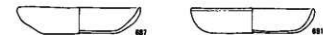
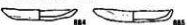
SX 2 2 5 (662~667)



SK 1 2 (668~683)



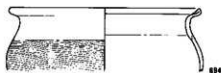
SK 2 2 (684~686)



SK 2 6 (689~692)



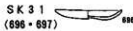
SK 2 9
(693 + 694)



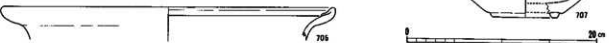
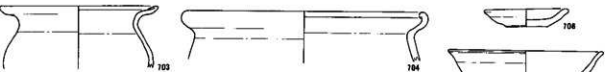
SK 3 0 (695)



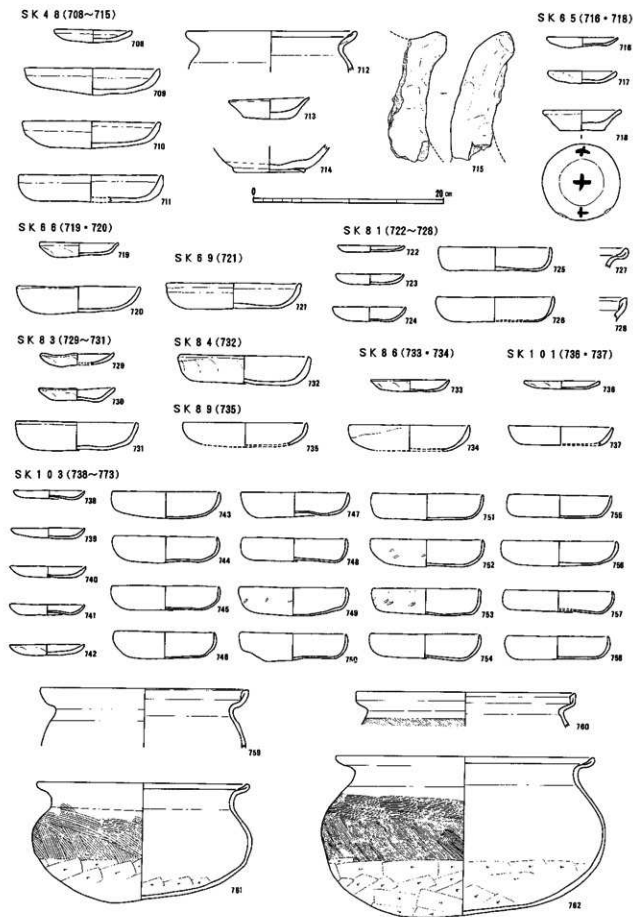
SK 3 1
(696 + 697)



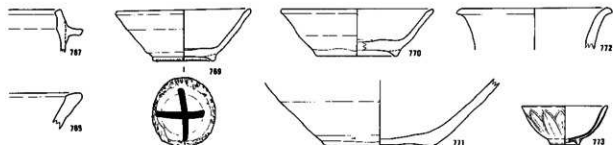
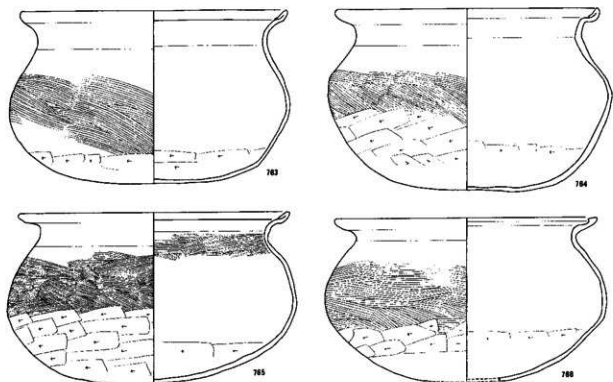
SK 4 5 (698~707)



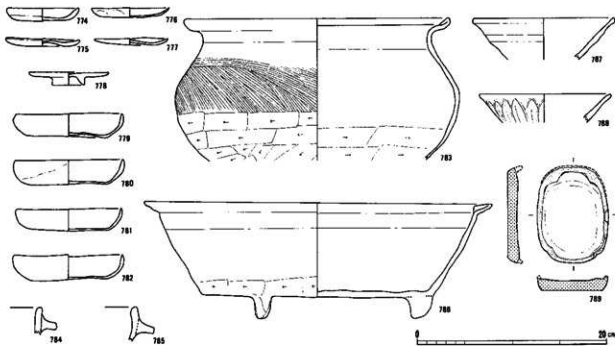
第78图 中世墓・土坑出土遺物実測図 (1:4, 667=1:3)



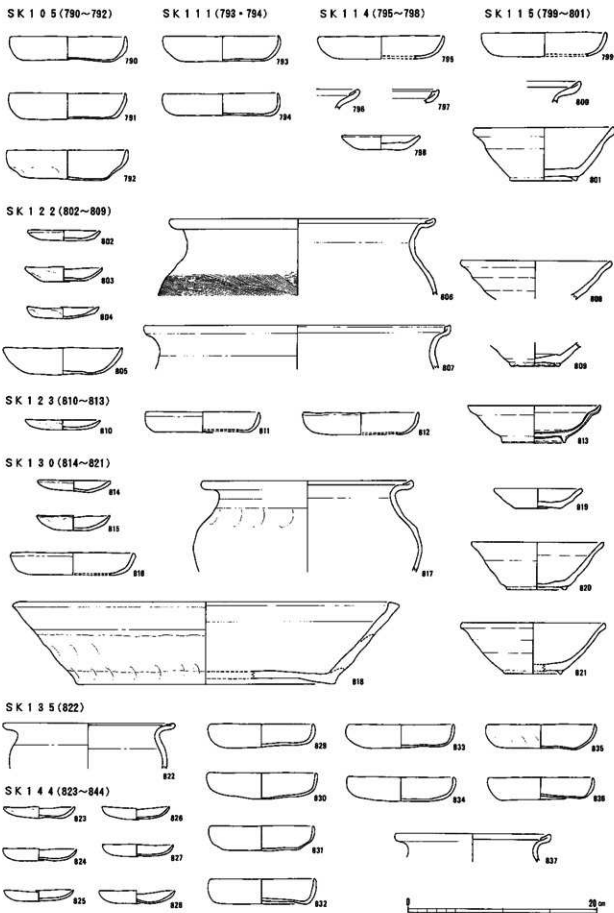
第79图 土坑出土遗物实测图 (1:4)



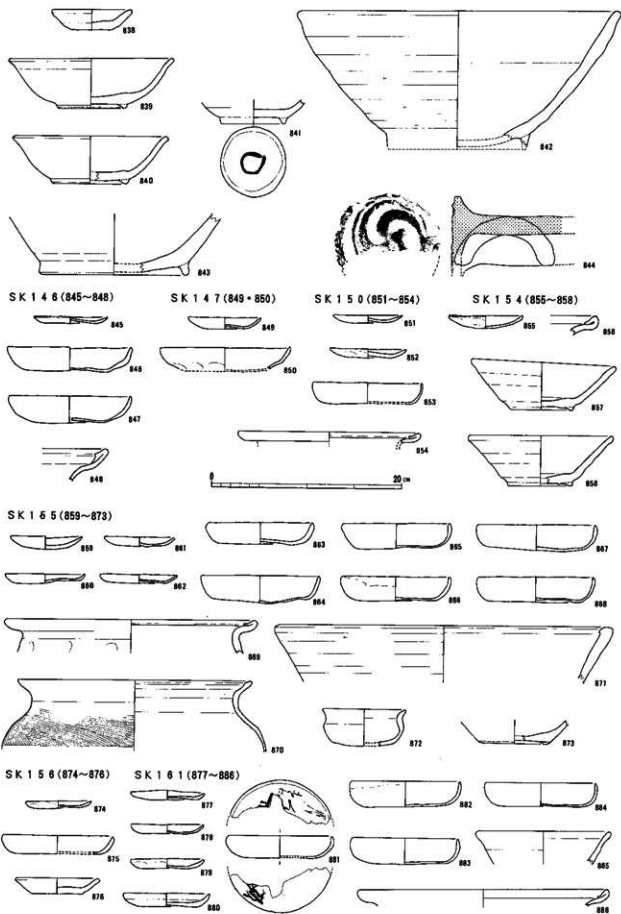
SK104 (774~783)



第80图 土坑出土遺物実測図 (1:4)

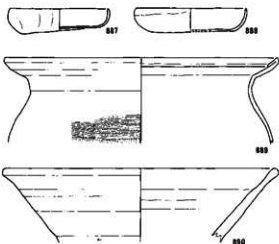


第81图 土坑出土遺物実測図(1:4)

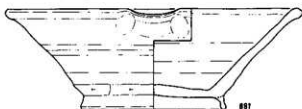


第82图 土坑出土遗物实测图 (1:4)

SK 173 (887~890)



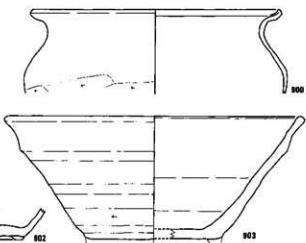
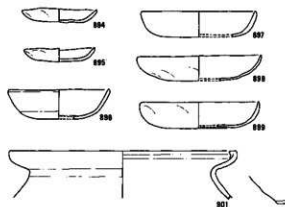
SK 174 (891)



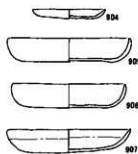
SK 177 (892~893)



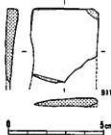
SK 178 (894~903)



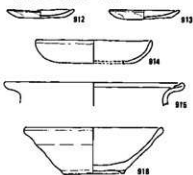
SK 181 (904~907)



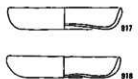
SK 183 (908~911)



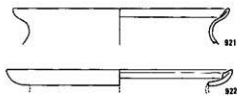
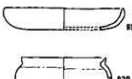
SK 190 (912~916)



SK 195 (917~918)



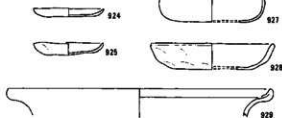
SK 197 (919~922)



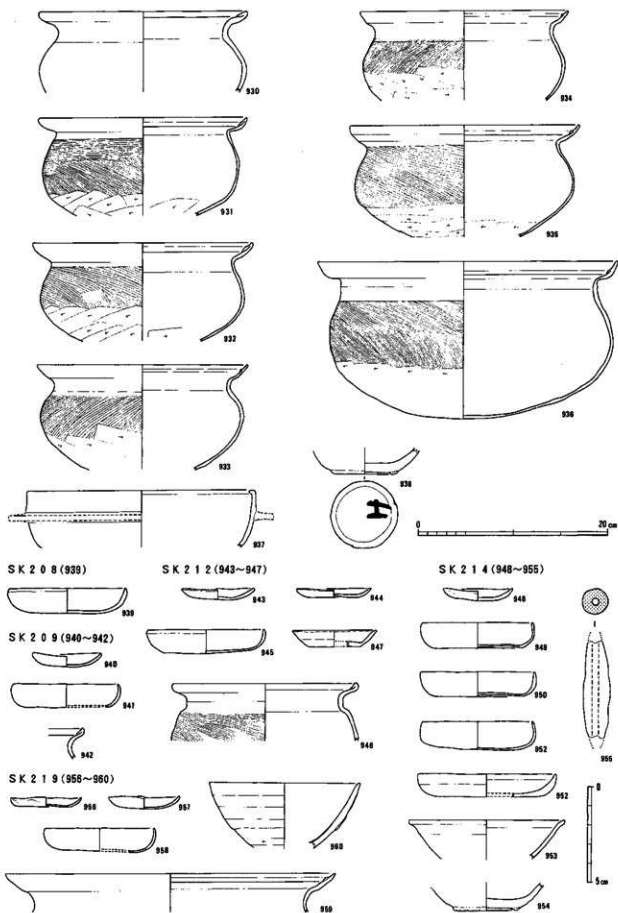
SK 203 (923)



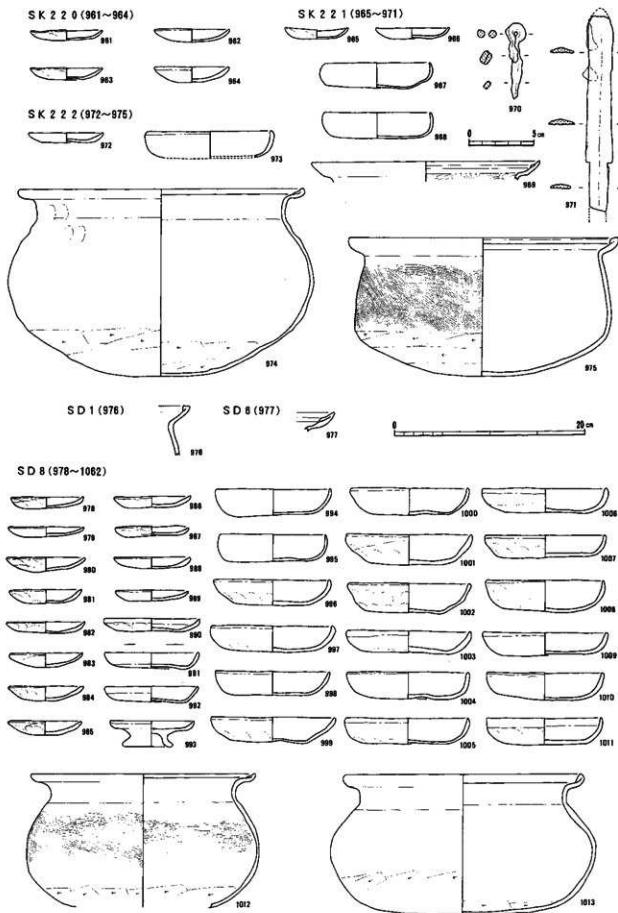
SK 204 (924~926)



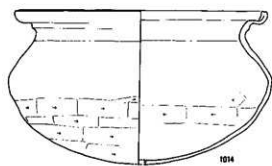
第83图 土坑出土遺物実測図 (1:4, 911=1:2)



第84图 土坑出土遺物実測図 (1 : 4, 955 = 1 : 2)



第85图 土坑・溝出土遺物実測図 (1 : 4, 970~971 = 1 : 3)



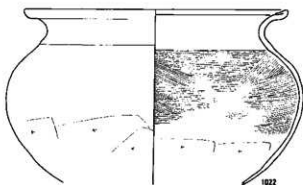
1014



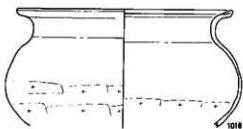
1021



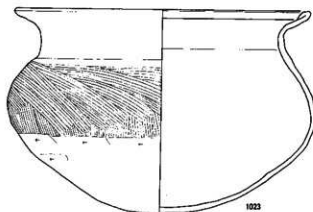
1015



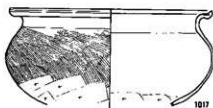
1022



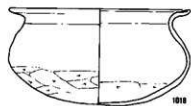
1016



1023



1017



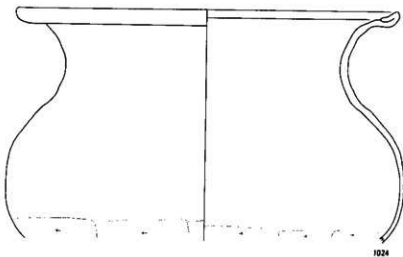
1018



1019



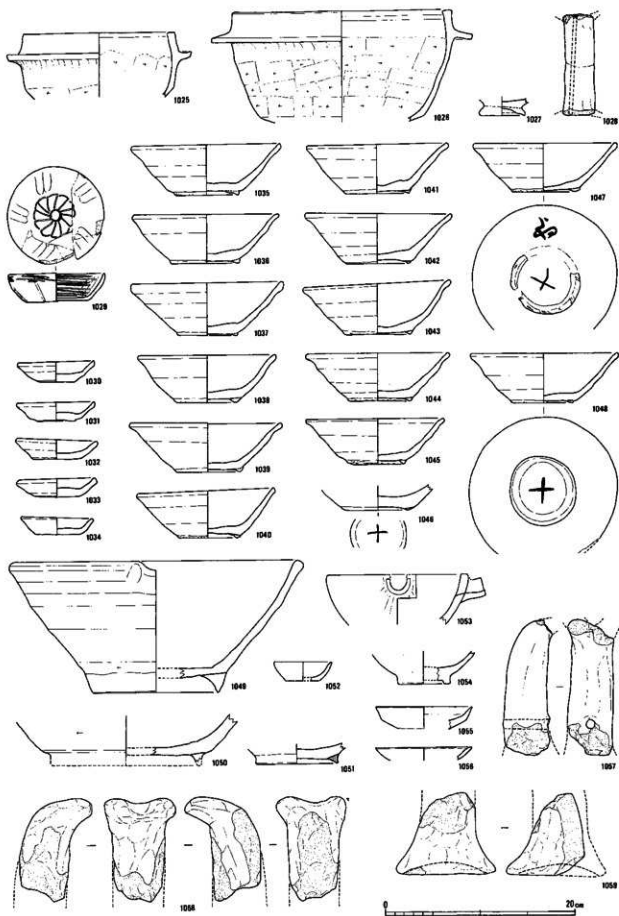
1020



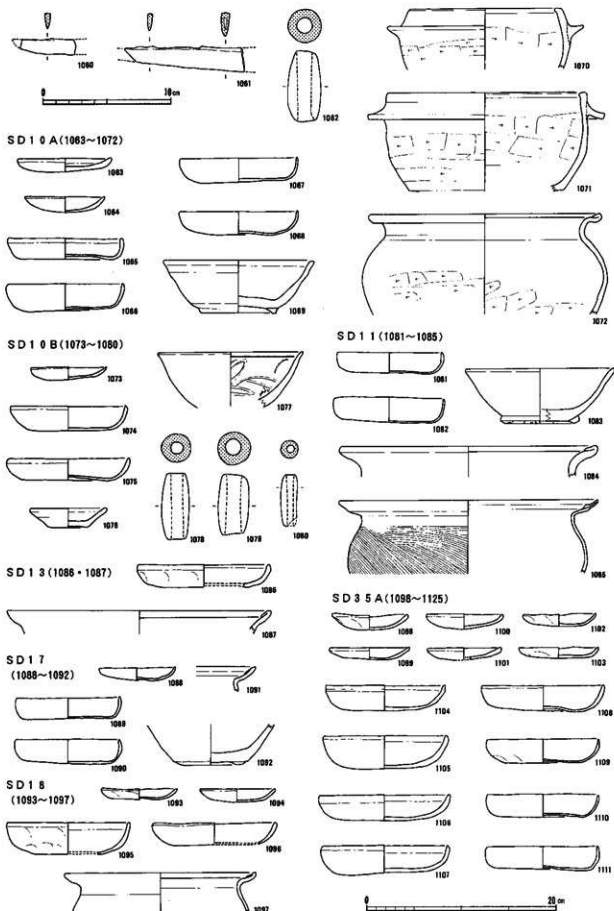
1024



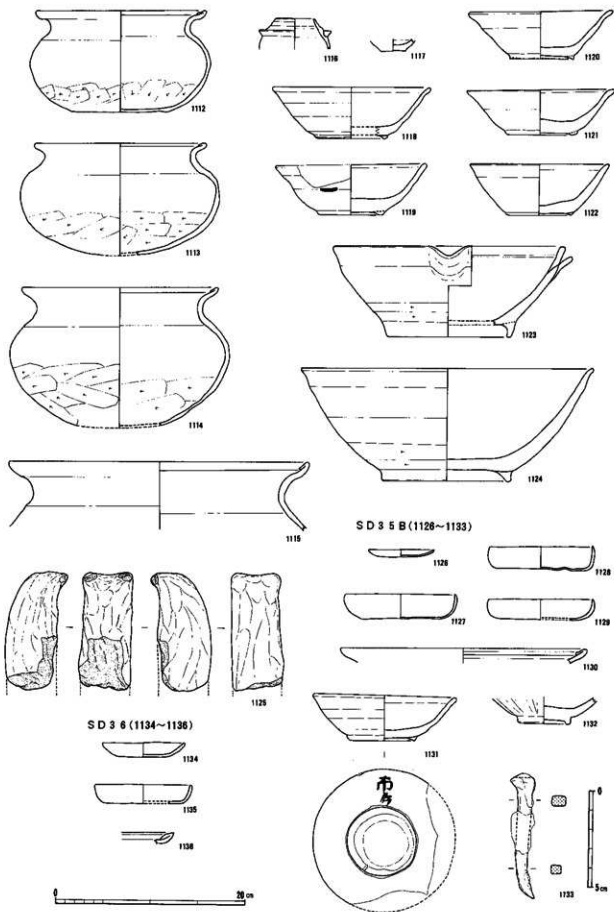
第86图 濠出土遺物実測図 (1 : 4)



第87图 沟出土遗物实测图 (1 : 4)

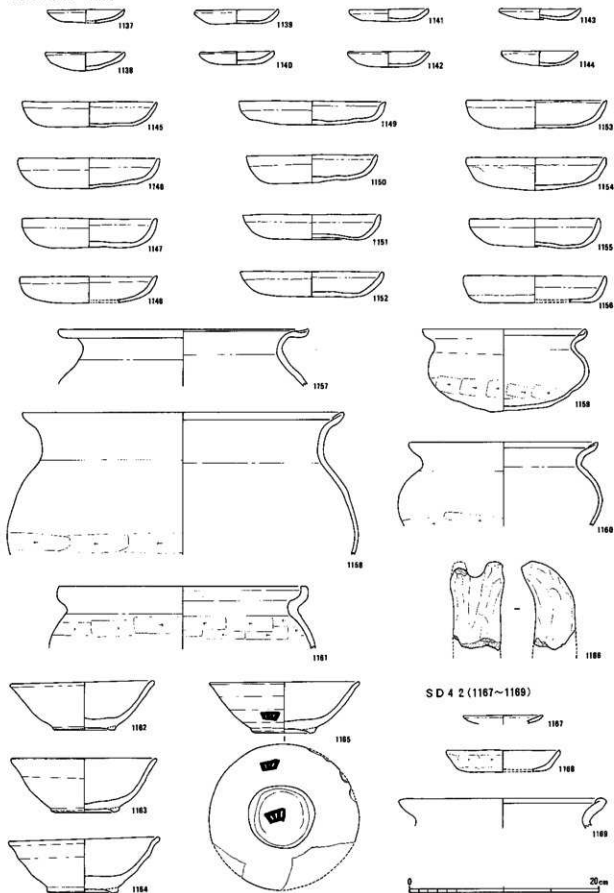


第88图 濠出土遺物実測図 (1:4, 1060~1062・1078~1080=1:3)



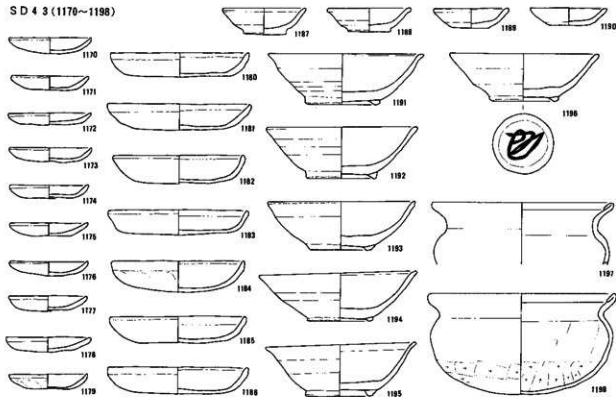
第89图 沟出土遗物实测图 (1:4, 1133=1:2)

SD 3 9 (1137~1166)



第90図 溝出土遺物実測図(1:4)

SD 4 3 (1170~1198)



SD 4 7 (1199)



SD 5 0 (1200・1201)



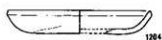
SD 6 2 (1202・1203)



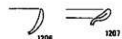
SD 1 1 6 (1205)



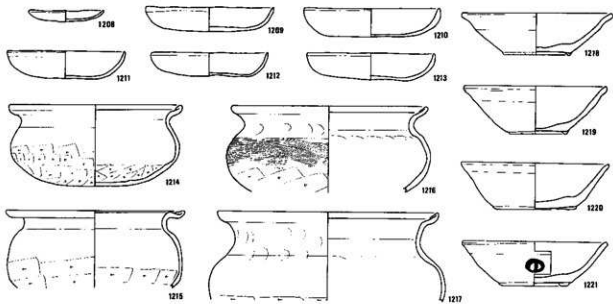
SD 7 3 (1204)



SD 1 1 7
(1206・1207)

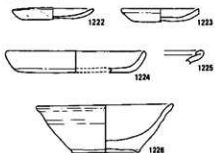


SD 1 1 8 (1208~1221)

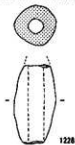


第91图 清出土遺物実測図(1:4)

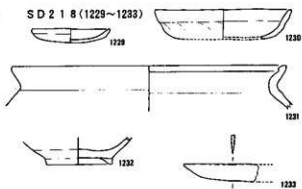
SD 2 0 0 (1222~1226)



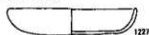
SD 2 1 0 (1228)



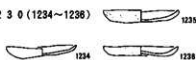
SD 2 1 8 (1228~1233)



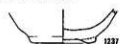
SD 2 0 2 (1227)



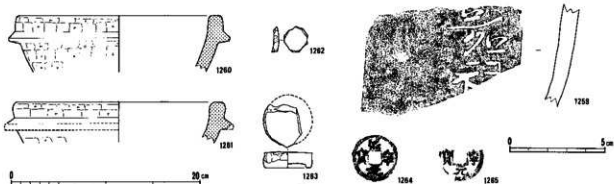
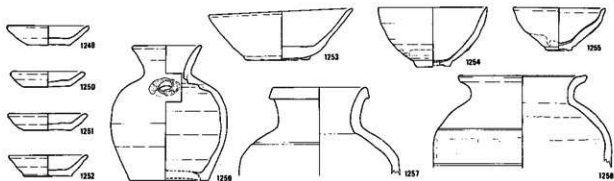
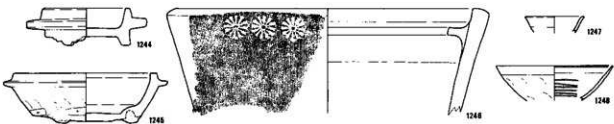
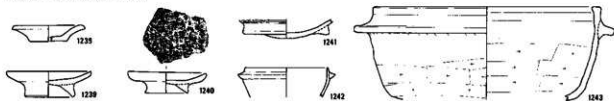
SD 2 3 0 (1234~1236)



SZ 1 3 2 (1237)



包含層・ビット (1238~1265)



第92図 溝・包含層等出土遺物実測図 (1:4, 1228・1233・1259・1264・1265=1:2)

V. 中世陶器の産地推定

1. 蚊山遺跡左郡地区出土中世陶器の蛍光X線分析

奈良教育大学 三 辻 利 一

1. はじめに

東海地域は古代から須恵器、灰軸陶器を大量に生産してきた。また、中世においても山茶碗等の陶器を大量に生産した。つまり、古代から中世にいたるまで、日本における陶器の主要生産地の一つであった。それほど、陶器の素材となる良質の粘土の豊富な地域である。

この地域内の多数の窯跡から出土した須恵器、灰軸陶器、山茶碗の破片を蛍光X線分析法で分析した結果、Ca、Fe、Naの含有量が他の地域の陶器に比べて少ないという特徴があることがわかった。その他、K、Rb、Srでも類似した特徴をもっており、同じ化学特性をもった粘土が名古屋市を中心にならびに広い地域に広がっていることを示している。このことは逆にいえば、東海地域内の窯跡出土陶器を相互識別することは容易ではないことを示す。

本報告では、東海地域内のいくつかのブロックの窯跡出土の山茶碗の相互識別の結果を示すとともに蚊山遺跡左郡地区から出土した山茶碗を主とする中世陶器の産地を推定した結果について報告する。

2. 分析結果

はじめに、山茶碗の生産を行っていた窯群間の相互識別の結果について説明しておく。

東海地方では古代から広く陶器生産が行われてきたといっても、この地域内で一様に窯跡が見つまっている訳ではない。窯跡の所在地は瀬戸地域、猿投地域、知多半島、渥美半島、浜名湖周辺というように、いくつかの地域に分けることができる。東海地域内（浜名湖周辺は除く）の窯跡出土陶器はすべて、他の地域のものに比べて、Ca、Fe、Sr、Naの量が少ないという特徴をもつとはいえ、これらの小地域

内でどの程度の地域差があるのかは、これらの小地域の窯跡出土陶器を分析してみなければわからないことである。ここでは、瀬戸群、猿投群、知多群、渥美群、湖西群に分けて化学特性を比較した。

第1図には瀬戸群と猿投群の相互識別の結果を示してある。この図は2群間判別分析図といい、両軸には瀬戸群、および、猿投群からのマハラノビスの汎距離の二乗値をとってある。この値の計算には、K、Ca、Rb、Srの4因子を使用した。マハラノビスの汎距離とは母集団のもつ標準偏差を尺度として表示した、母集団の重心からの統計学上の距離のことである。正、負両方の値をとり得るので、計算処理上の不便を避けるため、二乗して負符号を消去して使用する。ここでも二乗値を使っているのはそのためである。もし、A、B両群の化学特性が明確に異なり相互識別が完全であると、A群の試料は $D^2(A) \leq 10$ 、 $D^2(B) > 10$ の領域に分布し、B群の試料は $D^2(B) \leq 10$ 、 $D^2(A) > 10$ の領域に分布する。しかし、両群の化学特性が類似してくると、両群の試料は次第に接近して分布し、遂に、 $D^2(A) \leq 10$ 、 $D^2(B) \leq 10$ の領域に混在して分布するようになる。それで、この領域を重複領域という。第1図では両群の試料の一部が重複領域に分布するが、猿投群の試料はほとんどが猿投領域に分布しており、瀬戸群の試料で猿投領域にまで分布しているものは1点もない。第93図より、両群の相互識別は完全でなくとも、十分に可能であることを示している。瀬戸群の化学特性は近接地域である猿投群にもっとも近く、渥美群や湖西群とはより明確に異なる。したがって、東海地方の諸試料の中から瀬戸群の試料を検出することは比較的容易である。

第94図には猿投群と知多群の2群間判別分析図を

示す。両群の過半数の試料が重複領域に分布しており、相互識別は困難であることを示している。それでも、狼投群の試料のうち約半数は狼投領域に分布しており、部分的には相互識別されることを示している。本報告では両群を一括して、狼投・知多群として使用した。

第95図には渥美群と知多群の相互識別の結果を示す。渥美群の試料の過半数は渥美領域に分布する。他方、知多群の試料の過半数は重複領域に分布し、相互識別の可能性があることを示している。ただし、渥美群の試料の中に一部、重複領域に分布するものがあり、誤判別の確率が若干あることに注意を要する。

なお、渥美群と湖西群の化学特性は類似していたので、ここでは渥美・湖西群として産地推定に使用した。

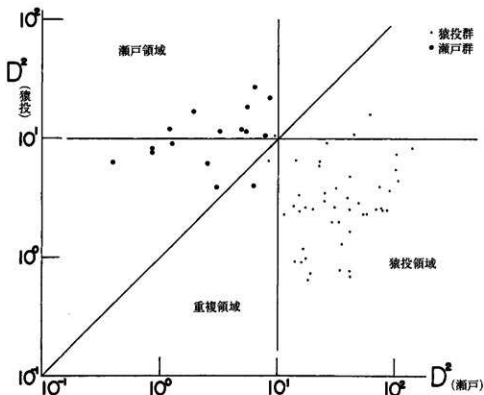
このようにして、東海地域の山茶碗の窯群はK、Ca、Rb、Srの4因子を使って、少なくとも、1) 瀬戸群、2) 狼投・知多群、3) 渥美・湖西群の3群に区別できることがわかった。勿論、狼投群内で

も一部の小窯群の試料は狼投領域の内側に偏在しており、決して化学特性は一律ではないが、これらの小地域差を無視して、狼投群として一括してある。このようなことは、分析データより、各地の窯群内で見出されている。

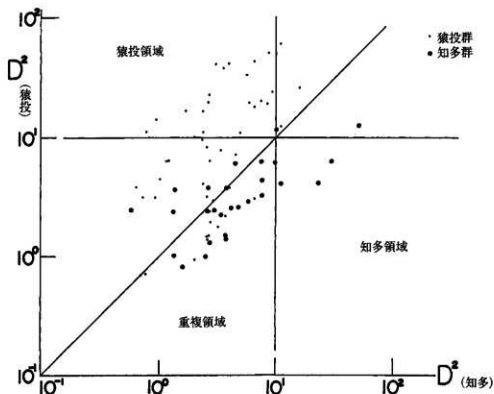
以上のことを前置きとして、蚊山遺跡左郡地区出土中世陶器の産地を推定した結果について説明する。

全試料の分析値を第10表にまとめてある。分析値はすべて、岩石標準試料JG-1による標準化値で表示されている。分析値を点検すると、全試料ともCa、Na、Fe量が少ない東海地域陶器の特徴をもっており、いずれも、東海産の土器であることを示している。

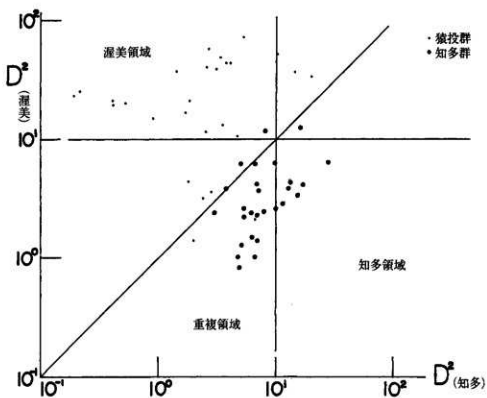
瀬戸群、狼投群、知多群、渥美群、湖西群からのマハラノビスの汎距離の二乗値をK、Ca、Rb、Srの4因子を使って計算した結果も第10表にまとめられている。5%の危険率をかけた判別分析の結果、母集団への帰属条件として、 $D^2(X) \leq 10$ を採用した。(X)は母集団名である。そうすると、瀬戸群というように単独で産地が推定された場合もある



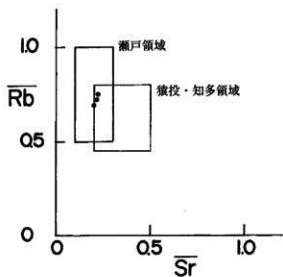
第93図 瀬戸群と狼投群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr 因子使用)



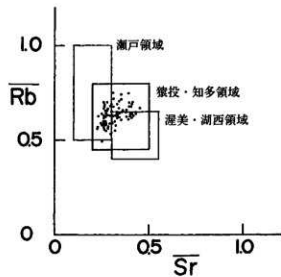
第94図 狼投群と知多群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr 因子使用)



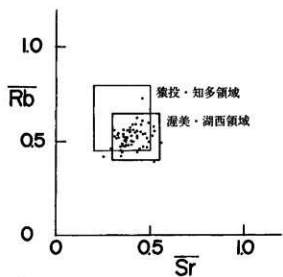
第95図 渥美群と知多群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr 因子使用)



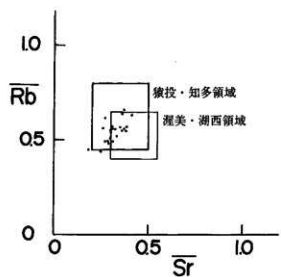
第96図 瀬戸産と推定された中世陶器のRb-Sr分布図



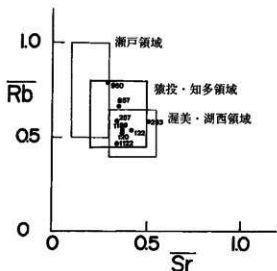
第97図 猿投・知多産と推定された中世陶器のRb-Sr分布図



第98図 渥美・湖西産と推定された中世陶器のRb-Sr分布図



第99図 猿投・知多、渥美・湖西産と推定された中世陶器のRb-Sr分布図



第100図 産地不明となった中世陶器のRb-Sr分布図

が、何しろ化学特性が比較的類似している母集団同志の間の判別分析であるので、2つあるいはそれ以上の母集団が帰属条件を満足した場合がある。その場合には、瀬戸群、猿投・知多群、渥美・湖西群の3群区分法をとり、一番距離が近い群を産地として推定した。D²に余り差がない場合には、2つの母集団群を上げておいた。

第10表の産地推定の結果は今一度、Rb-Sr分布図上での分布位置で確認してみた。第96図には瀬戸産と推定された3点(281,323,1254)のRb-Sr分布図を示す。瀬戸窯群の試料の分析データのほとんどを包含するようにして描いた瀬戸領域の中心近くに分布することが確認される。この領域の領界は定量的な意味をもっていないが、他の窯群の分布領域と比較する上には有用である。こうして、判別分析の結果はRb-Sr分布図上でも確かめられた訳である。

次に猿投・知多産と推定されたもののRb-Sr分布図を第97図に示す。ここでも、猿投・知多窯群の分析試料のほとんどを包含するようにして、猿投・知多領域を示してある。猿投・知多産と推定された

ほとんどの試料は猿投・知多領域の真中近くに分布しており、その分布位置は瀬戸領域や渥美領域には境界近くに相当する。なお、277, 279, 457, 455, 487, 678, 798, 858, 890, 903, 1040, 1252のように単独で猿投産と推定されたものがあり、逆に、771, 1035のように知多産と推定されたものもあるが、他は猿投・知多産と推定されたものである。どちらが産地であるかの決め手はない。

次に、渥美・湖西産と推定されたもののRb-Sr分布図を第98図に示す。この図でも、渥美・湖西の窯群試料の分析データのほとんどを包含するようにして渥美・湖西領域を描いてある。そうすると、渥美・湖西産と推定されたものはうまく渥美・湖西領域に分布するが、その大半はまた、猿投・知多領域にも重複して分布していることがわかる。

第99図には猿投・知多産であると同時に、渥美・湖西産の可能性もあると判別分析で推定されたもののRb-Sr分布図を示す。第97図や第98図と比較すると、より猿投・知多領域に深く分布し、渥美・湖西領域には微妙なところに分布していることがわかる。これらの多くは第99図からみて、猿投・知多産である可能性が高いと思われる。

最後に、胎土分析で産地不明となったもののRb-Sr分布図を第100図に示す。多くは渥美・湖西領域を中心に分布することがわかるが、857は猿投・知多産の可能性があり、960は瀬戸領域と猿投・知多領域の領界の微妙な位置に分布していることがわかる。960は渥美・湖西産ではないが、瀬戸産か猿投・知多産かの判別は難しい。

全体として眺めたとき、蚊山遺跡左郡地区では、瀬戸産の中世陶器はほとんどみられず、猿投・知多産と、渥美・湖西産がほとんどであった。そして、渥美・湖西産に比べて猿投・知多産が多いということも今回の胎土分析の成果に上げられよう。

遺物番号	器種	分 析 値						各母集団からのマハラノビスの距離値の二乗値					推 定 産 地
		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	瀬戸群	畿内群	加多群	瀬美群	湖西群	
6 3	山茶碗	0.467	0.066	0.862	0.522	0.327	0.120	100	8.3	10	6.8	2.7	瀬美・湖西
7 5	山茶碗	0.531	0.040	0.696	0.625	0.233	0.081	7.8	6.8	12	17	16	畿内・加多
7 6	山茶碗	0.577	0.106	0.769	0.622	0.341	0.201	65	5.4	11	18	9.3	畿内・加多
8 4	山茶碗	0.590	0.118	0.737	0.679	0.396	0.186	99	4.2	11	12	8.7	畿内・加多
9 3	山茶碗	0.537	0.090	0.653	0.569	0.353	0.179	100	7.2	10	14	3.8	湖西・畿内
1 1 5	山茶碗	0.532	0.122	0.858	0.564	0.372	0.157	117	6.8	8.1	11	5.7	瀬美・湖西・畿内・加多
1 1 6	山茶碗	0.389	0.047	0.796	0.441	0.250	0.127	61	7.3	11	8.9	8.1	畿内・加多・瀬美・湖西
1 1 7	山茶碗	0.488	0.082	0.728	0.566	0.387	0.173	161	15	19	4.4	1.7	瀬美・湖西
1 1 8	山茶碗	0.461	0.117	0.774	0.472	0.461	0.201	330	39	60	8.1	10	瀬美・湖西
1 1 9	山茶碗	0.477	0.127	0.743	0.477	0.384	0.168	175	13	20	10	7.1	瀬美・湖西
1 2 0	山茶碗	0.611	0.093	0.701	0.533	0.369	0.130	138	21	33	55	29	不明
1 2 1	山茶碗	0.522	0.117	0.740	0.527	0.431	0.194	228	20	30	12	6.9	瀬美・湖西
1 2 2	山茶碗	0.566	0.110	0.678	0.543	0.422	0.214	205	20	30	24	13	不明
1 2 3	山茶碗	0.553	0.150	0.713	0.611	0.458	0.238	212	14	18	6.2	6.4	瀬美・湖西
1 9 0	山 皿	0.523	0.182	0.727	0.840	0.400	0.183	124	8.6	1.6	5.4	35	畿内・加多
1 9 1	山茶碗	0.490	0.086	0.717	0.594	0.291	0.123	37	2.2	1.1	5.8	10	畿内・加多
1 9 2	山茶碗	0.470	0.055	0.700	0.569	0.256	0.099	26	2.9	1.3	7.1	9.9	畿内・加多
1 9 3	山茶碗	0.468	0.058	0.858	0.593	0.273	0.090	32	1.4	0.6	4.7	11	畿内・加多
1 9 4	山茶碗	0.466	0.035	0.630	0.573	0.259	0.090	35	3.1	1.6	6.6	11	畿内・加多・瀬美
1 9 5	山茶碗	0.466	0.113	0.850	0.594	0.338	0.129	76	2.7	0.8	2.1	12	畿内・加多・瀬美
2 0 7	山茶碗	0.531	0.086	0.865	0.664	0.372	0.168	91	5.1	5.7	5.4	7.6	畿内・加多・瀬美・湖西
2 1 7	山茶碗	0.405	0.046	0.857	0.491	0.266	0.110	62	5.3	7.6	4.6	7.2	瀬美・湖西・畿内・加多
2 1 8	山茶碗	0.475	0.095	0.773	0.502	0.409	0.227	220	23	33	7.5	4.6	瀬美・湖西
2 3 3	山茶碗	0.606	0.235	0.919	0.589	0.513	0.341	315	23	24	18	48	不明
2 3 4	山茶碗	0.490	0.044	0.625	0.594	0.244	0.103	17	3.5	3.4	9.8	13	畿内・加多
2 3 5	山茶碗	0.448	0.126	0.633	0.464	0.440	0.194	288	29	48	5.9	6.4	瀬美・湖西
2 5 7	山茶碗	0.629	0.109	0.961	0.589	0.340	0.145	77	13	21	27	17	不明
2 5 8	山茶碗	0.554	0.098	0.691	0.660	0.359	0.192	72	2.2	6.0	8.3	7.6	畿内・加多
2 7 7	山茶碗	0.588	0.050	0.884	0.677	0.283	0.097	11	7.3	22	24	17	畿内
2 7 8	山茶碗	0.517	0.203	0.902	0.532	0.509	0.260	350	27	35	5.3	22	瀬美
2 7 9	片口鉢	0.607	0.059	1.230	0.701	0.275	0.170	11	7.3	27	26	19	畿内
2 8 1	折縁深皿	0.556	0.038	0.524	0.689	0.198	0.027	1.1	14	33	22	34	瀬戸
2 8 2	壺	0.557	0.127	1.430	0.714	0.340	0.145	41	2.8	9.2	11	33	畿内・加多
3 0 0	片口鉢	0.507	0.125	2.430	0.545	0.319	0.215	70	8.1	3.5	11	13	畿内・加多
3 0 1	壺	0.529	0.086	1.350	0.634	0.321	0.181	48	1.4	3.4	7.6	8.4	畿内・加多
3 2 3	西耳壺	0.548	0.049	0.528	0.724	0.218	0.017	0.3	10	30	19	43	瀬戸
3 2 4	壺	0.364	0.092	1.920	0.417	0.254	0.158	64	10	14	7.7	11	瀬美・湖西・畿内・加多
3 6 7	山 皿	0.481	0.050	0.819	0.563	0.261	0.129	31	3.6	2.0	9.3	8.1	畿内・加多

第10表 試料の分析データ

遺物番号	器 種	分 析 値					各母集団からのマハラノビスの汎距離の二乗値					鑑 定 産 地	
		K	Ca	Pb	Rb	Sr	Na	瀬戸群	畿投群	知多群	濃美群		瀬西群
368	山茶碗	0.590	0.140	0.718	0.634	0.415	0.259	136	7.4	13	14	10	畿投・知多
369	山茶碗	0.551	0.138	0.735	0.663	0.371	0.195	79	2.1	1.0	7.1	11	畿投・知多
370	山茶碗	0.561	0.120	0.843	0.685	0.363	0.206	63	2.2	2.3	12	15	畿投・知多
371	山茶碗	0.476	0.060	0.613	0.531	0.283	0.155	53	4.9	3.2	10	4.9	畿投・知多、濃美・瀬西
372	山茶碗	0.575	0.108	0.800	0.658	0.355	0.207	66	2.8	2.6	12	9.5	畿投・知多
373	山茶碗	0.445	0.062	0.909	0.494	0.322	0.158	111	10	7.9	6.9	3.7	濃美・瀬西
374	山茶碗	0.557	0.146	0.719	0.654	0.376	0.193	86	4.1	1.3	8.1	19	畿投・知多
375	山茶碗	0.501	0.064	0.855	0.552	0.274	0.169	38	5.3	3.8	14	6.6	畿投・知多
376	山茶碗	0.628	0.174	0.707	0.687	0.410	0.188	116	9.4	18	20	31	畿投
378	三筋壺	0.443	0.085	0.686	0.523	0.332	0.135	102	6.2	8.6	2.2	1.5	濃美・瀬西、畿投・知多
379	片口鉢	0.520	0.062	0.920	0.665	0.283	0.113	21	0.8	5.2	8.6	18	畿投・知多
450	山 皿	0.455	0.105	0.639	0.485	0.347	0.140	1288	8.8	13	6.7	2.8	濃美・瀬西
451	山 皿	0.534	0.144	0.785	0.629	0.431	0.199	164	9.0	9.0	3.6	7.2	濃美・瀬西
452	山茶碗	0.507	0.050	0.814	0.601	0.248	0.099	15	4.4	2.7	12	12	畿投・知多
453	山茶碗	0.487	0.081	0.723	0.531	0.334	0.130	98	6.9	5.1	8.6	2.1	濃美・瀬西、畿投・知多
454	山茶碗	0.683	0.107	0.732	0.629	0.359	0.125	88	20	45	64	30	不明
455	山茶碗	0.659	0.082	0.761	0.778	0.337	0.204	36	4.6	10	28	34	畿投
456	山茶碗	0.498	0.176	0.969	0.501	0.438	0.347	239	17	12	7.4	17	濃美
457	山茶碗	0.592	0.177	0.851	0.670	0.451	0.287	166	8.4	11	9.7	21	畿投
458	山茶碗	0.591	0.107	0.753	0.634	0.367	0.233	86	3.7	2.7	10	5.7	濃美・瀬西
459	壺	0.392	0.111	1.740	0.423	0.345	0.095	156	13	27	5.2	5.3	濃美・瀬西
460	壺	0.518	0.090	0.144	0.688	0.295	0.156	21	1.3	6.5	9.4	28	畿投・知多、濃美
473	山茶碗	0.464	0.087	0.882	0.536	0.356	0.112	125	8.7	12	2.9	0.5	濃美・瀬西
474	山茶碗	0.519	0.237	0.731	0.503	0.490	0.176	333	27	25	9.3	48	濃美
475	山茶碗	0.474	0.102	0.925	0.522	0.307	0.113	138	9.2	13	4.8	0.9	濃美・瀬西
476	片口鉢	0.458	0.080	1.680	0.526	0.307	0.098	73	4.3	4.2	5.1	2.9	濃美・瀬西
477	片口鉢	0.538	0.092	0.905	0.643	0.338	0.160	60	1.2	201	5.2	9.3	畿投・知多
487	山茶碗	0.620	0.065	0.507	0.738	0.349	0.154	49	4.6	22	20	15	畿投
493	山茶碗	0.509	0.116	0.988	0.563	0.378	0.192	127	6.9	8.3	5.7	2.4	濃美・瀬西
494	壺	0.491	0.126	1.430	0.649	0.376	0.136	94	3.7	1.4	4.4	17	畿投・知多、濃美
495	壺	0.514	0.140	1.380	0.626	0.383	0.186	105	4.0	1.9	3.4	13	畿投・知多、濃美
496	壺	0.526	0.195	1.860	0.544	0.462	0.394	252	17	18	6.4	23	濃美
497	山茶碗	0.567	0.149	0.771	0.731	0.467	0.238	167	13	11	10	30	濃美
515	山茶碗	0.470	0.049	0.634	0.597	0.280	0.103	25	1.6	1.1	2.0	2.7	畿投・知多
528	山 皿	0.491	0.126	0.792	0.568	0.394	0.192	147	8.1	9.2	2.0	2.7	濃美・瀬西
541	山茶碗	0.434	0.136	0.685	0.471	0.479	0.205	368	44	70	3.6	6.6	濃美・瀬西
558	山茶碗	0.512	0.080	0.716	0.604	0.316	0.158	54	2.1	2.5	6.9	5.6	畿投・知多
576	山茶碗	0.463	0.054	0.634	0.577	0.259	0.097	27	2.1	0.9	5.6	11	畿投・知多

遺物番号	器 種	分 析 値						各母集団からのマハラジビスの乳距離の二乗値					推 定 産 地
		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	瀬戸群	畿内群	知多群	瀬美群	瀬西群	
583	山茶碗	0.570	0.155	0.675	0.591	0.449	0.235	205	13	19	12	11	瀬美・瀬西(?)
597	片口鉢	0.488	0.078	0.876	0.629	0.279	0.106	24	1.3	2.0	6.0	18	畿内・知多
635	山茶碗	0.425	0.103	0.858	0.498	0.374	0.147	166	13	22	1.1	0.5	瀬美・瀬西
640	片口鉢	0.504	0.059	1.080	0.631	0.257	0.109	14	2.5	5.0	8.9	17	畿内・知多
660	山茶碗	0.452	0.082	0.561	0.526	0.363	0.130	144	12	17	2.4	0.9	瀬美・瀬西
661	山茶碗	0.537	0.096	0.697	0.617	0.335	0.160	63	2.6	4.5	9.1	6.1	畿内・知多
666	片口鉢	0.458	0.127	1.200	0.561	0.308	0.134	61	6.3	1.0	3.5	19	瀬美
678	山 皿	0.601	0.114	0.796	0.702	0.395	0.261	90	3.7	13	13	11	畿内
679	山 皿	0.509	0.151	0.731	0.533	0.401	0.136	167	10	11	7.3	9.9	瀬美・瀬西
680	山茶碗	0.514	0.129	0.984	0.514	0.398	0.200	175	13	18	13	7.5	瀬西
681	山茶碗	0.496	0.217	0.825	0.600	0.494	0.200	280	21	16	3.6	3.2	瀬美
683	片口鉢	0.493	0.080	0.995	0.633	0.332	0.145	63	1.9	1.5	3.7	9.7	畿内・知多
695	山茶碗	0.472	0.104	0.804	0.480	0.398	0.184	208	19	30	9.7	5.5	瀬美・瀬西
706	山 皿	0.519	0.086	0.944	0.557	0.311	0.117	62	5.4	5.2	14	5.3	畿内・知多・瀬西
707	山茶碗	0.476	0.077	0.830	0.538	0.329	0.146	93	6.0	6.9	5.9	1.7	瀬美・瀬西
713	山 皿	0.506	0.119	0.774	0.547	0.450	0.186	253	25	33	5.7	3.3	瀬美・瀬西
714	山茶碗	0.491	0.085	0.923	0.522	0.375	0.134	157	14	19	9.1	3.1	瀬美・瀬西
718	山 皿	0.478	0.101	0.833	0.678	0.308	0.117	34	1.8	2.8	9.8	36	畿内・知多
769	山茶碗	0.588	0.137	0.931	0.702	0.411	0.260	104	3.7	9.3	10	15	畿内・知多
770	山茶碗	0.529	0.106	0.562	0.535	0.431	0.289	218	21	28	10	4.9	瀬美・瀬西
771	片口鉢	0.496	0.122	2.090	0.488	0.253	0.076	46	25	10	26	28	知多
772	盃	0.432	0.097	1.710	0.484	0.285	0.124	64	6.6	4.7	6.6	7.2	畿内・知多・瀬美・瀬西
787	山茶碗	0.508	0.143	0.783	0.667	0.383	0.183	93	3.8	1.0	6.0	25	畿内・知多・瀬美
798	山 皿	0.626	0.121	0.676	0.721	0.353	0.211	46	4.6	23	21	22	畿内
801	山茶碗	0.537	0.045	0.799	0.679	0.249	0.071	6.5	2.5	13	13	23	畿内・瀬戸
808	山茶碗	0.503	0.057	0.869	0.618	0.261	0.087	18	2.5	3.9	8.9	14	畿内・知多
819	山 皿	0.512	0.086	0.683	0.550	0.421	0.184	219	25	31	9.1	6.0	瀬美・瀬西
820	山茶碗	0.521	0.043	0.857	0.698	0.258	0.096	9.5	1.5	10	11	29	畿内・知多
821	山茶碗	0.560	0.060	0.824	0.690	0.304	0.165	28	1.5	10	12	15	畿内・知多
838	山 皿	0.503	0.095	0.727	0.519	0.409	0.196	246	28	38	11	8.0	瀬美・瀬西
839	山茶碗	0.515	0.3000	0.823	0.576	0.522	0.182	375	39	15	8.2	101	瀬美
840	山茶碗	0.474	0.041	0.873	0.548	0.301	0.116	76	7.4	6.7	7.7	6.9	畿内・知多・瀬美・瀬西
841	山茶碗	0.434	0.065	0.878	0.566	0.309	0.111	74	4.5	5.3	1.8	9.5	瀬美・瀬西・畿内・知多
842	片口鉢	0.543	0.096	0.943	0.663	0.356	0.178	69	1.8	4.5	6.9	8.7	畿内・知多
843	片口鉢	0.543	0.193	1.940	0.619	0.342	0.124	93	23	10	12	59	知多・瀬美(?)
857	山茶碗	0.710	0.123	0.851	0.671	0.354	0.167	73	23	56	67	36	不明
858	山茶碗	0.644	0.124	0.785	0.662	0.384	0.235	93	9.0	26	31	16	畿内
873	山茶碗	0.537	0.062	0.766	0.693	0.261	0.100	6.2	4.4	17	15	24	畿内・瀬戸

運物番号	器 種	分 析 値						各母集団からのマハラジビスの乱数種の数					推 定 産 地
		K	Ca	Pb	Rb	Sr	Na	瀬戸群	讃岐群	知多群	瀬美群	瀬西群	
876	山 皿	0.499	0.067	0.619	0.540	0.329	0.130	100	9.8	11	12	5.4	瀬西
890	片口鉢	0.675	0.117	1.130	0.750	0.387	0.276	67	6.0	35	30	20	讃岐
891	片口鉢	0.511	0.095	1.020	0.630	0.315	0.144	44	1.2	1.7	5.8	12	讃岐・知多
902	山茶碗	0.549	0.099	0.578	0.639	0.326	0.130	49	2.2	5.9	11	8.8	讃岐・知多
903	片口鉢	0.572	0.067	0.861	0.663	0.265	0.125	11	7.0	18	20	17	讃岐
916	山茶碗	0.501	0.052	0.852	0.874	0.283	0.126	13	0.9	5.8	8.9	26	讃岐・知多
938	山茶碗	0.504	0.055	1.260	0.552	0.300	0.113	64	6.2	6.0	13	5.4	瀬西・讃岐・知多
953	山茶碗	0.486	0.052	0.861	0.569	0.307	0.109	69	5.2	4.6	6.8	5.2	讃岐・知多・瀬美・瀬西
954	山茶碗	0.487	0.052	0.848	0.564	0.316	0.108	80	6.7	6.4	7.1	4.9	瀬美・瀬西・讃岐・知多
960	灰輪平碗	0.583	0.198	0.535	0.789	0.289	0.042	79	53	66	35	149	不明
1030	山 皿	0.494	0.044	0.506	0.625	0.273	0.088	29	1.6	2.3	6.8	14	讃岐・知多
1031	山 皿	0.521	0.051	0.504	0.641	0.273	0.083	22	1.9	5.3	9.9	14	讃岐・知多
1032	山 皿	0.526	0.199	0.642	0.639	0.431	0.213	163	11	2.7	5.2	38	讃岐・知多
1033	山 皿	0.547	0.087	0.835	0.630	0.288	0.107	26	4.9	8.6	14	13	讃岐・知多
1034	山 皿	0.417	0.097	0.547	0.533	0.295	0.112	61	3.7	3.5	2.0	11	讃岐・知多
1035	山茶碗	0.463	0.172	0.740	0.634	0.401	0.158	133	9.9	3.2	7.9	37	知多
1036	山茶碗	0.475	0.056	0.715	0.593	0.263	0.123	26	1.8	1.2	6.0	12	讃岐・知多
1037	山茶碗	0.495	0.109	0.819	0.612	0.346	0.174	76	2.1	1.0	3.0	8.8	讃岐・知多・瀬美
1038	山茶碗	0.413	0.094	0.821	0.473	0.240	0.182	133	9.8	18	2.8	1.5	瀬美・瀬西
1039	山茶碗	0.494	0.065	0.600	0.571	0.284	0.128	41	3.2	2.3	8.9	6.0	讃岐・知多
1040	山茶碗	0.645	0.067	0.660	0.751	0.311	0.121	20	5.9	36	29	21	讃岐
1041	山茶碗	0.584	0.176	0.739	0.639	0.413	0.234	134	8.6	8.8	12	26	讃岐・知多
1042	山茶碗	0.493	0.045	0.673	0.637	0.246	0.087	12	2.1	4.8	8.4	20	讃岐・知多
1043	山茶碗	0.551	0.140	0.699	0.630	0.414	0.234	139	6.4	7.7	6.1	7.8	讃岐・知多・瀬美
1044	山茶碗	0.470	0.209	0.966	0.555	0.523	0.224	368	34	39	2.7	21	瀬美
1045	山茶碗	0.490	0.088	0.945	0.601	0.264	0.130	21	5.2	3.8	7.8	18	讃岐・知多
1046	山茶碗	0.433	0.096	0.714	0.444	0.351	0.110	158	13	24	9.2	4.8	瀬美・瀬西
1047	山茶碗	0.383	0.040	0.736	0.556	0.225	0.074	24	2.9	4.0	5.3	24	讃岐・知多
1048	山茶碗	0.496	0.183	0.773	0.612	0.393	0.178	129	9.8	1.4	4.1	35	讃岐・知多
1049	片口鉢	0.501	0.092	1.240	0.589	0.297	0.142	41	3.0	1.7	7.2	9.2	讃岐・知多
1050	片口鉢	0.478	0.059	0.680	0.588	0.272	0.104	31	1.8	1.0	6.0	9.7	讃岐・知多
1051	山茶碗	0.487	0.180	0.729	0.537	0.469	0.240	273	20	25	1.7	12	瀬美
1053	片 口	0.475	0.078	1.110	0.523	0.323	0.139	91	6.3	7.3	7.8	2.4	瀬美・瀬西
1069	山茶碗	0.447	0.097	0.806	0.477	0.373	0.166	174	15	25	6.0	2.2	瀬美・瀬西
1076	山 皿	0.500	0.265	0.627	0.489	0.556	0.195	483	41	49	7.2	58	瀬美
1083	山茶碗	0.489	0.169	0.886	0.591	0.424	0.234	173	10	7.1	1.5	16	瀬美
1092	山茶碗	0.484	0.168	0.956	0.516	0.483	0.228	318	27	40	3.2	9.1	瀬美
1118	山茶碗	0.506	0.083	0.864	0.562	0.360	0.122	117	8.5	10	7.5	1.6	瀬美・瀬西

遺物番号	器 種	分 析 値					各母集団からのマハラジビスの距離値の二乗値					推 定 産 地	
		K	Ca	Fe	Pb	Sr	Na	瀬戸群	畿投群	知多群	濃美群		湖西群
1119	山茶碗	0.508	0.105	1.040	0.510	0.370	0.172	144	11	16	14	5.7	湖西
1120	山茶碗	0.487	0.106	0.755	0.552	0.360	0.170	114	6.0	7.0	4.0	1.6	濃美・湖西、畿投・知多
1121	山茶碗	0.419	0.054	0.631	0.464	0.287	0.133	96	8.2	12	8.3	5.6	濃美・湖西
1122	山茶碗	0.484	0.065	0.821	0.468	0.342	0.142	145	17	24	21	13	不明
1123	片口鉢	0.441	0.077	0.928	0.570	0.230	0.058	14	7.2	4.3	6.6	23	畿投・知多、濃美
1124	片口鉢	0.463	0.115	0.846	0.640	0.357	0.180	83	3.8	1.6	5.5	21	畿投・知多、濃美
1131	山茶碗	0.460	0.073	0.696	0.477	0.350	0.130	150	15	22	11	5.9	濃美・湖西
1160	山茶碗	0.522	0.129	0.774	0.590	0.406	0.213	150	8.2	9.6	4.4	3.4	濃美・湖西
1163	山茶碗	0.448	0.058	0.850	0.510	0.295	0.114	75	5.9	6.7	6.7	4.0	濃美・湖西、畿投・知多
1164	山茶碗	0.453	0.114	0.880	0.506	0.374	0.119	154	10	16	2.7	1.2	濃美・湖西
1165	山茶碗	0.453	0.045	0.883	0.486	0.278	0.110	70	8.2	8.3	13	7.6	湖西、畿投・知多
1187	山 皿	0.377	0.096	0.920	0.442	0.347	0.115	167	14	31	2.7	2.6	濃美・湖西
1188	山 皿	0.382	0.114	0.866	0.482	0.370	0.116	171	14	28	1.2	3.6	濃美・湖西
1189	山 皿	0.558	0.138	0.873	0.543	0.374	0.143	127	11	13	22	15	不明
1190	山 皿	0.514	0.152	0.897	0.558	0.412	0.195	170	9.6	10	5.0	8.5	濃美・湖西
1191	山茶碗	0.520	0.133	0.792	0.587	0.309	0.221	140	7.0	3.8	4.4	4.8	濃美・湖西、畿投・知多
1192	山茶碗	0.504	0.155	0.761	0.605	0.415	0.221	153	7.8	2.5	1.9	12	濃美、畿投・知多
1193	山茶碗	0.459	0.133	0.929	0.521	0.460	0.177	288	29	20	1.7	2.5	濃美・湖西
1194	山茶碗	0.529	0.136	0.748	0.599	0.430	0.218	179	11	6.6	4.1	3.7	濃美・湖西
1195	山茶碗	0.460	0.084	0.765	0.594	0.365	0.180	118	8.9	4.7	1.3	5.1	濃美・湖西、畿投・知多
1196	山茶碗	0.473	0.130	0.774	0.538	0.473	0.209	304	33	22	2.3	3.0	濃美・湖西
1203	山茶碗	0.448	0.101	1.100	0.493	0.309	0.101	82	6.2	5.6	6.5	4.9	濃美・湖西、畿投・知多
1218	山茶碗	0.581	0.094	0.810	0.674	0.339	0.189	49	2.4	11	14	11	畿投・知多
1219	山茶碗	0.552	0.140	0.994	0.679	0.401	0.226	104	3.5	4.3	6.5	16	畿投・知多
1220	山茶碗	0.435	0.149	1.050	0.442	0.409	0.158	270	23	42	5.7	9.2	濃美・湖西
1221	山茶碗	0.351	0.022	0.614	0.454	0.179	0.053	23	7.7	9.8	8.8	20	畿投・知多、濃美
1226	山茶碗	0.457	0.063	0.758	0.664	0.272	0.097	22	1.0	3.2	9.2	34	畿投・知多
1232	山茶碗	0.441	0.035	0.767	0.622	0.273	0.118	41	2.8	1.9	5.2	23	畿投・知多、濃美
1237	山茶碗	0.521	0.073	0.933	0.595	0.323	0.132	65	3.7	4.8	9.2	4.0	畿投・知多、濃美・湖西
1249	山 皿	0.480	0.097	0.853	0.499	0.397	0.186	199	19	28	8.9	4.4	濃美・湖西
1250	山 皿	0.539	0.097	0.744	0.580	0.325	0.170	65	5.2	6.3	15	6.4	畿投・知多
1251	山 皿	0.503	0.080	0.924	0.556	0.279	0.147	38	5.6	3.5	13	7.6	畿投・知多
1252	山 皿	0.579	0.063	0.719	0.652	0.296	0.135	30	5.0	14	20	11	畿投
1253	山茶碗	0.527	0.118	0.796	0.553	0.390	0.193	147	9.5	13	10	4.0	濃美・湖西
1254	天目茶碗	0.595	0.057	0.506	0.751	0.222	0.031	2.1	15	48	26	45	瀬戸
1256	水 注	0.346	0.225	1.220	0.391	0.524	0.179	515	57	110	11	33	濃美(?)
1257	三彩壺	0.516	0.127	2.070	0.723	0.313	0.144	30	5.9	11	15	55	畿投・知多
1258	三彩壺	0.516	0.066	1.190	0.689	0.329	0.148	49	1.9	3.4	7.2	18	畿投・知多

2. 肉眼観察と胎土分析

1. はじめに

本報告書に実測図を掲載した中世陶器208点について、肉眼観察による産地推定を試みた。産地推定にあたっては、常滑市民俗資料館の中野晴久氏、(財)瀬戸市埋蔵文化財センターの藤澤良祐氏から直接多くの助言をいただいた。また、本遺跡出土の中世陶器の中には、三重県埋蔵文化財センターで3年前から活動している山茶碗プロジェクトチームの会議において検討したのものもある。しかし、ここで報告する肉眼観察による産地推定結果についての責任は全て前川にある。

肉眼観察による結果と対比するために、蛍光X線による胎土分析を奈良教育大学の三辻利一氏に依頼した。その分析結果についてはV章-1に掲載してある。三辻氏に分析試料として提出できたのは208点のうち190点である。

2. 肉眼観察

本遺跡出土の中世陶器は、ごく一部を除きほとんどが東海地方で生産されたものであることは異論がない。中世における東海地方の主な窯業地には、岐阜県南部の東濃窯、愛知県西部の瀬戸窯・猿投窯・知多(常滑)窯、愛知県東部の渥美窯がある。蚊山遺跡出土の中世陶器の生産地は、これらの窯業地に静岡県西部の湖西窯を加えた合計6か所の窯業地が想定される。

東海地方の中世陶器の主体を占めるのは無輪の碗と皿、つまり日常雑器として生産された山茶碗・山皿である。山茶碗・山皿は北部系(均質手)と南部系(荒肌手)とに大別される。この両者は形態も胎土も明らかに異なり、肉眼観察でも容易に識別できる。東濃窯では北部系を、瀬戸窯では北部系と南部系を、猿投窯・知多窯・渥美窯・湖西窯は全て南部系を生産している。三重県内では北部系の子茶碗の出土は数点しか確認されておらず、蚊山遺跡左部地区の調査では全くみられなかった。

南部系の子茶碗・山皿は形態や胎土の特徴から、瀬戸窯・猿投窯・知多窯の3つの窯業地のものと渥

美窯・湖西窯の2つの窯業地のものと区別することが可能である。瀬戸・猿投・知多のものは類似した時期的な形態変化をたどるが、3つの窯業地の操業期間がずれるため型式の違いである程度生産地が推定できる。つまり、藤澤氏の山茶碗編年という3型式のものは瀬戸産か猿投産、5型式のものは猿投産か知多産、7型式のものは瀬戸産か知多産、8型式以降のものは瀬戸産の可能性が高い。胎土の点では瀬戸産のものど知多産のものとは識別がある程度可能であるが、瀬戸産と猿投産、あるいは猿投産と知多産の識別はかなり困難である。渥美窯・湖西窯は操業期間が短く、その製品には瀬戸窯・猿投窯・知多窯のものとはやや異なった形態変化をたどること、胎土が細砂質であることなどの特徴があるが渥美窯と湖西窯との相互識別は困難である。

施釉陶器は、この時期には瀬戸窯でしか生産していないことがはっきりしている。大型の甕は知多産のものと渥美産のものとが考えられるが、形態・施文方法・胎土などの特徴から、破片であっても両者の識別は比較的容易である。

肉眼観察で山茶碗・山皿の産地推定を行うにあたっては、識別が特に困難な渥美産と湖西産については産地の表現を「渥美産」に一括した。また、猿投産と知多産についても識別が困難であるため、あいまいなものは全て「知多産」とした。つまり「渥美産」としたものの中には湖西産のものが、「知多産」としたものの中には猿投産のものが含まれていると理解していただきたい。

実測図を掲載した208点の肉眼観察による推定産地の内訳は、次のようになった。

渥美産=101点(山茶碗70、山皿18、その他13)

知多産=97点(山茶碗65・山皿12、その他20)

猿投産=3点(山茶碗2・その他1)

瀬戸産=5点(施釉陶器5)

その他・不明=2点

推定された産地としては、蚊山遺跡のある南伊勢地方と伊勢湾を挟んで地理的に近い渥美産あるいは知多産のものが圧倒的に多い。一方東濃産のものは

全くみられず、瀬戸窯のものは施軸陶器に限られている。

3. 肉眼観察と胎土分析

蛍光X線での胎土分析を実施した190点の中で、肉眼観察で渥美産、知多産としたものについてその結果を比較した(第11表)。

肉眼観察で渥美産(湖西産)としたものは91点ある。その内渥美産あるいは湖西産という結果が出たものが68%、渥美産あるいは湖西産の可能性が高いとされたものが14%の合計82%あり、渥美産あるいは湖西産の可能性も考えられるもの12%を含むと94%の高率となる。肉眼観察で知多産(猿投産)としたものも、ほぼ同じような結果となっている。このことから、肉眼観察による産地推定もかなり有効であることがわかる。なお、蛍光X線での胎土分析で産地不明となった山茶碗・山皿の中には、肉眼観察でも知多産か渥美産かの判断が特に困難であったものがいくつか含まれている。

4. 時期と産地

第12表には肉眼観察と蛍光X線での胎土分析の結果の他に、遺物の型式・時期と出土遺構の時期もあわせて示した。遺物の型式・時期は、藤澤氏と中野氏のご指導をもとに、110頁の註に記載した②、③、④の文献を参考にして前川が判断した。出土遺構の時期は本報告書で示した蚊山遺跡左部地区のものである。

時期的には、蚊山遺跡左部地区Ⅰ期の遺構出土のものはほとんど渥美産で、Ⅱ期・Ⅲ期には知多産が急激に増加するという傾向がみられる。このことは、渥美の山茶碗窯が13世紀中頃に消滅し、湖西でも13世紀後半の窯がほとんどみられないこととよく対応している。14世紀になると知多産でも山茶碗を生産しなくなり、南部系の山茶碗の生産地はほとんど瀬戸窯に限られる。この時点で蚊山遺跡の人々は山茶碗・山皿の使用をやめたようで、Ⅳ期の遺構出土の山茶碗・山皿は混入と思われる小片のみとなる。

(前川)

肉眼観察		胎 土 分 析 (三 辻)			
渥美産 (湖西産)	渥美	12 (13%)	61 (68%)	74 (82%)	85 (94%)
	渥美・湖西	46 (53%)			
	湖西	3 (3%)			
	渥美、猿投・知多	1 (1%)	13 (14%)		
	渥美・湖西、猿投・知多	9 (10%)			
	湖西、猿投	1 (1%)			
	湖西、猿投・知多	2 (2%)	11 (12%)		
	知多、渥美	1 (1%)			
	猿投・知多、渥美	3 (3%)			
	知多、湖西	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	
	猿投・知多、渥美・湖西	6 (6%)			
	知多	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	
	不明	5 (5%)	5 (5%)	5 (5%)	
		91点 (100%)			

肉眼観察		胎 土 分 析 (三 辻)			
知多産 (猿投産)	知多	1 (1%)	70 (79%)	82 (92%)	85 (95%)
	猿投・知多	58 (65%)			
	猿投	11 (13%)			
	猿投・瀬戸	2 (2%)	12 (13%)		
	猿投・知多、渥美	9 (10%)			
	猿投・知多、渥美・湖西	1 (1%)			
	渥美・湖西、猿投・知多	3 (3%)	3 (3%)	3 (3%)	
	渥美・湖西	3 (3%)	3 (3%)	3 (3%)	
	不明	2 (2%)	2 (2%)	2 (2%)	
		90点 (100%)			

第11表 肉眼観察と胎土分析の整合率

遺物番号	出土位置	器種	推定産地		遺物の型式・時期			遺構時期	
			内線図	胎土分析(三辻)	瀬戸(藤澤)編年	知多(中野)編年	瀬美(濱瀬)編年		
62	SB 27	山茶碗	知多産	小片のため試料化せず		第4型式		I期	
63	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西			12世紀後半～末葉		
75	SB 76	山茶碗	知多産	猿投・知多		第4～5型式		II期	
76	*	山茶碗	知多産	猿投・知多		第5型式			
84	SB 97	山茶碗	知多産	猿投・知多		第5～6型式		III期	
93	SB 125	山茶碗	瀬美産	瀬西・猿投			13世紀前半	II期	
115	SK 129	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前半	I期	
116	*	山茶碗	瀬美産	猿投・知多、瀬美・瀬西	第5型式	第4型式	12世紀末葉～13世紀前半		
117	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前半		
118	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前半		
119	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前半		
120	*	山茶碗	瀬美産	不明	第5型式		12世紀末葉～13世紀前半		
121	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前半		
122	*	山茶碗	瀬美産	不明	第5型式		12世紀末葉～13世紀前半		
123	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前半		
143	SB 158	山茶碗	知多産	小片のため試料化せず		第4型式?			III期
190	SK 153	山皿	知多産	猿投・知多		第5～6型式		II期	
191	*	山茶碗	知多産	猿投・知多		第5～6型式			
192	*	山茶碗	知多産	猿投・知多		第5～6型式			
193	*	山茶碗	知多産	猿投・知多		第5～6型式			
194	*	山茶碗	知多産	猿投・知多、瀬美		第5～6型式			
195	*	山茶碗	知多産	猿投・知多、瀬美		第5～6型式			
207	SB 159	山茶碗	瀬美産	猿投・知多、瀬美・瀬西		第4～5型式	13世紀前半	II期	
208	SB 164	山茶碗	瀬美産	小片のため試料化せず			12世紀末葉～13世紀前半	I期	
216	SE 3	小碗	瀬美産	小片のため試料化せず			12世紀中葉	I期	
217	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西、猿投・知多			12世紀末葉		
218	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西			12世紀末葉		
233	SE 56	山茶碗	知多産	不明	第6型式	第5型式			
234	*	山茶碗	知多産	猿投・知多	第5型式	第4型式			
235	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前半		
256	SE 57	山茶碗	瀬美産	小片のため試料化せず			13世紀前半		II期
257	*	山茶碗	瀬美産	不明			13世紀前半	IV期	
258	SE 79	山茶碗	知多産	猿投・知多		第4型式			
277	SE 90	山茶碗	知多産	猿投		第6型式			
278	*	山茶碗	瀬美産	瀬美			13世紀前半		III期

第12表 中世陶器の推定産地一覧

遺物番号	出土位置	器種	推定産地		遺物の型式・時期			遺構時期
			内務部	胎土分析(三比)	瀬戸(藤澤)編年	知多(中野)編年	瀬美(高瀬)編年	
279	SE 90	片口鉢	知多産	狭投		第6型式		I期
281	*	折縁深皿	瀬戸産	瀬戸	古瀬戸Ⅱ～Ⅲ期			
282	*	甕	知多産	狭投・知多		第6型式		
300	SE 134	片口鉢	知多産	狭投・知多		第8型式		IV期
301	*	甕	信濃産	狭投・知多				
323	SE 157	四耳壺	瀬戸産	瀬戸	古瀬戸Ⅱ～Ⅲ期			IV期
324	*	甕	知多産	瀬美・瀬西・狭投・知多		第6型式		
367	SE 172	山 皿	知多産	狭投・知多		第5～6型式		II期
368	*	山 皿	知多産	狭投・知多		第5～6型式		
369	*	山茶碗	知多産	狭投・知多	第6型式	第5型式		
370	*	山茶碗	知多産	狭投・知多	第6型式	第5型式		
371	*	山茶碗	知多産	狭投・知多、瀬美・瀬西	第6型式	第5型式		
372	*	山茶碗	知多産	狭投・知多	第6型式	第5～6型式		
373	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西	第6型式		13世紀前半	
374	*	山茶碗	知多産	狭投・知多	第6型式	第5型式		
375	*	山茶碗	知多産	狭投・知多		第5型式		
376	*	山茶碗	知多産	狭投		第5型式		
377	*	四耳壺	狭投産	小片のため試料化せず				
378	*	三筋壺	狭投産	瀬美・瀬西、狭投・知多				
379	*	片口鉢	知多産	狭投・知多		第5～6型式		
449	SE 193	片口小皿	瀬美産	小片のため試料化せず			12世紀末葉	
450	*	山 皿	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前半	
451	*	山 皿	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前半	
452	*	山茶碗	知多産	狭投・知多	第6型式	第4型式		
453	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西、狭投・知多	第6型式		13世紀前半	
454	*	山茶碗	狭投産	不明	第6型式	第5型式		
455	*	山茶碗	狭投産	狭投	第7型式	第5～6型式		
456	*	山茶碗	瀬美産	瀬美	第6型式		13世紀前半	
457	*	山茶碗	知多産	狭投		第4～5型式		
458	*	山茶碗	知多産	瀬美・瀬西	第6型式	第5型式	13世紀前半	
459	*	壺	瀬美産	瀬美・瀬西			12世紀中葉	
460	*	甕	瀬美産	狭投・知多、瀬美			12世紀後半	
473	SE 194	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西			12世紀後半～末葉	
474	*	山茶碗	瀬美産	瀬美			12世紀後半～末葉	
475	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西			12世紀後半～末葉	

遺物番号	出土位置	器 種	推 定 産 地		遺 物 の 型 式 ・ 時 期			遺構時期
			内國産	胎土分析(三辻)	瀬戸(瀬澤)編年	知多(中野)編年	瀬美(清瀬)編年	
476	SE194	片口鉢	瀬美産	瀬美・瀬西			12世紀末葉～13世紀前葉	Ⅱ期
477	*	片口鉢	知多産	狭投・知多		第4型式		
486	SE207	山茶碗	知多産	小片のため試料化せず		第6型式		Ⅱ期小Ⅳ期
487	*	山茶碗	知多産	狭投		第6型式		
493	SX 5	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前葉	Ⅱ期
494	SX 28	壺	知多産	狭投・知多、瀬美		第6型式		Ⅱ期
495	SX 38	壺	知多産	狭投・知多、瀬美		第4型式		Ⅰ期
496	*	壺	不 明	瀬美				
497	*	山茶碗	瀬美産	瀬美			12世紀後葉～12世紀末葉	
505	SX 40	山 皿	知多産	小片のため試料化せず		第4～5型式		Ⅱ期
515	SX 44	山茶碗	知多産	狭投・知多		第5～6型式		Ⅱ期
528	SX 46	山 皿	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前葉	Ⅱ期
541	SX 70	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西	第4型式		12世紀中葉	Ⅰ期
558	SX120	山茶碗	知多産	狭投・知多		第5型式		Ⅱ期
576	SX149	山茶碗	知多産	狭投・知多		第4型式		Ⅱ期
583	SX151	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西(?)			13世紀前葉	Ⅱ期
597	SX165	片口鉢	知多産	狭投・知多		第6型式		Ⅱ期
633	SX168	入 子	瀬美産	小片のため試料化せず			13世紀前葉?	Ⅱ期
634	*	山茶碗	知多産	小片のため試料化せず		第4型式		
635	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前葉	
640	SX170	片口鉢	知多産	狭投・知多		第6型式		Ⅱ期
660	SX224	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前葉	Ⅱ期
661	*	山茶碗	知多産	狭投・知多		第6型式		
666	SX225	片口鉢	瀬美産	瀬美			12世紀末葉?	Ⅱ期
678	SK 12	山 皿	知多産	狭投		第4型式?		Ⅱ期
679	*	山 皿	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前葉	
680	*	山茶碗	瀬美産	瀬西			12世紀後葉～12世紀末葉	
681	*	山茶碗	瀬美産	瀬美			12世紀後葉～12世紀末葉	
682	*	山茶碗	知多産	小片のため試料化せず		第4型式?		
683	*	片口鉢	知多産	狭投・知多		第4型式?		
695	SK 30	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西			12世紀後葉～13世紀前葉	
706	SK 45	山 皿	瀬美産	狭投・知多、瀬西			12世紀末葉～13世紀前葉	Ⅰ期
707	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西			12世紀末葉～13世紀前葉	
713	SK 48	山 皿	瀬美産	瀬美・瀬西			12世紀末葉～13世紀前葉	Ⅰ期
714	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西			12世紀末葉～13世紀前葉	

遺物番号	出土位置	器 種	推 定 産 地		遺 物 の 型 式 ・ 時 期			遺構時期
			内線磨	粘土分析(三比)	瀬戸(瀬澤)編年	知多(中野)編年	瀬美(瀬藤)編年	
718	SK 65	山 皿	知多産	猿投・知多		第4型式		I期
769	SK103	山 茶 碗	知多産	猿投・知多		第4型式		II期
770	*	山 茶 碗	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前半	
771	*	片 口 鉢	瀬美産	知多			13世紀前半?	
772	*	壺	瀬美産	猿投・知多、瀬美・瀬西			12世紀	
787	SK104	山 茶 碗	知多産	猿投・知多、瀬美		第6型式		III期
798	SK114	山 皿	知多産	猿投		第5~6型式		III期
801	SK115	山 茶 碗	知多産	猿投、瀬戸		第5型式		III期
808	SK122	山 茶 碗	知多産	猿投・知多		第5型式		III期
809	*	山 茶 碗	知多産	小片のため試料化せず		第6型式		
819	SK130	山 皿	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前半	II期
820	*	山 茶 碗	知多産	猿投・知多		第5型式		
821	*	山 茶 碗	知多産	猿投・知多		第6型式		
838	SK144	山 皿	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前半	III期?
839	*	山 茶 碗	瀬美産	瀬美			12世紀末葉~13世紀前半	
840	*	山 茶 碗	瀬美産	猿投・知多、瀬美・瀬西			12世紀末葉~13世紀前半	
841	*	山 茶 碗	瀬美産	瀬美・瀬西、猿投・知多			12世紀末葉~13世紀前半	
842	*	片 口 鉢	知多産	猿投・知多		第4型式		
843	*	片 口 鉢	瀬美産	知多、瀬美(?)			12世紀末葉?	
857	SK154	山 茶 碗	知多産	不明		第5型式		II期
858	*	山 茶 碗	知多産	猿投		第5型式		III期
873	SK155	山 茶 碗	知多産	猿投、瀬戸		第5型式		
876	SK156	山 皿	瀬美産	瀬西			13世紀前半	III期
885	SK161	山 茶 碗	知多産	小片のため試料化せず		第6型式		III期
890	SK173	片 口 鉢	知多産	猿投		第5~6型式		III期
891	SK174	片 口 鉢	知多産	猿投・知多		第6型式		III期
902	SK178	山 茶 碗	知多産	猿投・知多		第6型式		III期
903	*	片 口 鉢	知多産	猿投		第5型式		II期
916	SK190	山 茶 碗	知多産	猿投・知多		第5型式		
938	SK204	山 茶 碗	瀬美産	瀬西、猿投・知多			13世紀前半	IV期
953	SK214	山 茶 碗	瀬美産	猿投・知多、瀬美・瀬西			12世紀後半~末葉	III期
954	*	山 茶 碗	瀬美産	瀬美・瀬西、猿投・知多			12世紀後半~末葉	
960	SK219	灰輪平碗	瀬戸産	不明	古瀬戸後I~II期			IV期
1030	SD 8	山 皿	知多産	猿投・知多		第4型式		II期
1031	*	山 皿	知多産	猿投・知多		第4~6型式		

遺物番号	出土位置	器種	推定産地		遺物の型式・時期			遺物時期
			内照別	粘土分析(三比)	瀬戸(瀬澤)編年	知多(中野)編年	瀬美(高橋)編年	
1032	SD 8	山 皿	知多産	横投・知多			第4～6型式	Ⅱ期
1033	*	山 皿	知多産	横投・知多			第4～6型式	
1034	*	山 皿	知多産	横投・知多			第4～6型式	
1035	*	山 茶 碗	知多産	知多			第4～5型式	
1036	*	山 茶 碗	知多産	横投・知多			第3～4型式	
1037	*	山 茶 碗	知多産	横投・知多、瀬美			第4～5型式	
1038	*	山 茶 碗	知多産	瀬美・瀬西			第4～5型式	
1039	*	山 茶 碗	知多産	横投・知多			第4型式	
1040	*	山 茶 碗	知多産	横投			第5型式	
1041	*	山 茶 碗	知多産	横投・知多			第5型式	
1042	*	山 茶 碗	知多産	横投・知多			第4～5型式	
1043	*	山 茶 碗	知多産	横投・知多、瀬美			第4～5型式	
1044	*	山 茶 碗	知多産	瀬美			第4～5型式	
1045	*	山 茶 碗	知多産	横投・知多			第5型式	
1046	*	山 茶 碗	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前半	
1047	*	山 茶 碗	知多産	横投・知多			第5型式	
1048	*	山 茶 碗	知多産	横投・知多			第4～5型式	
1049	*	片 口 鉢	知多産	横投・知多			第5型式	
1050	*	片 口 鉢	知多産	横投・知多			第5型式	
1051	*	山 茶 碗	瀬美産	瀬美			12世紀後半～13世紀前半	
1052	*	小 杯	瀬美産	小片のため試料化せず			12世紀後半～13世紀前半	
1053	*	片 口	瀬美産	瀬美・瀬西				
1069	SD10A	山 茶 碗	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前半	Ⅲ期
1076	SD10B	山 皿	瀬美産	瀬美			13世紀前半	Ⅱ期
1083	SD 11	山 茶 碗	瀬美産	瀬美			13世紀前半	Ⅳ期
1092	SD 17	山 茶 碗	瀬美産	瀬美			13世紀前半	Ⅳ期
1117	SD35A	小 杯	瀬美産	小片のため試料化せず			12世紀後半～13世紀前半	Ⅰ期～Ⅱ期
1118	*	山 茶 碗	瀬美産	瀬美・瀬西			12世紀末～13世紀前半	
1119	*	山 茶 碗	瀬美産	瀬西			13世紀前半	
1120	*	山 茶 碗	知多産	瀬美・瀬西、横投・知多			第4型式	
1121	*	山 茶 碗	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前半	
1122	*	山 茶 碗	瀬美産	不明			13世紀前半	
1123	*	片 口 鉢	知多産	横投・知多、瀬美			第3～4型式	
1124	*	片 口 鉢	瀬美産	横投・知多、瀬美			12世紀後半～末葉	
1131	SD35B	山 茶 碗	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前半	Ⅱ期～Ⅲ期

遺物番号	出土位置	器種	推定産地		遺物の型式・時期			遺構時期
			内關原	胎土分析(三辻)	瀬戸(幕澤)編年	知多(中野)編年	瀬美(斎藤)編年	
1162	SD 39	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	I期
1163	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1164	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1165	*	山茶碗	瀬美産	瀬西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1187	SD 43	山皿	瀬美産	瀬美・瀬西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	I期
1188	*	山皿	瀬美産	瀬美・瀬西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1189	*	山皿	瀬美産	不明	第5～6型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1190	*	山皿	瀬美産	瀬美・瀬西	第5～6型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1191	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1192	*	山茶碗	瀬美産	瀬美、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1193	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1194	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1195	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1196	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1203	SD 62	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西、猿投・知多			13世紀前葉	
1218	SD118	山茶碗	知多産	猿投・知多		第5型式		II期
1219	*	山茶碗	知多産	猿投・知多		第5型式		
1220	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前葉	
1221	*	山茶碗	知多産	猿投・知多、瀬美		第5型式		
1226	SD200	山茶碗	知多産	猿投・知多		第4型式		I期
1232	SD218	山茶碗	瀬美産	猿投・知多、瀬美	第4型式		12世紀中葉	I期
1237	SX132	山茶碗	瀬美産	猿投・知多、瀬美・瀬西			13世紀前葉	II期かIII期
1249	包含層	山皿	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前葉	
1250	*	山皿	知多産	猿投・知多		第4～5型式		
1251	*	山皿	知多産	猿投・知多		第4～5型式		
1252	*	山皿	知多産	猿投		第4型式		
1253	*	山茶碗	瀬美産	瀬美・瀬西			13世紀前葉	
1254	耕作土	天目茶碗	瀬戸産	瀬戸	古瀬戸後I期			
1255	包含層	天目茶碗	建南産	分析せず				
1256	*	水注	瀬美産	瀬美(?)			12世紀	
1257	*	三筋壺	知多産	猿投・知多		第6型式?		
1258	L79ピット	三筋壺	知多産	猿投・知多		第6型式?		
1259	包含層	広口壺	知多産	試料化せず				

Ⅵ. 調査のまとめ

1. 蚊山古墳群

1. 古墳群の範囲

蚊山遺跡左部地区とケカノ辻・角垣内地区の調査で合計23基の古墳の痕跡が検出された。

今回の調査以前、度会郡玉城町内には約240基の古墳が存在するいは存在していたことが知られていたが、蚊山遺跡の所在する岩出集落周辺は古墳分布の空白地域とされていた。戦後しばらくまで「塚」とよばれていた小丘が畑の中に残っていたことを知り、調査区内にある「塚名」という小字名に注目したのは、迂闊にも調査が始まってからのことであった。地元で「塚」とよばれていたのは7号墳の墳丘だったらしい。

蚊山古墳群は開墾により全ての墳丘が削平されて

しまい、地表面の観察のみではその広がりを知ることができない。しかし、左部地区の南側は小規模な谷川へ向かう急傾斜地であること、西側は地盤が不安定な湿地状の沼田であること、所り垣地区、蚊山地区の調査で古墳が検出されなかったことなどから南側、西側、東側へ広がっていたとは考え難い。北側についてもケカノ辻・角垣内地区の調査結果を参考にする限りでは古墳が広い範囲に分布していたとは思えない。つまり、一連の発掘調査で蚊山古墳群の主要部分が検出されたと考えられる。

2. 群構成と変遷

古墳の分布状況を見ると、西、北、東の3つの群

500	600	時期不明
9号墳(SX53)		15号墳(SX95)
11号墳(SX61) ----- 7号墳(SX37) ----- 12号墳(SX72)		8号墳(SX49)
	14号墳(SX82)	10号墳(SX60)
		13号墳(SX75)
22号墳 ----- 23号墳 ----- 5号墳(SX32)		6号墳(SX33)
	4号墳(SX15)	21号墳(SX215)
	3号墳(SX14)	2号墳(SX7)
	20号墳(SX106)	18号墳(SX182)
1号墳(SX4)	17号墳(SX180)	
	16号墳(SX113)	
	19号墳(SX186)	

第13表 時期別古墳一覧

に大別することができる。

西の群には7～15号墳の9基が入る。築造時期がある程度推定できる古墳を中心にして見ると、5世紀末葉あるいは6世紀前半頃に11号墳が築かれたのを契機として、次に7号墳、6世紀中頃には12号墳というように木棺直葬の円墳が次々と築かれている。6世紀末葉あるいは7世紀初頭になると横穴式石室を主体部にもつ14号墳が築かれるが、その後古墳の築造は行われなくなったようである。

北の群は5・6・22・23号墳の4基である。6世紀初頭に22号墳が築かれたのを契機として、23号墳、6号墳、5号墳が次々と築かれていったと思われる。6世紀後半に築かれた5号墳は蚊山古墳群中で最も大きい規模をもつ。北の群は、西の群とほぼ同時に古墳を築き始めるが、終息は一足早い6世紀後半と思われる。しかし、見方をかえれば、西の群も北の

群もほぼ同時に木棺直葬の円墳を築くのを止め、両方の群の代表者が14号墳に葬られたとも考えられる。

東の群には1～4・16～21号墳の10基が入る。6世紀初頭に1号墳が築かれるが、その後続く古墳はみあたらない。ところが7世紀前半には小規模な方墳が突如として多数築かれる。1号墳と他の古墳との直接のつながりはないかもしれない。このように、東の群の様相は、西・北の群と大きく異なっている。

蚊山古墳群は5世紀末葉あるいは6世紀初頭に古墳が築かれ始め7世紀前半まで続く古墳群である。検出された23基の古墳を3つの群に分けて見てきたが、さらに大きな流れの中でとらえようと、初現期＝11・22・1号墳、発展期＝西・北の群、終末期＝東の群ということができるとも考えられる。

2. 中世集落

1. 各時期の土器

東海地方の中世土器の中では無軸の陶器碗と皿、つまり山茶碗・山皿の編年が最も進んでいる。南勢地方は山茶碗・山皿の代表的な生産地である知多半島、渥美半島とは伊勢湾を挟んで近距離にあり、蚊山遺跡でも比較的多くの出土をみた。しかし、出土遺物の圧倒的多数を占めるものは「南伊勢系土器^①」とよばれる在地産の皿・小皿・鍋である。

南伊勢系土器の中で鍋については詳細な型式変化の検討が行われており、年代観も示されている^②。皿・小皿についてはいくつかの試案が発表されているが、まとまった見解には達していない。

蚊山遺跡で検出された遺構の時期を決めるにあたっては、まず、山茶碗・山皿、瀬戸産の施軸陶器、知多産の陶器壺・片口鉢の編年および南伊勢系土器鍋の型式分類を参考にして代表的な遺構の抽出とその前後関係の検討を行い、次に、最も普遍的に出土する南伊勢系の土器器皿・小皿の時期的な変化をとらえてみた。A・B₁・B₂・Cという土器器皿・小皿の細分は、ある程度この時期的変化を念頭においている。ただし、土器器皿A・小皿Aについては異系統あるいは特殊なものと考えられるものを含んで

いる。

I 期

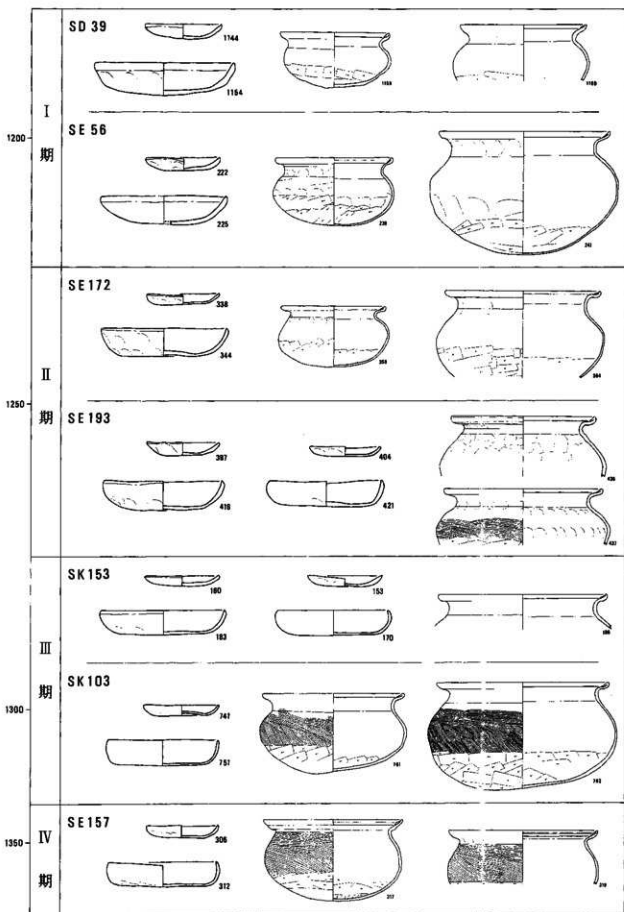
この時期の代表的な遺構としては中世墓SX70・SE56、土坑SK45・SK129、溝SD39・SD43がある。これらの遺構出土の土器は、山茶碗は瀬戸編年の第5型式に相当するもの、土器器鍋は伊藤分類の第1段階a型式、土器器皿・小皿はB₁が主流である。ただし、SX70は瀬戸編年の第4型式に相当する山茶碗を出土し、土器器皿も比較的古い様相を示している。また、SE56は土器器皿がやや小振りなことで、土器器鍋が伊藤分類第1段階b型式を主流とすることなど新しい要素をもっている。I期は12世紀中葉から13世紀初頭にかけてと考えられる。

II 期

井戸SE172・SE193、溝SD8を代表的な遺構とするが、SD8の出土遺物にはやや混入がみられる。山茶碗・山皿は瀬戸編年の第6型式に相当するもの、土器器鍋は伊藤分類の第1段階b型式、土器器皿・小皿はB₂を主流とする。ただし、SE193からは伊藤分類の第2段階a型式・b型式の土器器鍋、土器器皿C・小皿Cがある程度まとまって出土しており、瀬戸編年第7型式に相当する山茶碗のみられ

出土遺構	遺構 時期		皿 (cm)				小皿 (cm)				備 考
			A	B ₁	B ₂	C	A	B ₁	B ₂	C	
溝 SD 39	I期	口径 器高 計測数	14.7 2.9 (1)	14.4 2.8 (15)	— —	— —	— —	8.1 1.4 (21)	7.6 1.1 (1)	—	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
溝 SD 43	I期	口径 器高 計測数	—	14.5 2.7 (51)	— —	— —	— —	8.4 1.4 (70)	—	—	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
土坑SK 45	I期	口径 器高 計測数	15.0 2.0 (1)	14.0 2.8 (8)	— —	— —	— —	8.1 1.4 (11)	8.0 1.2 (3)	—	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
井戸SE 172	II期	口径 器高 計測数	—	13.6 2.9 (6)	12.9 2.6 (139)	—	—	8.3 1.3 (5)	7.7 1.2 (142)	—	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
溝 SD 8	II期	口径 器高 計測数	—	—	12.7 2.7 (58)	12.1 2.8 (12)	9.7 1.6 (2)	10.2 1.4 (1)	8.0 1.2 (31)	7.7 1.2 (15)	完存およびほ ぼ完存のもの のみ計測
井戸SE 193	II期	口径 器高 計測数	—	—	12.6 2.6 (34)	12.0 2.5 (19)	8.8 1.3 (2)	8.0 1.4 (1)	7.5 1.2 (53)	7.5 1.1 (23)	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
土坑SK 153	III期	口径 器高 計測数	—	—	12.7 2.6 (18)	11.4 2.6 (66)	8.0 1.8 (1)	8.0 1.4 (1)	7.9 1.2 (37)	7.6 1.1 (166)	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
井戸SE 90	III期	口径 器高 計測数	—	—	—	11.7 2.4 (6)	—	—	—	7.7 1.1 (4)	口縁部残存度 1/5以上の もののみ計測
土坑SK 103	III期	口径 器高 計測数	—	—	13.0 2.4 (1)	11.6 2.6 (26)	—	—	—	7.6 1.1 (13)	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
土坑SK 161	III期	口径 器高 計測数	—	—	—	11.5 2.5 (29)	—	—	8.3 1.0 (2)	7.5 1.0 (40)	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
土坑SK 104 (中世墓)	III期	口径 器高 計測数	—	—	—	11.4 2.5 (14)	7.5 1.5 (1)	—	7.6 0.9 (1)	7.7 1.0 (8)	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
井戸SE 134	IV期	口径 器高 計測数	—	—	12.8 2.4 (1)	11.6 2.3 (3)	—	—	—	8.0 1.3 (4)	口縁部残存度 1/5以上の もののみ計測
井戸SE 157 (中世墓)	IV期	口径 器高 計測数	—	—	12.0 2.6 (1)	11.3 2.5 (15)	—	—	—	7.6 1.2 (15)	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測

第14表 主な遺構出土の土師器皿・小皿平均計測値一覧



第101図 主な遺構出土の土師器小皿・皿・鍋 (小皿・皿=1:4, 鍋=1:6)

る。Ⅱ期は13世紀前葉から中葉にかけてと考えられる。

Ⅲ 期

土坑SK153・SK103・井戸SE90を代表的な遺構とする。土師器鍋はⅡ期と同じく伊藤分類の第1段階b型式が主流であるが、器壁が薄くなり、体部外面に細かいハケ目が施されているものが目立つ。伊藤分類の第2段階c型式や第3段階a型式の鍋を出土する遺構もある。土師器皿・小皿にはB₁あるいはB₂に近いものもみられるが、口径が11.5cm前後のCが圧倒的に多い。Ⅲ期は13世紀後葉から14世紀前葉にかけてと考えられる。

Ⅳ 期

井戸SE134、中世墓SE157を代表的な遺構とする。山茶碗は混入と思われる小片以外は出土しない。土師器皿・小皿は混入と思われる小片以外は全てCで、口径はⅢ期のものと変わらないが、器壁がさらに薄くなり、口縁部の内側への反りが強くなる傾向がみられる。土師器鍋は伊藤分類の第3段階b型式が主流である。Ⅳ期は14世紀中葉から15世紀中葉にかけてと考えられる。

2. 中世集落の変遷

第102・103図に各時期の遺構の配置を示した。ただし、この図には数多くあるピットや時期不明の遺構は省略してある。おおよその時期しかわからない遺構を複数の時期の図に書き込んだ場合もあるが、その間継続して存在していたという意味ではないので注意していただきたい。なお、井戸については存続期間が長いと考えて、廃絶時期には実線で、その一時期前の図には点線で示した。

Ⅰ 期

左郡地区で確認できる最古の建物跡は12世紀末葉のものである。しかし、わずかに1基といえども12世紀中葉の中世墓がみられることから、その頃の建物跡が付近に眠っている可能性がある。ケモノ辻・角垣内地区の建物跡の状況は不明点が多いが、所り垣地区でも左郡地区と同様のことがいえる。これらのことから蚊山遺跡の集落は12世紀中葉に始まったと考えられる。世の中が古代的な社会から中世的な社会へと大きく変貌する激動期に蚊山集落が形成さ

れ始めたのである。

この時期の主要建物としてSB128、SB164、SB27の3棟を挙げることができる。SB128とSB164、SB128とSB27はそれぞれ約30m離れており、SB164とSB27の間には区画溝の機能をもつと考えられるSD118があることから、それぞれ独立した屋敷地を構えていたと想定できる。SD118・SD13・SD200を一体として捉えれば、ここにこれらの溝を側溝としていた道路が存在していた可能性もある。

この時期の建物の多くは中世の一般的な建物と同じく釜蓋目状に束柱が並ぶ構造をしているが、柱掘形内に根石がみられないのが特徴である。SB128はこの時期の建物の中では建物面積が最も大きいこと、柱掘形が他の建物よりひとまわり大きいこと、建物内の南東隅に方形土坑をもつことなどから、集落の中でも中核的な建物だったと考えられる。

調査区の東部に屋敷地がみられる一方、中央部には少数の中世墓が、西部には山間の谷水を集めた自然流路SD43がみられる。SD39は自然流路の水を田畑にひくための灌漑用水路として設けられたものと考えられる。集落の始まりと相前後して水田利用には不適だったと思われるこの付近の河岸段丘の開墾が本格化したようである。

Ⅱ 期

この時期には屋敷地として利用される土地が西側へ広がり、蚊山集落の原型がほぼ完成する。

東部の主要な建物としてSB131、SB159、SB34が挙げられる。SB131はⅠ期の中核的な建物であったSB128の南側に新たに屋敷地を確保して建てられたものであろう。SB128の跡地には規模の小さい建物建てられている。SB159は明らかにⅠ期のSB164に続く建物である。SB34は位置がSB159に近寄りすぎているが、SB27に続くものとしておく。隣接するこの4つの屋敷地を2分するかのように道路SR87が走っている。

東部の4つの屋敷地から大きく離れた中央部にもSB98とSB51を主要建物とする2つの屋敷地がみられる。SB98の屋敷地の場合、Ⅱ期に入ってから大溝SD35Aの西側に屋敷地を確保した家族がまずSB76を建てたが、途中で「く」の字に曲がって流

れるSD35Aは不都合な点が多かったため流れを改修してSD35Bを作り、新たにSB98を建てたと考えられる。SB98の柱列がSD35Bにかかっているように見えるが、SD35Bの肩の部分が後に崩れたためそう見えるだけであろう。SB51の西約20mにあるSB9は規模が小さいため一つの屋敷地内の主要建物であったのか、それとも住居から離れた位置に作られた作業小屋のなものであったのかは断定し

がたい。

この時期の建物はほとんどが束柱をもち、柱掘形の中に根石がみられる。建物規模はI期より大きいものが増加している(第15表)。中世墓の数は多くないがA型からE型まで全ての型がそろっており、その中でもB型が主流になる傾向が現れてきている(第17表)。

II期の遺構で注目すべきものにSD8とその西側

身舎規模	I期	II期	III期	IV期	V期	時期不明
5間×4間	—	—	1	—	—	—
4間×4間	1	—	—	—	—	—
4間×3間	1	4	4	—	—	—
4間×2間	—	—	—	1	—	—
3間×3間	—	2	2	1	—	—
3間×2間	4	3	2	—	1	—
3間×1間	—	—	2	1	—	—
2間×2間	2	1	2	5	—	—
2間×1間	—	—	—	—	—	1
規模不明	1	1	—	2	—	—
合計	9	11	13	10	1	1

建物総面積	I期	II期	III期	IV期	V期	時期不明
約32坪～	—	—	1	—	—	—
約28坪～	—	—	—	—	—	—
約24坪～	—	—	—	—	—	—
約20坪～	—	—	—	—	—	—
約16坪～	1	2	1	—	—	—
約12坪～	1	3	3	—	—	—
約8坪～	1	2	1	1	—	—
約4坪～	4	2	6	5	1	—
0坪～	1	1	1	3	—	1
面積不明	1	1	0	1	—	—
合計	9	11	13	10	1	1

第15表 時期別掘立柱建物規模一覧

B型中世墓	底 部 長 辺											
	0.6m～	0.7m～	0.8m～	0.9m～	1.0m～	1.1m～	1.2m～	1.3m～	1.4m～	1.5m～	1.6m～	1.7m～
底	1.1m～					II期=1 不明=1						
	1.0m～				II期=1			II期=1	II期=1			
部	0.9m～						II期=1				II期=1	II期=1
	0.8m～				II期=1 II期=2		II期=2	I期=1	II期か I期=1			
辺	0.7m～		II期=1	II期=2 IV期=1	II期=1							
	0.6m～	不明=1		II期=2								

第16表 B型中世墓の底部規模一覧

時期	I 期	II 期	III 期	IV 期	
編 立 柱 礎 物		SB 9	SB 2 SB 54 SB 68	(SB 68 - SB 19)	
		SB 51	SB 85 SB 97	(SB 93)	
	SB 24	SB 74 SB 76	SB 85 SB 97	(SB 93)	
	SB 25		SB 184		
	SB 23		SB 21	(SB 20)	
	SB 164	SB 158	SB 158	(SB 160 - SB 179)	
	SB 27	SB 34			
	SB 128	SB 112	SB 126	(SB 127)	
	SB 100	SB 125			
	SB 145	SB 131 SB 137	SB 133 SB 136		
		SB 141	(SB 143) SB 142		
		SB 205	(SB 191) (SB 199)		
井戸	SE 3	SE 172 SE 193 SE 194	SE 90	SE 79 SE 134	
中 世	A 型	SX 70	SX 88	SX 120 SX 225	
	B 型	SX 78	SX 40 (SX 92) SX 63 SX 77 SX 168 SX 171	SX 48 SX 59 SX 106 SX 138 SX 140 SX 149 SX 152 SX 162 SX 165 SX 167 SX 170 SX 223 SX 224	SB 157
	C 型	SB 56	SB 57	SX 44 (SB 207) SK 104	
	D 型	SX 38	SK 83	SX 28 (SX 189) SX 151 SX 175	SX 166 SX 189 SX 190 SK 222 (SX 41)
	E 型		SX 67 (SX 96)	SX 5 SX 64	
土坑	SK 129		SK 153	(SK 103) SK 204	

第17表 時期別中世遺構一覽



第102図 I期・II期の遺構配置図 (1:1,200)



第103図 Ⅲ期・Ⅳ期の遺構配置図 (1 : 1,200)

を巡るSD18がある。一般的な集落の有力者よりさらに権力を持った者の屋敷を囲う堀とそれに伴う溝と思われるが、全体像がつかめないため残念ながらそれ以上のことは言えない。

Ⅲ 期

蚊山遺跡中世集落の最盛期ともいべき時期で、調査区の西端近くにもSB2を主要建物とする屋敷地が新たに設けられている。また、調査区の東端近くにも当然屋敷地が設けられていたと思われる。

Ⅱ期から続く屋敷地にも順調に新しい建物が築かれているが、Ⅰ期以来の屋敷地には消長がみられる。Ⅰ期SB27→Ⅱ期SB34と続いた屋敷地の建物はⅢ期にはなくなり、Ⅰ期中核的な存在であったSB128の屋敷地に建てられた建物は住居とは言いがたい規模に縮小してしまっている。一方、Ⅰ期の主要建物の中で最も小さかったSB164の屋敷地にはⅢ期になると総面積が32坪という大規模な建物のSB158が建てられ、蚊山集落の中核的な存在に成長している。

建物の増加に伴って中世墓の数もB型を主流として爆発的に増加した。中世墓は各屋敷地の隅、あるいは屋敷地と屋敷地の間にある空地と思われる位置に築かれている。特に、SB158のすぐ西側は一定の広がりをもつ集団墓地というべき中世墓の密集地となった。集落の規模が大きくなり人口が増えるとともに、特定の墓地が必要となってきたのであろう。この時期最大の建物であるSB158のすぐ西側に集落の墓地が形成されたことには興味が引かれる。B型の中世墓は平面形が方形で墓壇が深いもので、座棺を使用した土葬墓と考えている。平面の長辺と短辺の長さの関係から、正方形に近いもの、長方形に近いもの、その中間のものというようにさらに3つの型に細分できる(第16表)。時期的な傾向ははっきりしないが、新しいなるほど正方形に近いものが増えるように思える。

Ⅳ 期

第103図のⅣ期の遺構配置図には数棟の建物跡が

書き込んであるが、明確にⅣ期の建物としたのはSB142の1棟のみである。たとえ時期が不明確な建物跡をすべてⅣ期のものとしてもその数や建物規模は衰退傾向を示していることには変わりがない。中世墓はD型が主流になるが、建物跡と同様に総数は激減している。

3. 中世集落のまとめ

このように、12世紀中葉に集落の萌芽がみられ13世紀後葉から14世紀前葉にかけて最盛期を迎えた蚊山遺跡の集落も、14世紀中葉以降には見る影もないほど閑散とした状態になってしまう。明治28年に神宮司庁が発行した『神郡名勝誌』には岩出の地に長保年間(999~1004年)から明徳・応永年間(1390~1428年)までの約400年間、神宮祭主の館があったと記されている。それが事実であったとすれば館の近くにはその間、それ相当の規模の集落が存在し続けていたと考えるのが自然である。そういう意味では存続期間がより短い蚊山遺跡の家々は完全に独立した集落を形成していたのではなく、祭主館の定着とともに拡大していった岩出集落の一部あるいは支村だったといえる。南勢地方に大きな爪痕を残した南北朝の争乱により祭主の権威は急速に衰え、それにより岩出集落の規模も縮小を余儀なくされたのであろう。岩出集落の浮沈に強く影響された左郡地区にはやがて人が住まなくなり、そこで多くの人々が生まれ、暮らし、死にそして葬られたことも次第に忘れられていったのである。

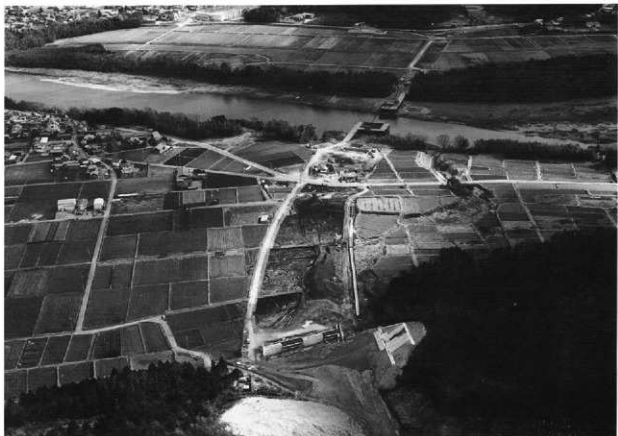
【註】

- ① 伊藤裕輝「中世南伊勢系の土器器に関する一試論」[Mis history] vol.1 三重歴史文化研究会1990
- ② ①に同じ
- ③ 藤澤良祐「瀬戸古窯址群」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要1』1991
- 藤澤良祐「山家崎と中世集落」『尾呂』瀬戸市教育委員会1990
- ④ ①に同じ

PLATE



調査区通景（北上空から）



調査区全景（北西上空から）



S X 53 (9号墳) 周辺 (上空から・北は左上)



S X 61 (11号墳), S X 72 (12号墳) 周辺 (上空から・北は左上)



S B 76・85・93・98周辺 (上空から・北は左上)



S X 215 (21号墳), S B 158周辺 (上空から・北は左上)

図版 4



S X 196 (20号墳)、S B 128周辺 (上空から・北は左上)



調査区西部 (南東から・調査中)



S D43付近 (南東から)



S B 2 (南西から)

図版 6



S X53 (9号墳) (東から)



S X61 (11号墳) 付近 (北西から)



S B68 (北から)



S X37 (7号墳)、S B51・54 (南西から)

図版 8



S B74, S X82 (14号墳) (北東から)



S X82 (14号墳) (南西から)



S X82 (14号墳) (南西から)



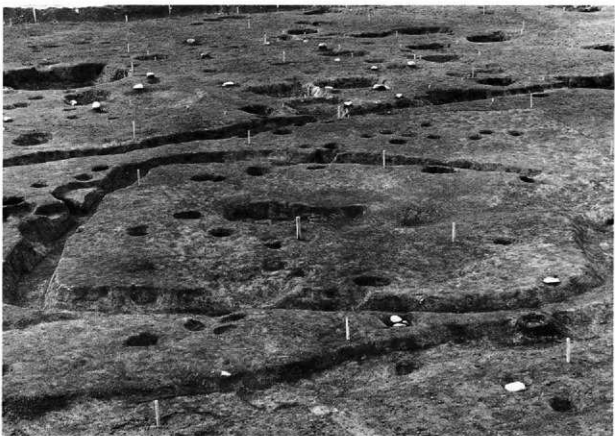
S X82 (14号墳) (南西から)



S X82 (14号墳) (西から)



S B76・85・93・98 (北から)



S X215 (21号墳) (北東から)

図版10



S B24 (北西から)



S K153付近 (西から)



S R87, S D118付近 (北東から)



S D 8 付近 (南東から)

図版12



S B 131・133・136・137 (北から)



S B 100・125・126・127・128 (西から)



S X 196 (20号墳) (北から)



S E 3 (南東から)



S E 56 (北から)

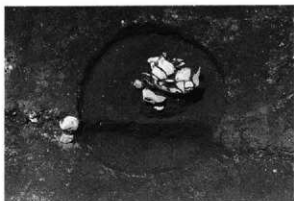


S E 134 (南から)



S E 172 (北から)

図版14



S X 5 (南東から)



S X 38 (東から)



S X 46 (南から)



S X 70 (南から)



S X 94 (南から)



S X 96付近 (北から)



S X 152 (南から)



S X 140 (西から)



S X 167 (北から)



S X 189 (東から)

図版16



S X 223 (南東から)



S X 88・224 (南西から)



S X 225 (東から)



S K 26 (西から)



S K 81 (南東から)



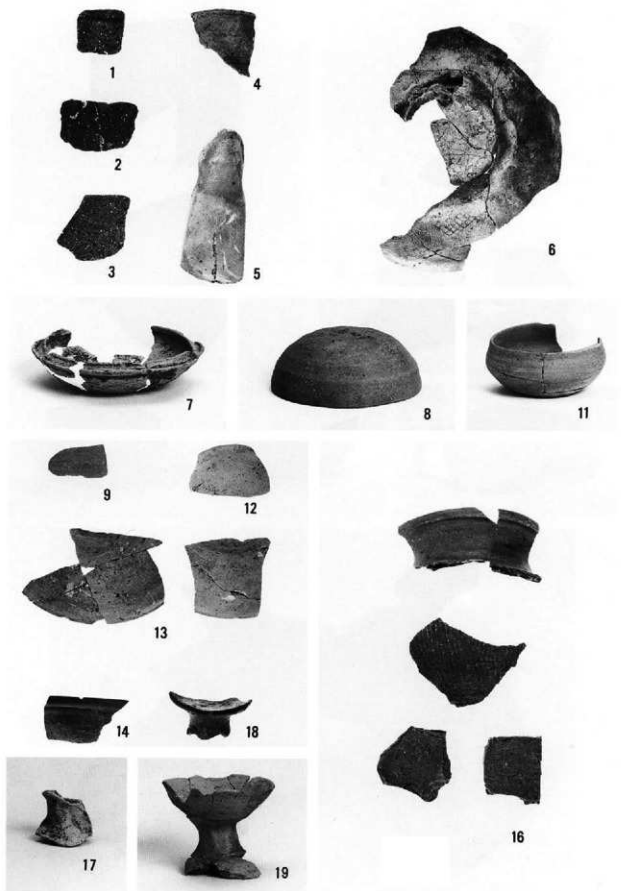
S K 89 (南東から)



S K 129 (南東から)



S K 129 (北西から)



弥生時代以前・古墳時代の遺物



10



15



22



21



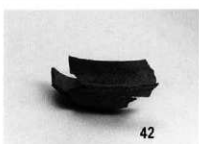
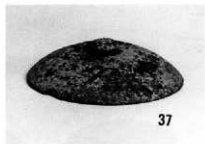
24

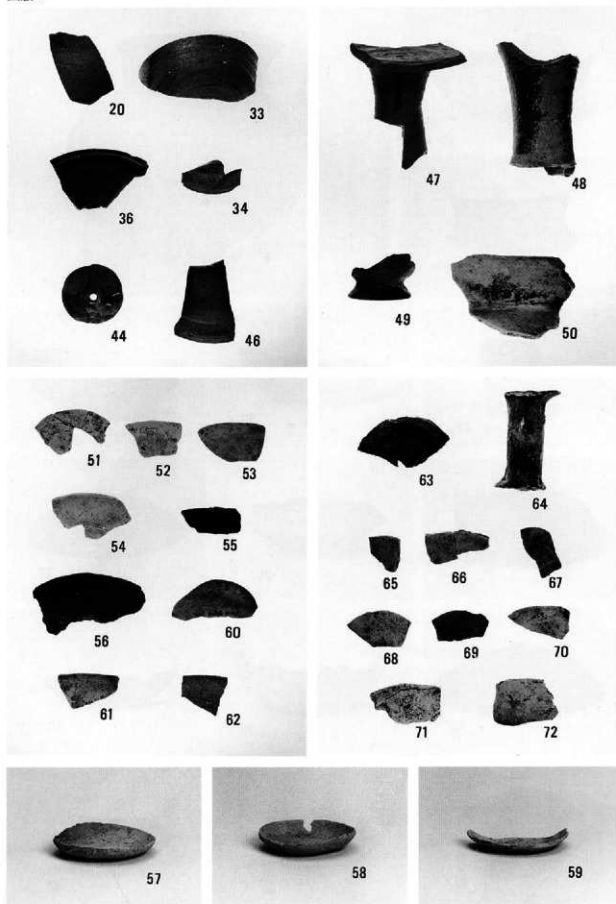


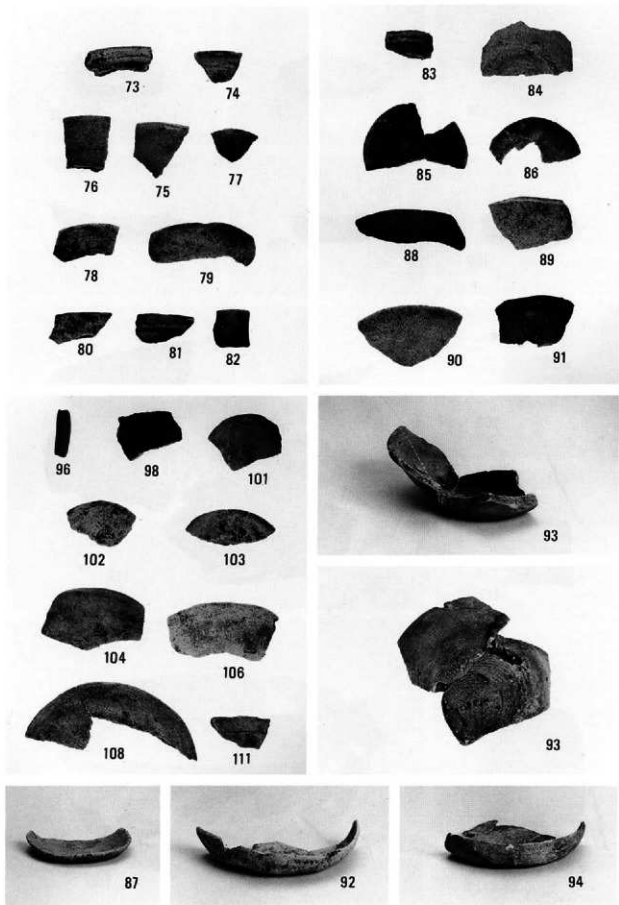
25



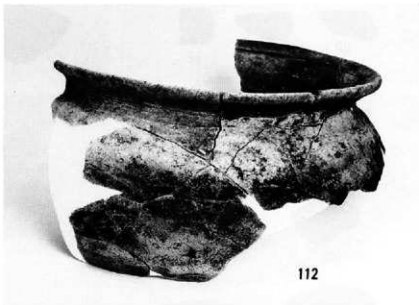
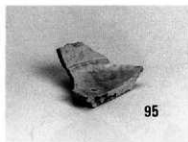
23

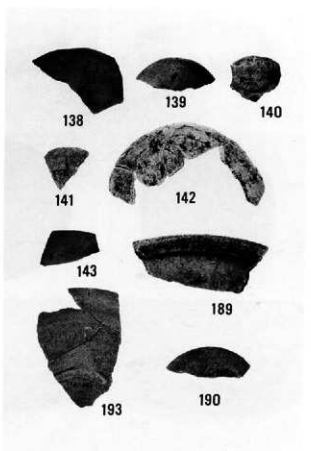
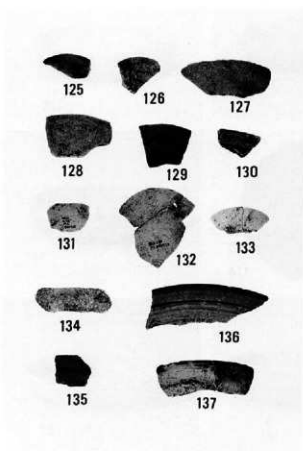
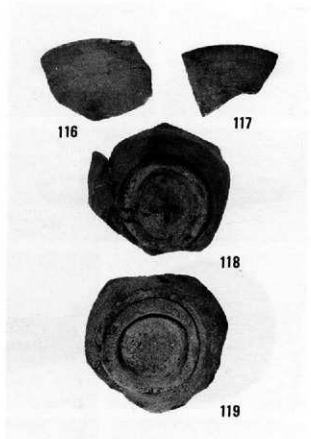
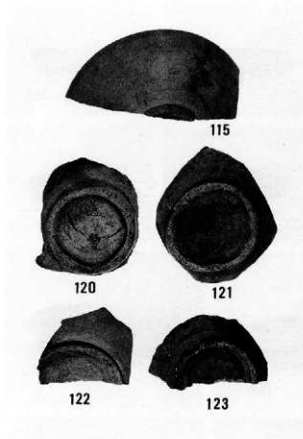


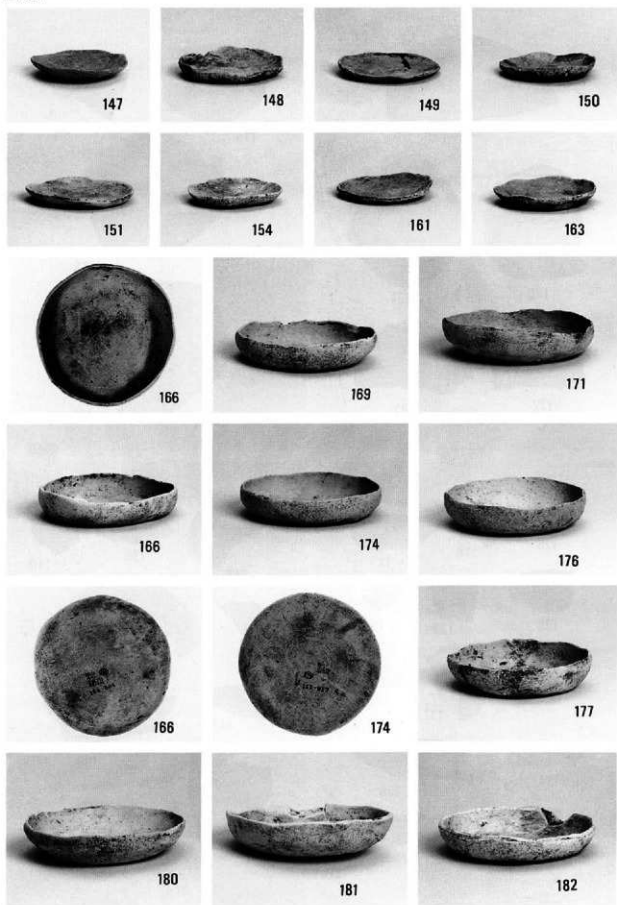


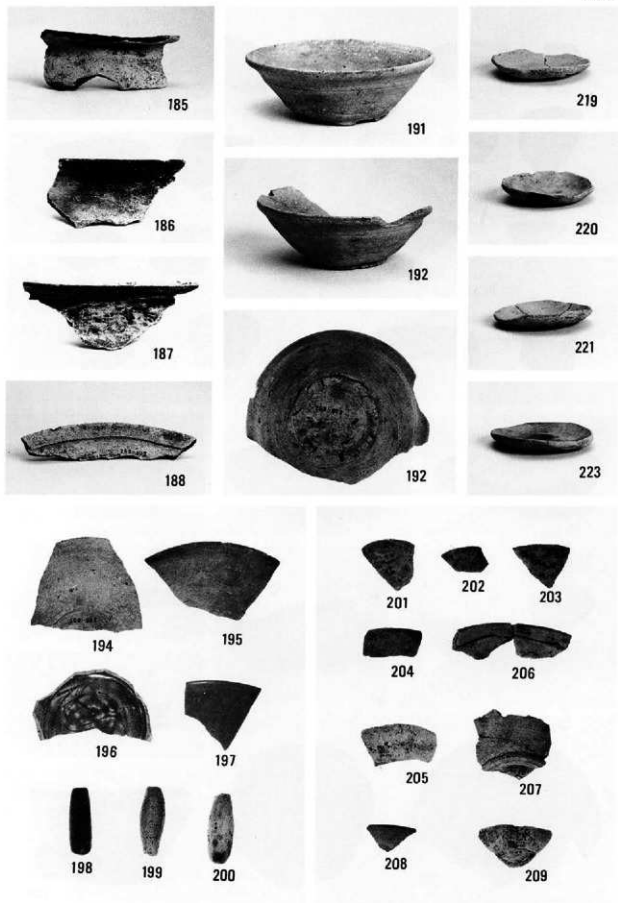


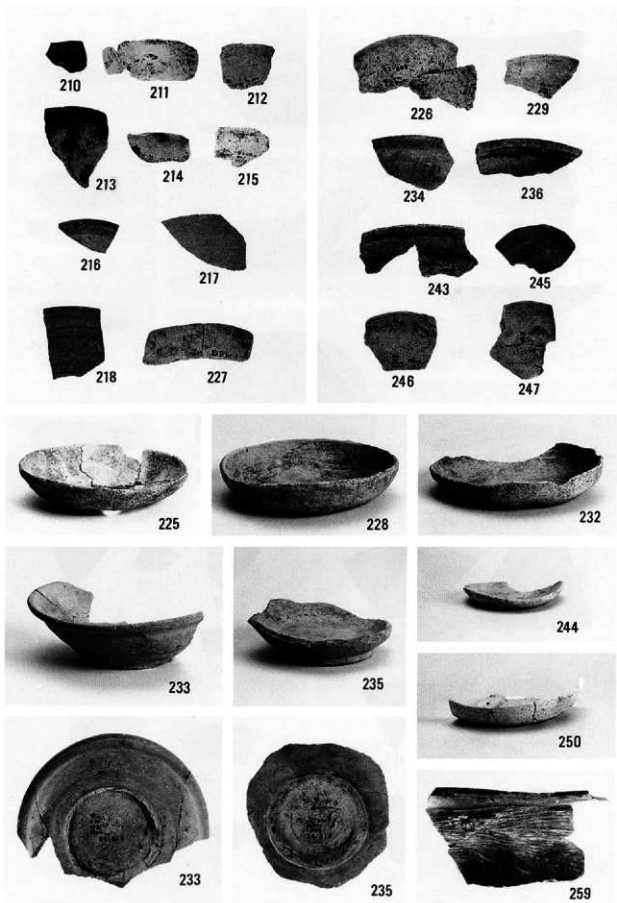
獨立柱建物出土遺物













238



239



240



241



260



261



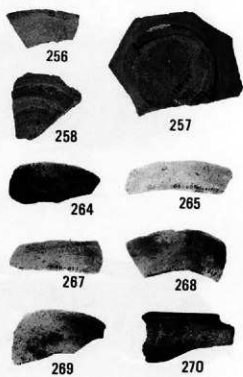
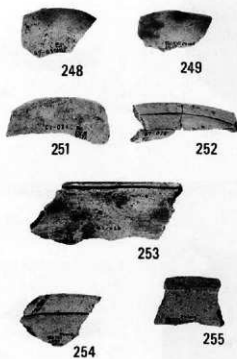
262

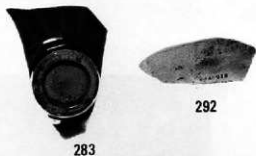
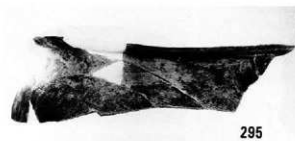
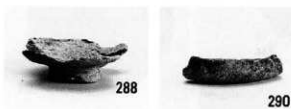


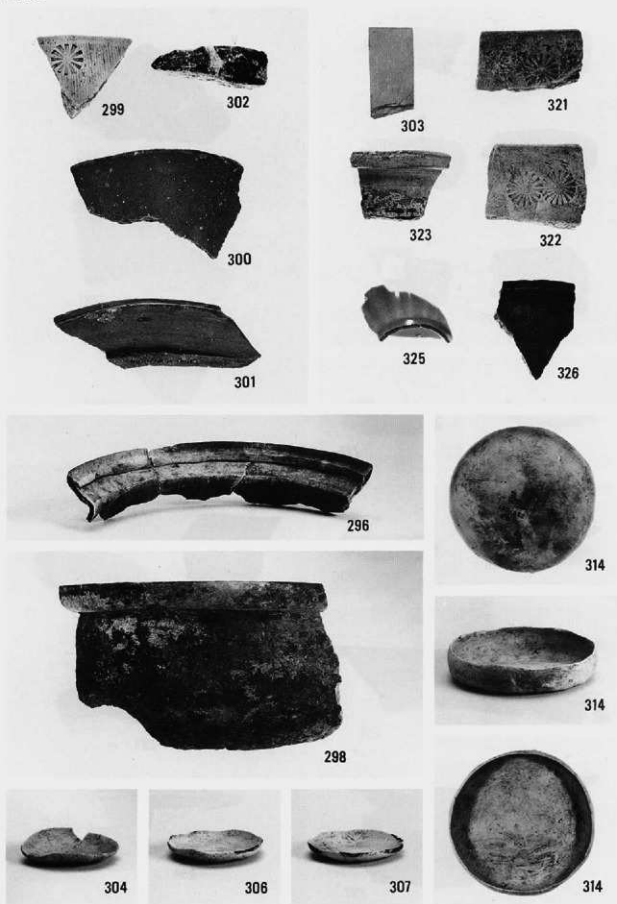
263



266









311



313



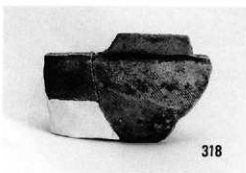
315



316



317



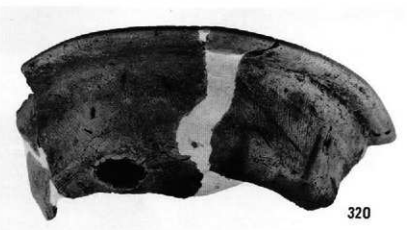
318



319



324



320



328



330



332



333



344



345



346



348



357



350



361



351



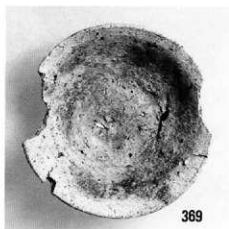
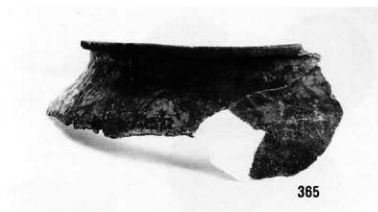
353

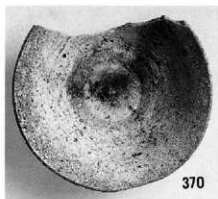


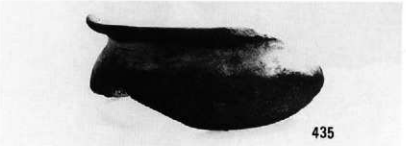
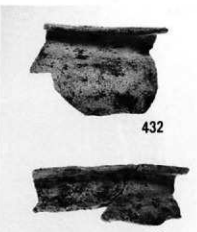
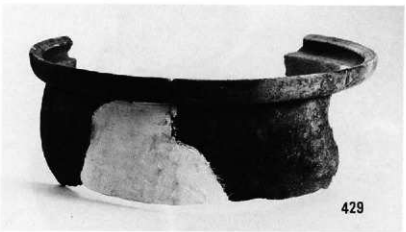
363



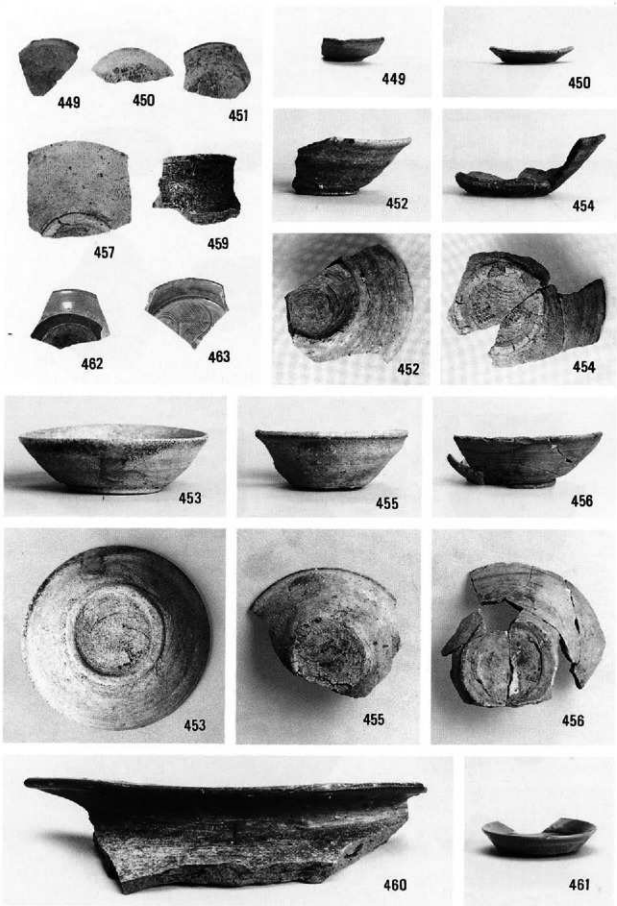
355

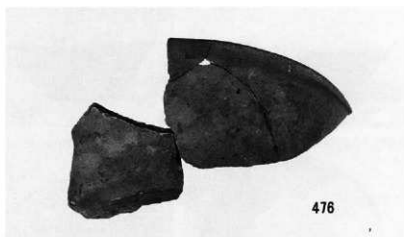
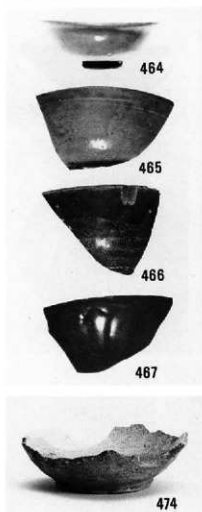
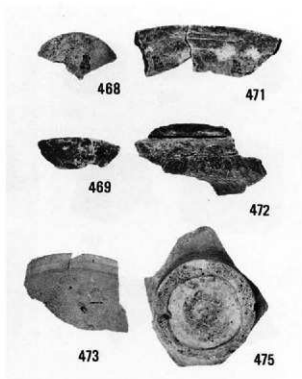


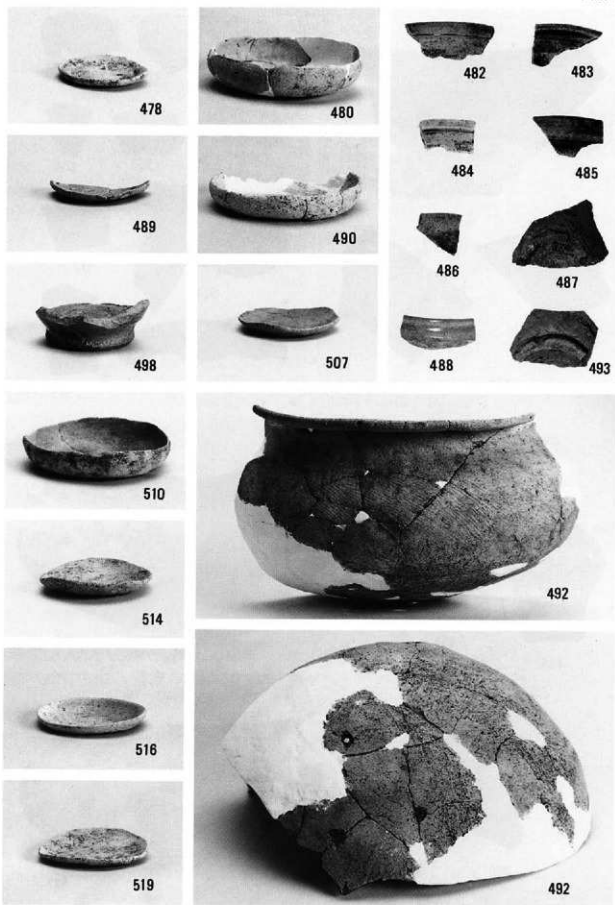


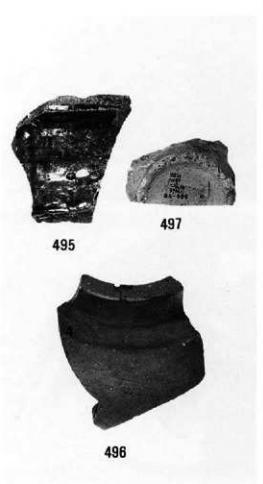
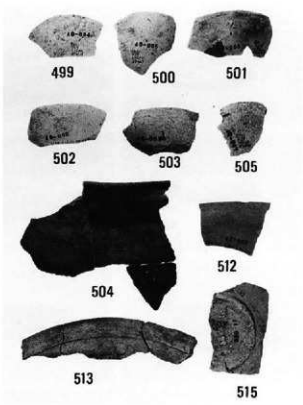
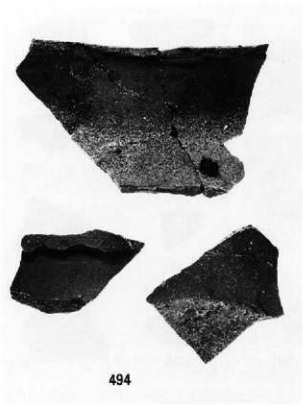


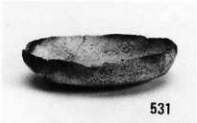




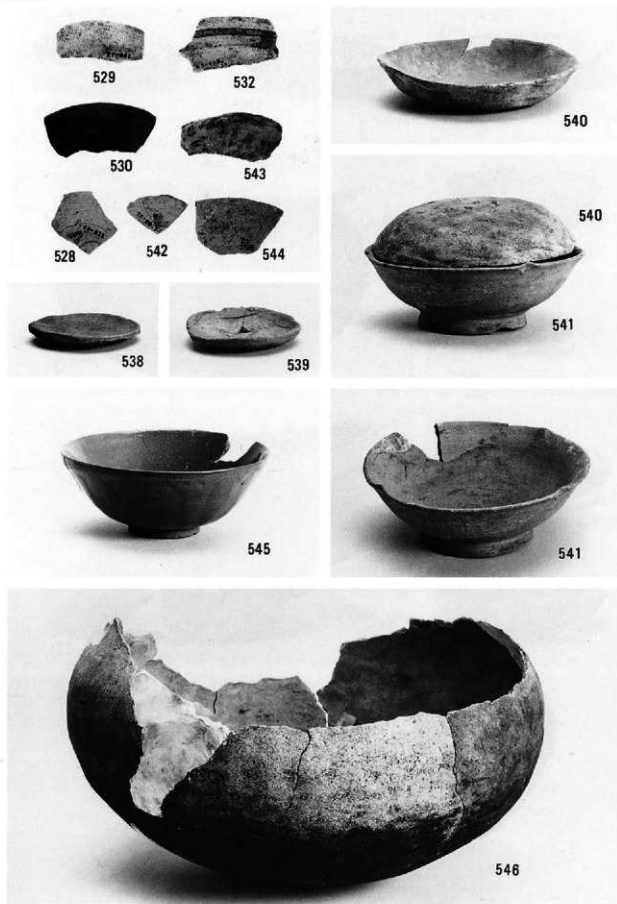




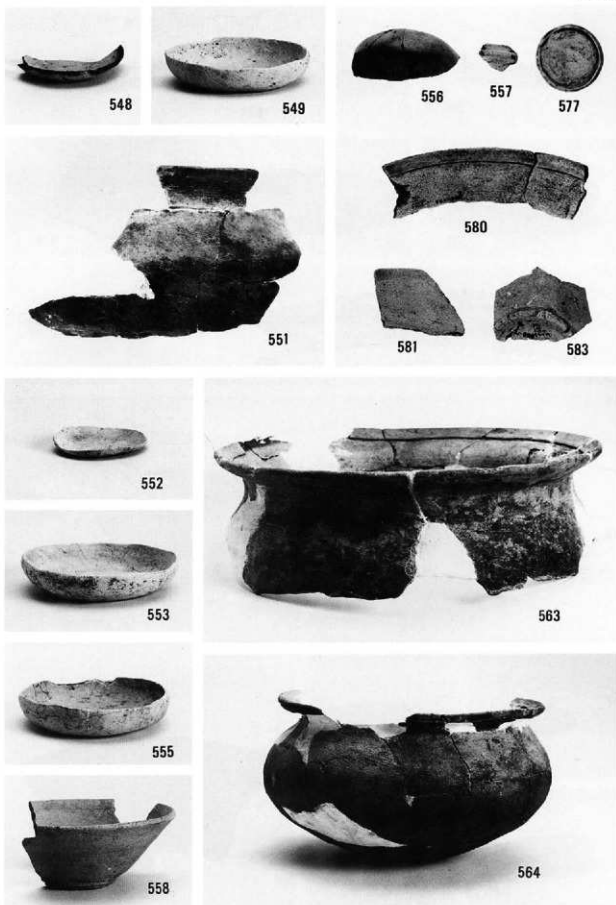




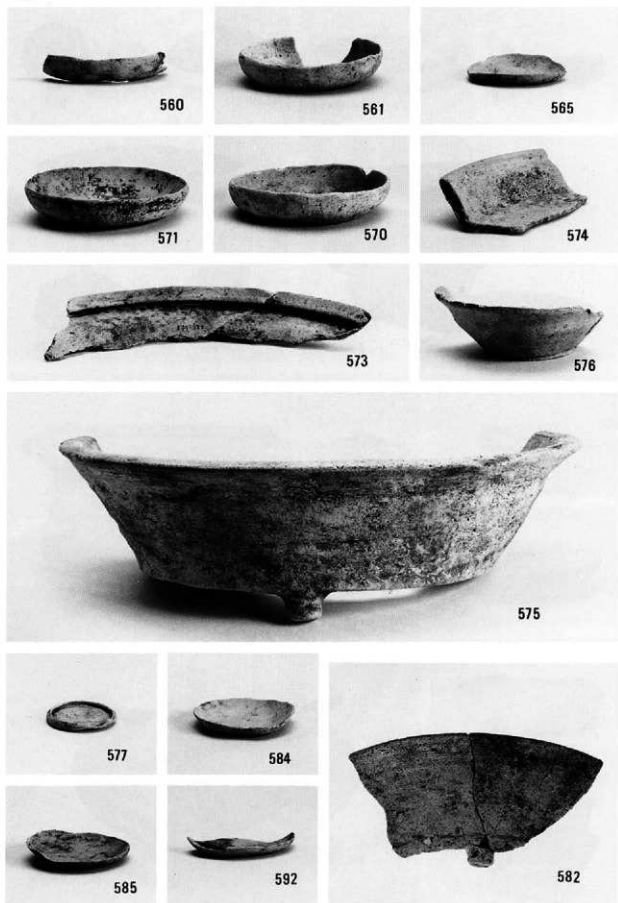
図版42

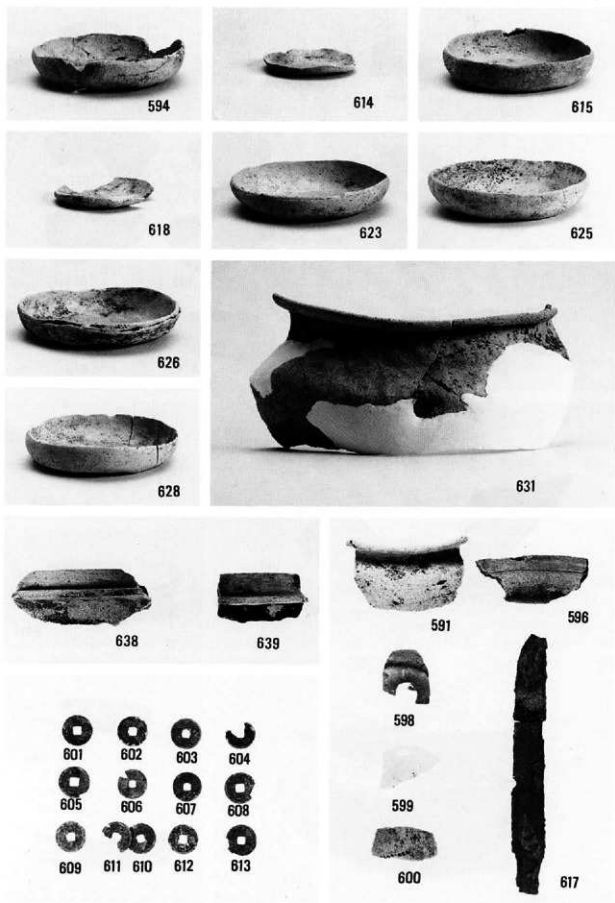


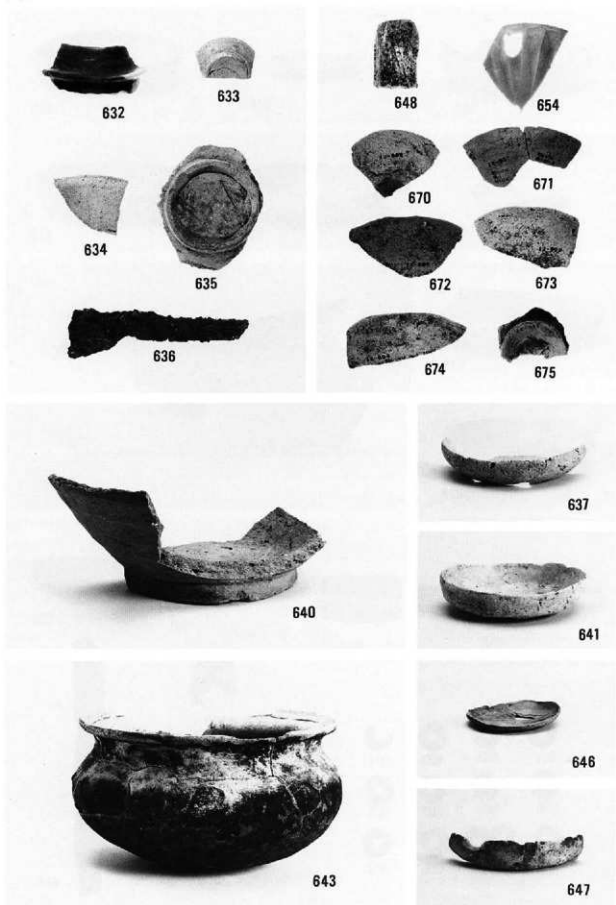
中世墓出土遺物

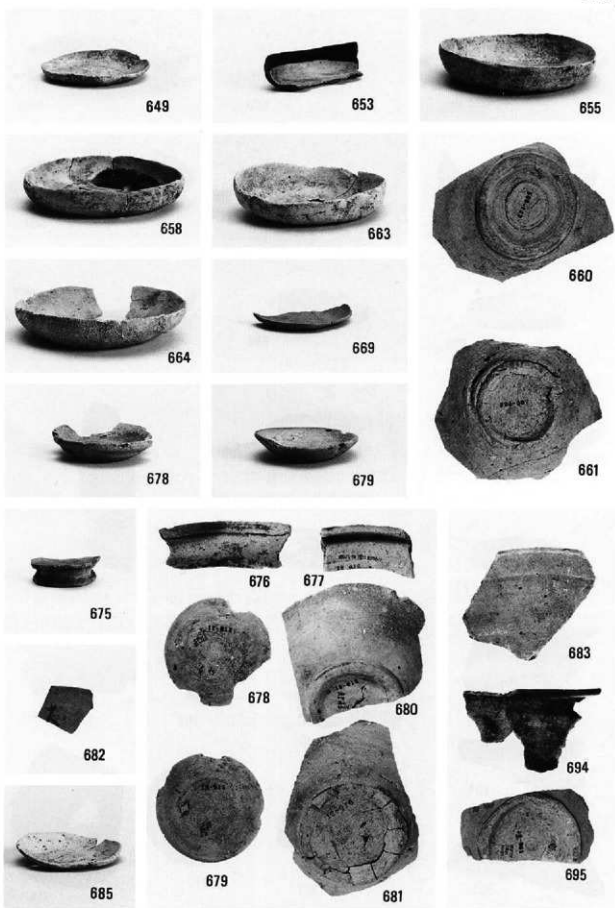


中世墓出土遺物

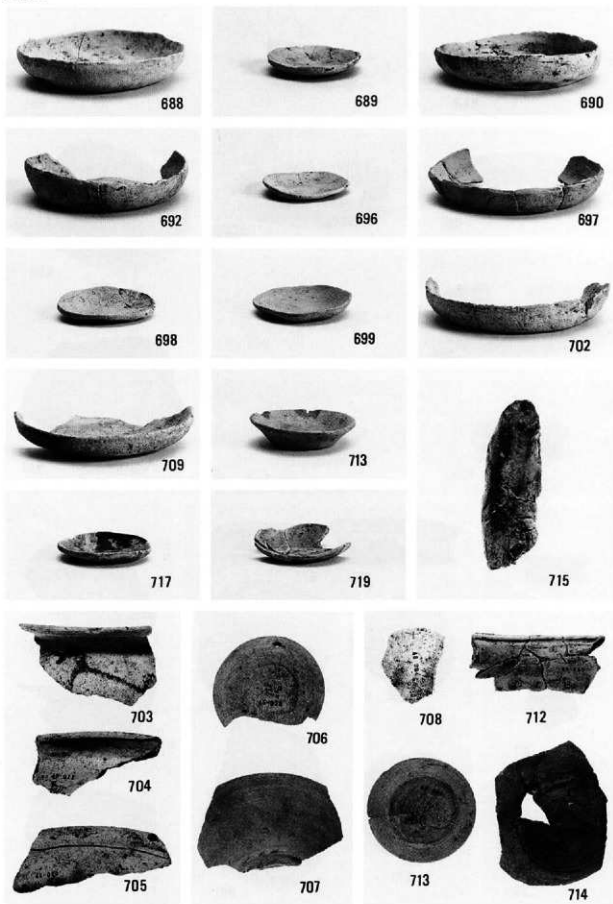


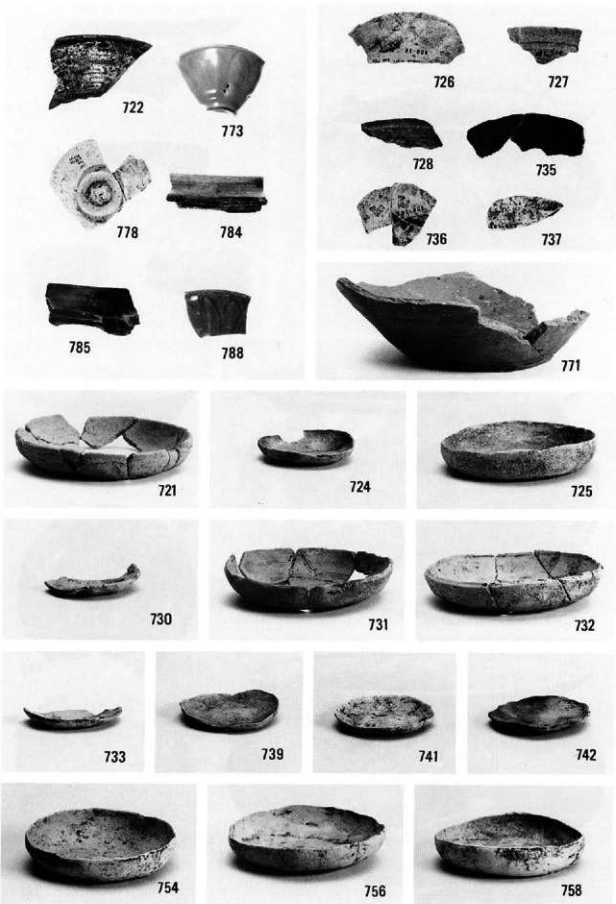






中世墓·土坑出土遺物





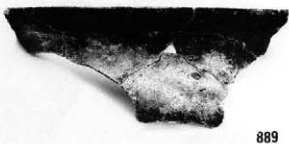
土坑出土遺物













884



887



893



895



896



897



904



903



905



908



909



910



911



914



915



919



922



920



921



929

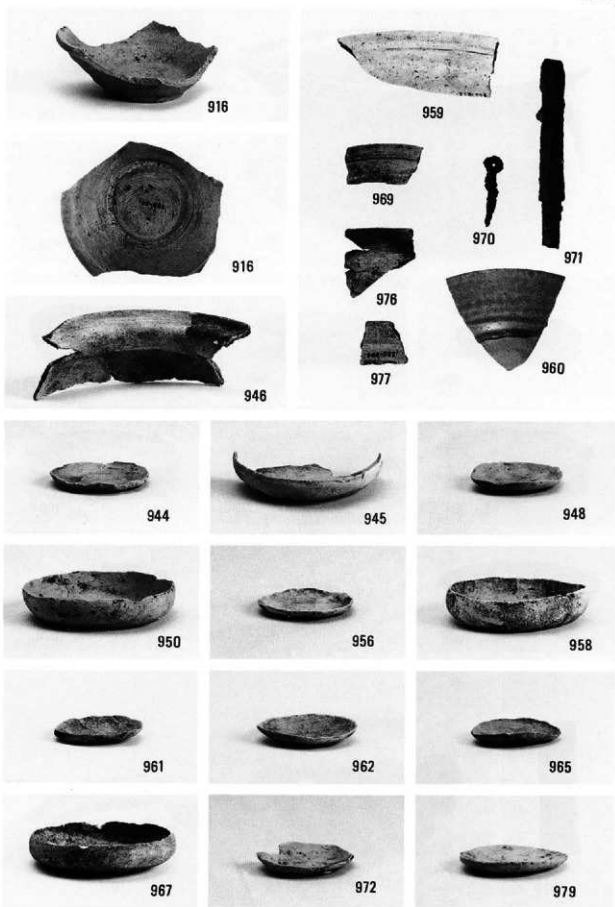


930

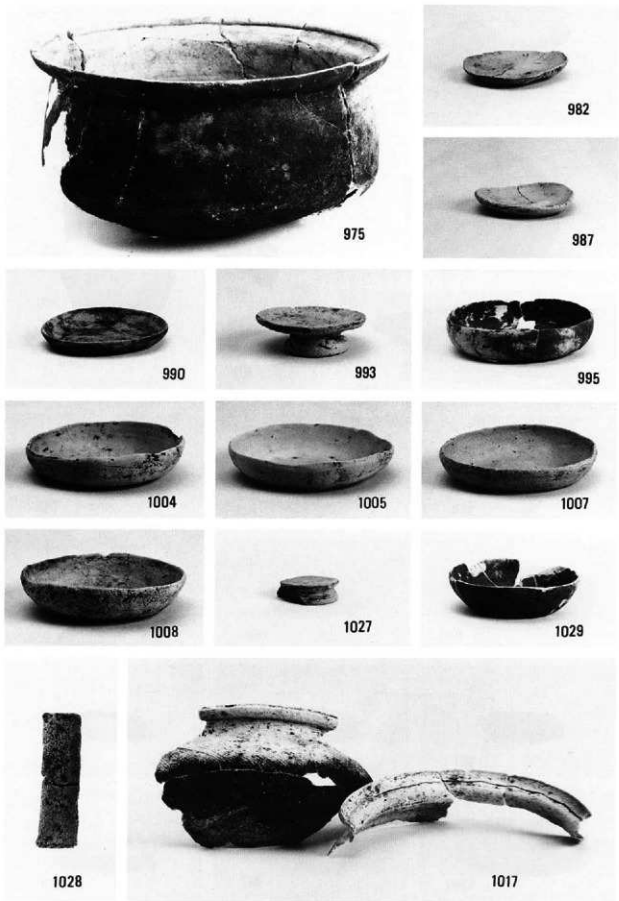


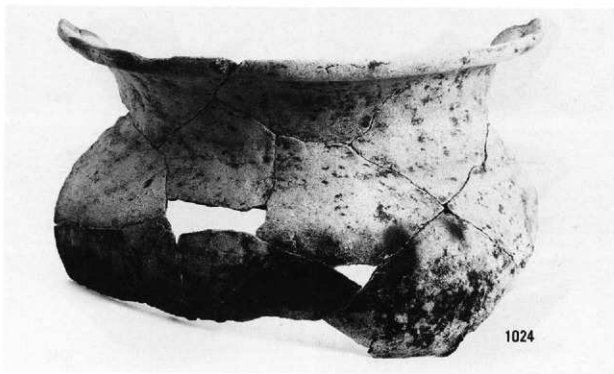
937

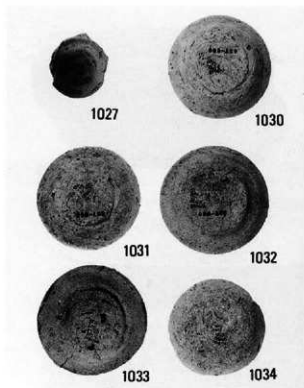


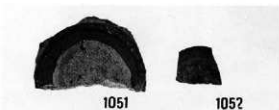
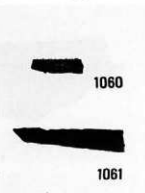


土坑・溝出土遺物











1065



1066



1069



1070



1072



1073



1074



1076



1081



1086



1088



1077



1078



1079



1080



1085



1084



1083



1087



1090



1091



1092



1093



1096



1100



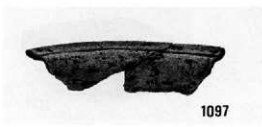
1103



1104



1110



1097



1112



1117

1116



1118



1121



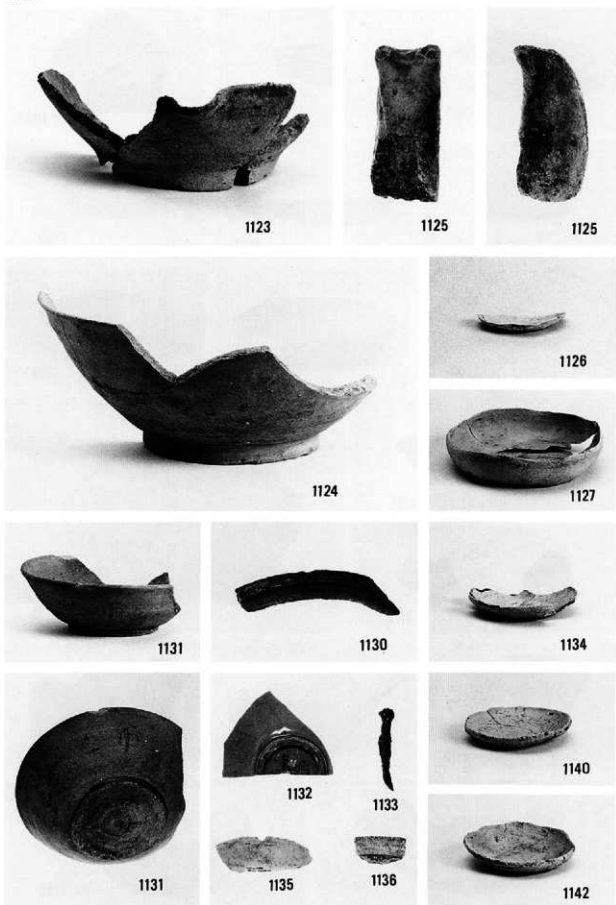
1122

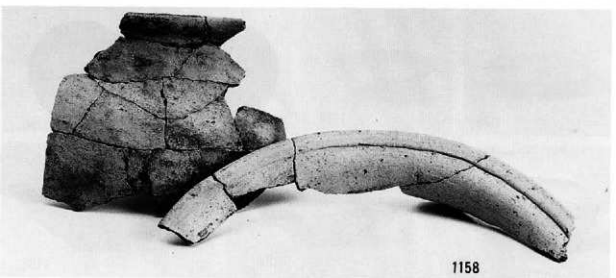
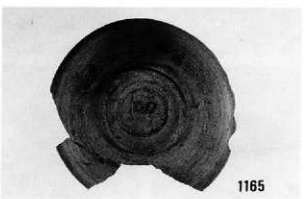
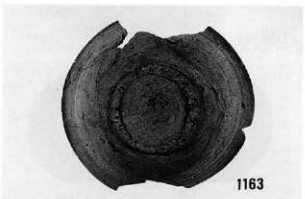


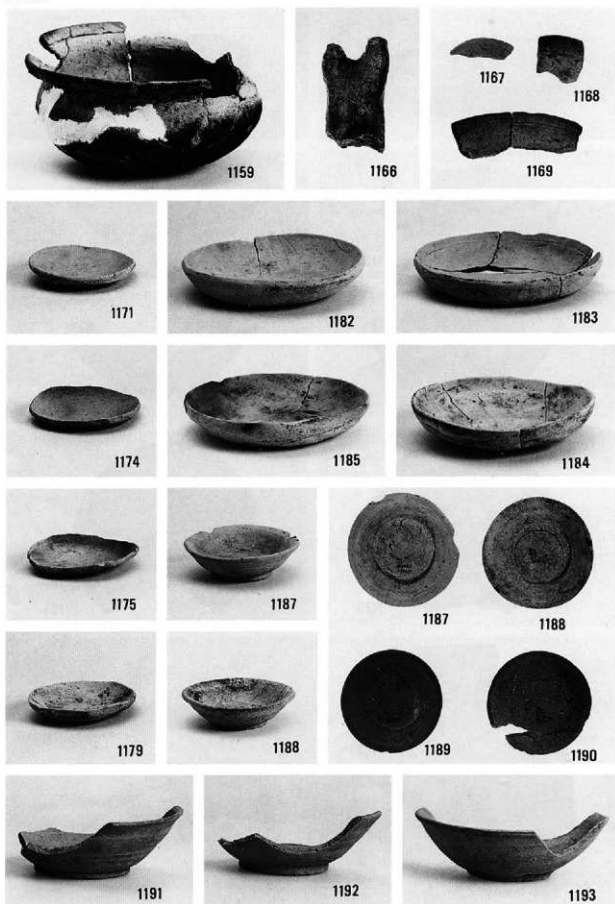
1119

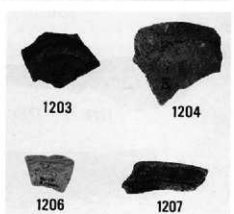
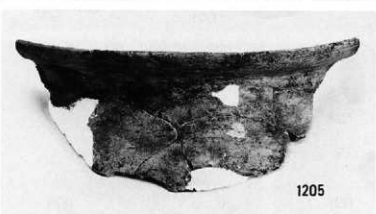
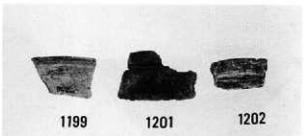
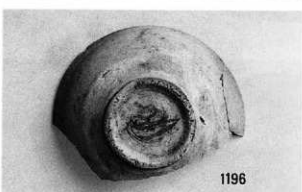
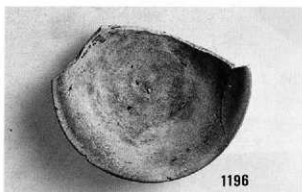


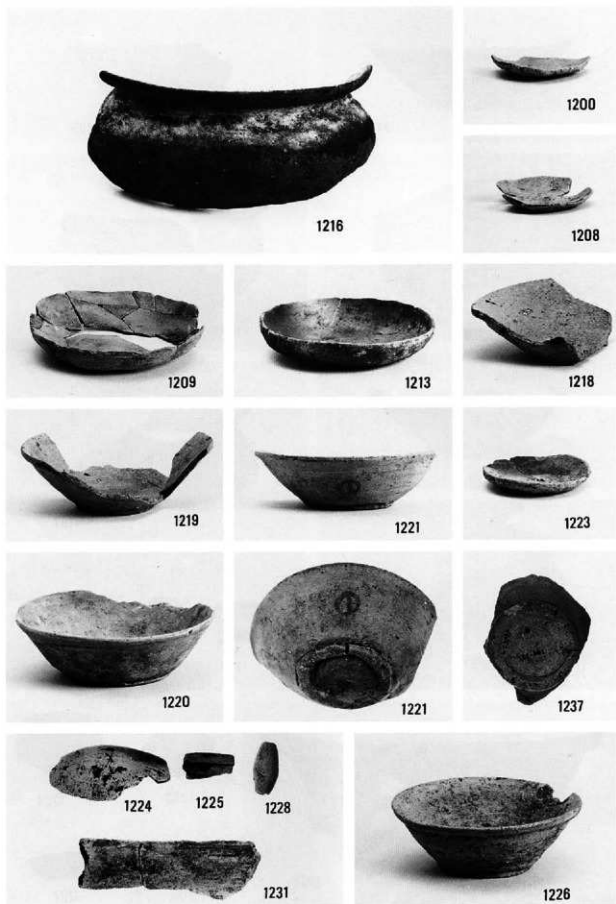
1120

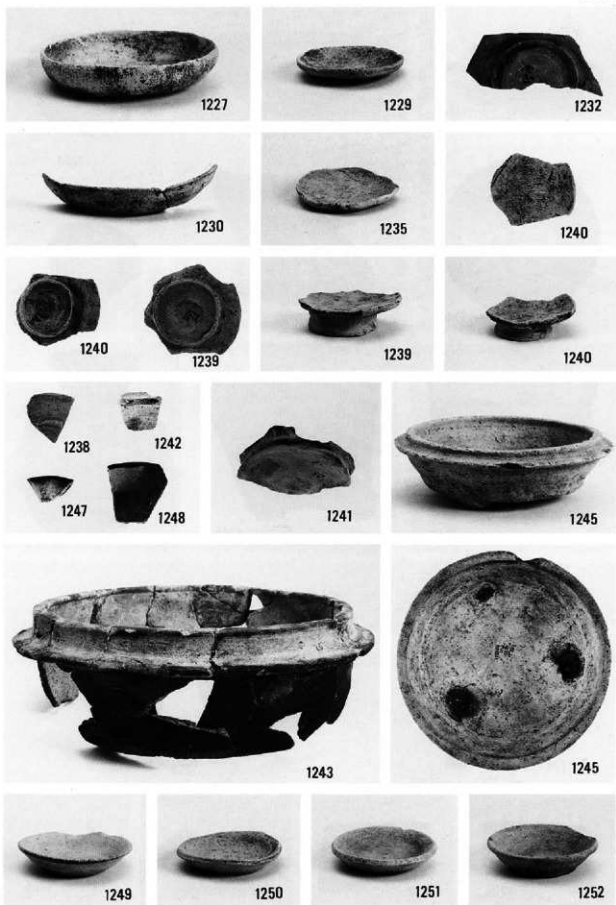




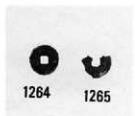
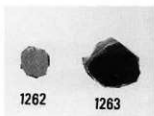
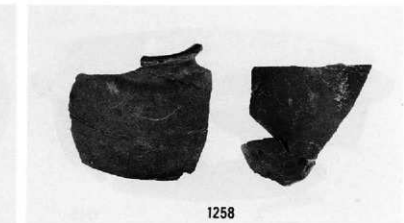
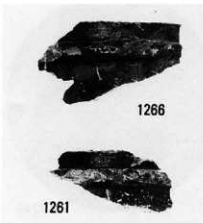








溝・包含層・ピット出土遺物



平成5(1993)年3月に刊行されたものをもとに
平成19(2007)年1月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告101-6
近畿自動車道(勢和～伊勢)
埋蔵文化財発掘調査報告
——第6分冊——
蚊山遺跡左郡地区

1993(平成5)年3月

編集 三重県教育委員会
発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 光出版印刷株式会社
